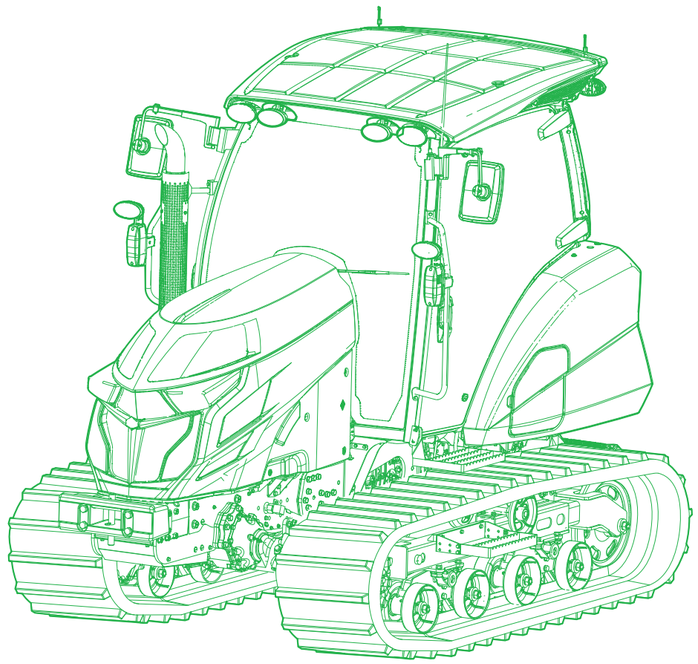
クローラトラクタ

取扱説明書

GCR1130



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコン装備（キャビン仕様）の場合、「簡易点検の実施」、「記録の保管」を実施することが義務化されました。
詳しくは、巻末の「フロン排出抑制法によるお客様点検」と「簡易点検記録表」をお読みください。

輸出または非居住者に提供する場合

当社製品ならびに技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法規制を順守ください。
なお、お客様の違反に伴う損害について、当社は責任を負いません。

車両銘板とエンジン銘板

車両銘板とエンジン銘板には、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。
車両銘板は、左前輪内側のシャーシ（図1）に、エンジン銘板は、ボンネットを開けてシリンダヘッド上面（図2）にそれぞれ貼り付けられています。

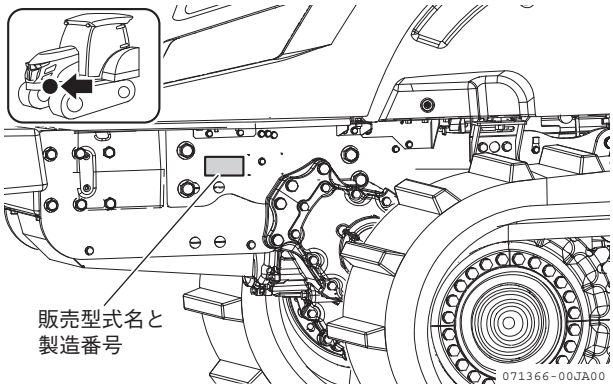


図 1 車両銘板

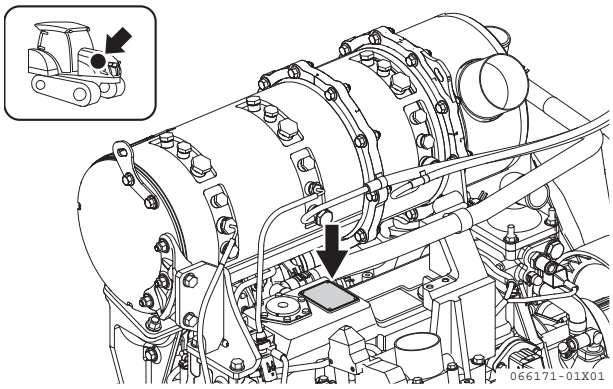


図 2 エンジン銘板

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください

トラクターの製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などを以下の表に記入してください。
また、本トラクターには個別キーを採用しております。万一、キーを紛失した場合に必要となりますので、付属のキーナンバーも記入し、キーナンバープレートは大切に保管してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	
キーナンバー：	

※ご購入のトラクターによっては、該当しない項目もあります。
※アフターサービス、保証については、（P265）をご覧ください。

エンジンオイルについて

お客様へのお知らせ

[重要]
このトラクターは排出ガス規制対応のため、コモンレールエンジン、排気フィルタ(DPF※)を搭載しています。
日常点検項目や、使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき当社指定の燃料・オイルを使用し、定期点検を必ず行ってください。
※Diesel Particulate Filter; ディーゼル パティキュレート フィルタ

1. ウォータセパレータを表 1 に従って定期的に点検し、水がたまっていたり汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。

表1 ウォータセパレータの水抜き・洗浄時間

水抜き・洗浄	1回目　　：50時間目 2回目以降：100時間ごと

特にメーターパネル下の警報画面が表示された場合は、ウォータセパレータに水がたまっています。すみやかに中の水を抜いてください。

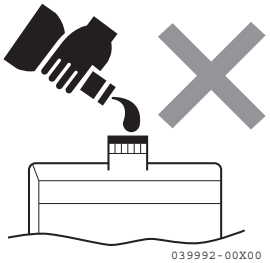


2. 燃料コシ器内のエレメントは、つぎの表2に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

表2 燃料コシ器エレメント

交換	300時間ごと

3. 燃料は市販のディーゼル軽油（JIS2号）をそのまま使用し、添加物などを加えないでください。守らないと、添加物などで燃料噴射ノズルが目詰まりを起こし、エンジン出力が低下するおそれがあります。



4. このトラクターのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品および排出ガスの後処理装置である排気フィルタを装備しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板製の容器の使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
5. エンジンオイルは必ず表 3 のものを使用してください。187ページの表4-3も併せて参照してください。

表3 エンジンオイル

		純正オイル	一般販売店の相当オイル	
			JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
エンジンオイル	寒冷地用	エコロイヤル5 5W-30(DH2)	SAE 5W-30相当品(DH-2級、API分類、CJ-4級)	
	寒冷地以外	クリーンロイヤルオイル10W-30(DH2)	SAE 10W-30相当品(DH-2級、API分類、CJ-4級)	

⚠ 警　告

コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。コモンレールエンジンに装備されているサプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったらご自身で分解・修理せず、お買い上げいただいた特販店、またはJA までご連絡ください。
【守らないと】
高圧燃料により傷害事故を引き起こすおそれがあります。



はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、三菱乗用型トラクターをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、トラクターの取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
トラクターをご使用いただく前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになったあともこの取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いてください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、トラクターをご使用にならないでください。
- 本トラクターを貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書をトラクターに添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 必ずお読みください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書の表紙裏の記入欄に本機の販売型式名、製造番号、エンジンの番号、キーナンバーなどを記入してください。

おことわり

- 本トラクターは改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、トラクターと一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本取扱説明書は、作成に万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このトラクターを運転して道路走行するときは、大型特殊自動車免許が必要です。必ず免許証を所持してください。

本トラクターおよび搭載されている無線機器は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外で使用することは想定しておりません。従って、当社の品質保証の適用範囲外となります。
また、本トラクターおよび搭載されている無線機器を海外に輸出したり、海外で使用することが法令違反となる可能性があります。

説明記号のみかた

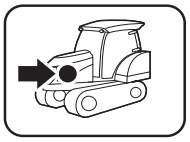
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所の位置と、見ている方向を示します。
また、本取扱説明書の「左側」や、「右側」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。「左旋回」、「右旋回」という記載は前進方向を基準として示します。

●印:位置　➡印:見ている方向

本トラクターの使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

型式と仕様について

本トラクターには、下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

派生記号なし：標準仕様
H　　：ハイラグ仕様

本トラクターの使用条件について

本製品は、農作業用トラクターとして設計、製造されています。
表 4 の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

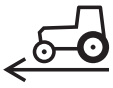
表 4 使用条件

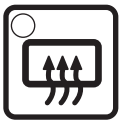
温度	-15 ℃ ～ 40 ℃
高度	0 m～1676 m
傾斜度	10.2度(18 %)

運転操作のシンボルマーク

トラクターを安全に能率よく操作、作業していただくために、以下の表 5 シンボルマークをトラクターおよび取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。なお、各シンボルマークのさらに詳しい説明については、本取扱説明書の第2章「運転のしかた」に記載しています。

表 5 シンボルマーク

	エンジン回転		エンジン回転速い 油圧昇降速度速い		エンジン回転遅い 油圧昇降速度遅い
	燃料(残量)		エンジン冷却水		方向指示器
	ニュートラル		アワーメーター		グロー
	残作業時間		平均燃費		シートベルト
	A⇔B自動切換		バック上昇		駐車ブレーキ
	車速		ハンドルチルト		ハンドルテレスコ
	解除位置		ロック位置		排気フィルタ再生
	PTO		昇降連動PTO		トラクターの傾き・ UFO機能
	作業機の上げ操作指示、 リフト上昇		リフト下降		傾斜シリンダ縮 (作業機右上げ)

	傾斜シリンダ伸 （作業機右下げ）		深さ自動		電源 ON/OFF
	フロントワークランプ		リヤワークランプ		リヤデフォッガ （リヤ熱線）
	フロントワイパー		リヤワイパー		エアコン（ブロア）
	内気循環		吹出口切換スイッチ （オペレータ側）		吹出口切換スイッチ （フロントガラス側）
	警告ランプ		注意ランプ		尿素水警告
	感度敏感		感度鈍感		

公道走行と関係法規

公道走行するための関係法規について

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊自動車として、公道走行が行えます。ただし道路交通法上は大型特殊自動車の扱いとなります。

公道走行を行うために、下記の事項を遵守してください。

- 公道を走行する場合は、大型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。（自動車の普通免許では運転できません。）
- 勝手に構造などを変更した場合は、道路を走行するための基準に不適合となり、公道を走行することができなくなることがありますので、ご注意ください。
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を外して走行してください。
- 道路運送車両法ではワークランプ・サイドワークランプおよびLED装飾灯は「道路走行中に使用しない灯火」とされています。他の交通妨害になりますので、道路走行中は点灯しないでください。
- 公道走行時、テレスコバックミラーは必ず一番縮めた状態にしてください。縮めかたは、131 ページの「テレスコバックミラー」を参照してください。

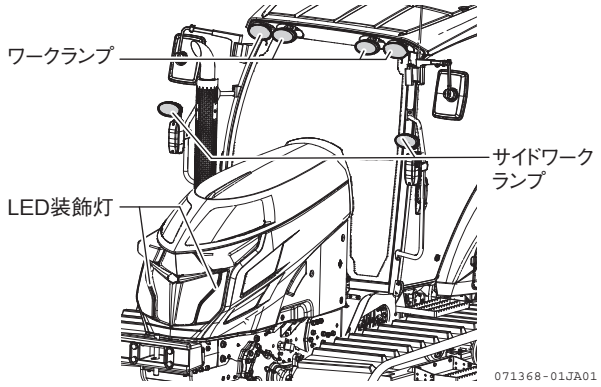


図 1 サイドワークランプ、ワークランプ、LED装飾灯

[参考]

サイドワークランプ、ワークランプ、LED装飾灯の点灯、消灯のしかたは、66 ページの「ワークランプスイッチの点灯・消灯のしかた」を参照してください。

- 被けん引車を装着して道路走行をする場合は、被けん引車を自動車として登録し、ナンバープレートの交付を受けている必要があります。
  また、被けん引車の車両総重量が 750 kg を超える場合はけん引免許が必要となります。

■ 道路走行時は低速車マークを装着する

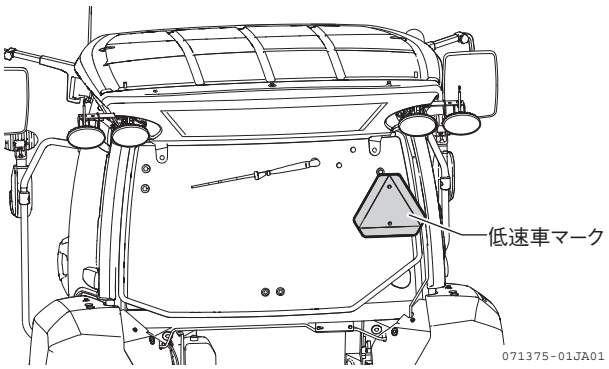


図 2 低速車マーク

- 道路を走行するときは低速車マークを装着してください。
- 低速車マークは後続車からの視認性を高め、追突事故の防止に役立ちます。

車体番号の打刻について

このトラクターには、道路運送車両法に基づき自動車としての車台番号を打刻しています。打刻を削ったり塗りつぶしたりして打刻を消さないでください。番号を読めなくした場合、道路運送車両法違反となり刑罰の対象となります。

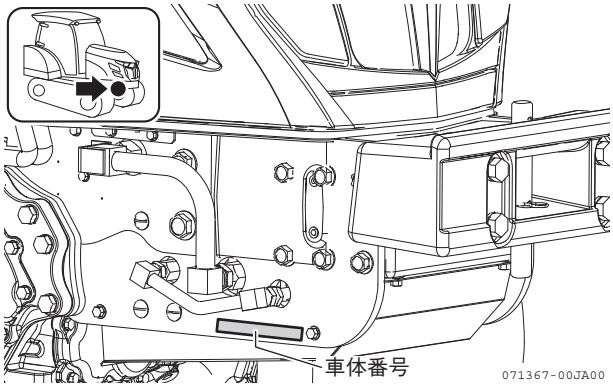


図 3 車体番号

ナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは、小型特殊自動車です。公道を走行するしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取り付けてください。

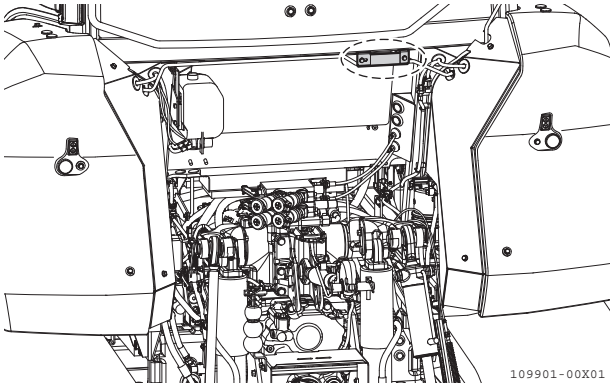


図 4 ナンバープレート取付穴

届出のしかた

小型特殊自動車販売証明書（特販店、またはJAが発行します）ならびに、小型特殊自動車届出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。

※ 市町村により、手続きが多少異なります。詳しくはお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保障法第2条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されています。万一の場合を考えて、自動車保険の契約をご希望される場合は、自動車共済、または任意の自動車保険にご加入ください。

排出ガス規制について

このトラクターは道路運送車両法の排出ガス規制に適合しています。

規制適合を維持していくためには、「定期点検一覧表」（185 ページ）に従って、エンジンオイル・オイルエレメント・燃料フィルターおよびエアクリーナエレメントなどの交換とエンジン以外も含む定期メンテナンスを励行することが必要です。

定期的なメンテナンスを怠り排出ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が科せられる場合があります。

ディーゼル燃料について

燃料規格について

このトラクターに使用するディーゼル燃料は、以下の規格に適合する必要があります。

表 6 燃料規格

ディーゼル燃料規格	地域
JIS K2204 Grade 2号	日本
ASTM D975 No. 1D S15 No. 2D S15	米国
EN590:96	EU(欧州連合)
ISO 8217DMX	国際規格
BS 2869-A1(またはA2)	英国
KSM-2610	韓国
GB252	中国

その他の燃料基準

使用する燃料はつぎの条件を満たしているものをご使用ください。

- 燃料のセタン価は45以上であること。
  なお、(EGR 付電子制御式) エンジンについては硫黄分0.1 %未満の燃料の使用が必須です。
  一般的に、高硫黄燃料を使用しますと、シリンダ内の硫酸腐食を発生させるおそれがあります。
  特にアメリカ合衆国・カナダにおいては Ultra Low Sulfur 燃料を使用すること。
- ディーゼル燃料には、灯油、使用済みのエンジンオイル、または余りの燃料を混ぜないこと。
- 燃料内の水および沈殿物は、全体の体積の0.05 %未満であること。
- 燃料タンク、および燃料を取り扱う装置類は、常に清潔にすること。
- 品質が悪い燃料は、エンジン性能を低下させます。また、エンジン損傷の原因となります。
- 燃料添加剤を使用しないこと。一部の燃料添加剤は、エンジン性能が低下する原因になります。
  詳細は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへお問い合わせください。
- 灰分は、全体の体積の0.01 %未満であること。
- 残留炭素分は、全体の体積の0.35 %未満であること。ただし、推奨値は0.1 %未満。
- 芳香族分は、全体の体積の35 %未満であること。ただし、推奨値は30 %未満。
- PAH（多環芳香族炭化水素）は、全体の体積の10 %未満であること。
- 金属分（ナトリウム、マグネシウム、ケイ素、アルミニウム）は、1 mass ppm 以下であること。(JPI-5S-44-95試験分析手法)
- 潤滑性 - HFRR 試験でのWS1.4の摩耗キズが、最大で460 μm までとする。

バイオディーゼル燃料

- 「揮発油などの品質の確保に関する法律」で定める軽油規格を満足する B5 以下のバイオディーゼル燃料であることを確認してください。
- バイオ燃料は、必ず正規のディーゼル燃料販売店で購入してください。

尿素SCR システムについて

尿素 SCR（Selective Catalytic Reduction：選択式触媒還元）システムは、排ガス中に含まれる窒素酸化物（NOx）を、尿素水から発生するアンモニアを用いて無害な窒素（N_2）と水（H_2O）に還元・浄化する技術です。
この尿素SCR システムを適用することにより、米国環境保護庁（EPA）排ガス規制 Tier4-Final をはじめとする各国の排ガス規制に対応しています。

尿素水経路に尿素水が残留した状態でシステム内の尿素水が凍結（-11℃以下）した場合、尿素水の膨張によりデバイスが破損するため、キースイッチを「切」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
⇒システム破損の原因となるため、キースイッチを「切」位置にしてから10 分間は、バッテリーからハーネスは絶対に抜かないでください。

以下のような場合がありますが、故障ではありません。
- 排出ガスからアンモニア臭がする
- 排出ガスから分解できなかった尿素水や結晶化した尿素が出る

尿素水について

尿素水は尿素水SCRシステムを搭載したディーゼルエンジンに使用され、排出ガス中に含まれる窒素酸化物（NOx)を低減します。
尿素水の品質と成分は排ガスを浄化するために非常に重要です。低品質の尿素水の使用は、NOx 浄化率の低下、システム不具合の原因となります。必ず以下に記載する仕様の尿素水を使用してください。

尿素水溶液規格について

以下の規格と同等、またはそれ以上の品質の尿素水を使用してください。
- ISO22241（国際標準化機構）
- JIS K2247-1（日本）
- DIN V70070（ドイツ）

AdBlue®/アドブルー®は、これらの規格を満足する尿素濃度32.5%で管理された高品位尿素水で、ドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標であり、主にヨーロッパ、日本で呼ばれる名称です。アメリカではDEF（Diesel Exhaust Fluid）と呼ばれています。

禁止事項について

- AdBlue® または DEF でない液体は使用しないでください。
- AdBlue® または DEF に他の物質を混ぜないでください。
  指定外の尿素水を使用したり、他の物質を混ぜた場合は、メーカー保証の対象外となる場合があります。
- 長期保管（タンクの中の残留尿素水を含む）した寿命切れの尿素水は使用しないでください。尿素水の凍結や放散されずにアンモニアが残存、NOx 浄化率の低下やデバイスの破損の原因となります。
  尿素水の寿命については 257 ページを参照してください。
- 尿素水を取り扱う際は、軍手など繊維が尿素水に混入してしまうおそれのあるものは使用しないでください。
  尿素水フィルターの目詰まりや尿素水 噴出口の尿素沈着（デポジット）の原因となります。

注意事項について

- 尿素水は取り扱いに特別な資格は必要ありませんが、万が一尿素水が手足などにかかった場合は、多量の水で流してください。目に入った場合は、ただちに15分間以上水道水で洗い流し、病院で診察を受けてください。
- 尿素水をこぼした場合はすみやかにふき取って、十分に洗浄してください。守らないと、白い結晶ができたり、異臭の原因となります。また、金属部が腐食するおそれがあります。
- 尿素水は危険物・毒劇物の指定はありませんが、水質汚濁防止法令が適用されるため、残液および残液を含む空容器を湖沼、海域、河川などへ廃棄しないでください。廃棄する場合には都道府県知事の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託し、適切に処理してください。
- 尿素水の取り扱いについては、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

尿素水の性状､特徴について

- 尿素水は無色、無臭の液体です。
- 尿素水は非常に凍結しやすい液体で、AdBlue®の場合、-11℃で凍結します。
  (尿素濃度32.5%は最も凍結しにくい濃度です。)
  体積膨張率は約 7%であるため、低温時にはデバイスの破損に留意が必要です。
- 尿素水は常温でも多少のアンモニアを発生しますが、加熱・昇温されると加水分解され大量のアンモニアが発生するため、注意が必要です。

モニターについて

メーターパネルとカラーモニターの取り扱いについて

メーターパネルとカラーモニターを使用するときは、つぎのことを必ず守ってください。故障の原因になります。

- メーターパネルやカラーモニターを外したり、分解や改造をしないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性のある薬品で掃除しないでください。
- 画面を強く押したり、こすらないでください。
- スイッチは、先端が硬いものや尖ったもので押さないでください。
- 磁気を帯びたものや電波を発するものを近づけないでください。

カラーモニターの特性上、つぎのような現象が発生することがありますが故障ではありません。

- 見る角度により表示色が変化して見える場合があります。
- 液晶特有の現象で輝度のムラ、縦スジや小さな黒点、輝点が見えることがあります。
- 長時間、同じ画面を表示させていると画面切り替え時に残像が発生する場合があります。
- ディスプレイの内部が高温になると、焼損を防止するため、自動的に輝度が変更されることがあります。
- カラーモニターの機能・表示内容については予告なく変更することがあります。

目次

総目次

車両銘板とエンジン銘板 1

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください 1

エンジンオイルについて 2

お客様へのお知らせ 2

はじめに 3

公道走行と関係法規 8
公道走行するための関係法規について 8
車体番号の打刻について 8
ナンバープレートの交付を受けてください 9
排出ガス規制について 9
ディーゼル燃料について 10
燃料規格について 10
バイオディーゼル燃料 10
尿素SCR システムについて 11
尿素水について 11
尿素水溶液規格について 11
禁止事項について 11
注意事項について 12
尿素水の性状、特徴について 12
モニターについて 12
メーターパネルとカラーモニターの取り扱いについて 12

1章 必ずお読みください 19

安全な作業をするために必ずお守りください 19
運転（作業）する人について 19
運転（作業）するトラクターについて 21
道路走行するときの注意事項 26
作業機を使用するときの注意事項 28
運搬するときの注意事項 32
駐車・格納するときの注意事項 33
点検・給油・整備するときの注意事項 34
その他の注意事項 39
安全銘板 40
安全銘板の貼り付け位置 40
安全銘板の手入れについて 45

2章 運転のしかた 46

各部のはたらきと使いかた 46
ハンドル部 46
シート周辺部 53
アームレスト部 59
右コンソール部 62
メーターパネル 68
ナイスティエコトラ UFO Plus の操作部 83
キャビン 84
エアコン 87
カラーモニター 89
その他 131
ならし運転（最初の50時間）について 133
運転前の点検 133
点検のしかた 134
運転前の準備 136
運転席周りの調節 136
シートベルトの装着のしかた 137
エンジンの始動と停止 138
エンジンの始動のしかた 138
エンジンの停止のしかた 141
運転操作 141
発進・走行のしかた 141
変速のしかた 143
停車・駐車のしかた 144
夜間運転のしかた 145
道路走行のしかた 145
坂道での運転のしかた 148

3章 作業のしかた 149

作業について 149
ほ場への出入りのしかた 150
ほ場での旋回について 150
作業に適した速度の選びかた 151
作業機の上げ下げのしかた 152
作業機の下降速度調節のしかた 153
バック上昇機能の使いかた 154
一般作業機を使う場合の作業位置設定のしかた 155
ロータリー耕での耕深設定のしかた 156
車速・エンジン回転速度制御の使いかた 160
e-CONTROL（エンジン負荷制御）について 162
ナイスティエコトラ UFO Plus の使いかた 163
ロータリー耕うんのしかた 170
3 点リンクについて 171
外部操作スイッチの使いかた 173
3P 切換スイッチの使いかた 174
一般作業機の取り付けかた 175
サブコントロールバルブ（2 連）の使いかた 176
外部電源取り出しについて 177
作業機の取り扱いについての注意事項 179
フロントウエイトについて 180

4章　お手入れのしかた..... 181

作業後の手入れについて..... 181
作業後の手入れのしかた.....181
ボンネットの開閉のしかた.....182
点検・整備のしかた..... 183
定期点検.....184
定期点検一覧表.....185
推奨オイル・グリス・不凍液一覧表.....187
給油・給水一覧表.....187
燃料の点検・補給のしかた.....188
尿素水の点検・補給のしかた.....189
ウォータセパレータの水抜き・清掃、
燃料コシ器エレメントの交換のしかた.....190
メンテナンスモードについて.....191
エンジンオイルの点検・交換のしかた.....193
エンジンオイルエレメントの
交換のしかた.....194
ミッションオイルの点検・交換のしかた.....194
尿素水のサプライモジュール
メインフィルターの交換のしかた.....195
サクションフィルター・ラインフィルター
の交換のしかた.....198
FDS オイルの点検・交換のしかた.....199
FDS オイルフィルターの交換のしかた.....199
冷却水の点検・補給・交換のしかた.....200
ラジエータとラジエータスクリーンの
点検・掃除のしかた.....202
エアクリーナエレメントの
掃除・交換のしかた.....202
コンデンサ・コンデンサスクリーンの
点検・掃除のしかた.....203
インタークーラースクリーンの
点検・掃除のしかた.....204
オイルクーラーの点検・掃除のしかた.....205
燃料クーラーの点検・掃除のしかた.....205
内気吸入口フィルターの
清掃・交換のしかた.....206
外気導入口フィルターの
掃除・交換のしかた.....206
排気フィルタの再生のしかた.....207
バッテリーの点検・整備のしかた.....213
パイプ類の点検のしかた.....216
電気配線の点検のしかた.....217
グリスアップ（注入）のしかた.....217
クローラの点検・調節のしかた.....219
ブレーキの点検・調整のしかた.....221
クラッチの点検・調整のしかた.....222
ハンドルの点検のしかた.....222
各部ベルトの点検・調整のしかた.....222
ウォッシャータンクの
点検・補給のしかた.....225
ヒューズ・スローブローヒューズの
点検・交換のしかた.....225
排出ガスの色について.....228
不調診断のしかた..... 229
メーターパネルの異常表示と
処置のしかた.....229
メーターパネルの注意画面について.....232
メーターパネルに表示されない
不調について.....254

5章　保管のしかた..... 257

短期保管するときは（2カ月以内）..... 257
保管のしかた.....257
長期保管するときは（2カ月以上）..... 258
保管のしかた.....258
再使用時の処置.....259

6章　輸送のしかた..... 260

トラックへの積み・降ろしのしかた..... 260
トラックの準備.....260
トラクターの積みかた.....261
トラクターの降ろしかた.....261

7章　仕様..... 262

車速・PTO 回転・爪軸回転.....263

8章　廃棄物の処理について..... 264

廃棄するときは..... 264
廃油・不凍液の処理.....264
バッテリーの処理.....264
冷媒ガスの処理.....264
ホース類の処理.....264

9章　サービスと保証について..... 265

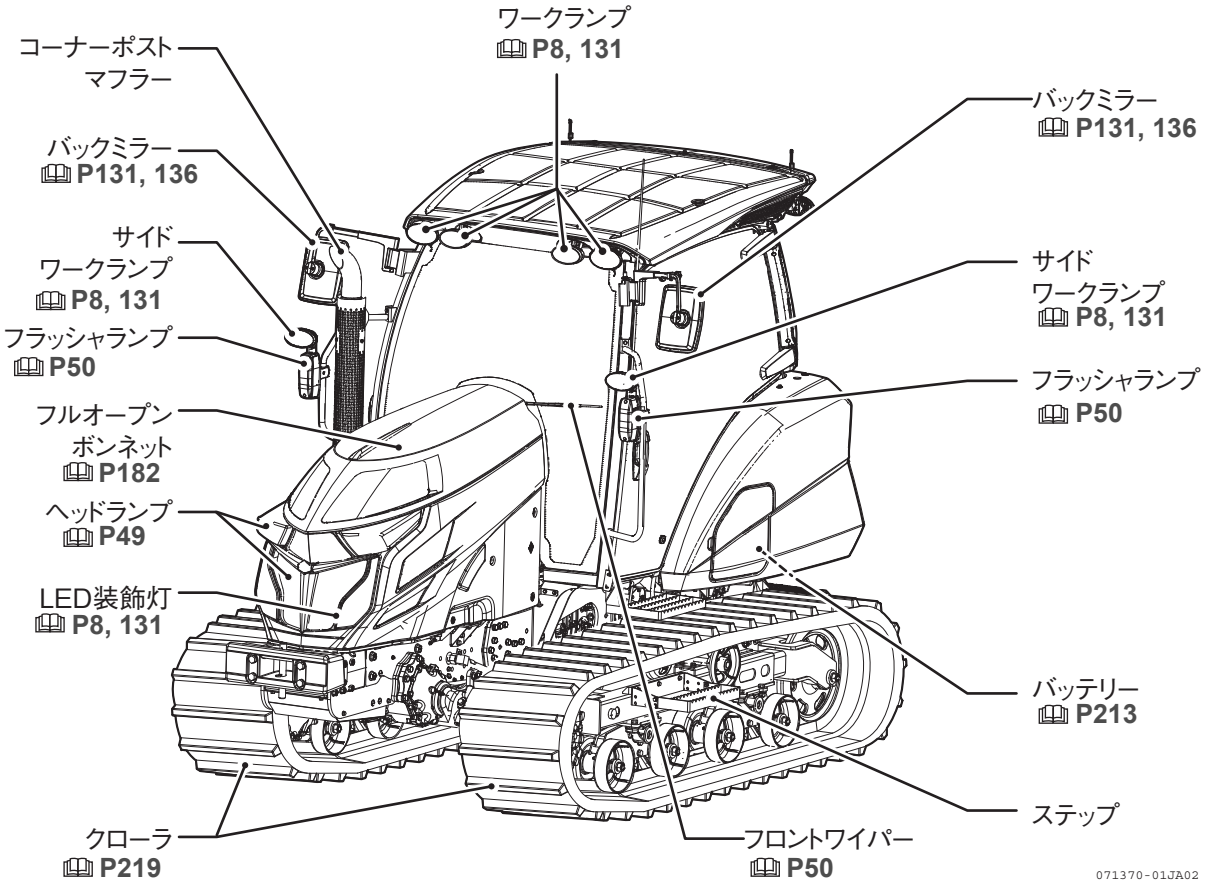
保証書は大切に保管してください.....265
アフターサービスをお受けになるときは.....265

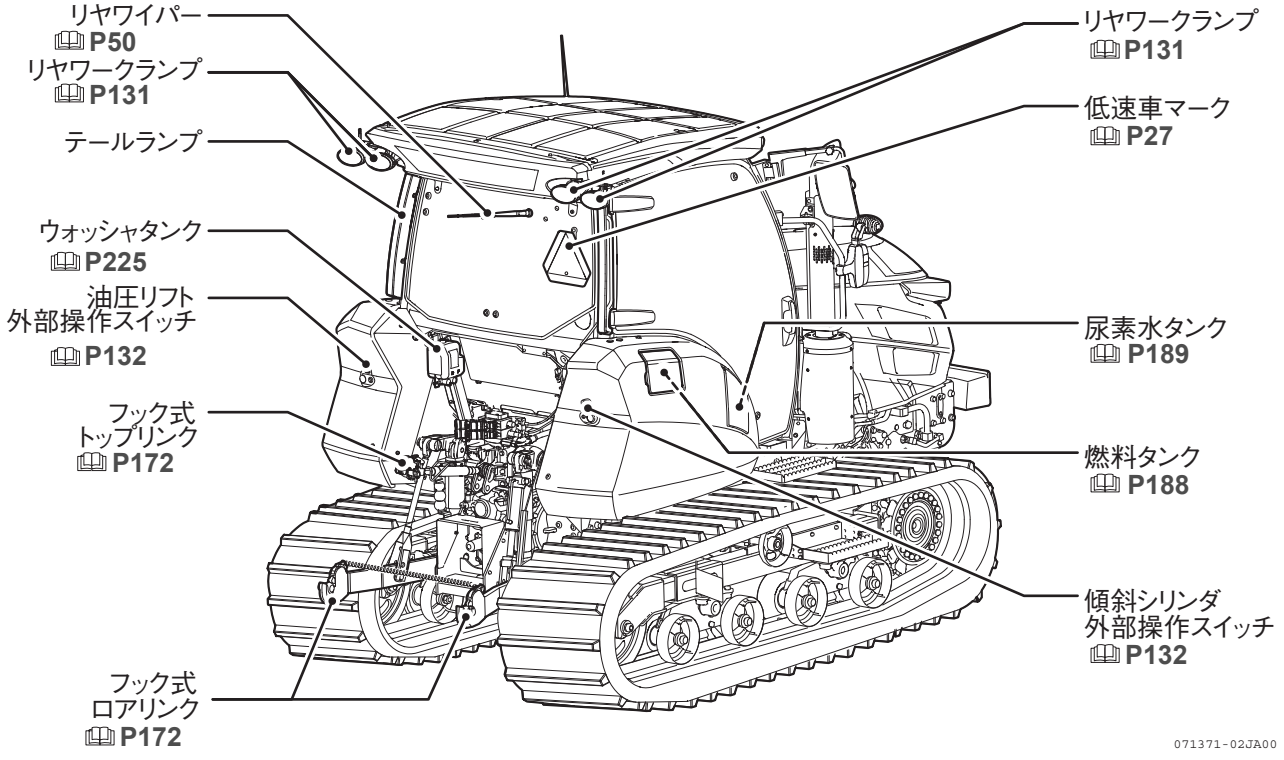
10章 索引..... 266

フロン排出抑制法によるお客様点検 ...269

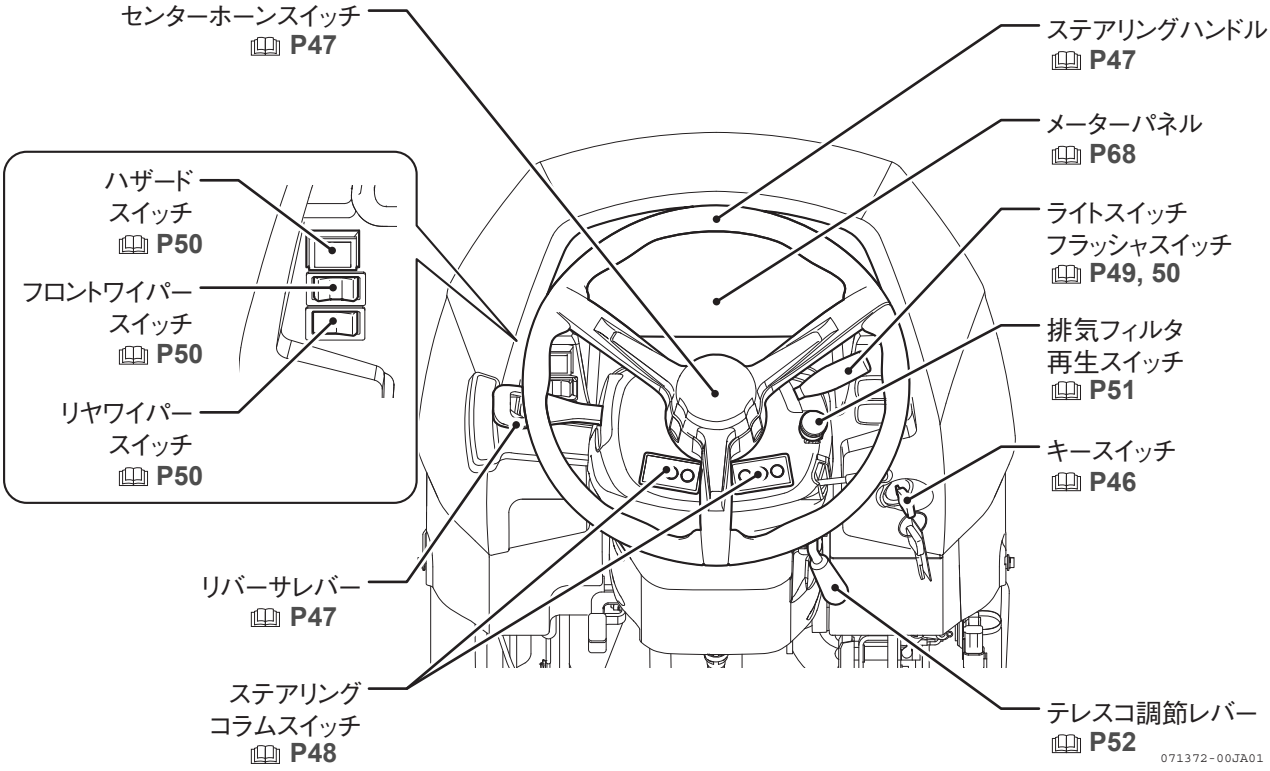
イラスト目次

外観

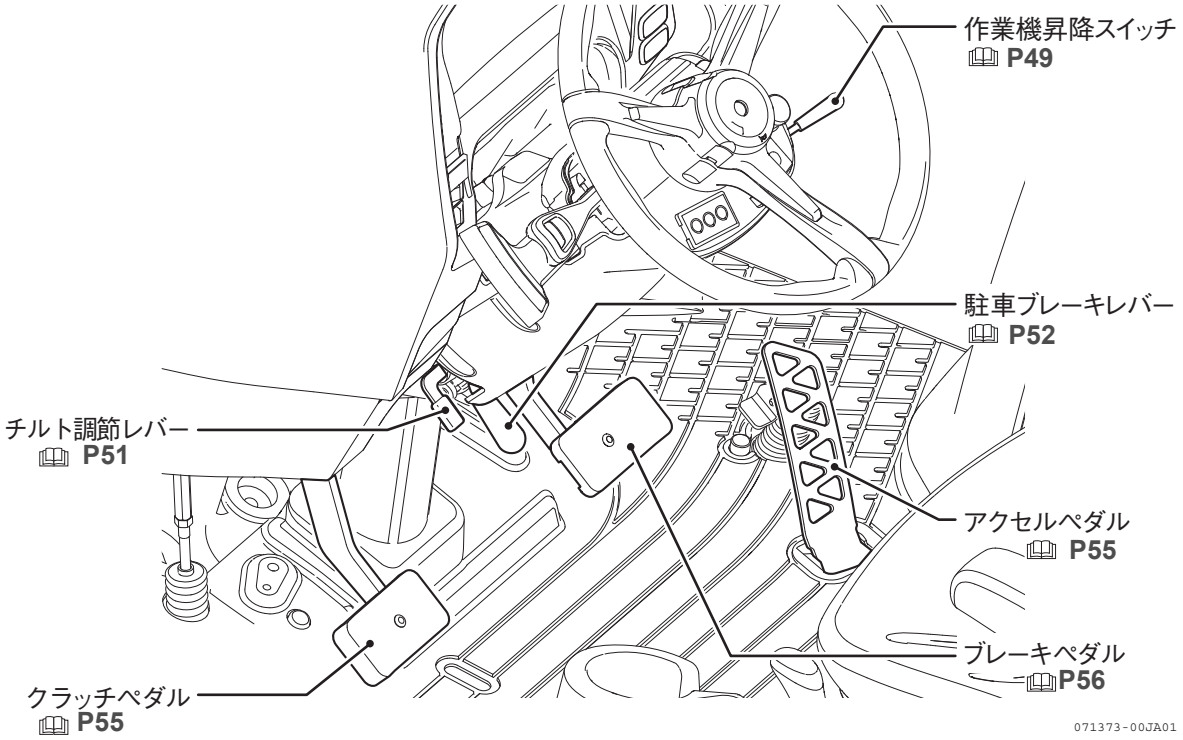

ワークランプ
P8, 131
コーナーポスト
マフラー
バックミラー
P131, 136
バックミラー
P131, 136
サイド
ワークランプ
P8, 131
フラッシャランプ
P50
サイド
ワークランプ
P8, 131
フラッシャランプ
P50
フルオープン
ボンネット
P182
ヘッドランプ
P49
LED装飾灯
P8, 131
バッテリー
P213
ステップ
クローラ
P219
フロントワイパー
P50
071370-01JA02


リヤワイパー
P50
リヤワークランプ
P131
テールランプ
リヤワークランプ
P131
低速車マーク
P27
ウォッシャタンク
P225
油圧リフト
外部操作スイッチ
P132
尿素水タンク
P189
フック式
トップリンク
P172
燃料タンク
P188
傾斜シリンダ
外部操作スイッチ
P132
フック式
ロアリンク
P172
071371-02JA00

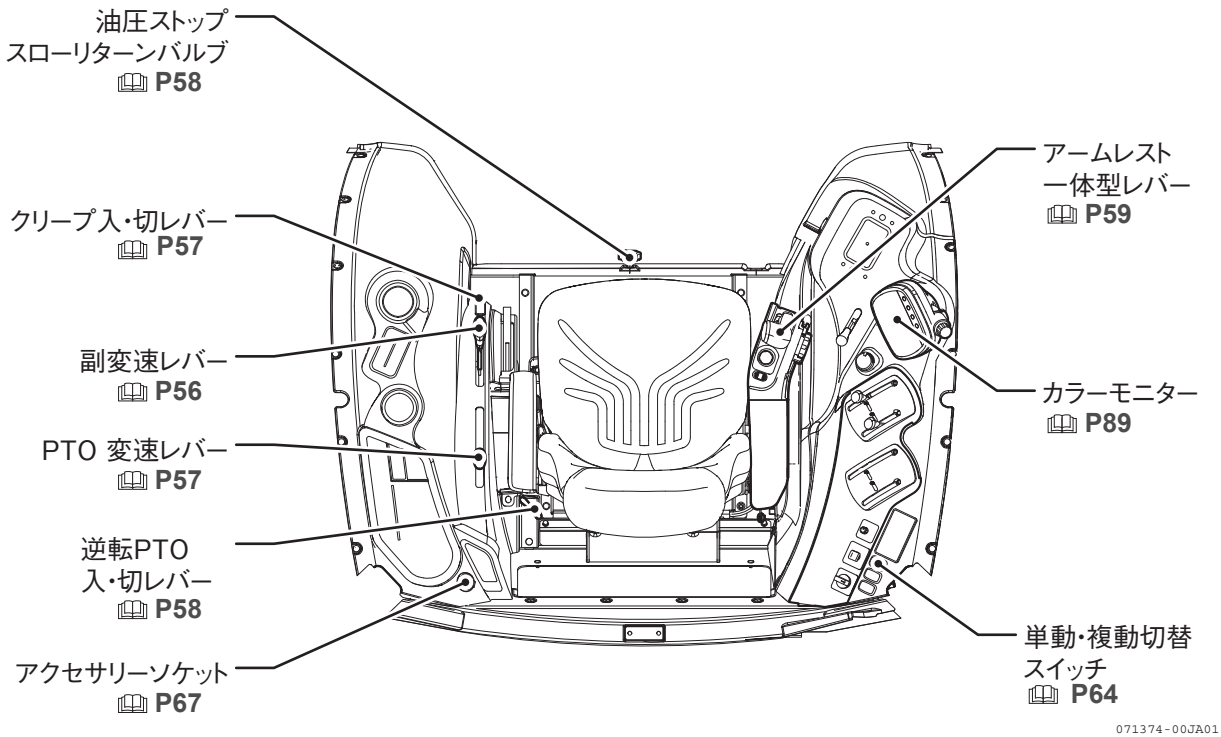
ハンドル周辺



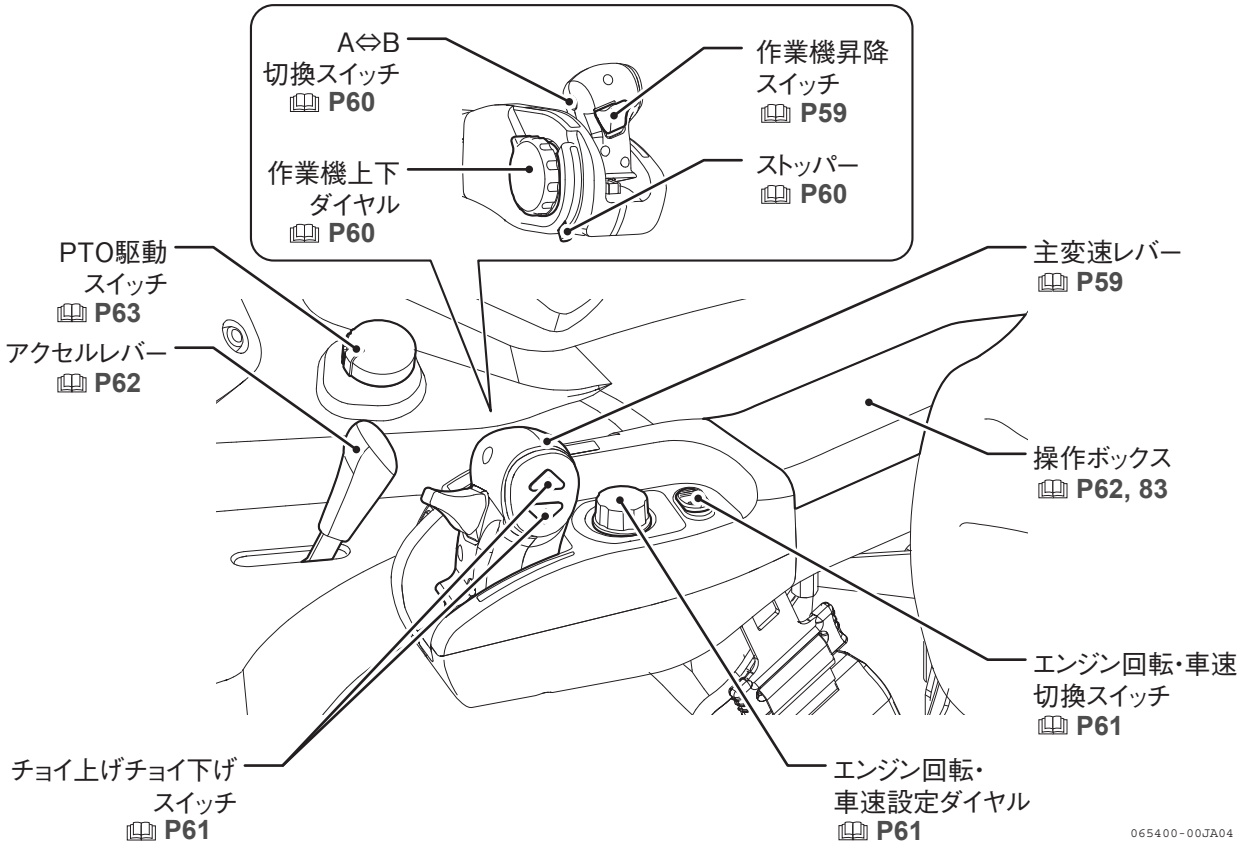
ハンドルコラム部



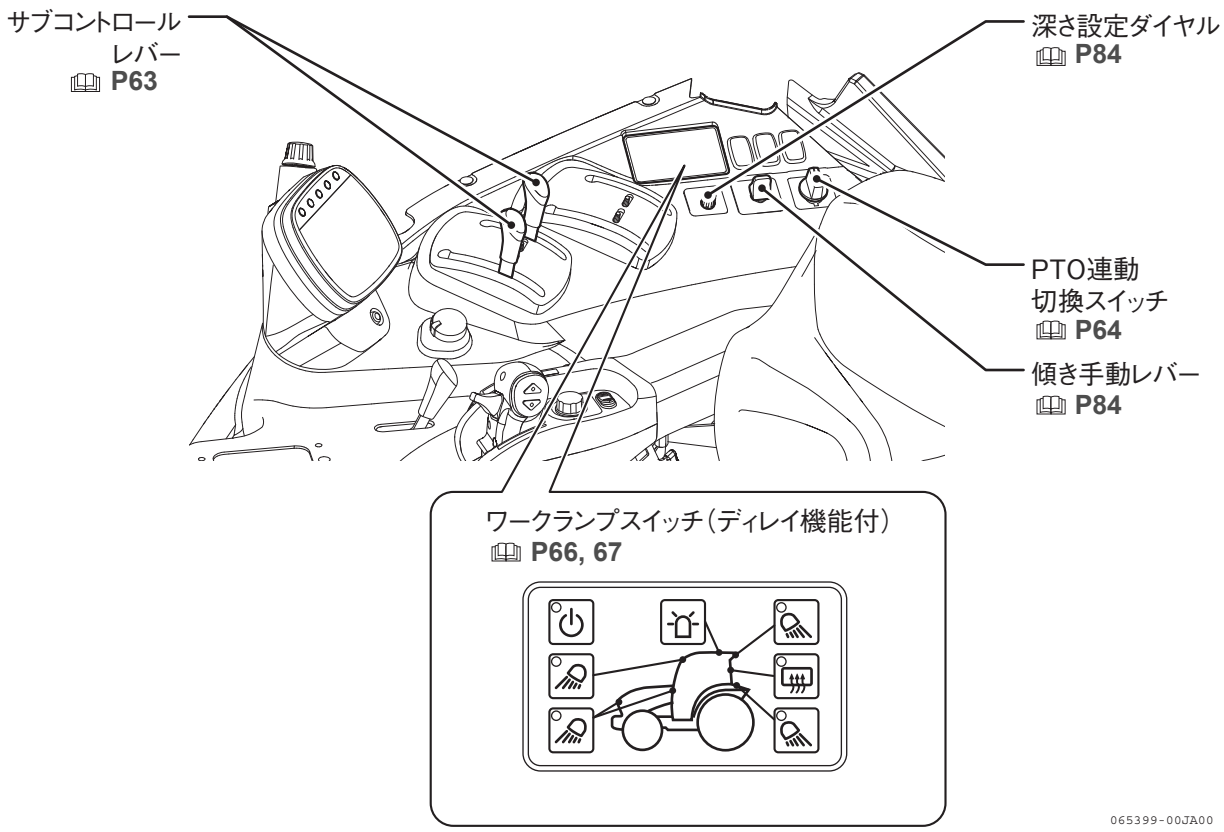
運転席周辺



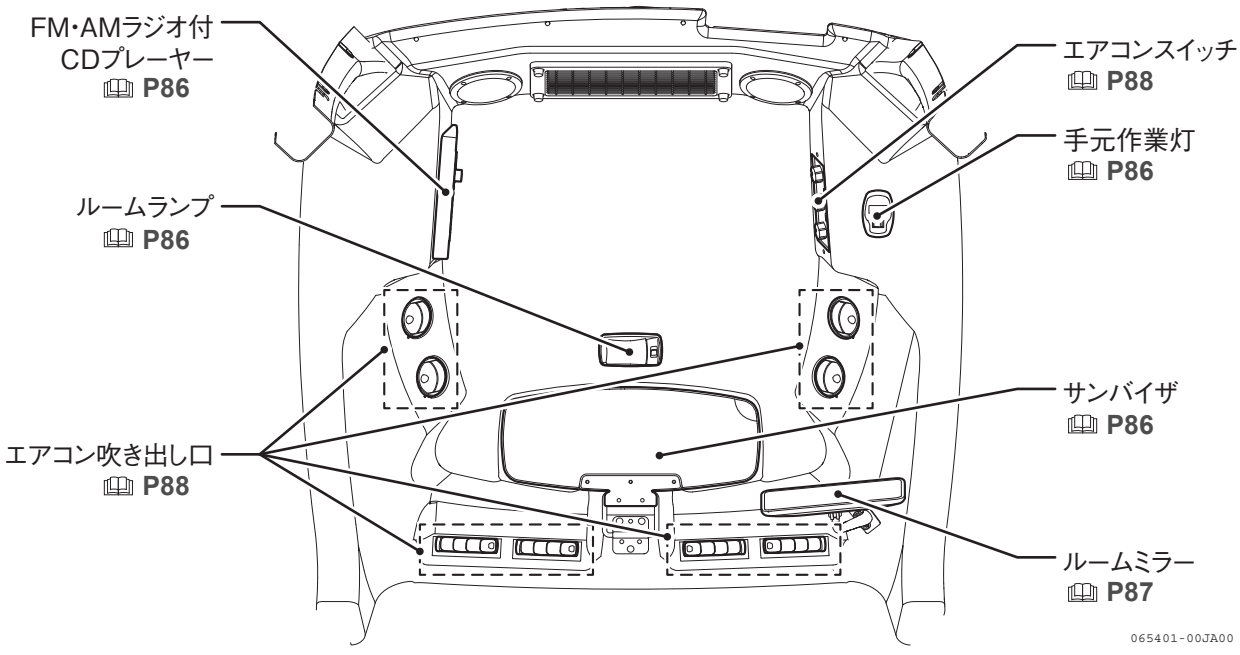
アームレスト



右コンソール



キャビン内装



安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む損害や事故、機械の破損が生じる場合があります。

※ご購入いただいた製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

⚠印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
[重要]	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
[参考]	作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

運転(作業)する人について

⚠注意

■ トラクターおよび装着する作業機の取扱説明書および安全銘板の内容を十分に理解する

■ 取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しない

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、どうしても取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへ連絡してください。

【守らないと】

誤作動などにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



⚠注意

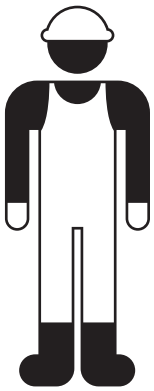
■ 体調が悪いとき、運転が未熟な人は運転をしない

以下の項目にあてはまるときは、トラクターを運転しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠中の人。
- 18才未満の人。

【守らないと】
誤作動などにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業に適した服装をする



- だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
- 滑り止めのついた靴（安全靴など）を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
- 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒して、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラクターを他人に貸すときは



取り扱い方法や、安全な使いかたをよく説明し、使用前に必ず「取扱説明書」を読むように指導してください。

【守らないと】
誤作動などにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

運転(作業)するトラクターについて

⚠警告

■ 使用する前には、必ず各部を点検する



トラクターや作業機を使用するときは、必ず運転前（作業前）点検を行い、異常な箇所は整備してください。

- 紛失または損傷した部品は必ず交換してください。
- クラッチ・ブレーキ・ハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損した部品があれば必ず交換してください。
- ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。
- 異音や異常な振動がないか点検してください。

【守らないと】

整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

点検箇所は、「点検のしかた」(134 ページ) でご確認ください。

■ トラクターは常に掃除しておく



バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着がないことを確認してください。

【守らないと】

付着物に引火して、火災による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラクターは改造しない



トラクターの改造は絶対にしないでください。

【守らないと】

トラクターの安全性がそこなわれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ ハンドル調節時以外は、必ずチルト調節レバーおよびテレスコ調節レバーは操作せず固定位置にする

運転・作業中は、チルト調節レバーとテレスコ調節レバーを必ず固定位置にしてください。

【守らないと】

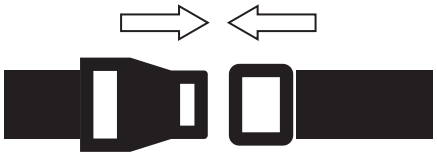
ハンドルが固定されていないと、思うように旋回できず傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

チルト調節レバーは、「チルト調節レバー」（51 ページ）をご覧ください。

テレスコ調節レバーは、「テレスコ調節レバー」（52 ページ）をご覧ください。

■ 運転中は、常にシートベルトを装着する



シートベルトは腰骨に当たるように締めてください。

【守らないと】

転倒・転落・追突事故を起こしたとき、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

シートベルトについては、「シートベルトの装着のしかた」（137 ページ）をご覧ください。

■ 排出ガスには十分注意する



倉庫や車庫など閉めきった屋内では、エンジンを始動しないでください。

やむをえず屋内でエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて換気を十分に行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こすおそれがあります。

■ 道路の端に寄りすぎない



溝・穴の近くや路肩など、トラクターの重みで崩れるおそれのある場所では運転しないでください。

草の茂った場所や水たまりは、隠れて見えない窪地などがあるおそれがあります。必ずトラクターから降りて確認してください。

走行時は、路肩から離れてください。

【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ ぬかるみからの脱出、急な坂は後進で運転する



溝やぬかるんだ場所からの脱出、急な坂を登るときは、後進で運転してください。

【守らないと】

前進で運転すると、トラクターのバランスがくずれて後方に転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

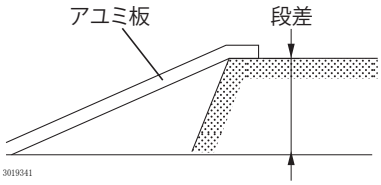
■ 溝越え時は最低速度で、トラクターを溝に対して直角に合わせる

ほ場の出入りで、急斜面の登り降りや溝越えをするときは、トラクターを斜面や溝に対して直角に合わせて低速で走行してください。

【守らないと】

トラクターが転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用する



高低差の大きい急斜面の登り降り、あぜ越え、段差の乗り越え、トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板を使用してください。

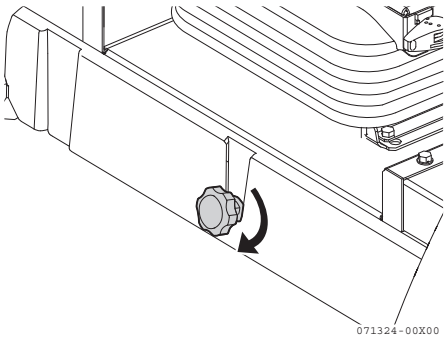
- 使用するアユミ板は、段差の4倍以上の長さで、幅・強度が十分あり、スリップしないものを選び、アユミ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかりとかけてください。
- トラクターの重量でアユミ板が傾かない場所で行ってください。
- アユミ板とアユミ板をかけた面との高低差が大きい場合、運転には特に注意してください。
- クローラの片側だけがアユミ板に引っかかり、アユミ板がずれそうになった場合は、一度トラクターを元の位置まで戻し、アユミ板をかけ直してください。

【守らないと】

バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ ほ場から出るときは、油圧ストップ・スローリターンバルブを閉める



トラクターをほ場から出したときは、油圧ストップ・スローリターンバルブを閉めてください。

- 油圧ストップ位置（作業機の下降速度が遅くなる方向にいっぱい回す）にしてください。
- 作業機上下ダイヤルを「上」位置にして、ストッパーでロックし作業機の落下防止をしてください。

【守らないと】
作業機が落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ エンジン始動するときは運転席に座る

エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、各変速レバー（リバーサ、副変速、PTO 変速）が「N（中立）」位置にあること、PTO駆動スイッチが「切」位置にあること、駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。

【守らないと】
トラクターが突然動きだし、転落や追突事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラクターの始動時、発進時は、周囲の安全を確認する



トラクターの始動や発進をするときは、周囲の安全を確認してください。

- 周囲に人や障害物がないか確認してください。特に子供やペットには十分注意してください。
- 作業機およびトラクターに当たる障害物がないかを確認してください。

【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 運転者以外はトラクターに乗らない



このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外の人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業前に、補助者とよく打ち合わせをする



共同で作業をするときは作業前によく打ち合わせを行い、作業中はホーンを鳴らしたり声をかけあって、お互いに安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 暖機運転、作業機着脱時は駐車ブレーキをかける

つぎのようなことを行う場合は、必ず安全のため各変速レバー（リバーサ、副変速、PTO変速）を「N（中立）」位置にし、平たんな場所にトラクターを停車し、駐車ブレーキをかけてください。やむなく傾斜地で止める場合は必ずクローラに車止めをかけてください。

- 暖機運転を行うとき。
- 作業機の着脱を行うとき。
- トラクターから離れるときは、必ずキーも抜いてください。

【守らないと】

トラクターが突然動き出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

道路走行するときの注意事項

⚠警告

■ ほ場を出る前に自動機能を「切」にする

道路走行では、以下の自動機能を「切」位置にしてください。

油圧自動	・傾き制御
	・バック上昇など

【守らないと】
急旋回や転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 慎重な運転をする

スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。

- 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
- 旋回するときは、トラクターの速度を落としてください。
- 坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、トラクターの速度を落としてください。
- わき見運転や手放し運転は、絶対にしないでください。

【守らないと】
転倒や追突による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 上り坂ではゆっくりと発進する

上り坂では急発進せず、エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。

【守らないと】
機体前方がはね上がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 坂道では変速、惰性走行をしない

急な坂道では、クラッチを切ったり変速レバー（リバーサ・副変速）を「N（中立）」位置にしての惰性走行はしないでください。必ず低速で走行してください。

【守らないと】
転倒・転落・追突により傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

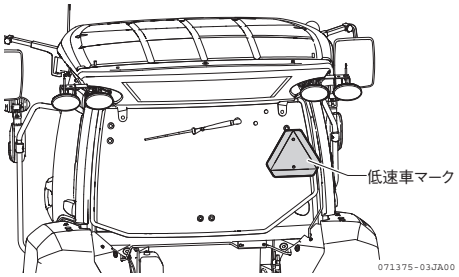
■ 凹凸道やカーブの多い場所では高速で走行をしない

【守らないと】
転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 道路走行時は低速車マークを装着する

- 道路を走行するときは低速車マークを装着してください。
- 低速車マークは後続車からの視認性を高め、追突事故の防止に役立ちます。



■ 公道走行時は道路交通法規を守る

公道を走行するときは必ず作業機を外し、道路交通法規を守ってください。

【守らないと】
道路運送車両法違反となります。
また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っかけて、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

■ 公道走行時は、免許証を携帯する

公道を走行するときは、運転免許証が必要です。必ず大型特殊免許を携帯してください。

【守らないと】
道路交通法違反となります。



作業機を使用するときの注意事項

⚠危険

■ 作業機の回転が止まるまで触れない

ロータリーなどの PTO 作業機の着脱、調整、掃除をするときは、作業機の回転が完全に止まるまで待ってください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ 作業機の回転が止まるまでトラクターから降りない

トラクターから降りるときは、ロータリーなどの PTO 作業機の回転が完全に止まっていることを確認してください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ハウス内での作業では換気を十分にする

排出ガスがハウス内に充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故に至るおそれがあります。



■ 作業機の着脱は、安全に注意する

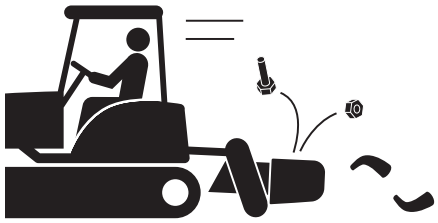
- 作業機を装着するときは、装着前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。
- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。夜間に行う場合は、照明などを準備し適切な照度を確保してください。
- トラクターを動かして作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 推奨されている作業機を装着する



トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。

【守らないと】

大きすぎたり、小さすぎたり、バランスの悪い作業機を装着すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バランスウエイト代わりに人や物を乗せない



バランスウエイト代わりに人や物を乗せないでください。必ず作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ フロントブレード装着時は、後部にウエイトを装着する

トラクター単体（後部作業機なし）でフロントブレードを装着しないでください。

フロントブレードを装着する場合は、必ず後部にカウンターウエイトまたは500kg相当の作業機を装着してください。

【守らないと】

前後バランスが悪くなりトラクターが前方に傾いて、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 後部のウエイト（作業機）の着脱は、フロントブレードを外して行う

後部のカウンターウエイトまたは作業機を着脱するときは、必ず先にフロントブレードを外してください。

【守らないと】

前後バランスが悪くなりトラクターが前方に傾いて、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ けん引作業には、必ずドローバを使用する

けん引作業には、必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどを使用してのけん引作業は絶対にしないでください。

【守らないと】

転倒により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

ドローバヒッチは、オプション設定です。

■ 作業機装着時は、旋回に注意する

作業機によってはかなりの長さになるものがあります。旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【守らないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トレーラーをけん引するときはブレーキ、重量に注意する

- ブレーキを装備しているトレーラーの場合
  トレーラー側のブレーキとトラクターのブレーキを連動してください。また、坂道での変速はしないでください。
- ブレーキを装備していないトレーラーの場合
  総積載重量がけん引するトラクターの総重量の1.5倍を超えないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業機を装着するときは、安全な上げ高さに設定する

背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着する場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付ける場合は、作業機がトラクター本体やキャビンに干渉しないように注意してください。作業機昇降スイッチやバック上昇機能などの自動装置での上げ操作はしないでください。

【守らないと】

作業機の調整レバーなどが干渉し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業機指定の回転速度を厳守する



PTO作業機は、その作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

低速回転用の作業機を高速回転で使用すると、作業機が異常作動し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 前後のバランスを保つ



トラクターの後部に重い作業機を装着した場合、フロントバンパーにバランスウエイトを取り付けてバランスを保ってください。

【守らないと】

トラクターの前側が軽くなりハンドル操作が難しくなるため転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【参考】

フロントウエイトについては、「フロントウエイトについて」（180 ページ）をご覧ください。

⚠注意

■ PTO軸を使用しないときは、カバーを装着する

PTO軸を使用しないときは、常にPTO軸カバーを取り付けてください。

【守らないと】

PTO軸に巻き込まれけがをするおそれがあります。

■ ロータリー作業では、ダッシング現象に注意する

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリーをゆっくりと地面に接地させてください。

【守らないと】

回転する爪の勢いでトラクターが思わぬ方向に飛び出し、（ダッシング現象）けがをするおそれがあります。

■ PTOシャフトガードに乗らない

PTOシャフトガードの上に乗らないでください。

【守らないと】

転落などにより、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■片側のクローラを溝に落として作業しない

片側のクローラを溝に落としてのプラウ作業など、左右のクローラの高低差が大きくなる作業は行わないでください。

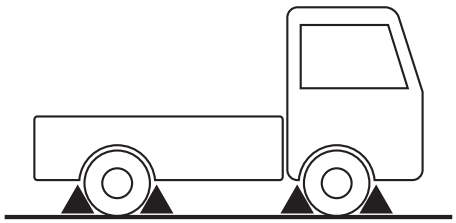
【守らないと】

クローラが外れ、事故を引き起こすおそれがあります。

運搬するときの注意事項

⚠警告

■トラクターを積むトラックには､必ず車止めをする



トラクターを積むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1 速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけ、さらにタイヤに車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■積み･降ろし作業は､誘導者をつけて行う



トラックへの積み・降ろし作業は、誘導者をつけて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また、誘導者は積み・降ろしをするトラクターの直前・直後には絶対に立たないでください。

【守らないと】

転落などの傷害事故を起こすおそれがあります。

■トラックへの積み･降ろしをするときは､事前にアユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは､必ず平行や安定を確認してください。積み・降ろしをするときは、アユミ板の先端の爪がトラックの荷台後方にあるフックにかかっていることを確認してください｡荷台にアユミ板の爪をかけるフックがないトラックへの積み・降ろしは行わないでください。アユミ板は以下の条件に合うものを使用してください。

長さ	段差の4倍以上
強度	トラクターの重量に十分耐えうるもの

【守らないと】

積み・降ろし中にバランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ アユミ板の上では､進路変更をしない

積み・降ろしをするときは、ゆっくりとした速度でアユミ板に乗れるように真っ直ぐ進み、途中でハンドルを切らない（進路を変更しない）ようにしてください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ アユミ板の上では停止しない

アユミ板の上では、進路変更や停止をしないでください。
また、クラッチペダルの操作を絶対にしないでください。

【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積んだトラクターをトラックにロープで確実に固定する



トラックに積んだら、トラクターのエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。また、丈夫なロープでトラクターをトラックに確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中に荷台からトラクターが転落して、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

駐車･格納するときの注意事項

⚠危険

■ 燃えやすいものが堆積した場所に駐車しない



乾燥した草やワラなど､燃えやすいものが堆積した場所にトラクターを駐車しないでください。

【守らないと】

堆積物に引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ シートはトラクターのマフラーやエンジンが十分に冷えてからかける

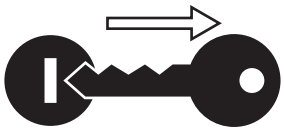
トラクターにシートをかけるときは､マフラーやエンジンが十分に冷えてから行ってください。

【守らないと】

過熱した状態でシートをかけると、シートに引火して火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■駐車するときは、平たんで安定した場所に止める



トラクターを駐車するときは、平たんで安定した場所に止めてください。また作業機を地面に接地させエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけクローラに車止めをしてください。
また、各変速レバー（リバーサ・副変速・PTO 変速）が「N（中立）」位置になっていることを確認してください。トラクターから離れるときは、必ずキーを抜いてください。
【守らないと】
トラクターが動き出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



点検・給油・整備するときの注意事項

⚠危険

■駐車ブレーキの操作は、トラクターの外から行わない



トラクターの外から駐車ブレーキを解除しないでください。必ず運転席に座って駐車ブレーキを解除してください。
【守らないと】
トラクターが走りだし、巻き込まれて死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■燃料を補給するときは火気厳禁



燃料を補給するときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
【守らないと】
燃料に引火してやけどや火災事故を引き起こすおそれがあります。

■バッテリーを点検するときは火気厳禁



バッテリーを点検するとき、およびトラクターから外すときは、必ずエンジンを停止しショートによる火花や火気に注意してください。
【守らないと】
バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発による死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠危険

■ バッテリーの排気穴をふさがない

バッテリーの排気穴はふさがないでください。

【守らないと】

バッテリー内部で発生するガスにより、バッテリーの内圧が上がり、破裂よる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 高温時にはラジエータキャップを開けない

エンジン運転中や停止直後は、ラジエータが過熱状態にあります。ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

【守らないと】

熱湯が噴き出し、やけどなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ バッテリーを点検するときは、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリー液を体や衣服につけない

バッテリーに入っている電解液を体や衣服につけないように注意してください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

また目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗ったあと必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、やけどや失明などの傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの脱着は正しい手順で行う

バッテリー端子を外すときは（−）側のケーブルから外し、取り付けるときは（+）側のケーブルから取り付けてください。

【守らないと】

ショートによるやけどなどの傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業機を上げた状態で点検･整備をする場合は､落下防止の処置を行う



作業機を上げた状態で点検・整備を行うときは、油圧ストップ・スローリターンバルブを油圧ストップ位置（作業機の下降速度が遅くなる方向にいっぱいまで回す）にして、作業機の下にリジットラック（うま）をかけて落下防止をしてください。

【守らないと】

作業機が落下し、挟まれるなどの傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 各部の摩耗状態を点検する

クローラが著しく摩耗していないか､キズが付いていないかを点検してください。また、スプロケット、トラックローラ、アイドラ、クローラガイドの摩耗も合わせて点検してください。

【守らないと】

横滑りや、クローラの外れや、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

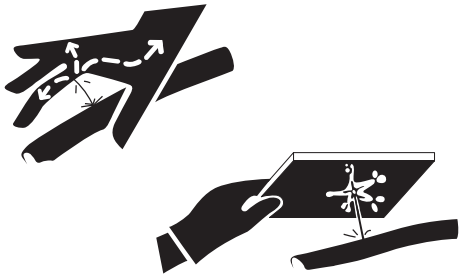
■ 油圧ホースを外すときは､回路内の圧力を抜く

油圧の継手やホースを外すときは､油圧回路内の圧力を抜いてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの油漏れは､厚紙や板などを使って点検する



高圧油に手や体が直接触れないようにしてください。もし触れた場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 点検・給油・整備は平たんで安定した場所で行う



点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にトラクターを駐車してください。またエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてクローラに車止めをしてください。また、作業機は地面に接地させ、各変速レバー（リバーサ・副変速・PTO変速）が「N（中立）」位置にあることを確認してください。

【守らないと】

トラクターが動き出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検・検油・整備は機械が十分に冷えてから行う



マフラー、エンジンなどが十分に冷えてから、点検・給油・整備を行ってください。

【守らないと】

やけどをするおそれがあります。

■ 外したカバー類は元通りに取り付ける



トラクターや作業機の点検・整備などで外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

カバーを外した状態で運転すると、回転部に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

■ 石などの挟み込みを確認する

可動部分やクローラへの石などの挟み込みがないことを確認し、挟まっている場合は取り除いてください。

【守らないと】

クローラの外れ、切れなどにより、事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 電気配線は毎日点検する

電気配線が他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

配線がショートし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。電気配線は50時間または1年ごと（どちらか早いほう）に点検を実施してください。ゴムホース類は、時間が経過すると劣化します。燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良による思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

その他の注意事項

⚠警告

■ 農薬との接触をさける

農薬の取扱説明書に吸入禁止などの指示がある場合には、マスクなどの防具を使用してください。また、キャビン内部でもマスクを使用してください。

【守らないと】

作業者の健康を害するおそれがあります。

⚠注意

■ 廃棄物は適切な方法で処分する

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このトラクターに使用されている燃料・オイル・冷却水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。廃油・使用済みの冷却水などは、地面・河川には絶対に流さないでください。

エアコンの冷媒ガスは、大気汚染につながる物質です。国で定められた法律に基づいて、ガスの回収、リサイクルを実施してください。

正しい処分方法がわからないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

【守らないと】

環境汚染につながります。

[重要]

■ エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、以下の項目を実施することが義務化されました。

1. 簡易点検の実施

3カ月に1回以上の目視による簡易点検を行ってください。

点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、すみやかにお買い上げいただいた特販店・JAへご連絡ください。

2. 記録の保管

簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械を廃棄・譲渡するまで保管する必要があります。

【守らないと】

法令違反となります。

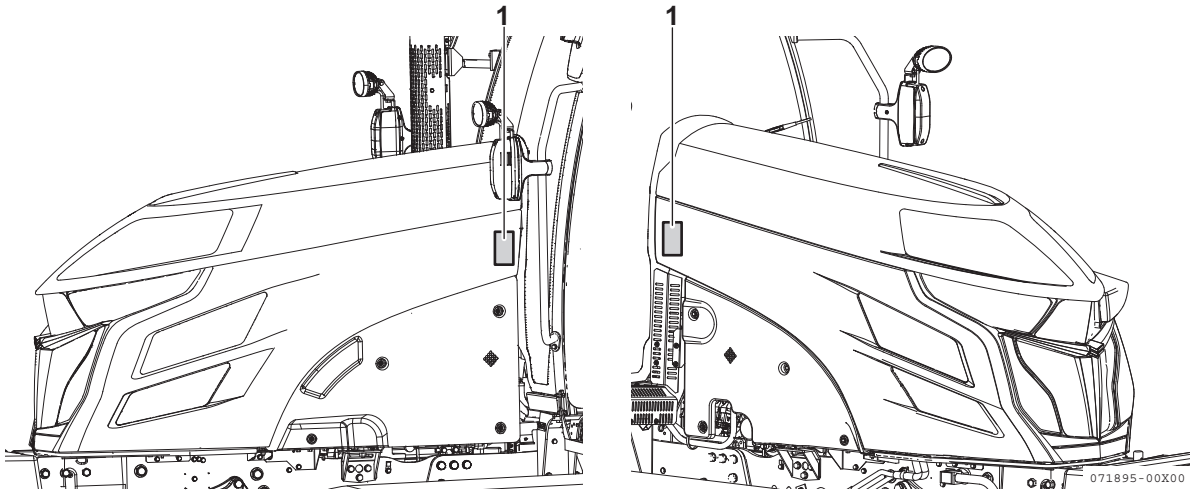
[参考]

簡易点検の方法については、269 ページをご覧ください。

安全銘板

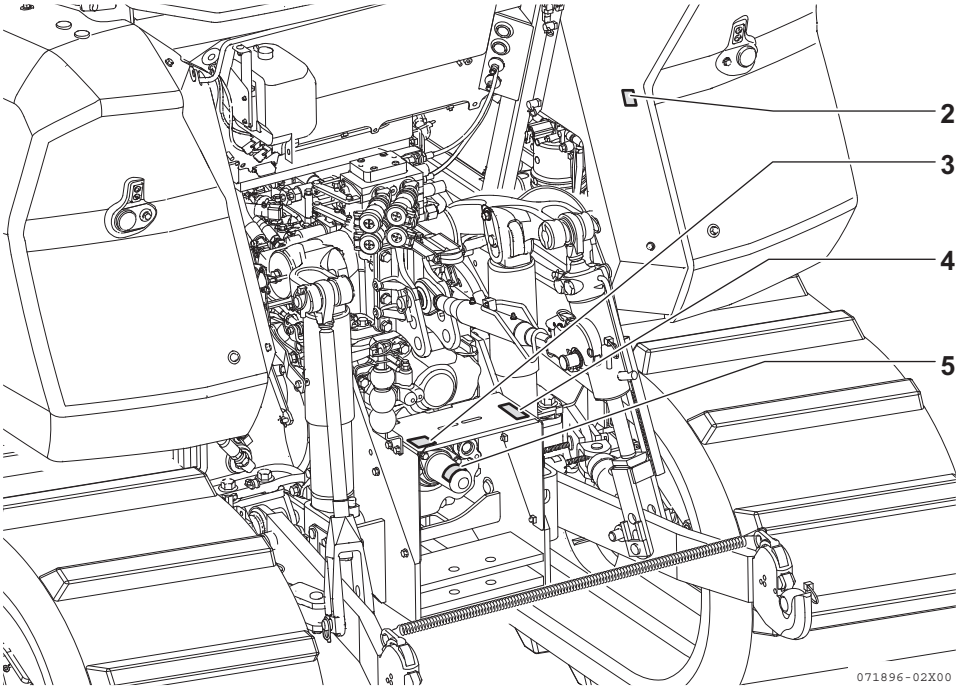
安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は作業をはじめる前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 注意(マフラー

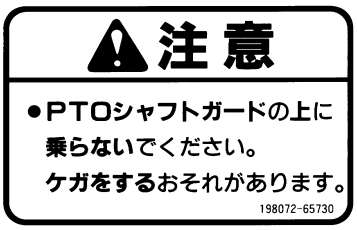




2. 警告(油圧



3. 注意(ノルナ



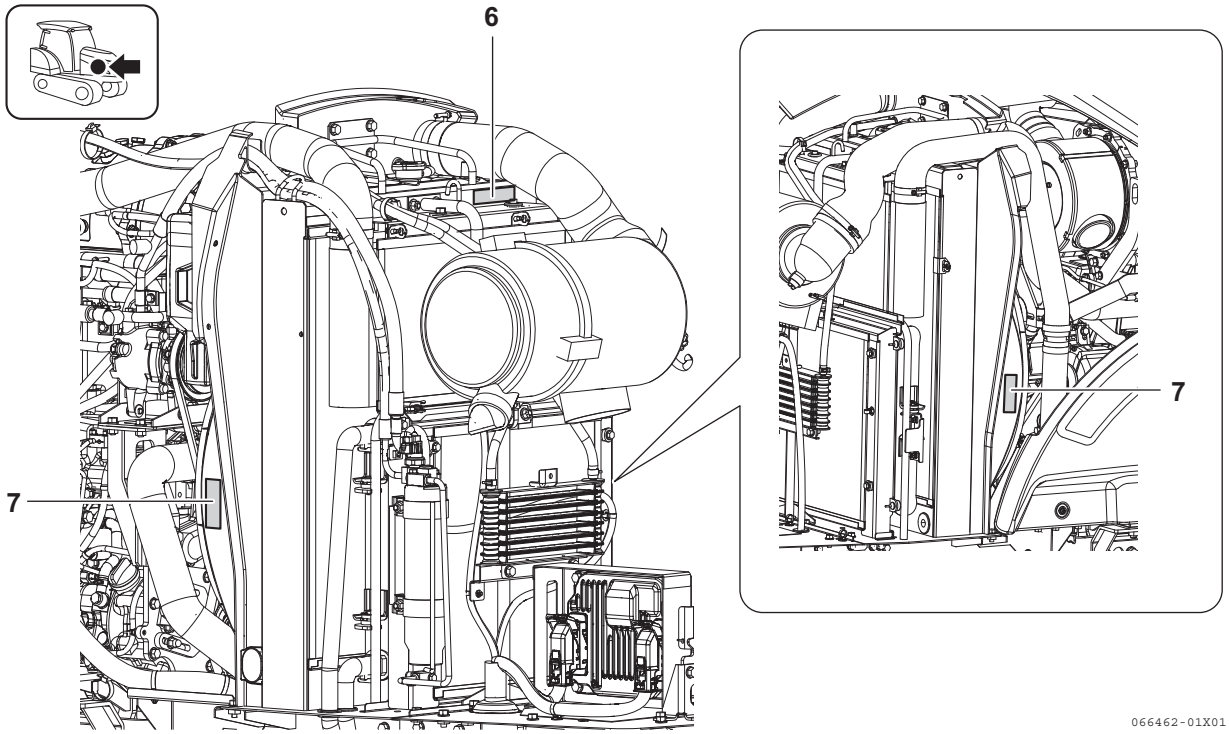
4. 危険(回転軸危険



5. 注意(PTOカバー



※ボンネットをオープンしています。
ボンネットの開けかたは、182 ページの「ボンネットの開閉のしかた」を参照してください。

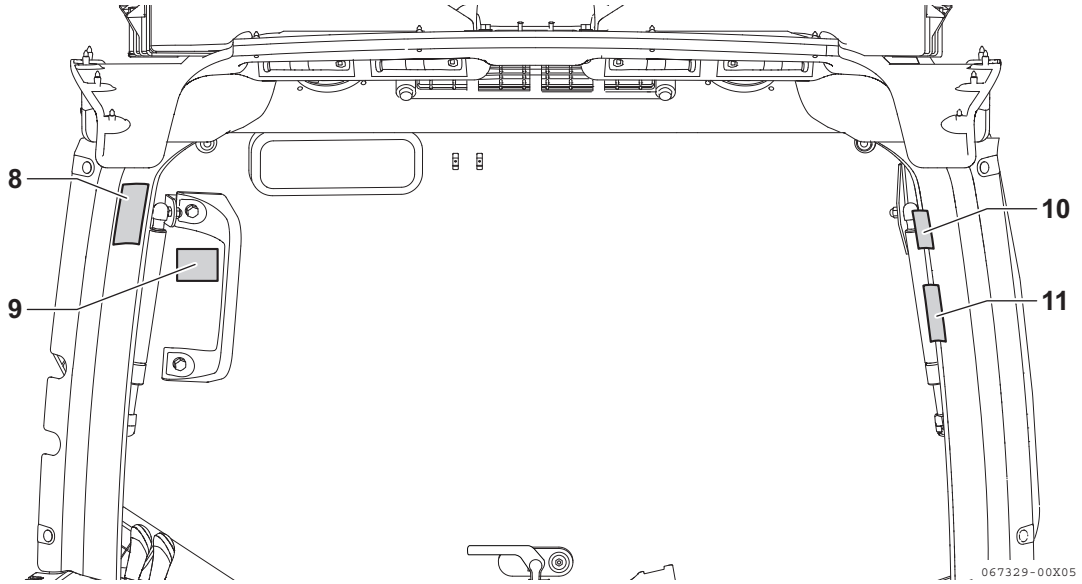


6. 危険（ラジエータ

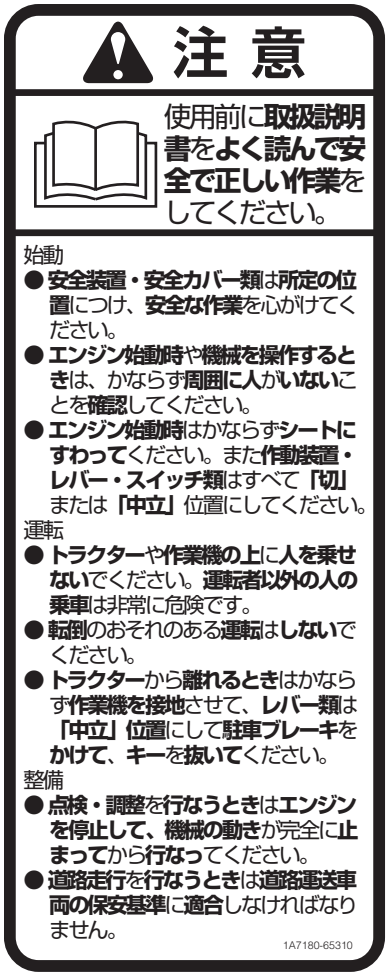


7. 注意（ファンベルト





8. 注意（安全運転



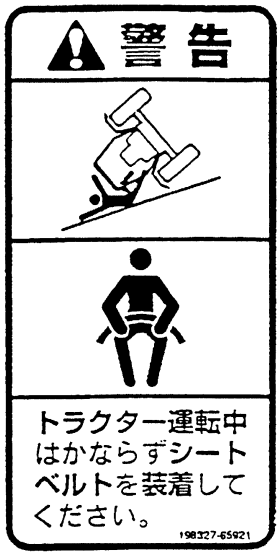
9. 注意（SMV

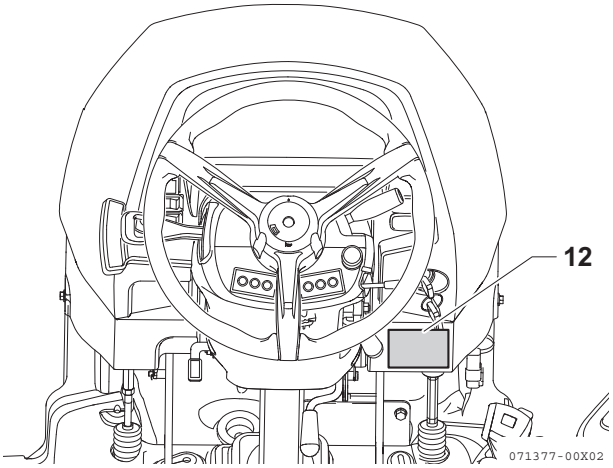


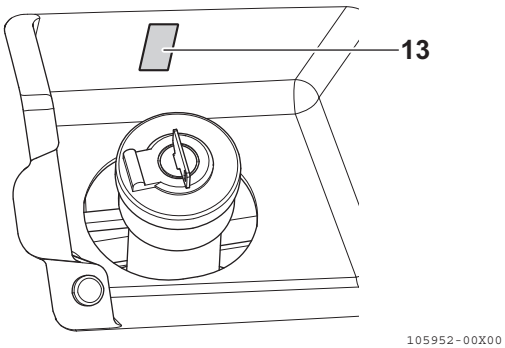
10. 警告（排ガス



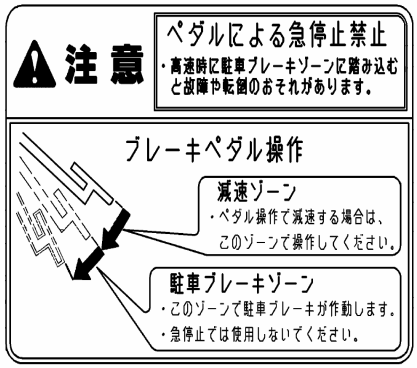
11. 警告（シートベルト





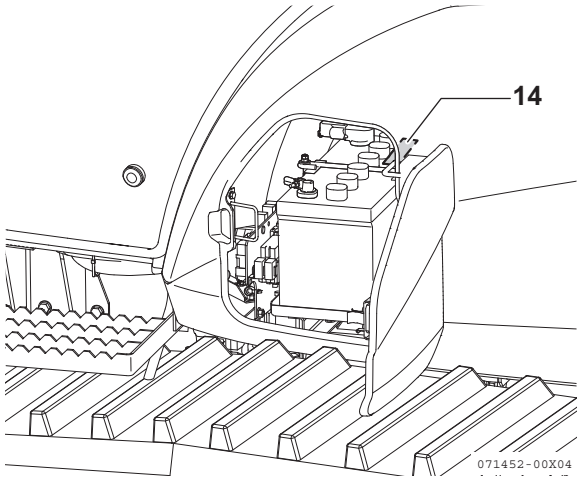


12. 注意（ペダル操作



13. 危険（火気厳禁





14. 危険(バッテリ



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水をつけた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剝がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
  安全銘板はお買い上げの特販店、またはJAに注文してください。

各部のはたらきと使いかた

ハンドル部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

キー

⚠ 注　意

トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。
【守らないと】
児童などが操作し、けがをするおそれがあります。

このトラクターにはエンジン始動用・ドア開閉用と燃料キャップ用の2種類のキーがあります。それぞれ2本用意しています。1本はスペアキーとして、メインキーとは別に大切に保管してください。

〈エンジン始動用･ドア開閉用キー〉

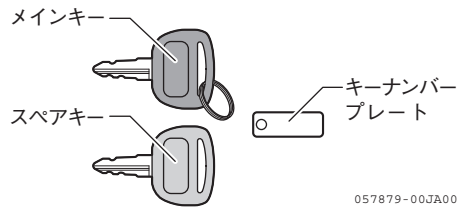


図 2-1 エンジン始動用・ドア開閉用キー

〈燃料キャップ用キー〉

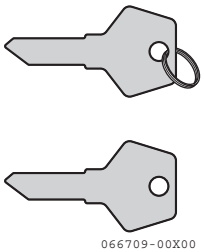


図 2-2 燃料キャップ用キー

[重要]

- **エンジン始動用・ドア開閉用キーのキーナンバープレートには、キーナンバーを記載してあります。キーナンバーはキーを紛失した際に必要となりますので、キーナンバープレートは大切に保管してください。また、キーナンバーを表紙裏の記入欄へご記入ください。**
- **トラクターを譲渡するときはつぎにお使いになる方のために、すべてのキーとキーナンバープレートを一緒にお渡しください。**

キースイッチ

エンジンを始動・停止するときに使用します。

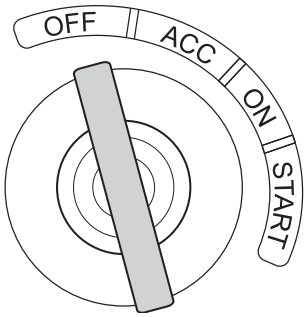


図 2-3 キースイッチ

「OFF（切）」位置… エンジンが停止します。（電流が流れず、キーを抜き取ることができます）ホーンとハザードランプは使用できます。

「ACC」位置…… ラジオ・CDを聞くことができます。またアクセサリーソケットに電源を供給します。

[参考]

「ACC」位置にしたまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

「ON（入）」位置…… 各電装品に電流が流れます。

「START（始動）」位置… セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離します。キーは自動的に「ON（入）」位置に戻り、連続運転になります。

リバーサレバー

「前進」と「後進」を切り換えるときに使用します。クラッチペダルを踏まずに変速できます。

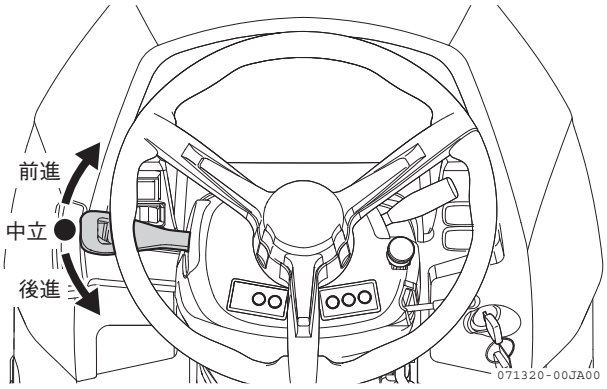


図 2-4 リバーサレバー

[参考]

レバーを「R（後進）」位置にするとブザーが鳴ります。

ステアリングハンドル

トラクターを旋回させるときに使用します。

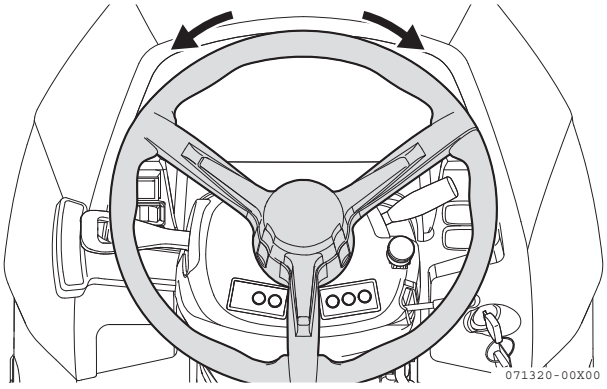


図 2-5 ステアリングハンドル

ハンドルを右へ回すとトラクターが右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。

センターホーンスイッチ

周囲に合図をするときに使用します。

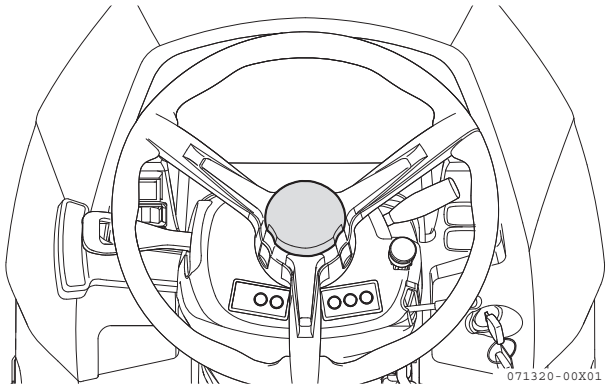


図 2-6 センターホーンスイッチ

センターホーンスイッチを押している間、ホーンが鳴ります。

[参考]

キースイッチ「OFF（切）」位置でもホーンを鳴らすことができます。

ステアリングコラムスイッチ

主な機能の自動/手動を選択するときに使用します。

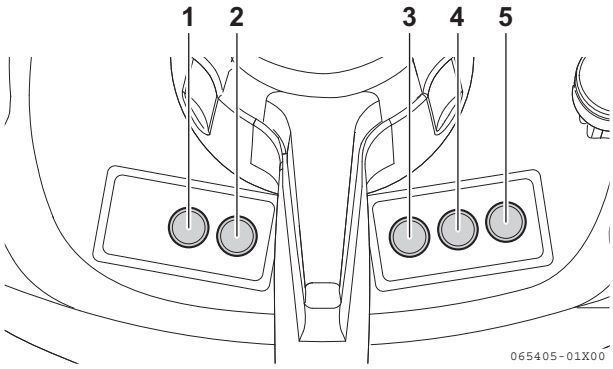


図 2-7 ステアリングコラムスイッチ

表 2-1 ステアリングコラムスイッチの名称

番号	名称
1	A⇔Bモード自動切換スイッチ
2	バック上昇切換スイッチ
3	AUTO1スイッチ
4	DISPスイッチ
5	AUTO2スイッチ

1. A⇔Bモード自動切換スイッチ

「Aモード」「Bモード」自動切換機能の「入」・「切」を選択します。

A⇔Bモード自動切換「入」のとき：

作業機昇降スイッチで作業機を上げた場合、またはバック上昇機能で作業機を上げた場合、自動的に「Aモード」から「Bモード」に切り換わります。作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作すると、自動的に「B モード」から「A モード」に切り換わります。

[参考]

「Aモード」・「Bモード」の最高エンジン回転速度または最高速の設定は、アームレスト部のエンジン回転・車速設定ダイヤルで行います。詳しくは、61 ページ参照してください。

2. バック上昇切換スイッチ

スイッチを押すごとに、バック上昇の「入」・「切」を切り換えることができます。設定の状態は、メーターパネルで確認できます。

3. AUTO1スイッチ（自動スイッチ1）

バック上昇、A ⇔ B モード自動切換の各機能の「入」・「切」をワンタッチで切り換えることができます。

[参考]

バック上昇、A ⇔ B モード自動切換は、カラーモニターで任意に選択（カスタマイズ）できます。カスタマイズ方法は、111 ページを参照してください。

4. DISP スイッチ（メーターパネル表示切換スイッチ）

メーターパネル中央に表示される情報を切り換えることができます。

スイッチを押すごとに、アワーメーター・トリップメーター、最高エンジン回転速度・最高車速設定、平均燃費・残作業時間などの状態を表示します。詳しくは、71 ページを参照してください。

5. AUTO2スイッチ（自動スイッチ2）

深さ自動、傾き自動、e-CONTROL の各機能の「入」・「切」をワンタッチで切り換えることができます。

[参考]

各機能の自動制御の「入」・「切」はカラーモニターで任意に選択（カスタマイズ）できます。カスタマイズ方法は、112 ページを参照してください。

作業機昇降スイッチ

⚠ 警　告

エンジンを停止しても、キースイッチが「入」位置の場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作すると作業機は下降します。
人が作業機の下にいないことや、足を踏み入れていないことを確認してから操作してください。
【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ワンタッチで、作業機を上げ・下げするときに使用します。

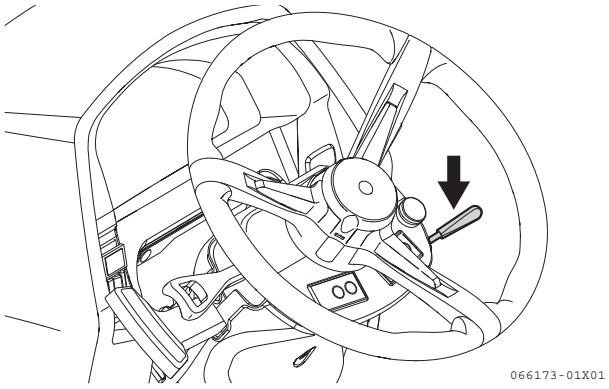


図 2-8 作業機昇降スイッチ

「上げ」方向……「上げ位置ダイヤル」で設定した高さまで作業機が上昇します。
「下げ」方向……「作業機上下ダイヤル」で設定した下げ位置まで、作業機が下降します。

[重要]
チョイ上げ・チョイ下げスイッチで作業機を上下させたあと、作業機昇降スイッチで「下げ」方向に操作すると、チョイ上げ・チョイ下げスイッチ操作前の高さ・制御に戻るため、作業機が上昇する場合があります。

[参考]
作業機昇降スイッチは、運転席右側のアームレストにも配置されています。(59 ページ参照)

ライトスイッチ

ヘッドランプの点灯・消灯、およびヘッドランプの向きの切り換えに使用します。

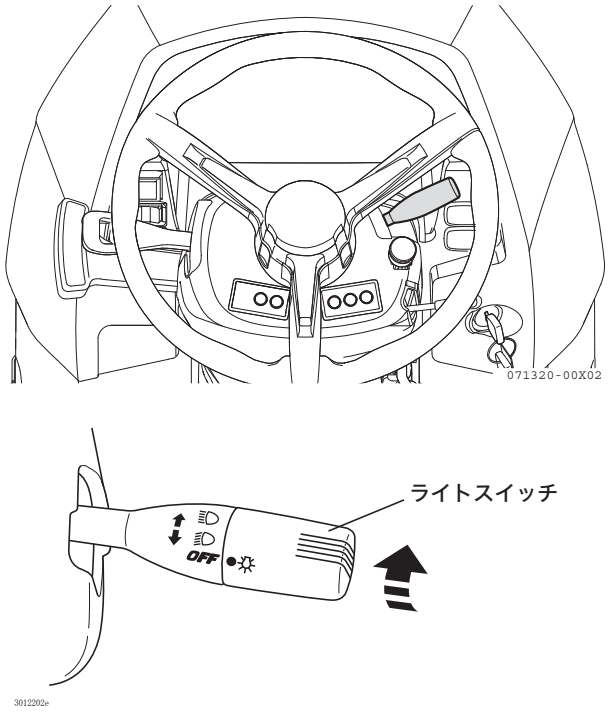
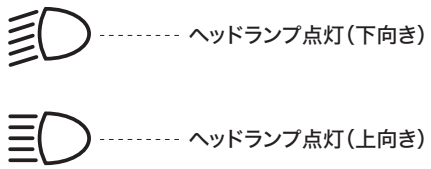


図 2-9 ライトスイッチ

キースイッチを「ON（入）」位置にして、ライトスイッチを希望の位置にします。



[参考]
ヘッドランプの点灯と同時に、テールランプ・メーターパネルが点灯します。

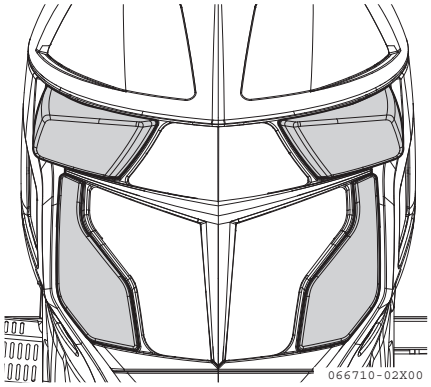


図 2-10 ヘッドランプ

フラッシャスイッチ

フラッシャランプ（方向指示器）を点滅させるときに使用します。

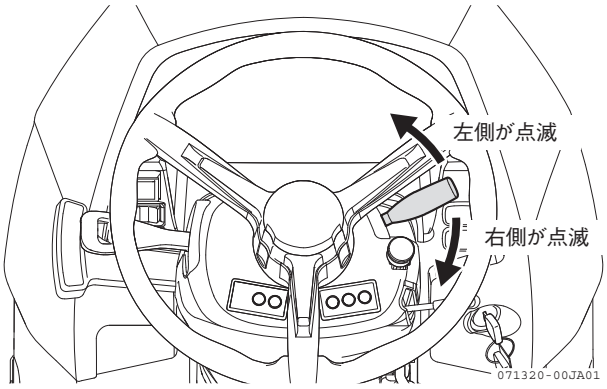


図 2-11 フラッシャスイッチ

キースイッチを「ON（入）」位置にして、
フラッシャスイッチを手前に引くと、右側のフラッシャランプ（ウインカー）が点滅します。
フラッシャスイッチを前側に押すと、左側のフラッシャランプ（ウインカー）が点滅します。

[参考]

- ハンドルを直進に戻すと、フラッシャランプは自動的に消灯します。
- フラッシャランプは、キースイッチ「OFF（切）」位置では作動しません。

メーターパネルの下に3つのスイッチがあります。

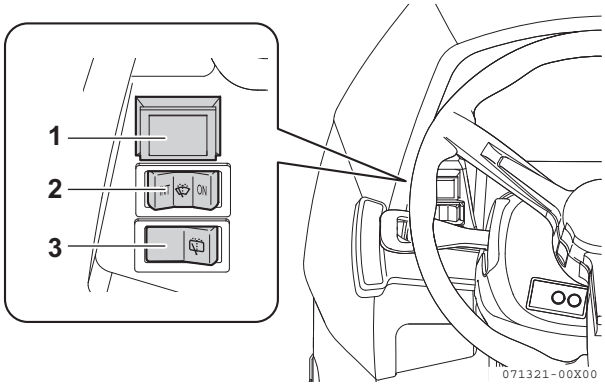


図 2-12 ハザードスイッチ/フロントワイパースイッチ/リヤワイパースイッチ

ハザードスイッチ

路上で停止する場合に、事故を防止するために使用します。
スイッチを押すとフラッシャランプが左右とも点滅し、停止中を知らせます。もう一度押すと消灯します。

[参考]

ハザードスイッチはキースイッチ「OFF（切）」位置でも作動します。

フロントワイパー・洗浄液噴射スイッチ

フロントワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。

「ON」： 1段押すとワイパーが連続作動します。もう1段階押すと、押している間洗浄液が噴射され、ワイパーが作動します。
「INT」： 1 段押すと一定の間隔でワイパーが作動します。もう1段押すと、押している間洗浄液が噴射され、ワイパーが作動します。

リヤワイパー・洗浄液噴射スイッチ

リヤワイパーと洗浄液噴射の「入」「切」に使用します。
1段押すとワイパーが作動します。もう1段押すと、押している間洗浄液が噴射し、ワイパーが作動します。

ワイパーを止めるときは、キースイッチが「入」位置の状態でワイパースイッチを「切」位置にします。

[重要]

- ワイパーでのから拭きはガラス面にキズをつけたりワイパーをいためますので、洗浄液を噴射させてください。
- 洗浄液が出ないときは、洗浄液の噴射操作をしないでください。洗浄液が空のまま作動させるとポンプの故障の原因になります。
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。そのまま作動させるとワイパーが破損しますので、ガラスを暖めてからご使用ください。

排気フィルタ再生スイッチ

排気フィルタに捕集した PM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去し、排気フィルタを再生するときに使用します。

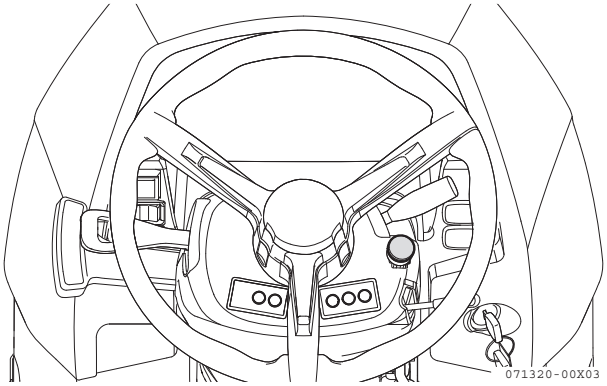


図 2-13 排気フィルタ再生スイッチ

排気フィルタ再生スイッチのお知らせランプが点滅したら、排気フィルタの再生（リセット再生）をします。
排気フィルタの再生についての詳細は、207 ページを参照してください。

表 2-2 排気フィルタ再生スイッチ

排気フィルタ 再生スイッチ （お知らせランプ）	状態
点滅	排気フィルタ再生待ち
点灯	排気フィルタ再生中

[参考]
お知らせランプが点滅しているときは、ブザーが鳴ります。

チルト調節レバー

ハンドル角度を操作しやすい位置に変更するときに使用します。

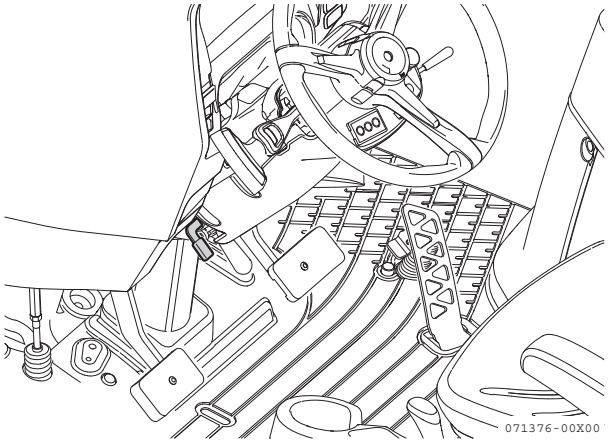


図 2-14 チルト調節レバー

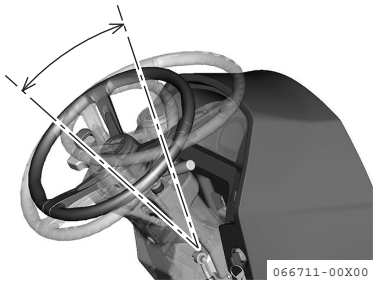


図 2-15 チルト調節範囲

調節レバーを手前に引き解除位置にします。
この状態で、ハンドルを操作しやすい角度に調節します。

[重要]
調節後は、ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

[参考]
乗降時は、ハンドル角度を最上げにしてお使いください。

テレスコ調節レバー

ハンドル高さを操作しやすい位置に変更するときに使用します。

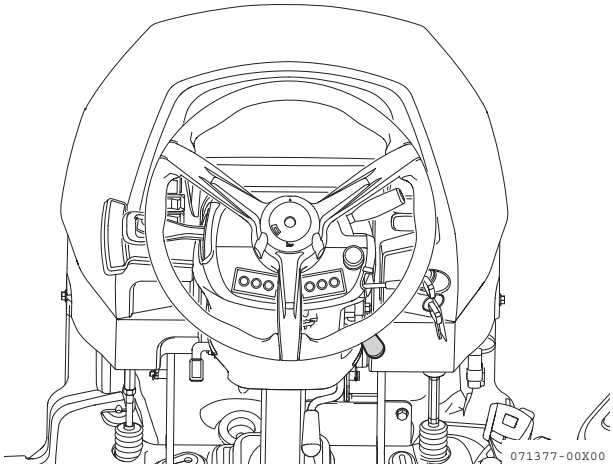


図 2-16 テレスコ調節レバー

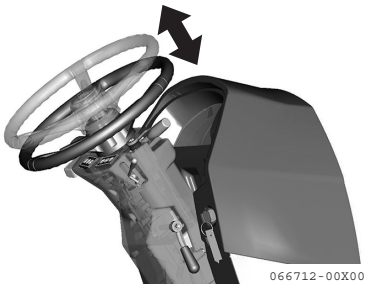


図 2-17 テレスコ調節範囲

ハンドルの高さを無段階に調節できます。
調節レバーを手前に引き、解除位置にします。
この状態で、ハンドルを操作しやすい高さに調節します。

[重要]
調節後レバーをロック位置に戻し、ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

駐車ブレーキレバー

トラクターを駐車するときに使用します。

レバーを「ロック」側へ引き上げる
・・・駐車ブレーキがはたらきます。
レバーを「解除」側へ引き下げる
・・・駐車ブレーキが解除されます。
※駐車ブレーキはブレーキペダルを踏みながら操作してください。

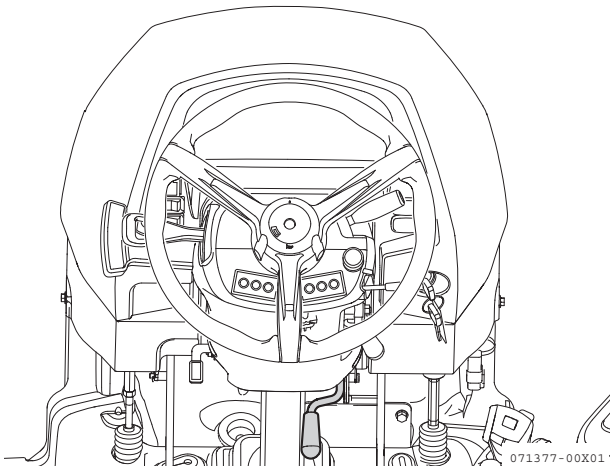


図 2-18 駐車ブレーキレバー

シート周辺部

ドライバーシート（運転席）部周辺のレバー、ペダルについて説明します。

ドライバーシート

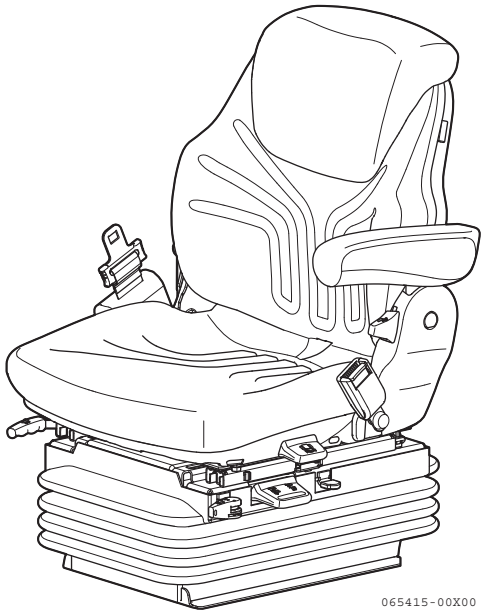


図 2-19 ドライバーシート

〈シート前後調節レバー〉

ドライバーシートの前後位置を、160 mmの間で調節できます。運転者の体格に合わせて調節してください。

調節レバーを上側に引き上げるとロックが解除され、調節できます。

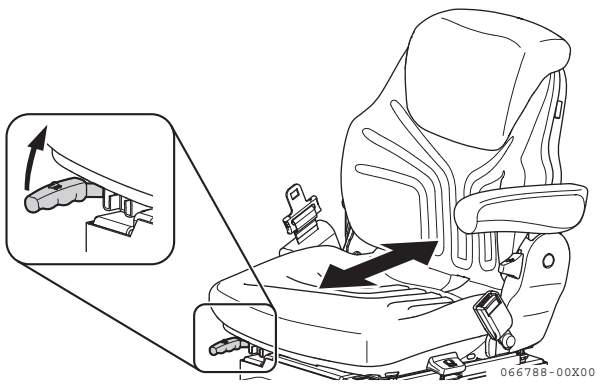


図 2-20 シート前後調節レバー

〈リクライニング調節レバー〉

⚠ 注　意

背もたれを後方に倒すときは、リヤウインドおよびリヤウインドストッパーに注意してください。
【守らないと】
リヤウインド、リヤウインドストッパーでけがをするおそれがあります。

調節レバーを引き上げると、背もたれのリクライニング位置を調節できます。

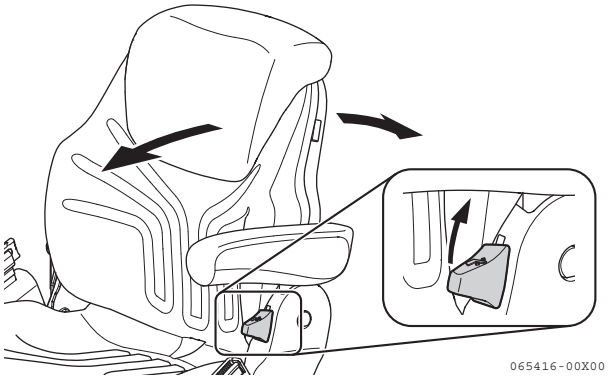


図 2-21 リクライニング調節レバー

〈スイベル調節ノブ〉

調節ノブを引き上げると、シートの向きを左右に各10度回転できます。

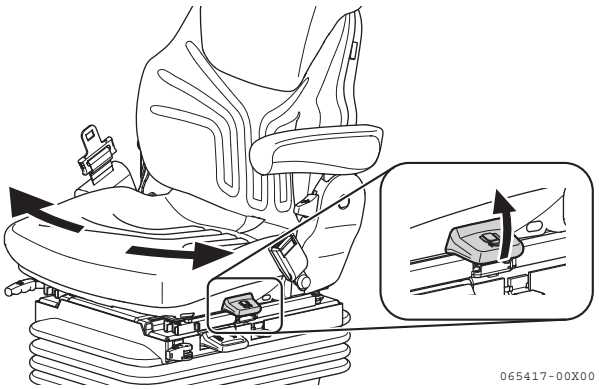


図 2-22 スイベル調節ノブ

〈高さ、体重調節ノブ〉

運転者の体重に合わせてシートのクッションを調節できます。

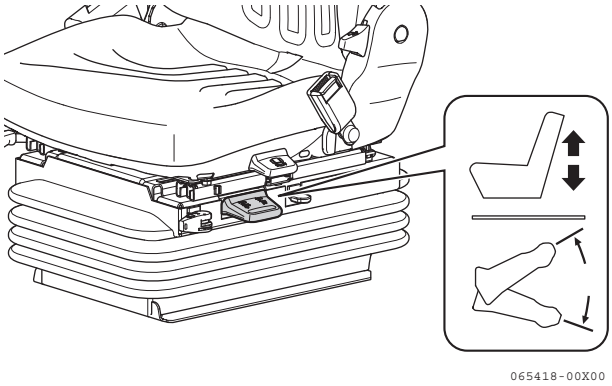


図 2-23 高さ、体重調節ノブ

高さ調節

シートの高さはエア式で、無段階に調節できます。
高さ・体重調節ノブを上向き、または下向きにいっぱいまで持ち上げるか、押し下げると、高さを調節できます。

体重調節

サスペンションをオペレータの体重に合わせて調節できます。
高さ・体重調節ノブを短く、軽く引き上げると、自動的に体重調節が行われます。
(体重に合わせてサス内のエア圧が増減されます。)

[重要]

体重調節は、トラクターを駐車し、正しい運転姿勢で行ってください。

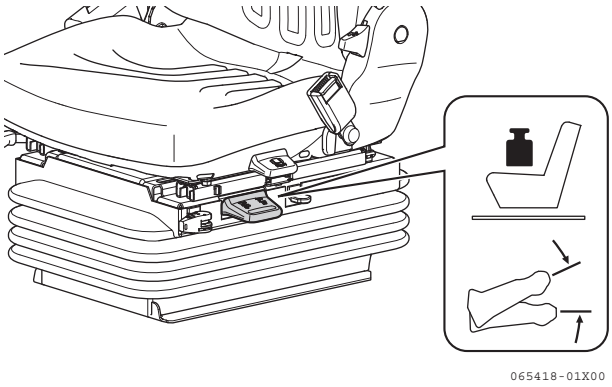


図 2-24 高さ、体重調節ノブ

〈前後サスペンション調節レバー〉

前後サスペンションを使用すると、トレーラーなどのけん引車を取り付けた状態で走行したときの前後方向のショックが吸収されます。

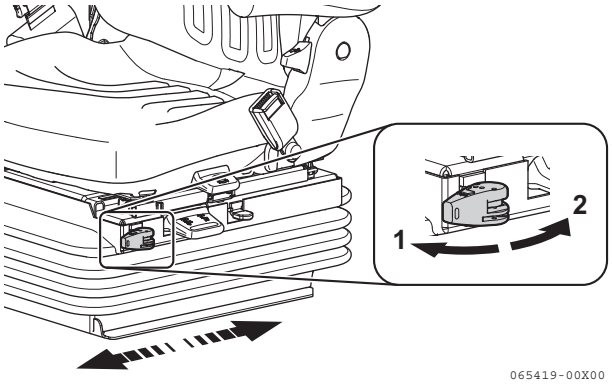


図 2-25 前後サスペンション調節レバー

調節レバー 1位置：前後サスペンション機能「切」
調節レバー 2位置：前後サスペンション機能「入」

[参考]

調節レバーを 1 位置に動かしたあとシートを後方にずらすと、前後サスペンション機能がロックされます。ロックがかかった状態では、前後サスペンション機能は、はたらきません。

〈ヘッドレスト〉

ヘッドレストは、引き上げたり押し下げたりすることで、任意の高さに調節できます。
上方エンドストップを越えて力を入れると、ヘッドレストを外せます。

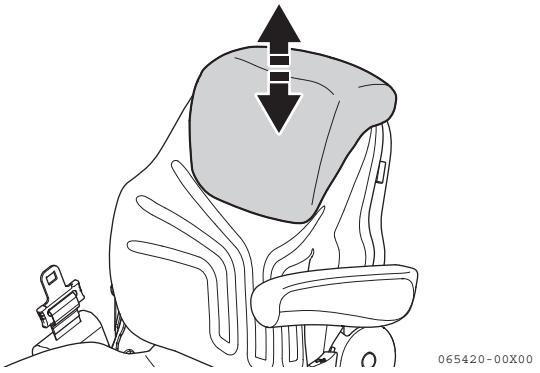


図 2-26 ヘッドレスト

〈アームレスト調節部〉

アームレストの位置の前後、高さ（角度）が調節できます。固定している2本のボルト（図 2-27, 1）をゆるめると、前後に無段階にスライドします。アームレスト下側のボルト（図 2-27, 2）のねじ込み量で高さ（角度）が調節できます。調節後は、必ずボルトでしっかりと固定してください。

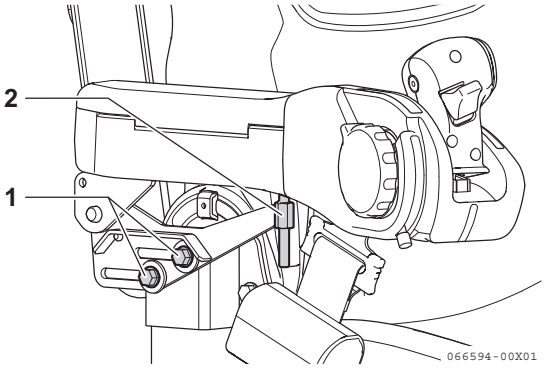


図 2-27 アームレスト調節部

アクセルペダル

エンジン回転の調節に使用します。主に、路上走行時に使用します。

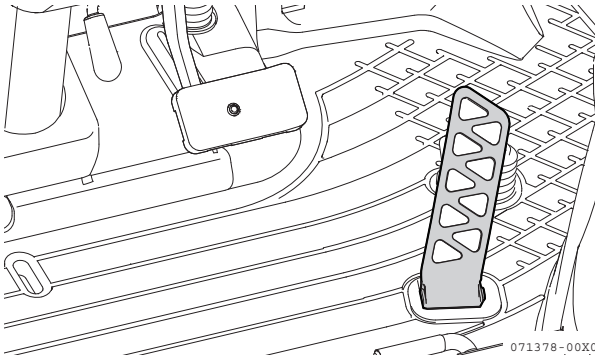


図 2-28 アクセルペダル

ペダルを踏み込む…… エンジン回転が高くなります。
ペダルから足を離す… エンジン回転が低くなります。

[参考]

副変速2速の場合は、アクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだときの最高速度は、エンジン回転・車速設定ダイヤルで設定した速度になります。（副変速1速以下では、アクセルペダルによる自動変速はしません。）

クラッチペダル

エンジンの動力を断続するときに使用します。

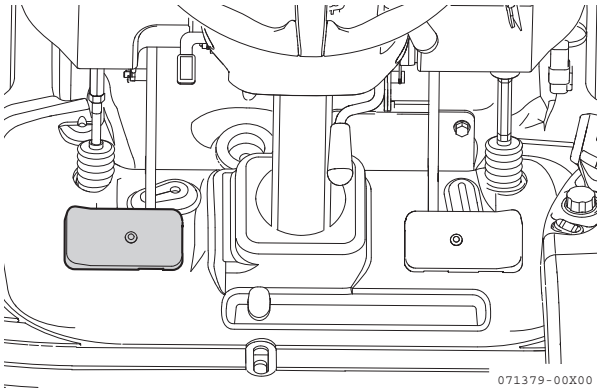


図 2-29 クラッチペダル

ペダルを踏み込むとクラッチが切れ、エンジンの動力が断たれます。
PTO連動切換スイッチが「独立」の場合は、PTO駆動スイッチを「入」にすると、クラッチペダルを踏んでもPTO動力は伝達されます。

[参考]

クラッチペダルは副変速やPTO変速の切換時に使用します。

ブレーキペダル

⚠ 注　意

高速走行時には、ブレーキペダルを強く踏み込み過ぎないようにしてください。
【守らないと】
大きく踏み込むと、急ブレーキが掛かり、転倒などによりけがをするおそれがあります。

トラクターを停止させるときに使用します。

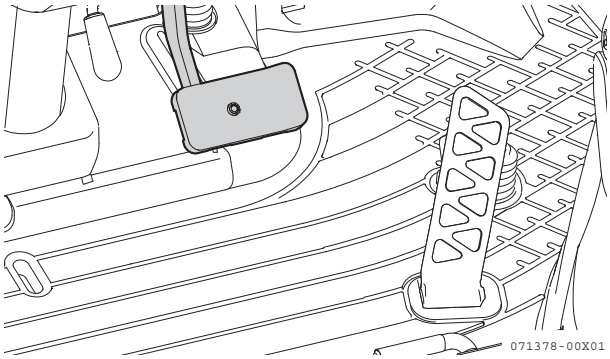


図 2-30 ブレーキペダル

ブレーキは、ペダルの踏み込み量で2段階の制動になります。
浅く踏む（減速ゾーン）と、スムーズに減速します。
（踏みはじめから（図 2-31「A」）位置まで）
強く踏む（駐車ブレーキゾーン）と、駐車ブレーキが作動します。（(図 2-31「A」）から終端まで）

ブレーキペダルから足を離すと、主変速レバーと車速設定ダイヤルで設定した速度までスムーズに変速します。

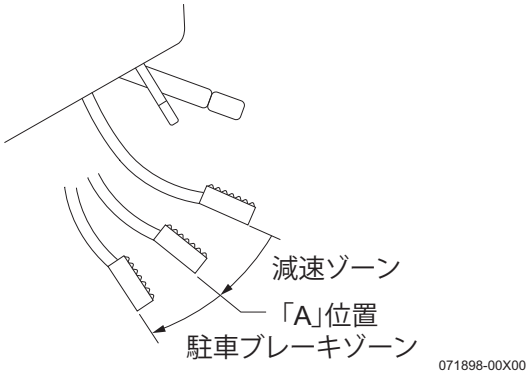


図 2-31 ブレーキペダルの制動イメージ図

[参考]

- 通常作業時や道路走行時はクラッチペダルを併用せず主変速レバーまたはブレーキペダルで減速後、ブレーキペダルで停止、発進してください。
- 駐車する場合は駐車ブレーキを確実にかけてください。
- ブレーキペダルを踏んでいる間、速度を 0 km/h にする制御がはたらきます。これを停止制御といいます。
  この制御により、坂道発進やけん引負荷時でもブレーキペダルから足を離すだけで、スムーズに発進できます。

副変速レバー

⚠ 警　告

トラックへの積み・降ろし、ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、副変速レバーを「2速」にしないでください。
【守らないと】
バランスをくずし、転倒、転落による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

走行速度の変速範囲を切り換えるときに使用します。

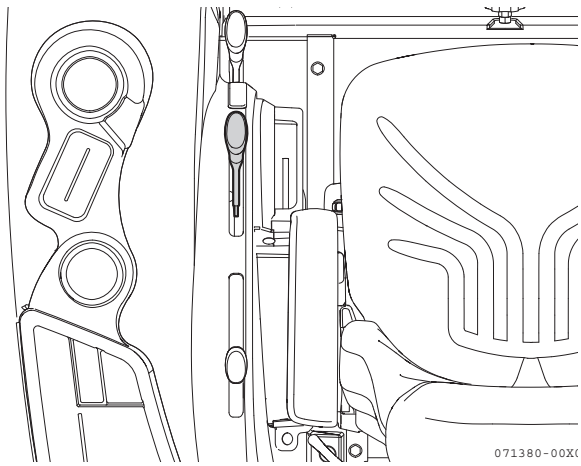


図 2-32 副変速レバー

変速するときはエンジン回転を下げ、トラクターが停止した状態でクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。
重けん引作業などの負荷の大きい作業は、副変速1速で行います。

PTO変速レバー

⚠ 警　告

- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。
- PTO 連動切換スイッチが、「独立」位置のときは、PTO駆動スイッチを「切」位置にしてPTO軸が停止してから、変速してください。
- PTO連動切換スイッチが「連動」位置のときは、クラッチペダルをいっぱい踏み込んでPTO軸が停止してから変速してください。
  変速しにくい場合は、クラッチペダルを少し戻してから変速してください。

【守らないと】
作業機が壊れ、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

PTO軸の回転速度を変えるときに使用します。

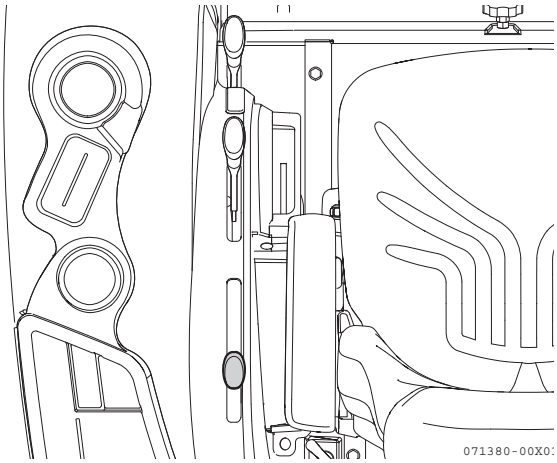


図 2-33 PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を正転3段階に変速できます。

[重要]

逆転PTO入/切レバーが「切」位置にないと変速できません。
守らないと、機械が破損するおそれがあります。

クリープレバー

副変速レバーが「1速」の場合、クリープレバーを押し下げるとクリープ速度が得られます。

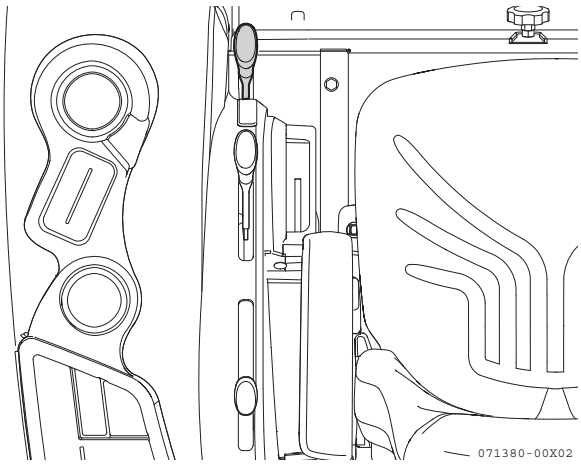


図 2-34 クリープレバー

クリープレバーの操作は、エンジン回転速度を下げトラクターを停止させた状態で、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込むか、リバーサレバーを「N（中立）」位置にして行います。

[重要]

- 守らないと機械が破損するおそれがあります。
- 最高速度・エンジン最高回転速度の設定値が、予期しないところで変わるおそれがあります。
- クリープレバーを「入」位置にすると、最高速度・エンジン最高回転速度の設定値が変わります。
- クリープレバーが「入」位置のときは、副変速は「2速」に変速できません。
  また、副変速レバーが「2 速」位置のときは、クリープレバーを「入」位置にできません。
- クリープ速度は使いかたを誤ると故障の原因になります。つぎのことに注意して使用してください。

〈使用できる作業〉

- ロータリーでの深耕、細土耕うん作業
- ロータリー耕うんで、ほ場が硬く標準速度で耕うんできないとき
- あぜ塗り機によるあぜ塗り作業
- プランタによる移植作業
- 農業用トレンチャーによる作業

逆転PTO入/切レバー

逆転PTOを「入」「切」するときに使用します。

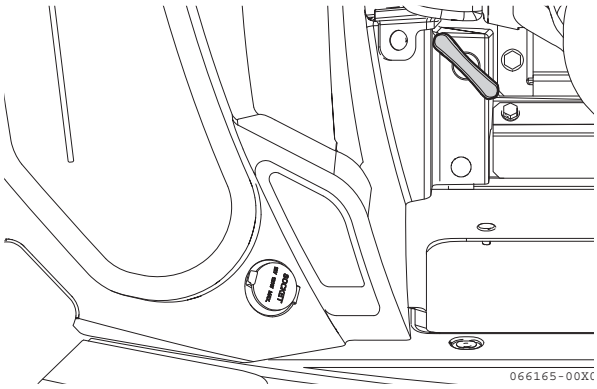


図 2-35 逆転PTO入/切レバー

レバーを上げる：逆転PTOが「入」状態になります。
レバーを下げる：逆転PTOが「切」状態になります。

[重要]

逆転 PTO は､使用を誤ると機械の破損の原因になります｡つぎの点に注意して使用してください。

- **使用できる作業**
  - **土寄せ作業**
  - **草やワラの巻きつきをほぐすとき**
- **使用できない作業**
  - **未耕地での耕うん作業**
  - **ロータリーの爪軸を、逆に取り付けて行う本格的な逆転耕うん作業**

[参考]

逆転PTO入/切レバーは、PTO変速レバーが「N（中立）」位置でのみ操作可能です。

油圧ストップ･スローリターンバルブ

作業機の下降速度の調節、および作業機が下降しないように固定するときに使用します。

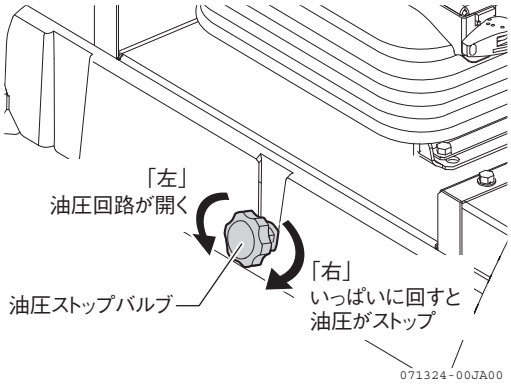


図 2-36 油圧ストップ・スローリターンバルブ

「右」側へ回す… 作業機の下降速度が遅くなり、いっぱいまで回すと、油圧回路が閉じ作業機は昇降しません。
「左」側へ回す… 作業機の下降速度が速くなります。

アームレスト部

ドライバーシート（運転席）右側のアームレスト部のレバー、スイッチについて説明します。

主変速レバー

走行速度を切り換えるときに使用します。

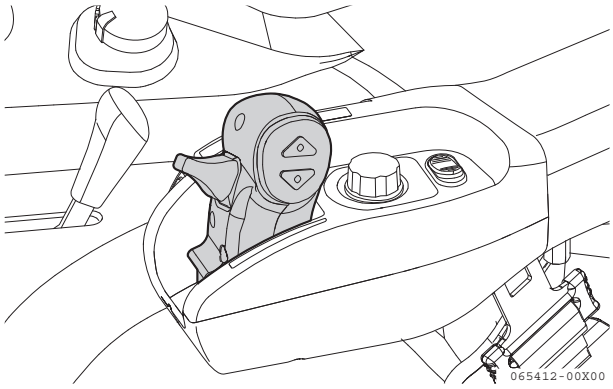


図 2-37 主変速レバー

レバーの操作量により、無段階に変速できます。
速度はメーターパネルの車速表示で確認できます。

レバーを前に倒す……走行速度が速くなります。
レバーを手前に引く…走行速度が遅くなります。

[重要]

リバーサレバーが「F(前進)」または「R(後進)」位置にある場合は、主変速レバーを手前いっぱいに引いてもトラクターは停止しません。リバーサレバーで指示された方向へ微速で進みます。停車する場合は、リバーサレバーを必ず「N(中立)」位置にしてください。

作業機昇降スイッチ

⚠ 警　告

エンジンを停止しても、キースイッチが「入」位置の場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作すると作業機は下降します。
人が作業機の下にいないことや、足を踏み入れたりしていないことを確認してから操作してください。
【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ワンタッチで、作業を上げ・下げするときに使用します。

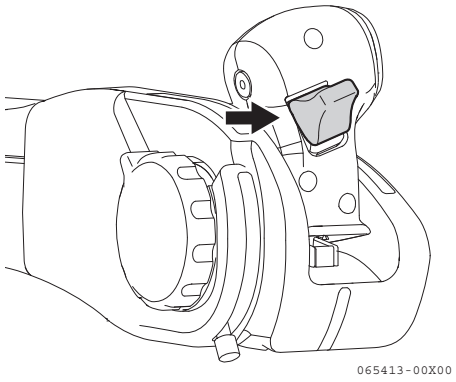


図 2-38 作業機昇降スイッチ

「上げ」方向…「上げ位置ダイヤル」で設定した高さまで作業機が上昇します。
「下げ」方向…「作業機上下ダイヤル」で設定した下げ位置まで、作業機が下降します。

[重要]

チョイ上げ・チョイ下げスイッチで作業機を上下させたあと、作業機昇降スイッチで「下げ」方向に操作すると、チョイ上げ・チョイ下げスイッチ操作前の高さ・制御に戻るため、作業機が上昇する場合があります。

[参考]

作業機昇降スイッチは、ハンドル右下にも配置されています。(49 ページ参照)

作業機上下ダイヤル

作業機を上げ・下げするときに使用します。
作業機は、ダイヤルで設定した位置を保持します。

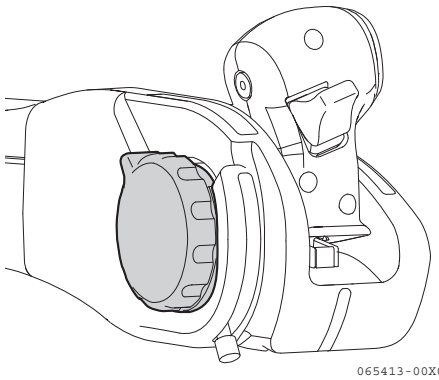


図 2-39 作業上下ダイヤル

「上」方向……作業機が上がります。
「下」方向……作業機が下がります。

[参考]
リフトランプが点灯しているときは、作業機上下ダイヤルでは作業機が下がりません。
作業機上下ダイヤルを一度「最上げ」位置まで操作すると、作業機上下ダイヤルで作業機は下がります。

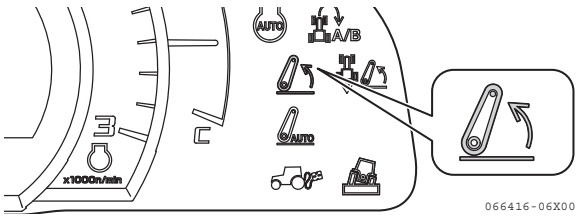


図 2-40 リフトランプ

ストッパー

路上走行時などで作業機上下ダイヤルを「最上げ」位置で固定するとき、または作業機上下ダイヤルの下限位置を設定したいときに使用します。

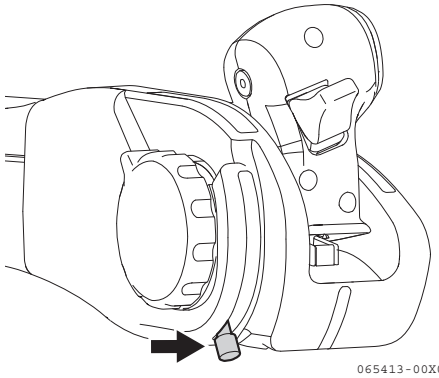


図 2-41 ストッパー

A⇔B切換スイッチ

副変速2速以外のときに、最高速度とエンジン最高回転速度を切り換えるときに使用します。

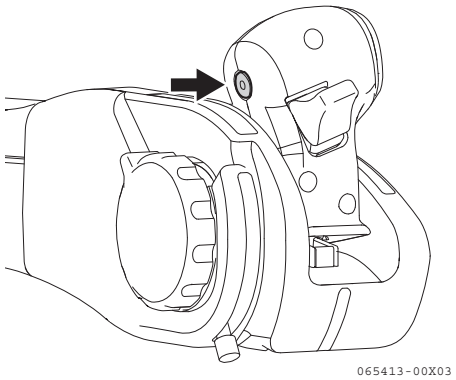


図 2-42 A⇔B切換スイッチ

最高速度とエンジン最高回転速度は、エンジン回転・車速設定ダイヤルとエンジン回転・車速切換スイッチで設定します。詳しくは、つぎの項目を参照してください。

エンジン回転･車速設定ダイヤル
エンジン回転･車速切換スイッチ

主変速レバー最高速位置、アクセルレバー最高回転位置にしたときの、最高速度とエンジン最高回転速度を設定するときに使用します。

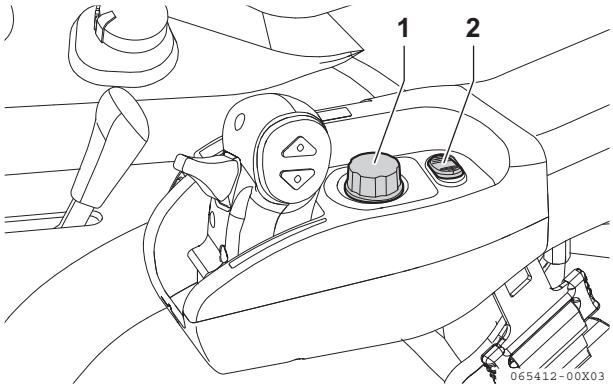


図 2-43 エンジン回転・車速設定ダイヤル
エンジン回転・車速切換スイッチ

切換スイッチ（図 2-43, 2）を「(車速)」位置にし設定ダイヤル（図 2-43, 1）を回すと、最高速度を任意に設定できます。
また、切換スイッチを「(エンジン回転)」位置にし設定ダイヤルを回すと、エンジン最高回転速度を任意に設定できます。
主変速レバーやリバーサレバーの位置にかかわらず設定変更できます。(走行中でも変更可能です。実車速も変更になります。)
最高速度とエンジン最高回転速度の設定値は、メーターパネルに表示されます。

[参考]

- A ⇔ B 切換スイッチでモードを選択してから上記設定を行うことで、2 通りの最高速度、エンジン最高回転速度の組み合わせを設定できます。(副変速2速以外のとき)
- エンジン最高回転速度は 10 n/min 刻みで設定できます。
- メーターパネルまたはカラーモニターに設定値が表示されている場合は、設定値を変更できます。
- 出荷時は下記の設定になります。

表 2-3 出荷時設定

副変速	Aモード	Bモード
C	3 km/h /最高回転	3 km/h /最高回転
1	7 km/h /最高回転	7 km/h /最高回転
2	最高車速/最高回転	ー

※最高回転：2530n/min

チョイ上げ･チョイ下げスイッチ
(INCHINGスイッチ)

作業機の上げ下げの微調整に使用します。

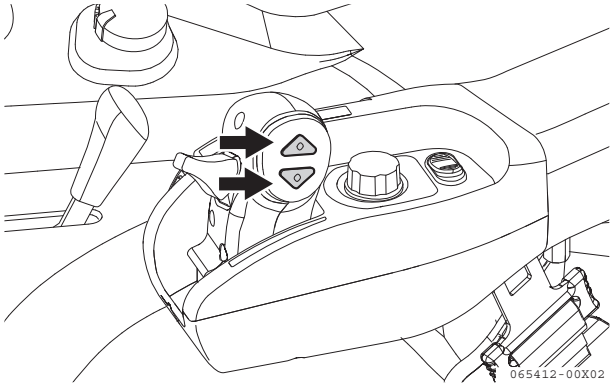


図 2-44 チョイ上げ・チョイ下げスイッチ

上側…… 押している間のみ作業機が上がります。
指を離した位置で作業機は停止します。
下側…… 押している間のみ作業機が下がります。
指を離した位置で作業機は停止します。

〈解除のしかた〉

作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作すると、作業機上下ダイヤルで設定された位置（高さ）に戻るか、「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」の設定に応じた位置（高さ）に戻ります。

[重要]

- チョイ上げ･チョイ下げスイッチを操作すると、ナイスティエコトラUFO Plusの「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」制御は、はたらきません。(「傾き」制御のみはたらきます。)
- チョイ上げ・チョイ下げ操作後の各制御の復帰には「解除」の操作が必要です。
  解除すると、「オート」「ドラフト」「負荷」「レーザー」はチョイ上げ・チョイ下げスイッチ操作前の制御に復帰します。
- チョイ下げスイッチ操作で作業機上下ダイヤル位置より作業機を下げたとき、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作すると、チョイ下げ制御が解除になり、作業機は作業機上下ダイヤルで設定された位置（高さ）まで上がります。

操作ボックス

作業機の傾き制御などを行うときに使用します。
操作ボックスは、アームレストにあります。UFOの設定の変更、調整をするときは、アームレストのカバーを開けて行います。

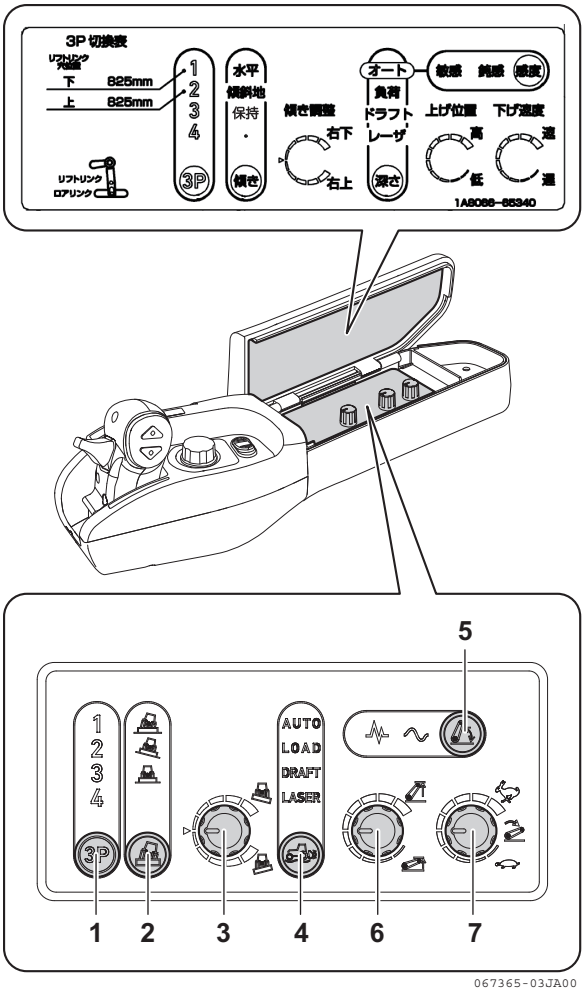


図 2-45 操作ボックス

表 2-4 操作ボックスのスイッチ、ダイヤル名称

番号	名称
1	3P切換スイッチ
2	傾きモード切換スイッチ
3	傾き調整ダイヤル
4	深さモード切換スイッチ
5	オートロータリー感度切換スイッチ
6	上げ位置ダイヤル
7	下げ速度ダイヤル

ナイスティエコトラUFO Plusについては、83 ページを参照してください。

[参考]
操作ボックスのふたの裏側には、各スイッチ、ダイヤルの詳細が貼り付けられています。(図 2-45)

右コンソール部

ドライバーシート（運転席）右側のコンソール部のレバー、スイッチについて説明します。

アクセルレバー

エンジン回転を調節するときに使用します。
一定回転で作業するときに使用します。

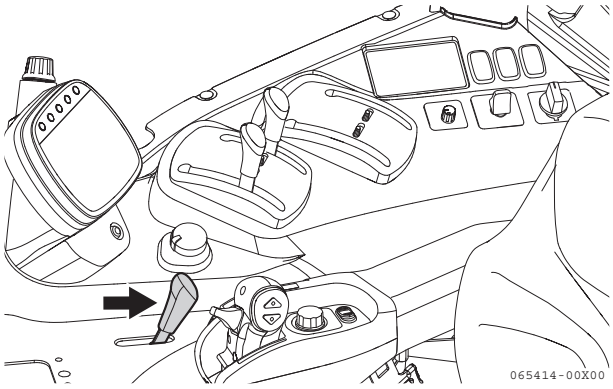


図 2-46 アクセルレバー

「🐢」側……エンジン回転が低くなります。

「🐇」側……エンジン回転が高くなります。

サブコントロールレバー

⚠ 警　告

油圧取出口のプラグを外したり配管の脱着を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
【守らないと】
高圧オイルにより、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業機側の油圧シリンダの操作を行います。

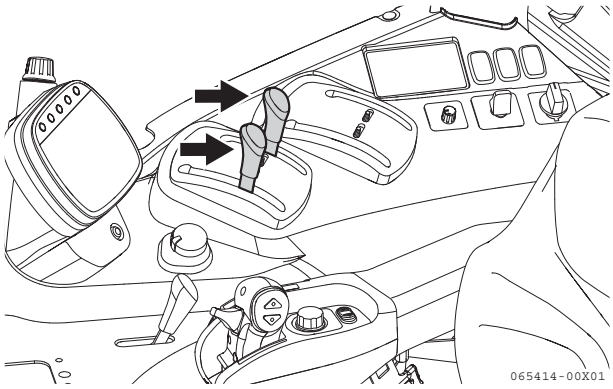


図 2-47 サブコントロールレバー

サブコントロールレバーの3連目・4連目はオプションです。

[参考]
レバーの握り部の色は、サブコントロールバルブのカプラの栓の色と同じ色に色分けされています。

PTO駆動スイッチ

⚠ 警　告

- PTOを「(切)」にするときはエンジンの回転を下げ、作業機の下や周囲に人がいないことを確認して行ってください。
- エンジンを始動するときや移動走行するときは、必ずPTOを「(切)」にしてください。
- グランドPTOを使用するときは、必ずPTOを「(切)」にしてください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

PTO作業をするときに使用します。

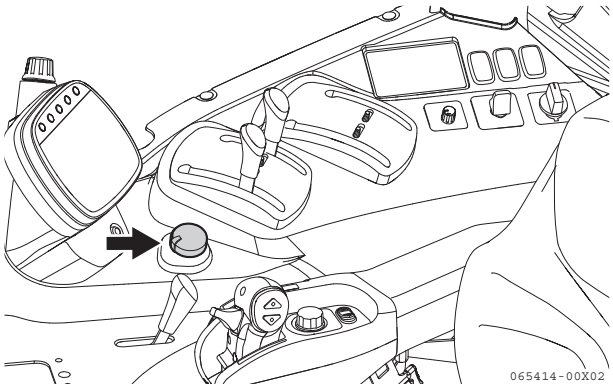


図 2-48 PTO駆動スイッチ

「(切)」位置… PTO駆動スイッチを押すと、「切」位置となりPTO軸の回転が止まります。

「(入)」位置… PTO駆動スイッチを押しながら右に回してください。「入」位置となりPTO軸が回転します。

[参考]
エンジンは、PTO駆動スイッチが「(切)」位置にないと始動できません。

深さ設定ダイヤル

深さ自動制御時の制御範囲を設定します。
(図 2-49, 1)

[参考]
自動制御の設定状態は、操作ボックス内のボタンの点灯で確認できます。

AUTO： ロータリーの耕うん深さが一定になるように制御します。

LOAD： エンジン負荷が一定になるようにロータリーの深さを制御します。

DRAFT：プラウなどのけん引作業で負荷が一定になるように作業機の深さを制御します。(159 ページ参照)

LASER：レーザー作業制御に使用します。レーザー機器が接続されている場合のみ選択できます。詳しくは各作業機の取扱説明書をご覧ください。

傾き手動レバー

作業機を傾けるときに使用します。(図 2-49, 2)

- 「傾き手動」で使用する場合
  トラクターに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- 「傾き水平」もしくは「傾き傾斜地」で使用する場合
  手動レバーを動かしている間だけ、作業機の角度が変わります。手を離すと傾き調整ダイヤルで設定された角度に戻ります。

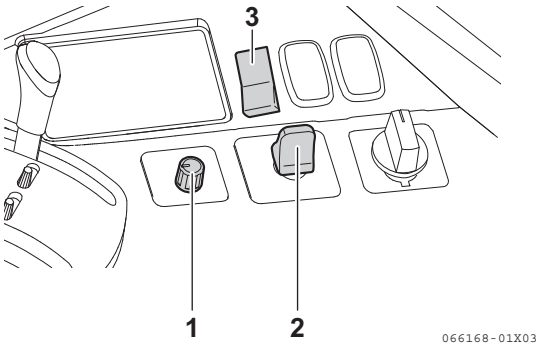


図 2-49

単動･複動切り替えスイッチ

作業機を油圧で下げるときに使用します。(図 2-49, 3)

「入」: スイッチの「複動」ランプが点灯します。作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作している間、リフトシリンダが下降側へ作動します。

「切」: スイッチの「複動」ランプが消灯します。リフトシリンダは単動作動になります。

複動機能を「入」にすると、プラウ耕、サブソイラ作業などで作業のはじめから設定耕深にすることができます。複動機能を使用しない場合は、単動・複動切り替えスイッチを「切」位置にしてください。

PTO連動切換スイッチ

⚠ 警 告

「昇降連動」位置でPTO駆動中、作業機が上昇するとPTO軸の回転が停止しPTOランプが点滅し、警報ブザーが鳴り続けます。作業機を下降させるとPTO 軸が駆動しますので十分注意してください。PTO ランプが点滅し、警報ブザーが鳴っているときは安全を確認して作業機を下げてください。必要に応じ、PTO駆動スイッチを「切」にしてください。
【守らないと】
機械の損傷や物損事故により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

- ロータリー作業で硬いほ場を耕うんするとき、トラクターがダッシング（飛び出す）する場合があります。
- PTO連動切換スイッチが「独立」位置のときは、必ずPTO駆動スイッチを「切」位置にしてください。「独立」位置ではクラッチペダルを踏んでも、PTO軸の回転は止まりません。作業機を下げた状態でクラッチペダルを踏むと、なおいっそうダッシングして危険です。
- PTO連動切換スイッチが「昇降連動」「連動」位置のとき、PTO駆動スイッチを「切」位置にするか、クラッチペダルを踏んでください。クラッチペダルを踏むとPTO軸の回転が停止します。

【守らないと】
ダッシング現象により思わぬけがをするおそれがあります。

PTO軸の回転方法をつぎの3通りに切り換えができます。

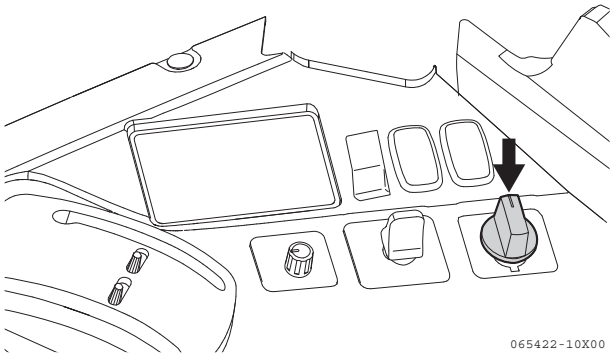


図 2-50 PTO連動切換スイッチ

- 「独立」位置……クラッチペダルを踏み込んでも、PTO軸の回転は停止しません。
- 「昇降連動」位置…作業機を上げるとPTO軸の回転が停止し、PTOランプが点滅し、警報ブザーが鳴ります。作業機を下げるとPTO軸が回転します。クラッチペダルを踏み込むと、PTO軸の回転が停止します。
- 「連動」位置……クラッチペダルを踏み込むと、PTO軸の回転が停止します。

[参考]

「昇降連動」によるPTO軸の回転停止のタイミングは、カラーモニターで変更できます。

詳しくは、109 ページを参照してください。

表 2-5 PTO駆動スイッチとPTO連動切換スイッチの設定による、PTOの状態

PTO駆動スイッチ		 「(入)」位置					
PTO連動切換スイッチ	メーターパネルランプ	作業機を下げたとき		作業機を上げたとき		クラッチペダルを踏み込んだとき	
		ランプ	PTO軸	ランプ	PTO軸	ランプ	PTO軸
独立		点灯	回転	点灯	回転	点灯	回転
昇降連動		点灯	回転	点滅、警報ブザー	一時停止	点灯	一時停止
連動		点灯	回転	点灯	回転	点灯	一時停止

ワークランプスイッチ(ディレイ機能付)

ワークランプの点灯・消灯に使用します。キースイッチ「ON（入)」で使用します。

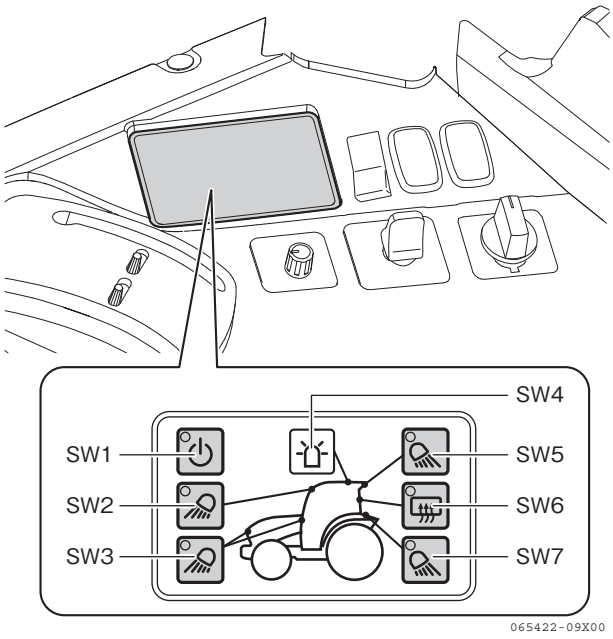


図 2-51 ワークランプスイッチ

〈ワークランプスイッチの使いかた〉

ワークランプスイッチは 7 つのスイッチで構成されています。

表 2-6 スイッチ対応表

スイッチ	機能
SW1	すべてのワークランプを一括で点灯・消灯します。
SW2	フロントワークランプ(上)を点灯・消灯します。
SW3	フロントワークランプ(下)・LED装飾灯を点灯・消灯します。
SW4	パトランプを点灯・消灯します。(パトランプはオプションです)
SW5	リヤワークランプを点灯・消灯します。
SW6	リヤデフォッガの「入」「切」を選択します。
SW7	リヤワークランプ(下)を点灯・消灯します。(リヤワークランプ(下)はオプションです)

[参考]

道路運送車両法により、道路走行時のワークランプ点灯は違反になります。必ず消灯して走行してください。

ワークランプスイッチの点灯・消灯のしかた

前方のワークランプは、SW2・SW3で点灯・消灯できます。
後方のワークランプは、SW5・SW7で点灯・消灯できます

SW1を使うと、すべてのワークランプの点灯・消灯がワンタッチで行えます。

- SW1ランプが点灯・点滅中にSW1を押すと、前後のワークランプ（SW2, 3, 5, 7）がすべて消えます。
- SW1ランプが消灯中にSW1を押すと、前後のワークランプ（SW2, 3, 5, 7）を前回SW1を押して消したとき、もしくはキースイッチを「OFF（切)」位置にする前の状態に戻します。

ディレイ機能の設定のしかた

SW1ランプが点滅中にキースイッチを「OFF（切)」位置にすると、2分間ワークランプが点灯したままになります。
SW1 の点滅・点灯は SW1 を長押しして切り換えます。

リヤデフォッガスイッチ（リヤ熱線スイッチ）

リヤガラスにくもりが発生したとき、スイッチを「入」位置にするとガラスのくもりがとれます。
熱線は一定時間通電後、自動的に切れます。
キースイッチ「ON（入）」で使用できます。

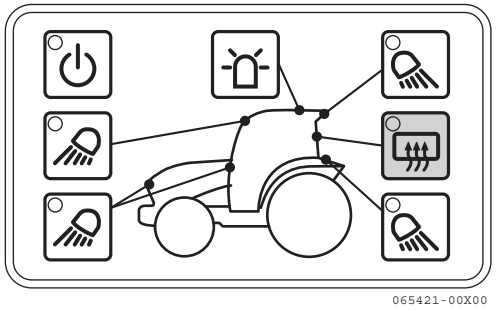


図 2-52 リヤデフォッガスイッチ

[重要]

- 熱線に荷物または金属などが当たらないようにしてください。ショートするおそれがあります。
- 鋭利な物などで熱線にキズを付けないよう、注意してください。
- 通電中はガラスにふれないでください。感電するおそれがあります。

アクセサリーソケット

電源を取り出すときに使用します。

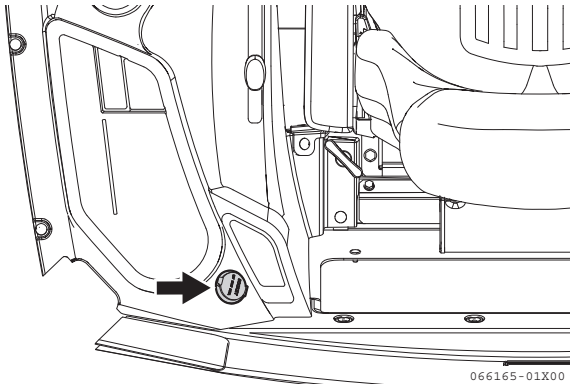


図 2-53 アクセサリーソケット

12 V 120 W（10 A）の電源を取り出すことができます。
キースイッチ「ON（入）」「ACC」位置で使用できます。

[重要]

- アクセサリーソケットを使用しないときは、必ずカバーを取り付けてください。ほこりやごみなどの異物混入の原因になります。
- 過負荷電流で使用するとヒューズが切れます。ヒューズが切れたときは、ヒューズボックス内のヒューズを交換してください。（ヒューズの取付位置は、225 ページを参照してください。）
- エンジン停止状態で、長時間の使用はバッテリー上がりの原因となります。
- シガーライター用には使用できませんので、ソケットにシガーライターのプラグは差し込まないでください。

メーターパネル

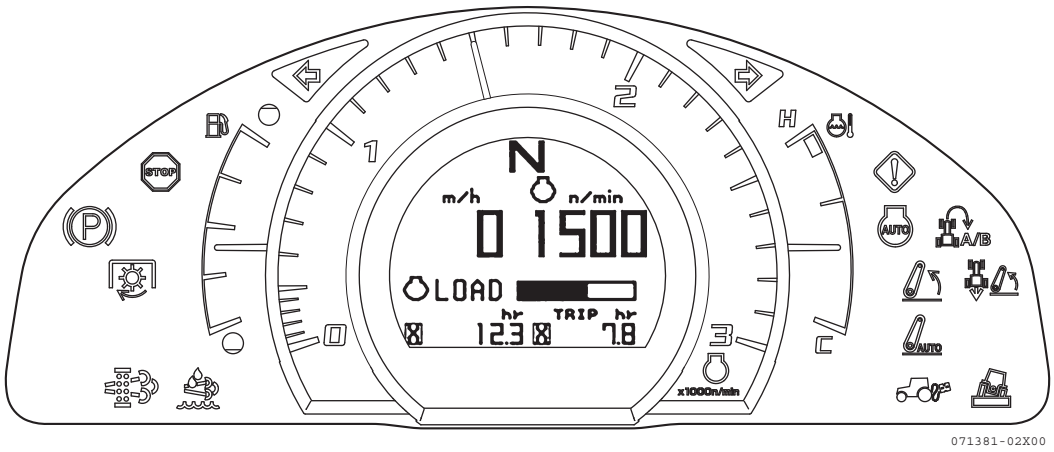


図 2-54 メーターパネル

ランプ

表 2-7 ランプの点灯/点滅条件

ランプ	名称	点灯/点滅する条件	参考
STOP	警告ランプ	重度のトラブルが発生したときに点滅します。	中央のモニター部に文字またはエラーコードで詳細を表示します。 エラーコードについては、233 ページを参照してください。 **[重要]** 警告ランプが点滅しているときは、ただちに作業をやめてトラクターを停車し、対処してください。
(P)	駐車ブレーキランプ	駐車ブレーキをかけているときに点灯します。	
	PTOランプ	PTO駆動スイッチを「(入)」位置にすると、ランプが点灯します。	エンジン始動時にランプが点灯していると、始動できません。PTO駆動スイッチを「(切)」位置にしてエンジンを始動してください。
	排気フィルタ再生お知らせランプ	排気フィルタの再生時間になると点滅します。	点滅時、ブザーが鳴ります。 排気フィルタの再生要領については、207 ページを参照してください。
	尿素水ランプ	尿素水の残量が一定量以下のときに点灯・点滅します。	点灯・点滅時にブザーが鳴ります。 尿素水を補給してください。 中央のモニター部に詳細説明が表示されます。 尿素水の点検・補給のしかたについては189 ページを参照してください。

ランプ	名称	点灯/点滅する条件	参考
	注意ランプ	電気系統に不具合がある場合に点滅します。	中央のモニター部に文字またはエラーコードで詳細を表示します。 エラーコードについては、233 ページを参照してください。
	e-CONTROLランプ	カラーモニターで e-CONTROLを設定すると、点灯します。	点灯中は、「車速制御」、「エンジン回転制御」、「エンジン負荷制御」が作動します。 詳しくは、99 ページの「e-CONTROLの設定変更」を参照してください。
	A⇔Bモード自動切換ランプ	A⇔Bモード自動切換を設定すると、点灯します。	点灯中はA⇔Bモード自動切換が作動します。 詳しくは60 、162 ページを参照してください。
	リフトランプ	作業機上下ダイヤルや作業機昇降スイッチ・バック上昇で作業機を上げると点灯します。	作業機を下げると消灯します。
	バック上昇ランプ	バック上昇切換スイッチを押すと点灯します。	点灯中は、リバーサレバーを「R（後進）」位置にすると、作業機が自動的に上昇します。
	深さランプ	操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」を押すと点灯します。	点灯中は、「オート」「負荷」「ドラフト」「レーザー」のいずれかの制御が作動します。 詳しくは、163 ページの「ナイスティエコトラ UFO Plusの使いかた」を参照してください。
	トラクター連動ランプ	エコトラリンク※ でトラクターを作業機と連動させると点灯します。 ※本機でエコトラリンクは使用できません。	点灯時は、作業機との自動制御がはたらきます。 **[参考]** トラクター連動ランプ点灯中は、トラクターの動作が通常と異なる場合があります。
	傾きランプ	操作ボックス内の「傾きモード切換」スイッチを押すと点灯します。	点灯中は、「水平」「傾斜地」のどちらかの傾き自動制御がはたらきます。 詳しくは、163 ページの「ナイスティエコトラ UFO Plusの使いかた」を参照してください。

ゲージ・方向指示器

エンジン回転速度、燃料の量、水温は、インフォメーションディスプレイの周囲のゲージで確認できます。

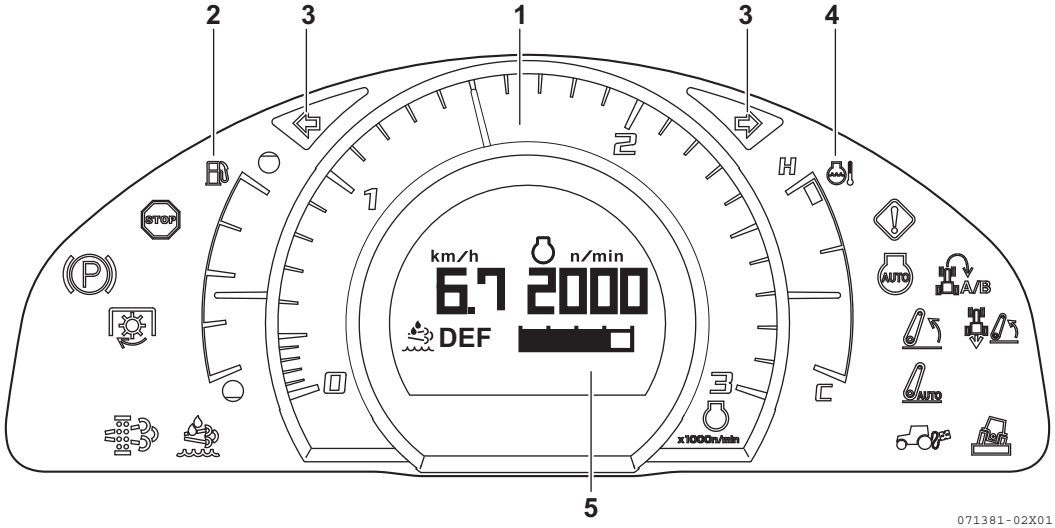


図 2-55 メーターパネル

1. タコメーター

1分間あたりのエンジン回転速度を表示します。

2. 燃料計

燃料タンクに残っている燃料の量を表示します。燃料の残量が少なくなると、インフォメーションディスプレイに「燃料を給油」と表示されます。

[参考]

- 燃料計の針が「⛽」に近づいたら、早めに燃料を給油してください。
- トラクターが傾いていると、メーターに表示される量が、実際の燃料の残量と異なる場合があります。

3. 方向指示器

フラッシャスイッチを右または左に操作する、もしくはハザードスイッチを操作すると点滅します。

4. 水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は、Hマークまで上がらない状態で作業します。

[重要]

水温計がHマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちにトラクターを安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。(76 ページ参照)

5. 尿素水計

尿素水の残量を表示します。画面表示は、ハンドル下の「DISP スイッチ」を押すと切り換わります。(73 ページ参照)

インフォメーションディスプレイ

メーターパネルは、トラクターの運転に必要な情報や、作業に役立つ様々な情報を文字で的確に表示します。
また、誤操作時の正しい操作方法、警告メッセージ、メンテナンス設定や、万一異常が発生した場合のエラーメッセージを表示しますので、表示に従って正しく取り扱ってください。
なお、メンテナンス設定については、80 ページの「メンテナンスモードについて」、エラーメッセージについては、229 ページの「不調診断のしかた」を参照してください。

表示内容は、ハンドル下の「DISPスイッチ」（メーターパネル表示切換スイッチ）を押すと、切り換えることができます。

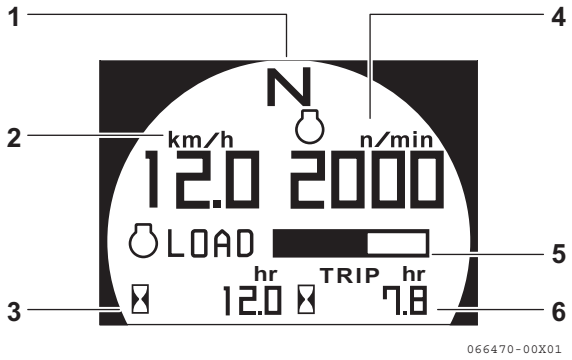


図 2-56 インフォメーションディスプレイ

[参考]
メーターパネルの画像は、仕様などにより実際の画面と異なる場合があります。

1. リバーサニュートラル表示
N：リバーサレバーが中立位置にある場合、「N」が表示されます。

2. 走行速度表示
現在の走行速度が表示されます。

[参考]
走行速度が1.0 km/hより遅いときは、[m/h]で表示されます。

3. アワーメーター
トラクターの積算使用時間が表示されます。1/10時間まで表示されます。
最小単位は、0.1時間（6分）です。
リセットはできません。

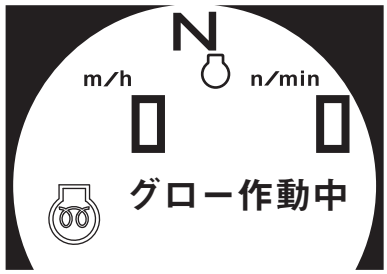
4. エンジン回転速度またはPTO回転速度表示
通常は、現在のエンジン回転速度が表示されます。
PTO駆動スイッチを「入」位置、または逆転PTOを「入」にすると、現在のPTO回転速度が表示されます。

5. エンジン負荷率
現在のエンジン負荷率が表示されます。

6. トリップメーター
時間トリップ計が表示されます。
トリップメーター表示中に「DISPスイッチ」を3秒以上長押しすると、積算時間をリセットできます。

〈グロー表示〉

キースイッチを「ON（入）」位置にすると、外気温が低いときは、自動的に「グロー作動中」と表示されます。（図 2-57）



067309-02JA00

図 2-57

グローの作動が終了すると、通常表示の画面に移ります。

[参考]

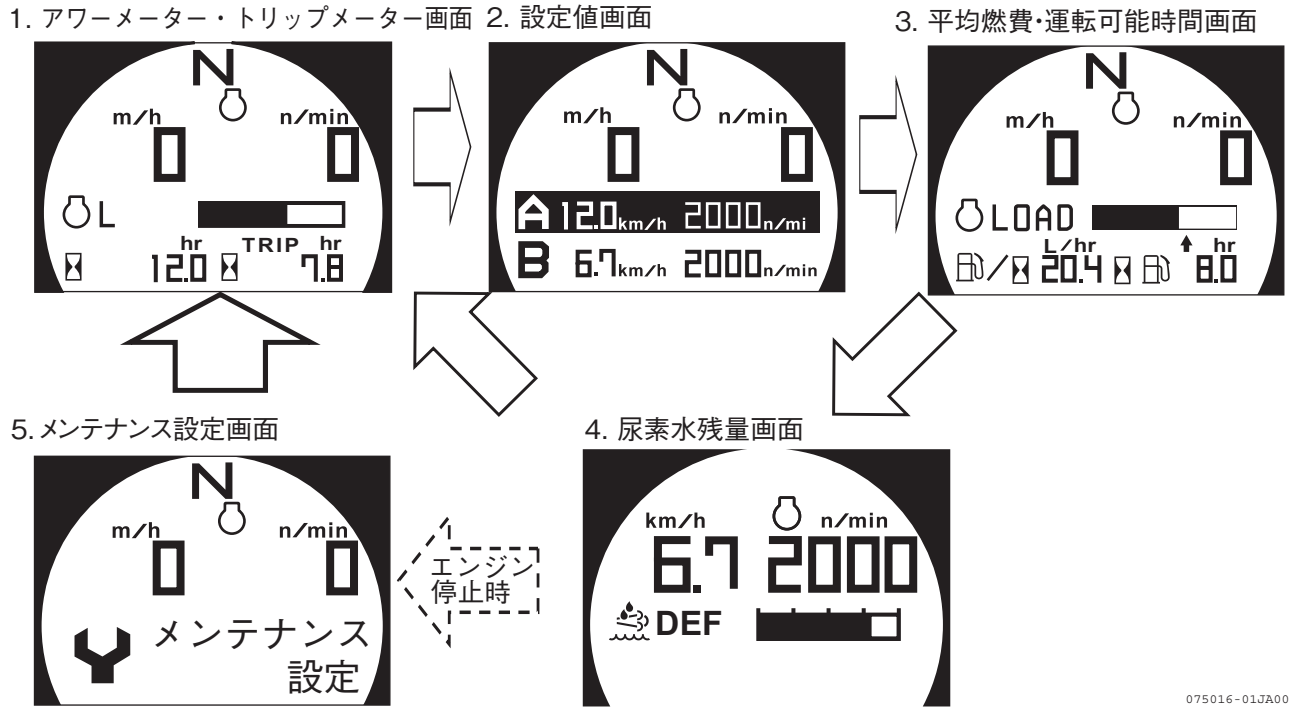
エンジンが暖まっているときは、図 2-57は表示されません。キースイッチ「ON（入）」時または、エンジン始動時にグローヒーターが作動すると表示されます。（グローヒーターは外気温が冷温時に作動し、エンジンの始動性をよくするためのものです。）

〈通常表示〉

通常表示には、以下の5つの画面があります。
ハンドル下の「DISPスイッチ」を押すたびに矢印の順に画面が切り換わります。

[参考]

キースイッチを「ON（入）」位置にし、グロー画面の表示が終了すると、前回キースイッチを「OFF（切）」位置にしたときに表示されていた画面が表示されます。



075016-01JA00

図 2-58 通常画面の切り替えフロー

[参考]

- PTO駆動スイッチが「入」位置のときにエンジン最高回転速度を変更すると、自動的に設定エンジン最高回転時の各 PTO 変速段での最高 PTO 回転速度が表示（図 2-59）されます。
- 4. メンテナンス設定画面は、エンジン停止時のみ表示されます。エンジン回転中に、3. 平均燃費・運転可能時間画面が表示されているときに、「DISPスイッチ」を押すと、1. アワーメーター・トリップメーター画面の表示に移ります。

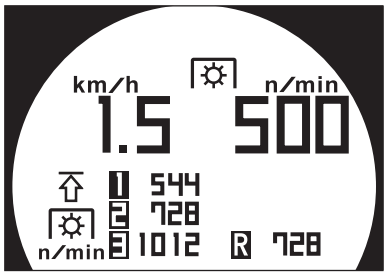
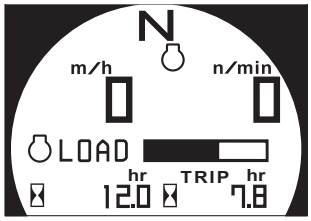
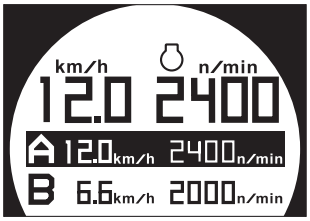
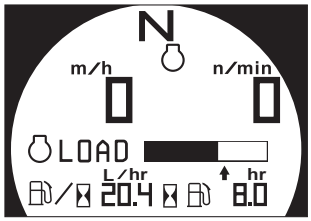
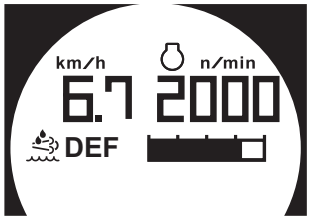
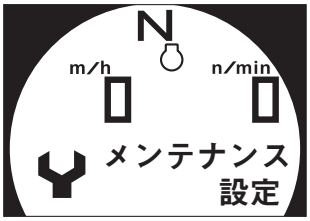


図 2-59 エンジン最高回転時

〈各画面の表示内容〉

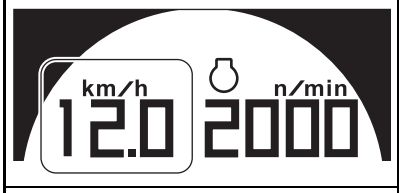
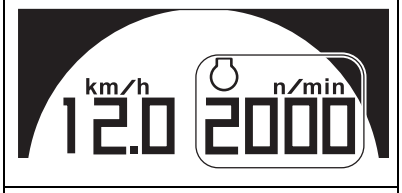
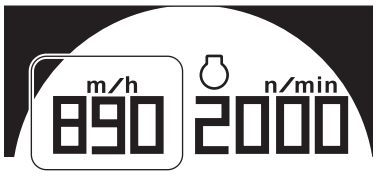
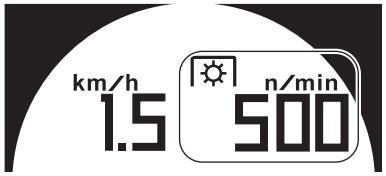
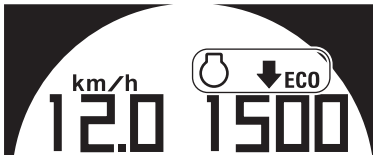
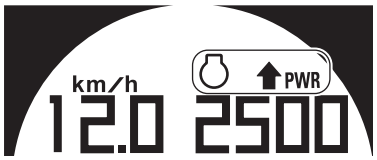
表 2-8 通常画面のみかた

<table>
<tr><td colspan="2">1. アワーメーター・トリップメーター画面</td><td colspan="2">2. 設定値画面</td></tr>
<tr><td>
</td><td>エンジン負荷率とアワーメーター・トリップメーターを表示します。
トリップメーターは「DISPスイッチ」を3秒以上長押しするとリセットできます。</td><td>
</td><td>A・Bモードの設定値を確認できます。また、現在選択されているモードが反転表示されます。
左の画面では、Aモードが選択されています。</td></tr>
<tr><td colspan="4">3. 平均燃費・運転可能時間画面</td></tr>
<tr><td>
</td><td colspan="3">エンジン負荷率と平均燃費（左側）、運転可能時間（右側）を表示します。
運転可能時間に「↑」が表示されている場合は、表示時間以上の作業が可能であることを示します。
右の画面では、8.0時間以上の運転が可能です。
また、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しすると、平均燃費がリセットされます。
[参考]
運転可能時間は、平均燃費から算出されるので、平均燃費をリセットすると、運転可能時間もリセットされます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">4. 尿素水残量画面</td><td colspan="2">5. メンテナンス設定画面</td></tr>
<tr><td>
</td><td>尿素水の残量を表示します。</td><td>
</td><td>キースイッチ「ON（入）」位置でエンジン停止時のみ、表示されます。
「DISPスイッチ」を3秒以上長押しすると、メンテナンスモードに移行します。
メンテナンスモードの詳細については、80 ページを参照してください。</td></tr>
</table>

〈メーターパネル上段の表示内容〉

メーターパネル上段にはトラクターの状態に合わせて、リバーサレバーの位置、走行速度、エンジン速度、PTO回転速度などが表示されます。(表 2-9)

表 2-9 トラクターの状態による、メーターパネル上段の表示切換

表示画面	説明	表示画面	説明
	上段左側に、トラクターの車速が表示されます。走行速度が1.0 km/hより低速になると、表示単位が、[km/h]から[m/h]に自動的に切り換わります。		上段右側に、エンジン回転速度が表示されます。PTO駆動スイッチまたは、逆転PTO入/切レバーが「入」位置になると、PTO回転速度の表示に切り換わります。
			
	最上段のアルファベットは、リバーサレバーが「N(中立)」位置のときに「N」と表示されます。その他の位置では表示が消えます。	  	e-CONTROL(エンジン負荷制御)を作動させると、制御状態が表示されます。 車速側の矢印は、車速減速制御、エンジン側下向き矢印はエコモード、エンジン側上向き矢印はパワーモードがはたらいているときに表示されます。 e-CONTROLについては、99 ページを参照してください。

警告表示について

警報が発生した場合はメーターパネルに警報内容の詳細が表示されます。
警告表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。

表 2-10 メーターパネルの警告表示一覧(その1)

表示画面	詳細、原因	処置	参照ページ
〈燃料給油表示〉 	燃料残量が少なくなると表示されます。 表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。	すぐに燃料を給油してください。	188
〈尿素水補給表示〉 	尿素水残量が15%以下になると表示されます。 表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。	すぐに尿素水を補給してください。	189

下記のメッセージが表示された場合にはメーターパネルの警告ランプ (STOP) が同時に点滅します。
警告表示中に「DISPスイッチ」を押すと、警告ランプは点滅したままで直前の表示画面へ戻ります。
警告表示後、処置をしても表示が消えない場合は、トラクターをご購入された特販店またはJAへご連絡ください。

表 2-11 メーターパネルの警告表示一覧(その2)

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈充電系異常表示〉 	バッテリーへの充電が不足しています。	点滅	エンジン回転を上げ、充電量を増やすか、ワークランプ、エアコンなどを消して消費電力を抑えてください。	ー
	オルタネータ駆動ベルトがゆるんだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	223
	オルタネータが故障していませんか。		オルタネータが故障している場合は、特販店、またはJA に修理を依頼してください。	ー

表 2-12 メーターパネルの警告表示一覧(その3)

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈エンジン油圧異常〉 	エンジン回転中エンジンオイル圧力が低下しています。(エンジン始動直後、しばらくの間表示されるのは異常ではありません。)	点滅		
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを規定量まで補給してください。	193
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	193
	油圧スイッチ(プレッシャスイッチ)が故障している可能性があります。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
	油圧ポンプが故障している可能性があります。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
〈オーバーヒート表示〉 	エンジン冷却水の温度が非常に高くなっています。	点滅	作業を中止して、冷却水温を下げるため、エンジンをアイドリング状態にして、表示が消えるまでしばらくエンジンを回してください。そのあと、エンジンを停止して十分に冷えてから以下の点検をしてください。	−
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	200
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
	冷却ファンベルトがゆるんだり、折損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	223
	吸気口・ラジエータ冷却ファンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	202
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを補給してください。	193
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。	−

表 2-13 メーターパネルの警告表示一覧(その4)

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈通信異常表示〉 	コントローラ、メーター間の通信が異常なときに表示されます。	点滅		
	カプラは抜けていませんか。 配線が折損していませんか。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	ー
	ヒューズが切れていませんか。		ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	225
〈エアクリーナ目詰まり表示〉 	エアクリーナエレメントに目詰まりが発生しています。	点滅	エアクリーナエレメントの掃除をしてください。	202
〈ウォータセパレータ異常〉 	ウォータセパレータ内に水がたまっています。	点滅	水を抜いてください。	190

操作メッセージ表示について

各種操作メッセージを表示します。

表 2-14 メーターパネルの表示メッセージ一覧(その1)

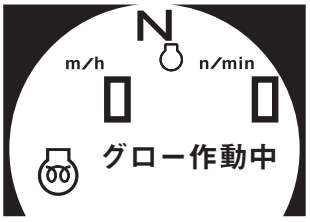
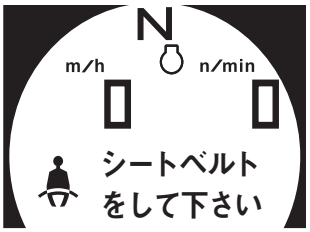
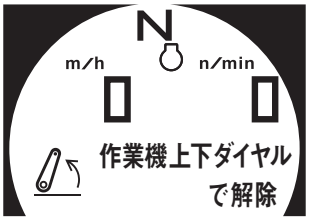
表示画面	表示内容
〈グローヒーター作動表示〉 	エンジンが暖まっているときは表示されません。 キースイッチ「ON(入)」またはエンジン始動時にグローヒーターが作動すると表示されます。 (グローヒーターは外気温が冷温時に作動し、エンジンの始動性をよくするためのものです)
〈PTO駆動スイッチ表示〉 	エンジン始動時にPTO駆動スイッチが「入」になっていると表示され、エンジンは始動しません。 PTO駆動スイッチを「切」位置にしてください。
〈リバーサニュートラル表示〉 	エンジン始動時にリバーサレバーが「N(中立)」位置にないと表示され、エンジンは始動しません。 リバーサレバーを「N(中立)」位置にしてください。
〈シートベルト表示〉 	エンジン始動時に3秒間表示されます。
〈作業機上下ダイヤル指示表示〉 	エンジン始動時に作業機上下ダイヤルでの昇降位置と実際の油圧リフトの昇降位置とが異なる場合に表示されます。また、メーターパネルのリフトランプも同時に点灯します。 いったん作業機上下ダイヤルで上げ操作をして、表示を解除してください。

表 2-15 メーターパネルの表示メッセージ一覧(その2)

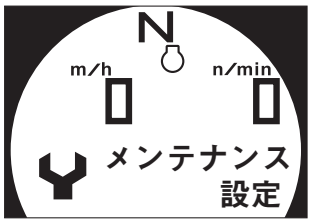
表示画面	表示内容
〈駐車ブレーキ解除指示表示〉 	駐車ブレーキをかけたまま、リバーサレバーを「F(前進)」または「R(後進)」位置にすると表示され、ブザーが鳴ります。 必ず駐車ブレーキを解除してから走行してください。
〈駐車ブレーキ指示表示〉 	停止制御(56 ページ参照)がはたらいているときに表示されます。

メンテナンスモードについて

このトラクターには、「メンテナンスモード」があります。
「メンテナンスモード」とは、
オイルやエレメントなどの消耗部品の交換時期までの時間を表示するモードです。
また、メンテナンス項目の次回交換までの時間が、0時間になったときは、自動的に表示されます。
(次ページ参照)

[参考]
メンテナンス（交換）作業後、メンテナンス時間のリセット処理を行わないと、キースイッチを「ON（入）」位置にするたびに2回「メンテナンスモード」の画面が表示されます。

■ メンテナンスモードの流れ

手順	表示画面
1. エンジンを停止し、キースイッチを「ON（入）」位置にします。 2.「DISPスイッチ」を数回押して、「メンテナンス設定」画面を表示させます。 3. この状態で、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しします。 **[参考]** 「メンテナンス設定」は、エンジン停止時のみ表示されます。	
4.「メンテナンス設定モード」と表示されます。	
5. 3秒以上経過すると、各オイル、エレメントの交換までの残り時間が表示されます。 6.「DISPスイッチ」を押すたびに選択される（表示が反転している）項目が切り換わります。項目の最後にある「戻る」を選択した状態で、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しすると「メンテナンス設定」画面の表示に戻ります。 **[参考]** 右図のミッションオイルの時間のように、時間表示が反転している場合は、交換時間から経過した時間を表します。	

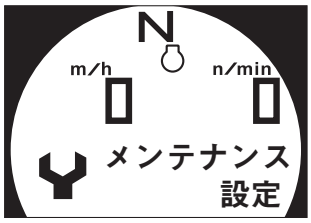
■ メンテナンス時期のお知らせについて

各メンテナンス項目の次回交換までの時間が0時間になったとき、以下の画面が表示されます。
これらの画面が表示されたら、すぐに該当する消耗部品を交換してください。
交換後は次ページの流れに従って、メンテナンス時間のリセット処理を行ってください。

エンジンオイル交換 （193 ページ参照）	ミッションオイル交換 （194 ページ参照）	FDS※オイル交換 （199 ページ参照）
		
エンジンオイルエレメント交換 （194 ページ参照）	サクション・ラインフィルター交換 （198 ページ参照）	燃料コシ器エレメント交換 （191 ページ参照）
		
エアクリーナエレメント交換 （202 ページ参照）		
		

※FDSとは走行用と旋回用のHSTで左右のクローラーの回転速度を無段階に差動させる装置のことです。

■ メンテナンス時間のリセット設定の流れ

手順	表示画面
1. エンジンを停止し、キースイッチを「ON（入）」位置にします。 2. 「DISPスイッチ」を押して、「メンテナンス設定」画面を表示させます。 3. この状態で、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しします。	
4. 「メンテナンス設定モード」と表示されます。	
5. 「DISPスイッチ」を押して、リセットしたい項目を反転表示にします。 この状態で、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しします。	
メンテナンス時間リセット選択画面が表示されます。	
6. メンテナンス時間をリセット処理するときは、「DISPスイッチ」を押して、「はい」が反転表示されている状態にします。 7. この状態で、「DISPスイッチ」を3秒間長押しします。 リセット処理が行われます。	
8. 右の画面が表示されたら、「DISPスイッチ」を押します。 メンテナンス設定画面に戻ります。	
[参考] 手順7のリセット処理がうまくいかなかった場合は、「時間リセット失敗」と表示されます。 「DISP スイッチ」を押して、メンテナンス設定モードのトップ画面に戻り、再度リセット処理を行ってください。	

ナイスティエコトラUFO Plusの操作部

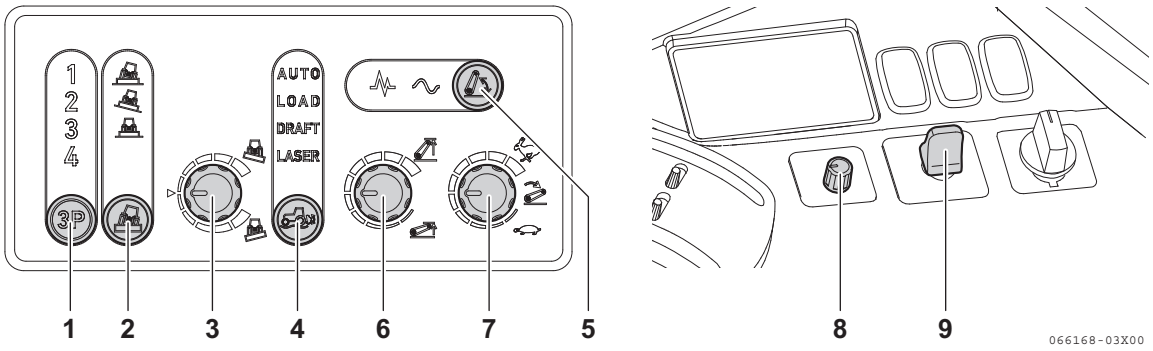


図 2-60 ナイスティエコトラUFO Plus操作ボックス

1. 3P切換スイッチ

作業機を付け換えたとき、その作業機によって決められている3点リンクの取付状態に応じて、スイッチを切り換えます。（174 ページ参照）

2. 傾きモード切換スイッチ

傾き自動制御機能の設定 / 解除の切り換えに使用します。
傾きモード切換スイッチを押すとメーターパネルの「傾き」ランプが点灯し、スイッチを押すごとに、機能の設定/解除を選択できます。

表 2-16 傾きモード切換スイッチと設定表

傾きスイッチ	押す	再度押す	再度押す	再度押す
操作ボックスのランプ	 水平	 傾斜地	 保持	 自動切
メーターパネルのランプ	 点灯	 点灯	 点灯	 消灯

3. 傾き調整ダイヤル

- **傾きを自動に設定したとき**
  メーターパネルの「傾きランプ」が点灯しているとき、傾き調整ダイヤルを操作して、作業機の角度を任意に設定できます。

4. 深さモード切換スイッチ

オートロータリー、負荷制御、ドラフト、レーザー制御機能の設定/解除の切り換えに使用します。
スイッチを押すたびに、
「オートロータリー（AUTO点灯）」「負荷制御（LOAD点灯）」「オートロータリー＋負荷制御（AUTO・LOAD点灯）」「ドラフト（DRAFT点灯）」「レーザー制御（LASER点灯）」「自動切（消灯）」の順に制御モードが切り換わります。

[参考]
「レーザー制御」は、レーザー機器が接続されている場合のみ選択できます。

5. オート感度切換スイッチ

オートロータリーの感度を 3 段階に切り換えることができます。通常は「標準」に設定されています。感度を落としたいときは、スイッチを押して「鈍感」（ランプ点灯）に設定してください。もう一度押すと「敏感」（ランプ点灯）、さらにもう一度押すと「標準」（ランプ消灯）に戻ります。

6. 上げ位置ダイヤル

作業機昇降スイッチ、バック上昇、および作業機上下ダイヤルで作業機を上げたときの最上げ位置を設定できます。

7. 下げ速度設定ダイヤル

作業機昇降スイッチまたは、作業機上下ダイヤルで、下げ操作したときの、作業機の下げ速度を調節します。

「」側に回す…… 作業機の下げ速度が遅くなります。

「」側に回す…… 作業機の下げ速度が速くなります。

8. 深さ設定ダイヤル

- 深さモード「AUTO（オート）」に設定したとき
  オートロータリー制御中のロータリーの耕うん深さを調節します。
- 深さモード「LOAD（負荷）」に設定したとき
  負荷制御中にロータリーの耕うん深さを調節します。
- 深さモード「DRAFT（ドラフト）」に設定したとき
  ドラフト制御中のドラフト感度（耕深）を調節します。

9. 傾き手動レバー

- 「傾き手動」で使用する場合
  トラクターに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- 「傾き水平」もしくは「傾き傾斜地」で使用する場合
  手動レバーを動かしている間だけ、作業機の角度が変わります。手を離すと傾き調整ダイヤルで設定された角度に戻ります。

キャビン

⚠ 注　意

ガラスの取り扱いはていねいに行ってください。
【守らないと】
ガラスが割れるなどして、けがの原因になります。

取っ手

車外からドアを開けるときに使用します。
取っ手（図 2-61, 1）を引くと、ロックが解除されドアが開きます。

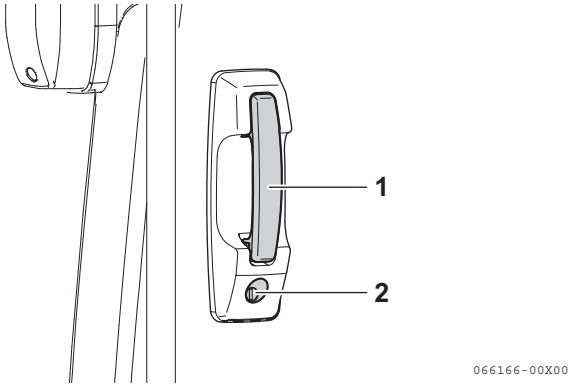


図 2-61 取っ手

キーをドア取っ手の下にあるキーシリンダ（図 2-61, 2）に差し込み、キーを時計回りに回すと施錠、反時計回りに回すと解錠できます。

[重要]

- ドア取っ手にぶらさがるなど、無理に力を加えないでください。
- キーシリンダ部に直接水をかけると、室内に水が浸入する場合があります。洗車時には注意してください。

[参考]

キーの詳細については、46 ページを参照してください。

ドア開閉レバー

車内からドアを開けるときに使用します。

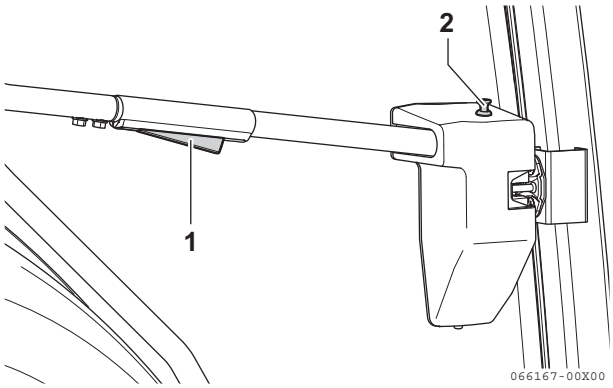


図 2-62 ドア開閉レバー

ドア中央部（図 2-62, 1）を握るとドアが開きます。
ドアロック（図 2-62, 2）を押し下げると施錠、引き上げると解錠できます。

リヤウインドロックレバー

⚠ 注　意

キャビン後部と背もたれの間に手や腕を置かないでください。
【守らないと】
背もたれと、リヤウインドロックレバーに挟まれ、けがをするおそれがあります。

リヤウインドの開閉に使用します。
リヤウインドロックレバーを「解除」側に回して、リヤウインドを上に押し上げると開きます。

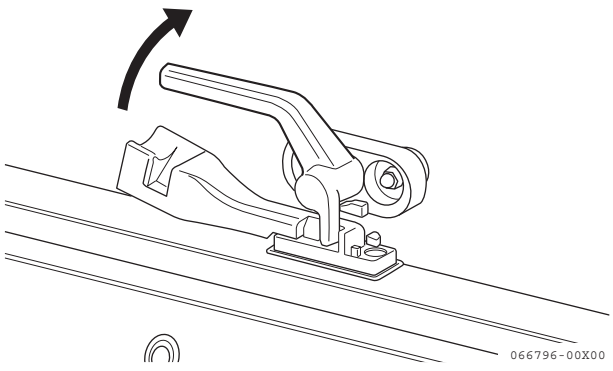


図 2-63 リヤウインドロックレバー

[参考]
リヤウインドを少し開けた状態で固定したいときは、リヤウインドの固定金具を使用してください。
固定金具は、使用時に回転させて機外に出します。

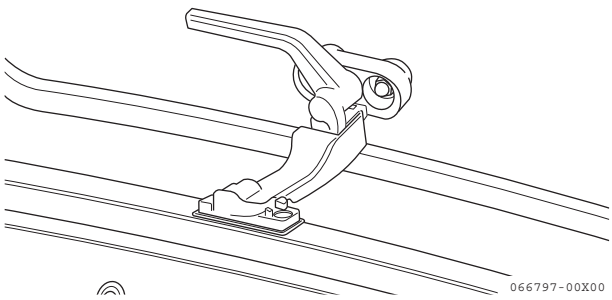


図 2-64 リヤウインド固定金具

[重要]
- 上げ位置ダイヤルの設定が最低位置でも、作業機を最上げにするとリヤウインドを開けることができない場合や、リヤウインドを開いた状態では作業機と干渉する場合があります。（ブロードキャスターなどの肥料散布機や、あぜ塗り機、ロールベーラなど）このような作業機をご使用の場合は、リヤウインドを閉じてください。
- 作業終了後、トラクターを離れるときは、必ずリヤウインドを閉めてください。雨水などによりキャビン内が濡れると、故障の原因になります。
- リヤウインドを開けたまま、公道走行をしないでください。

サンバイザ

直射日光を遮るときに使用します。

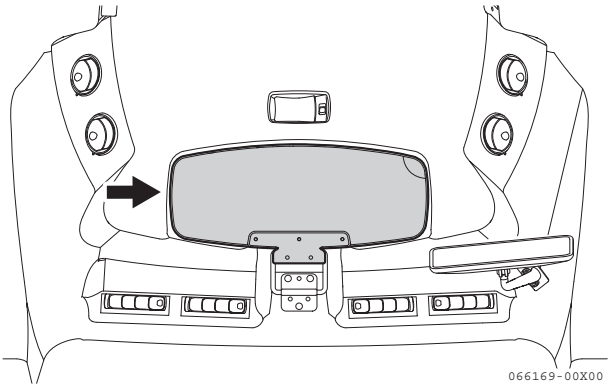


図 2-65 サンバイザ

ルームランプ

ルームランプを点灯・消灯するときに使用します。

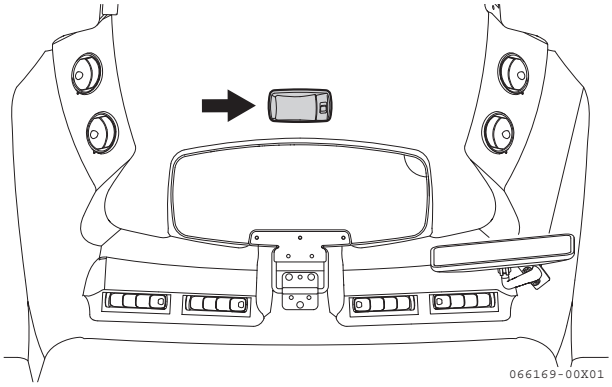


図 2-66 ルームランプ

ON… ルームランプが点灯します。
中間… ドアを開けたときにルームランプが点灯します。
OFF… ルームランプが消灯します。

[重要]
トラクターを離れるときは､必ずルームランプを「OFF」位置にしてください｡バッテリーが放電するおそれがあります。

手元作業灯（アンバーライト）

夜間作業中などで手元を明るくするときに使用します。
手元作業灯は運転席右上にあります。

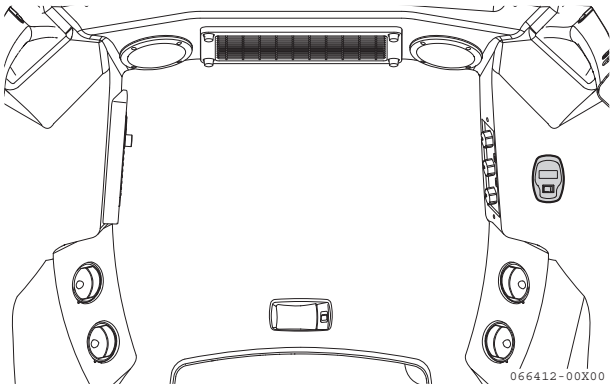


図 2-67 手元作業灯

FM･AMラジオ付CDプレーヤー

音楽などを聴くときに使用します。
プレーヤーは運転席左上にあります。

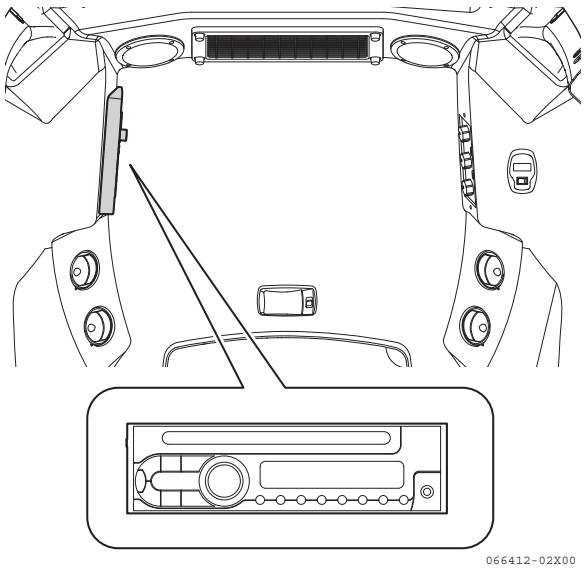


図 2-68 FM・AMラジオ付CDプレーヤー

[参考]

- 操作方法は、FM・AMラジオ付CDプレーヤーの取扱説明書でご確認ください。
- 電波の弱い場所で、LEDワークランプを点灯中にラジオを受信すると、ノイズが発生することがあります。

カップホルダー
小物入れ

運転席左側に収納スペースがあります。
タブレット端末やスマートフォン、缶飲料、マグカップなどを収納できます。

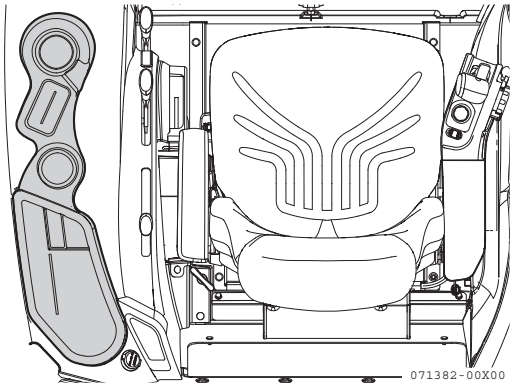


図 2-69 小物入れ

ルームミラー

後方の確認ができます。運転席前方右上側にあります。

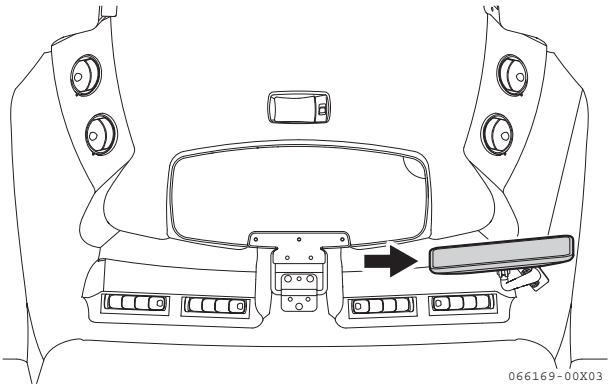


図 2-70 ルームミラー

エアコン

操作部のスイッチとレバーで風量、温度、内外気切換ができます。
また、サイド吹き出し口とフロント吹き出し口で風向きの調整ができます。

操作部

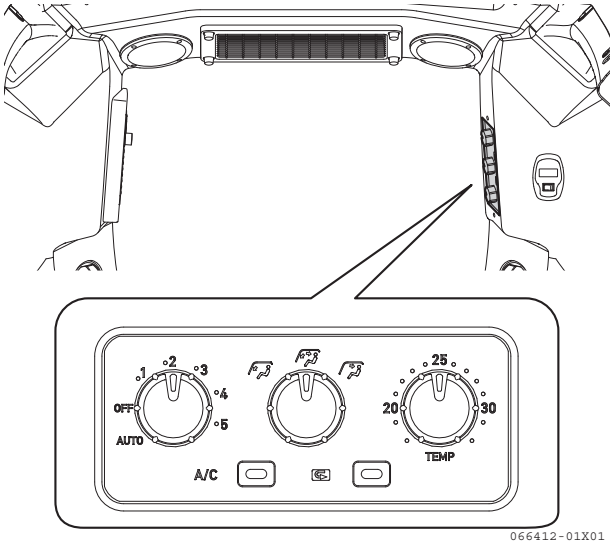


図 2-71 エアコン操作パネル

[参考]
冷房中、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものです。

吹き出し口

風向きをかえることができます。閉の状態にすると吹き出し口を閉めることができます。

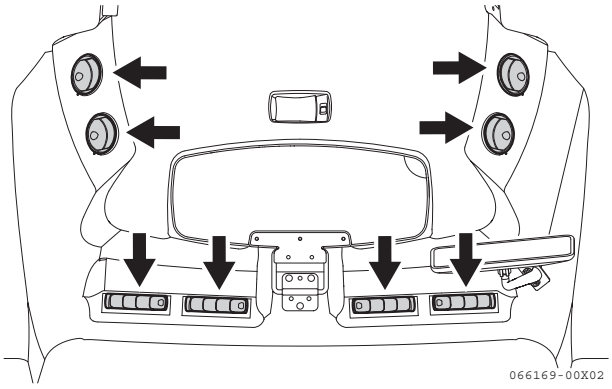


図 2-72 エアコン 吹き出し口

[参考]
イラストの下側がトラクターの前方です。

操作部の名称とはたらき

ブロワ風量設定ダイヤル

風量を調節するときに使用します。

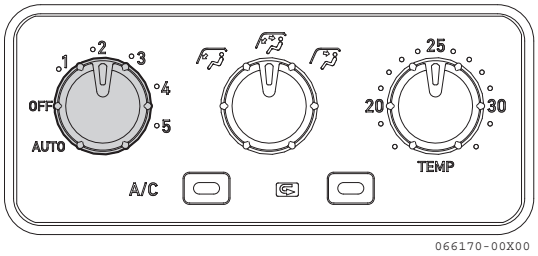


図 2-73 ブロワ風量設定ダイヤル

OFF	ブロワが停止します。
AUTO	風量を自動制御します。
1-5	風量をマニュアルで設定します。

エアコンスイッチ

エアコン機能を「ON」「OFF」するときに使用します。

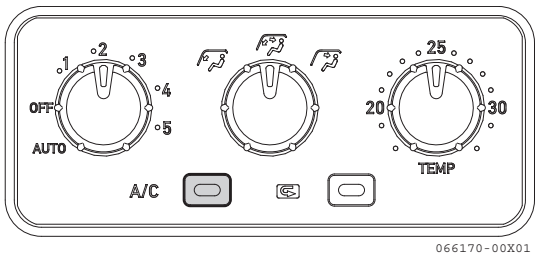


図 2-74 エアコンスイッチ

OFF	A/Cランプが消灯します。
ON	A/Cランプが点灯し、A/C機能が作動します。

温度調整ダイヤル

低温（18 ℃）から高温（32 ℃）まで1 ℃ずつ温度を調整できます。

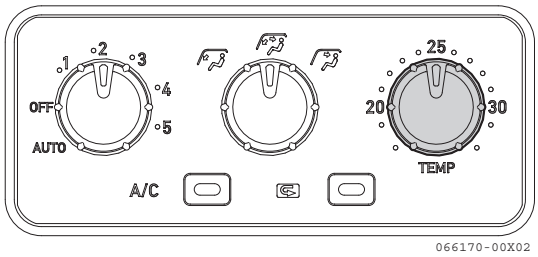


図 2-75 温度調整ダイヤル

右に回す	設定温度が高くなります。
左に回す	設定温度が低くなります。

吹き出し口切換ダイヤル

温風・冷風の吹き出し口を切り換えるときに使用します。

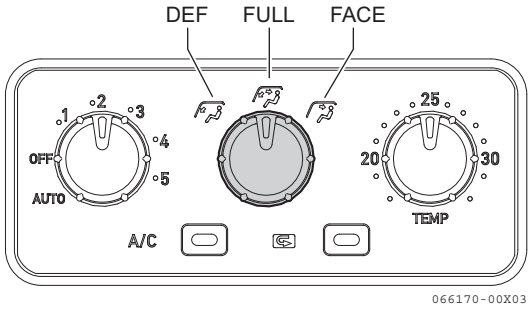


図 2-76 吹き出し口切換ダイヤル

DEF位置	フロントガラス側へ送風します。
FULL位置	フロントガラス、運転席へ送風します。
FACE位置	運転席側へ送風します。

内外気切換スイッチ

外気導入（外気を車内に入れる）、内気循環（外気をしゃ断する）の切り換えができます。状態は、スイッチのライトで確認できます。

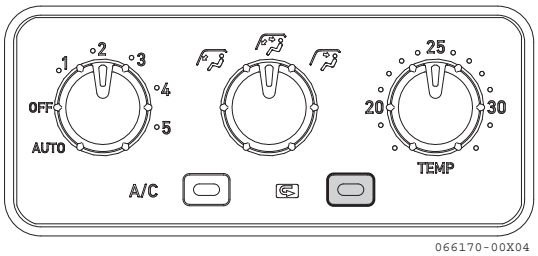


図 2-77 内外気切換スイッチ

点灯	内気循環になります。
消灯	外気導入になります。

[参考]

- 長時間、内気循環にしないでください。ガラスが曇りやすくなります。
- 環境条件により、キャビン内へ排出ガス・農薬・肥料などを吸い込む場合は、内気循環にしてください。

故障したときは

エアコンが故障した場合は、ブロワ風量設定ダイヤルを「OFF」位置にし、トラクターをお買い上げいただいた特販店・JA で点検、整備を受けてください。

カラーモニター

このトラクターには、作業中の情報が一目で確認できるカラーモニターが装備されています。

[重要]

カラーモニターを使用するときは、つぎのことを必ず守ってください。故障の原因になります。

- カラーモニターはタッチパネルではありません。表示変更は、画面上側のスイッチと右上のプッシュ式ダイヤルで行ってください。
- カラーモニターを外したり、分解や改造をしないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性のある薬品で掃除しないでください。
- 画面を強く押したり、こすらないでください。
- スイッチは先端が硬いものや、尖ったもので押さないでください。
- 磁気を帯びたものや電波を発するものを近づけないでください。

液晶ディスプレイの特性上、つぎのような現象が発生することがありますが故障ではありません。

- 見る角度により表示色が変化して見える場合があります。
- 液晶特有の現象で輝度のムラ、縦スジや小さな黒点、輝点が見えることがあります。
- 長時間、同じ画面を表示させていると画面切り替え時に残像が発生する場合があります。
- ディスプレイの内部が高温になると、焼損を防止するため自動的に輝度が変更されることがあります。
- カラーモニターの機能・表示内容については予告なく変更することがあります。

カラーモニターの特長

- 作業中の各部の状態を確認できます。
- 作業をより簡単にし、トラクターの設定のための操作を少なくすることができます。
- モニターの表示を作業中に確認したい情報にカスタマイズできます。
- 異常があった場合は、エラーコードや文章で、異常内容について詳しく表示します。

[参考]

表示される項目は、仕様や、装着する作業機（レーザー均平装置）などによって異なります。

カラーモニターに表示される内容

1. トラクタ情報

作業中の車速やエンジン回転、走行距離などが表示されます。（96 ページ参照）

2. トラクタ設定

UFO・走行の自動制御（感度・フィーリングなど）の設定、ステアリングコラムスイッチ（AUTO1・2）の設定の変更が行えます。
（105 ページ参照）

3. カラーモニター設定

時刻、画面の明るさ、起動ロックなどの設定の変更が行えます。（117 ページ参照）

4. e-CONTROL設定

パワーモード、エコモード、車速減速制御、エンジン負荷制御の各設定の変更が行えます。
（99 ページ参照）

5. 旋回感度設定

ハンドルを切ったときの旋回感度（フィーリング）の変更が行えます。
（103 ページ参照）

6. 電源OFF設定

夜間作業時など、画面を消灯できます。
消灯中に、プッシュ式ダイヤルもしくは画面上側の 5 つのボタンのいずれかを操作すると、画面は表示されます。（114 ページ参照）

7. レーザー均平装置設定（作業機装着時のみ）

作業機の制御内容をカラーモニターで確認できます。また制御内容の変更を行えます。詳しくは、各作業機の取扱説明書でご確認ください。
（123 ページ参照）

8. カメラ設定

このトラクターには、オプションでカメラを装着できます。装着したカメラで撮影した映像をカラーモニターに表示できます。詳しくは、トラクターをお買い上げいただいた特販店または JA へご相談ください。（116 ページ参照）

9. 起動ロック設定

パスワードにより、起動ロックをかけることができます。（119 ページ参照）

10.メモ機能

作業機の取付位置やトップリンクの長さなどが登録できます。（124 ページ参照）

11.カレンダー機能

今日の日付を確認できます。（115 ページ参照）

各部の名前とはたらき

カラーモニターは、画面上部の5つの選択スイッチと、右上のプッシュ式ダイヤルで操作します。

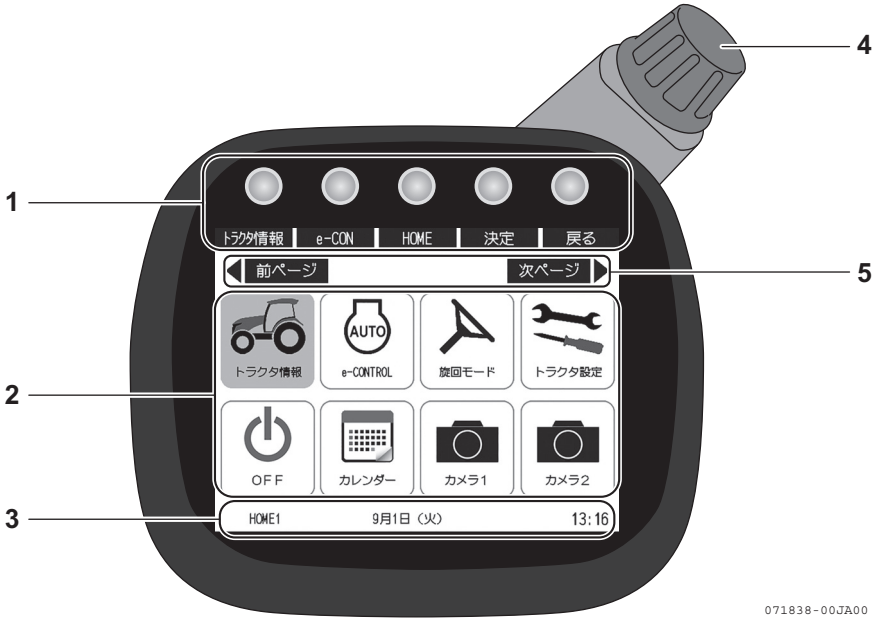


図 2-78 カラーモニター

1. 選択スイッチ

ボタンの下側に表示された内容を実行するときに選択します。

図 2-78の画面では、左から「トラクタ情報」、「e-CONTROL」、「HOME1 画面選択」、「決定」、「戻る」の5つの操作が行えます。（設定画面によって選択スイッチの表示は切り替わります）

決定操作をすると、「ピッ」と音が鳴り、操作の実行が確認できます。

2. メイン画面

トラクタの現在の状態や変更項目など、作業に必要な情報が表示されます。プッシュ式ダイヤル、選択スイッチを操作して、表示させたい項目や変更させたい項目を選択します。

[参考]

- 選択されている項目は、色が強調表示されます。
- 仕様によって、表示される項目が異なります。

3. 画面名称・日時表示

画面の下側には左側から、現在表示されている画面の名称、日付、時間の順番に表示されます。

[参考]

トラクタに何らかの不具合が発生している場合は、中央の日付表示部にエラー内容が表示されます。

詳細を表示させるには、プッシュ式ダイヤルを操作して、エラー文章を反転表示させ、決定操作を行います。メイン画面に不具合内容の詳細が表示されます。

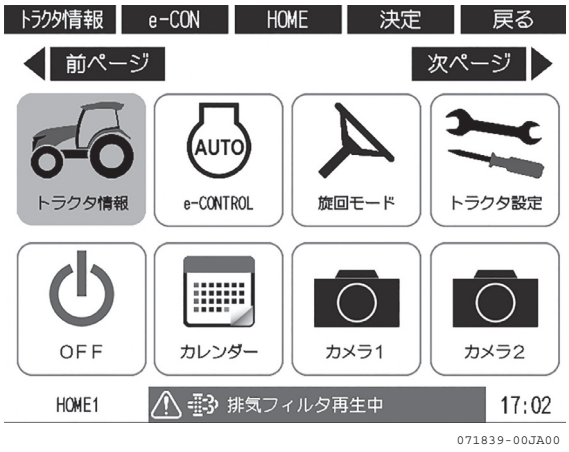
4. プッシュ式ダイヤル

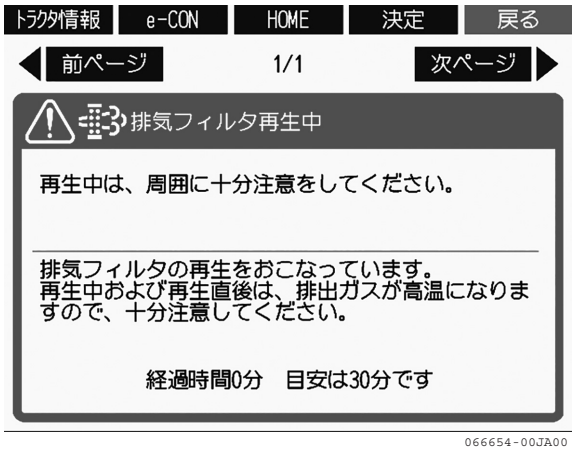
左右に回転させることで、選択項目を変更できます。（モニター内の反転している箇所が選ばれている項目です。）ダイヤルを押すと「決定」操作になります。決定操作をすると、「ピッ」と音が鳴り、操作の実行が確認できます。

5.「前ページ」「次ページ」

選択した画面が、2画面以上にわたる場合に選択可能になります。プッシュ式ダイヤルを操作し「前ページ」または「次ページ」が選択した状態でプッシュ式ダイヤルの決定操作を行うと、「前ページ」または「次ページ」が表示されます。

〈エラー発生時の画面例〉





エラー文章を選んでプッシュ式ダイヤルを押し込むと、エラーの詳細が表示されます。

[参考]

カラーモニターの画像は、仕様により実際の画面と異なる場合があります。

はじめに

トラクタのキースイッチを「ON（入）」位置にすると、HOME画面（次ページ参照）が表示されます。
HOME画面は、「HOME1」と「HOME2」の2種類あります。
HOME画面は、各種の詳細画面へ切り替えるためのトップ画面です。

[参考]

起動ロックが設定「ON」されているときは、起動ロック画面が表示されます。
正しいパスワードが入力され認証が成功すると、「HOME1」が表示されます。

起動ロックについては、119 ページを参照してください。



起動ロック画面

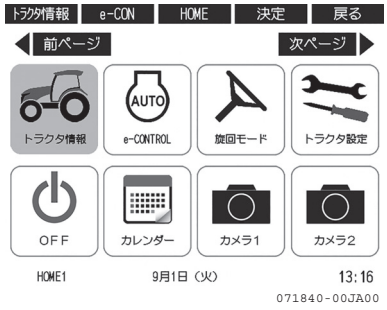
HOME画面

HOME画面は、「HOME1」と「HOME2」の2種類あります。
HOME画面は、各種の詳細画面へ切り替えるためのトップ画面です。

[参考]
各部の設定画面などを表示しているときに、画面上側の選択スイッチの真ん中のボタン（ボタン下に「HOME」の表示）を押すと、「HOME1」画面に切り換わります。

HOME画面の並びを変更できます。

1. HOME画面で表示されているアイコンのいずれかを選択した状態で、「決定」を長押しします。
2. 「メニューを並び替えますか？」と表示されるので、「Yes」を選択して「決定」を押します。
   （上記手順2まで完了すると、選択画面になります。）
   エンコーダ操作：カーソルを移動します
   前ページ/次ページ：HOME画面のページを切り換えます
   初期化：工場出荷時のHOME画面の並びに戻ります
   戻る/HOME：HOME画面に戻ります
3. 移動させたいアイコンを選択した状態で、「決定」を押します。選択したアイコンがオレンジ色の枠線で囲まれます。
4. エンコーダを操作して、アイコンを移動させたい位置へ動かします。
   前ページ/次ページ：「決定」を押すとHOME画面のページを切り換えます。移動対象アイコンは左上に表示されます。
   戻る：手順3でアイコンを選択する前の状態に戻ります。（アイコンの位置も元に戻ります）
   HOME：HOME画面に戻ります。
   決定：アイコンの位置が確定されて、手順3 の前のアイコンを選択する画面に戻ります。
5. アイコンの位置を工場出荷状態に戻したい場合、手順3 のアイコンを選択する前の状態にして、画面上部中央の「初期化」を選択し実行します。初期化確認画面が表示されるので「Yes」を選択して初期化します。初期化中の画面が表示され、初期化が完了するとHOME画面に戻ります。



HOME1 画面



HOME2 画面

ショートカットの設定

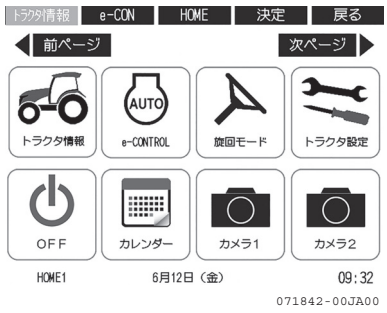
選択スイッチの左側2つのボタンは、ショートカットボタンです。
作業中によく確認する画面に設定すると便利です。
下図では、左端のボタンが「トラクタ情報1」に、左から2つ目のボタンが「e-CONTROL」の画面にショートカット先が設定されています。

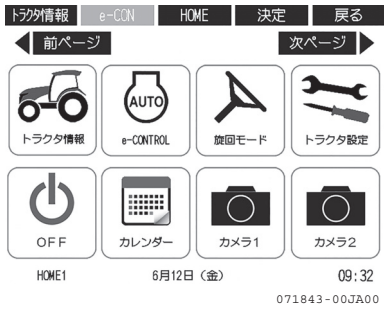
〈プッシュ式ダイヤルで設定する〉

1. プッシュ式ダイヤルを左右に回し、選択スイッチボタン下にある左側 2 つのアイコンのどちらかを選択した状態（反転表示）にして、ダイヤルを3秒以上押し込みます。

〈選択スイッチで設定する〉

1. ショートカット先を変更したいボタンを長押し（3秒以上）します。





ショートカット設定-1



ショートカット設定-2

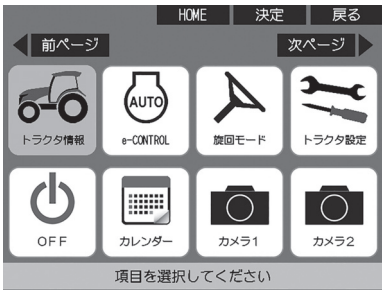
2. ショートカット先に設定したい項目を選択した状態（色つき表示）にします。

[参考]
右の画面では、「トラクタ情報」が選択されています。

3. 手順 1. で操作したボタンをもう一度3秒以上長押しします。

[参考]
ショートカット先の設定を変更すると、選択スイッチ下の表示が自動的に変更されます。

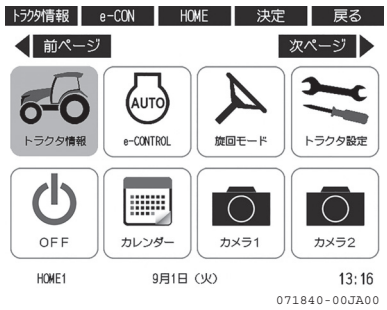
以上でショートカット先の変更は完了です。



トラクタ情報

トラクタ情報画面は、2画面（「トラクタ情報1」「トラクタ情報2」）で構成されます。
作業中の車速やエンジン回転、走行距離などを表示します。

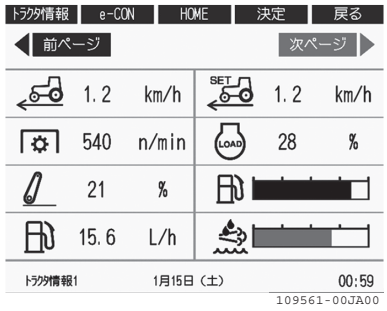
1. 「HOME1」画面で、「トラクタ情報」の表示を反転させ、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。



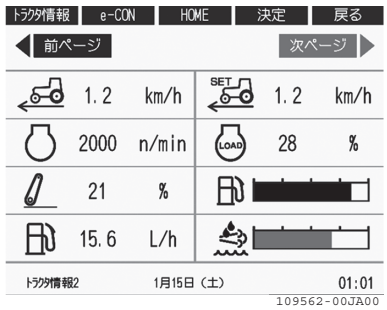
HOME1画面

2. 「トラクタ情報1」画面が表示されます。
このとき「次ページ」または「前ページ」を選択すると、「トラクタ情報2」の画面が表示されます。

[参考]
トラクタ情報は、1画面に最大8項目を表示できます。
表示項目は、カスタマイズできます。詳しくは、98 ページを参照してください。



トラクタ情報1画面



トラクタ情報2画面

〈出荷時のトラクタ情報1画面表示項目〉

1. 車速
   現在の走行速度を表示します。

[参考]
走行速度は、1.0 km/h未満のときは、m/h表示になります。

2. PTO回転速度
   現在のPTO回転速度を表示します。

3. リフト位置
   リフトの位置を表示します。

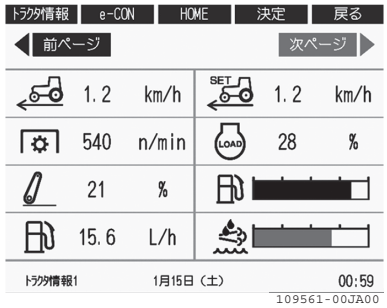
4. 瞬間燃費
   現在の時間あたりの燃料消費量を表示します。

5. トラクタ設定車速
   現在設定されている最高車速を表示します。

6. エンジン負荷率
   エンジンの負荷率を表示します。

7. 燃料残量
   燃料の残量を表示します。

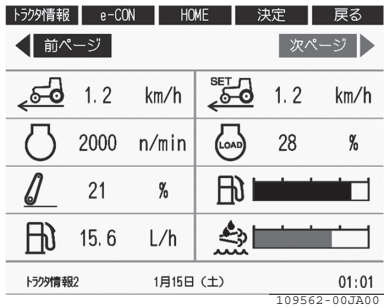
8. 尿素水残量
   尿素水の残量を表示します。



トラクタ情報1画面

〈出荷時のトラクタ情報2画面表示項目〉

トラクタ情報1の画面のPTO回転速度の表示位置にエンジン回転速度が表示されます。
その他の項目は、トラクタ情報1画面と同じです。



トラクタ情報2画面

〈トラクタ情報画面変更〉

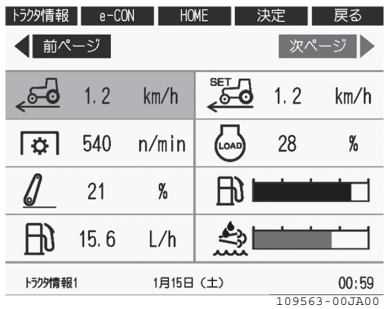
表示したいトラクタ情報画面を、以下の項目から選択します。

車速	総走行距離	Aモード最高車速と 最高エンジン回転速度	Bモード最高車速と 最高エンジン回転速度	エンジン回転速度
エンジン負荷率	PTO回転速度	瞬間燃費	リフト位置傾斜角度	運転可能時間
燃料消費量	アワーメーター	水温	バッテリー電圧	エンジン回転速度増設定
エンジン回転速度減設定	車速減速率設定	トラクタ設定	車速	時間当たり散布量 (kg/min)
時間当たり散布量 (L/min)	目標反当たり散布量 (kg/10a)	目標反当たり散布量 (L/10a)	作業機上下ダイヤル	深さダイヤル
平均燃費	尿素水(DEF)残量	燃料残量	平均尿素水消費率	運転可能時間(尿素水)

1. プッシュ式ダイヤルを回して、「トラクタ情報1」、「トラクタ情報2」の画面に表示されている項目から、選択場所を変更したい項目を選択（色つき表示）して、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。

[参考]

右図では、車速の項目を選択しています。

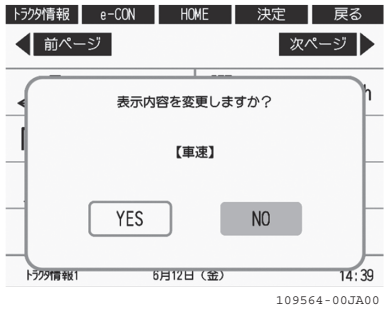


項目選択-1

2. 「表示内容を変更しますか？」と表示されます。
表示場所を変更したい項目が選ばれていれば「YES」を、再度項目を選び直す場合は「NO」を選択（色つき表示）して、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。

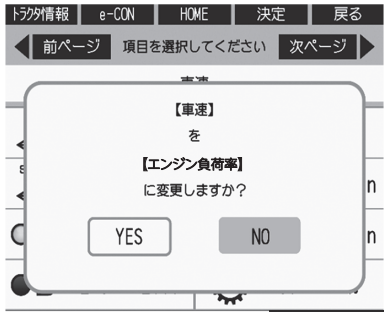
[参考]

- 「NO」を選択した場合は、手順1. から再度操作してください。
- 「YES」を選択した場合は、手順3. 以降の手順に続きます。



項目選択-2

3. プッシュ式ダイヤルを操作して、手順 2. で選択した表示箇所に表示させたい項目を選択します。
4. 表示箇所を選択（色つき表示）して、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
5. 「【車速】を【エンジン負荷率】に変更しますか？」と表示されます。
(選択する項目によって、表示内容は変わります。)
「YES」を選択すると、表示場所の変更は完了します。
「NO」を選択すると、手順3. に戻ります。



項目選択-3

6. 設定が変更されたことを、「トラクタ情報 1」および「トラクタ情報 2」の画面で確認します。

以上で表示項目の設定変更は完了です。

e-CONTROLの設定変更

e-CONTROL設定画面は1画面です。
e-CONTROLで設定できる項目は、以下になります。

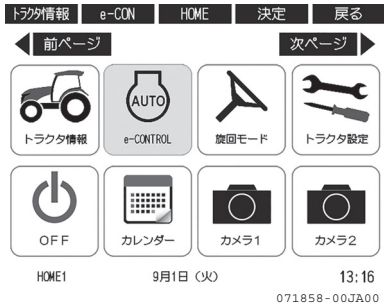
1．パワーモード	2．エコモード	3．車速減速制御	4．エンジン負荷制御

パワーモード、エコモード、車速減速制御は、各機能の「ON/OFF」と「パラメータ」の設定ができます。
画面左側で各機能の「ON/OFF」を、右側で「パラメータ」の設定ができます。

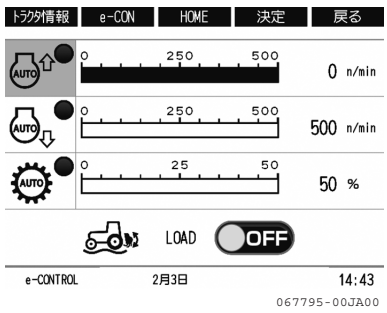
〈パワーモード〉

パワーモードを設定すると、作業負荷が大きいときは車速が一定のままで、設定範囲内で自動的にエンジン回転が設定回転速度まで上がります。プラウ・サブソイラなどのけん引作業で威力を発揮します。

1．「HOME1」画面で、「e-CONTROL」を選びます（色つき表示）。

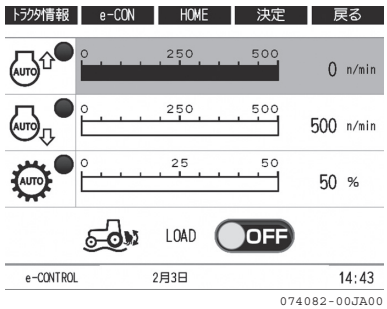


2．プッシュ式ダイヤルを操作して、一番上の「パワーモード」のマークを選択（色つき表示）します。プッシュ式ダイヤルを押すたびに「ON/OFF」が切り換わります。
3．パワーモード「ON」状態で、画面右側の横棒グラフを選択（色つき表示）します。
4．ダイヤルを回して、エンジン回転の変動幅を0～500回転の間で設定します。
5．設定後、プッシュ式ダイヤルを押して変更内容を決定します。



[重要]

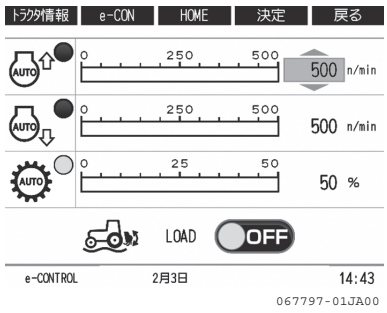
エンジン回転の変動に伴い、PTO回転も変わります。
PTO 作業は、エンジン最高回転でのPTO 作業（荒おこし耕うんなど）以外では使用しないでください。



[参考]

- e-CONTROLによるエンジン回転制御は、1500 n/min以上で行われます。
- エンジン回転制御使用時は、エンジンの設定上限回転速度を超える場合があります。
- 白色のバーが現在の設定値、オレンジ色が現在のエンジンの状態を表します。
- 工場出荷時は、機能は「OFF」、変動幅は500 n/minに設定されています。

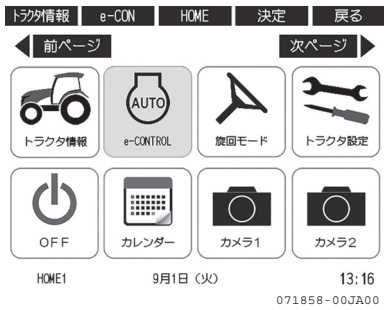
以上でパワーモードの設定は完了です。



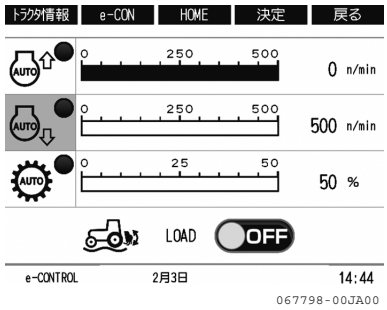
〈エコモード〉

エコモードを設定すると、作業負荷が小さいときは車速が一定のままで、設定範囲内で自動的にエンジン回転速度が設定回転速度まで下がります。
スタブルカルチ、レーザーレベラー、移動走行（トレーラー）などの作業で活用できます。

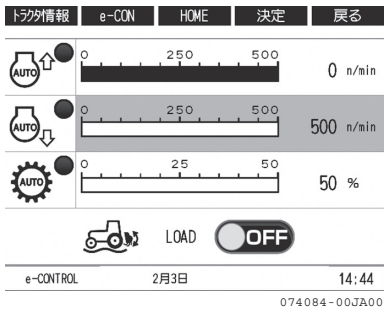
1. 「HOME1」画面で、「e-CONTROL」を選びます（色つき表示）。



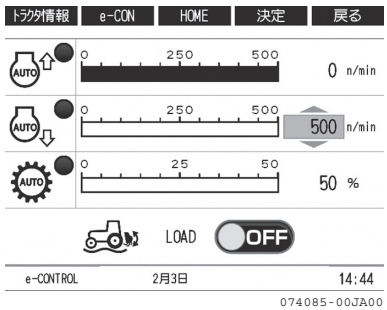
2. プッシュ式ダイヤルを操作して、上から2つ目の「エコモード」のマークを選択（色つき表示）します。プッシュ式ダイヤルを押すたびに「ON/OFF」が切り換わります。
3. エコモード「ON」状態で、画面右側の横棒グラフを選択（色つき表示）します。
4. ダイヤルを回して、エンジン回転の変動幅を0～500回転の間で設定します。
5. 設定後、プッシュ式ダイヤルを押して、変更内容を決定します。



[重要]
エンジン回転の変動に伴い、PTO回転も変わります。
PTO作業では使用しないでください。



[参考]
- e-CONTROLによるエンジン回転制御は、1500 n/min以上で行われます。
- エンジン回転制御使用時は、エンジンの設定上限回転速度を超える場合があります。
- エコモードでは1500 n/minまでしかエンジン回転は下がりません。
- 白色のバーが現在の設定値、オレンジ色が現在のエンジンの状態を表します。
- 工場出荷時は、機能は「OFF」、変動幅は500 n/minに設定されています。

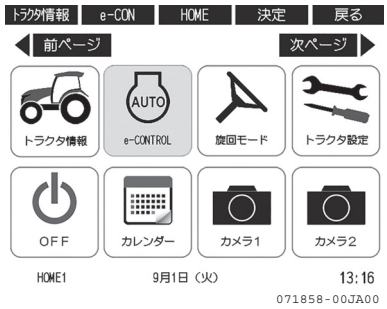


以上でエコモードの設定は完了です。

〈車速減速制御〉

車速減速制御を設定すると、作業負荷が大きいときはエンジン回転は一定のまま、設定範囲内で車速を自動的に減速します。
負荷が軽減すると、自動的に元の車速まで復帰します。
ロータリーなどのPTO作業で威力を発揮します。

1. 「HOME1」画面で、「e-CONTROL」を選びます（色つき表示）。

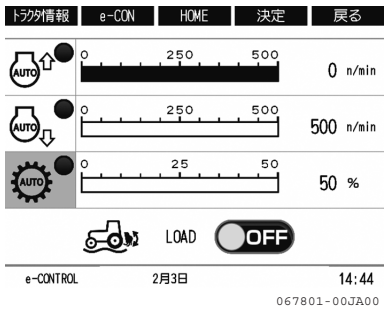


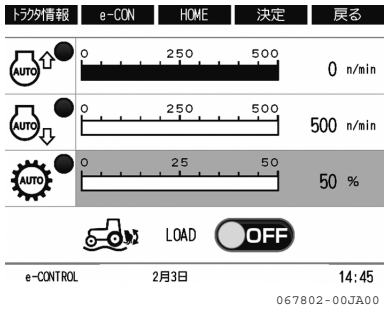
2. プッシュ式ダイヤルを操作して、上から3つ目の「車速減速制御」のマークを選択（色つき表示）します。プッシュ式ダイヤルを押すたびに「ON/OFF」が切り換わります。
3. 車速減速制御「ON」状態で、画面右側の横棒グラフを選択（色つき表示）します。
4. ダイヤルを回して、車速の変動幅を0～50 %の間で設定します。
5. 設定後、プッシュ式ダイヤルを押して、変更内容を決定します。

[参考]

- e-CONTROLによる車速減速制御は、車速減速率0（切）～50 %間の幅で行われます。
- 白色のバーが現在の設定値、オレンジ色が現在のエンジンの状態を表します。
- 工場出荷時は、機能は「ON」、車速減速率は「50 %」に設定されています。

以上で車速減速制御の設定は完了です。



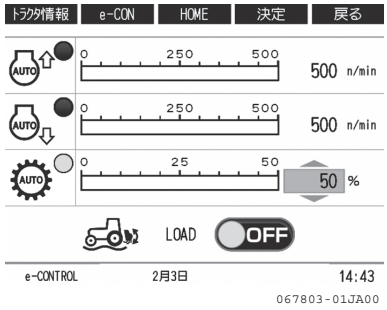


[参考]

坂道など、走行負荷が大きい場合は、車速減速制御を「入」に設定することをおすすめします。

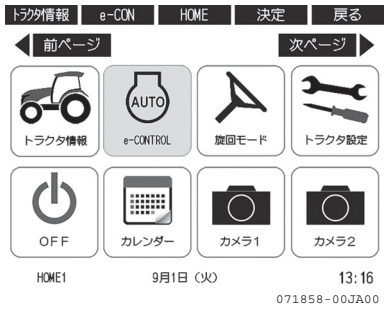
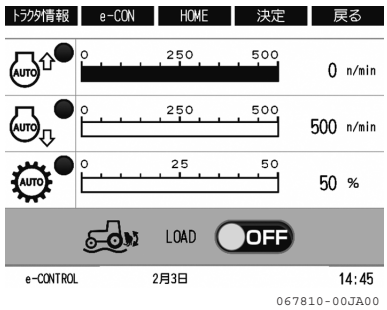
特に、副変速が「2速」位置のとき、車速はアクセルペダルの踏み込み量に応じて自動的に変速します。このため、エンジン負荷が大きいときは、設定車速を減速させないと、エンジン回転が低下し、極端に車速が出ないことがあります。

- 車速減速制御を「入」にすると、走行負荷が大きいとき、エンジン回転は一定のままで、設定範囲内で車速を自動的に減速します。
- 車速減速率により、車速の減速度合いが異なる場合があります。



〈リフトエンジン負荷制御〉

負荷制御は、作業中のエンジン負荷を計測して、エンジンの負荷が大きくなると作業機を少しずつ上昇し負荷を回避します。負荷を回避すると設定した耕深まで自動復帰します。
ナイスティエコトラUFO Plusの深さモードの「負荷制御」のON/OFFの切り換えができます。
工場出荷時は、OFFに設定されています。

1.「HOME1」画面で、「e-CONTROL」を選びます（色つき表示）。	
2. プッシュ式ダイヤルを操作して一番下の「リフトエンジン負荷制御」を選択（色つき表示）します。 プッシュ式ダイヤルを押すたびに「ON/OFF」が切り換わります。 **[参考]** 負荷制御の設定は、深さダイヤルで調整します。 以上でリフトエンジン負荷制御の設定は完了です。	

旋回モード、旋回感度の切り替え

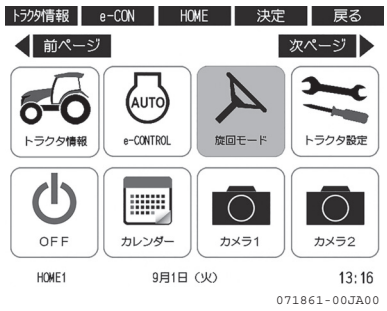
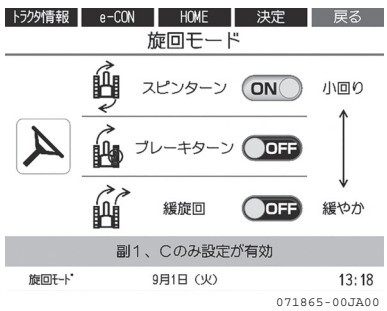
旋回モードを「スピンターン」、「ブレーキターン」、「緩旋回」の3つから選べます。
また、各旋回モードでの切れ角に応じた反応（感度）を5段階に変更できます。

[参考]

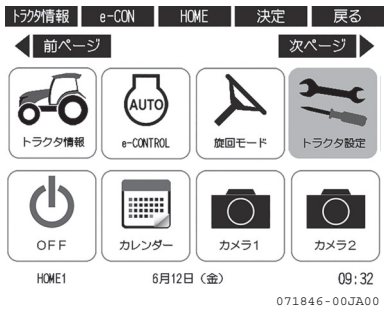
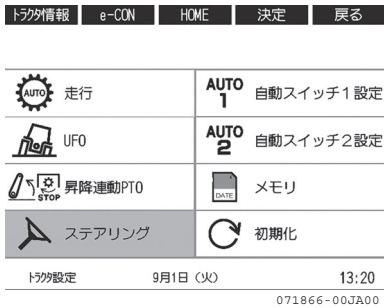
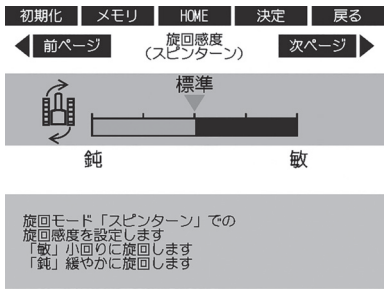
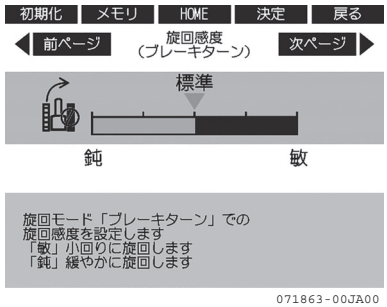
旋回モードを切り替えることで、ハンドル操作時のトラクターの旋回制御を変更できます。

- スピンターンモード・・・・・最も小回りがきくモードです。ハンドルをいっぱいまで切ると、左右のクローラが反転し、その場旋回（スピンターン）が行えます。ほ場内での旋回や狭い場所での旋回に使用します。
- ブレーキターンモード・・・スピンターンモードと緩旋回モードの中間モードです。ハンドルをいっぱいまで切ると、内側のクローラが停止し旋回（ブレーキターン）します。
- 緩旋回モード・・・・・・・・・・・旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。湿田ほ場での旋回に使用します。

〈旋回モードの切り替えかた〉

1. 「HOME1」で、「旋回モード」を選びます（色つき表示）。	
2. プッシュ式ダイヤルを回して、選択したいモードを選びます。（色つき表示） この状態で、プッシュ式ダイヤルを押し込みます。 選ばれたモードの右側のボタンが「ON」の表示になります。 **[参考]** ● 右の画面では、「スピンターン」モードが選択されています。 ● 旋回モードの切り替えは、副変速レバーが「C」「1」位置のみ使用可能です。	
3. 選択したい旋回モードが「ON」にあることを確認し、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。 以上で旋回モードの切り替えは完了です。	

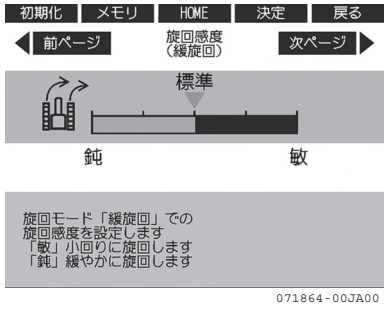
〈旋回感度の切り替えかた〉

1. 「HOME1」で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2. プッシュ式ダイヤルを回して、「ステアリング」を選びます（色つき表示）。 旋回感度変更画面が表示されます。	
3. 旋回感度（スピンターン）の画面が表示されます。プッシュ式ダイヤルで設定を変更します。 変更後、「次ページ」を選択します（色つき表示）。	
4. 旋回感度（ブレーキターン）の画面が表示されます。プッシュ式ダイヤルで設定を変更します。 変更後、「次ページ」を選択します（色つき表示）。	

5. 旋回感度（緩旋回）の画面が表示されます。プッシュ式ダイヤルで設定を変更します。
   変更後、「次ページ」を選択します（色つき表示）。
   「トラクタ設定」の画面に戻ります。

[参考]
- 設定状況は、緑色のバーの長さで確認できます。
- 工場出荷時は「標準」です。
  「鈍」･･･ハンドルの操作量に対してゆるやかに動作します。
  「敏」･･･ハンドルの操作量に対して機敏に動作（小回り）します。

以上で旋回モードの切り替えは完了です。



トラクタ設定

トラクタ設定画面は1画面で構成されます。
設定が変更できる項目は、

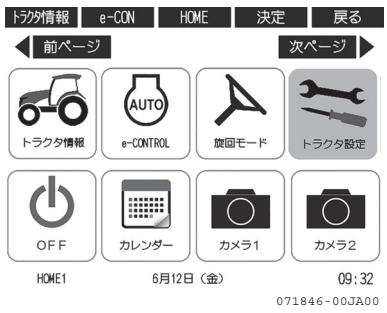
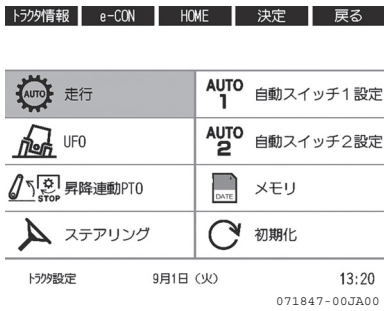
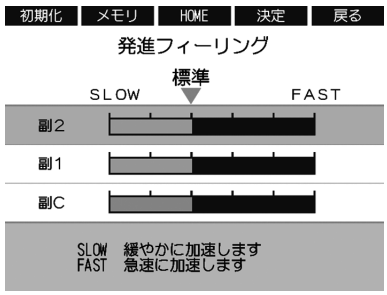
1. 走行（発進フィーリング）	4. AUTO1（自動スイッチ1）設定
2. UFO（傾き感度、オート感度、すき込み感度）	5. AUTO2（自動スイッチ2）設定　　などです。
3. 昇降連動PTO	

また、設定状態を記憶（メモリ）する機能と、設定状態を初期化（工場出荷状態）にする機能で構成されます。

[参考]
メモリと初期化の対象範囲は、このトラクタ設定の画面で変更できる項目です。

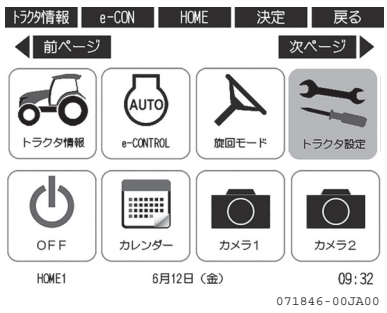
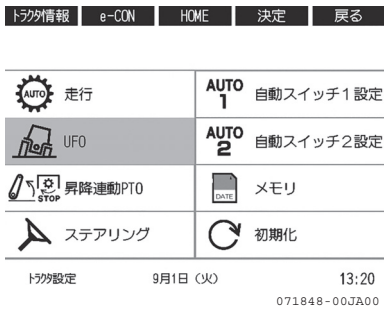
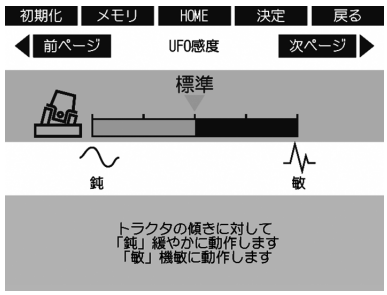
〈発進フィーリングの変更〉

副変速の段数別に発進のフィーリングを変更できます。

1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「走行」を選びます（色つき表示）。 発進フィーリング変更画面が表示されます。	
3. 設定（発進フィーリング）を変更したい副変速段数を選びます。 4. 変更したい副変速段数が選択されていることを確認し、プッシュ式ダイヤルもしくは、選択スイッチで設定を変更します。 **[参考]** ● 発進フィーリングは5段階に調節できます。 ● 設定状況は、黄色のバーの長さで確認できます。 ● 工場出荷時は「標準」に設定されています。 「SLOW」…ゆるやかに加速します。 「FAST」…急速に加速します。	
5. 各変速段数の設定が完了したら「戻る」ボタンを選択して、「トラクタ設定」画面に戻ります。 以上で発進フィーリングの設定変更は完了です。	
[参考] 設定状態をトラクタに記憶させることができます。 画面上側左から2つ目、「メモリ」表示の上側のボタンを押すと、メモリ画面に遷移します。 メモリ登録のしかたは「メモリ」の項目（113 ページ）を参照してください。	

〈UFOの設定変更〉

油圧制御の設定を変更できます。傾き感度、オート感度、すき込み速度を変更できます。

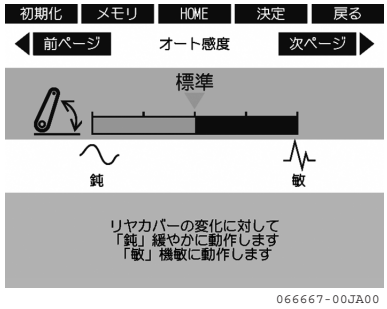
1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「UFO」を選びます（色つき表示）。 UFO感度の画面が表示されます。	
3. UFO感度とは、UFO制御機能「入」時のトラクタの傾きの変化に対する傾斜シリンダの動作（反応）のことです。 4. プッシュ式ダイヤル、もしくは選択スイッチで希望の感度に変更します。 **[参考]** ● UFO感度は、11段階に調節できます。 ● 設定状況は、緑色のバーの長さで確認できます。 ● 工場出荷時は「標準」です。 「鈍」…トラクタの傾きに対してゆるやかに動作（反応）します。 「敏」…トラクタの傾きに対して機敏に動作（反応）します。	

5. UFO感度の設定が完了したら、「次ページ」を選びます（色つき表示）。
   オート感度の画面が表示されます。
6. オート感度とは、操作ボックス内のオートロータリー感度切換スイッチが「標準」のときの動作（反応）感度のことです。
7. プッシュ式ダイヤルもしくは、選択スイッチで設定を変更します。

[参考]

- オート感度は、11段階に調節できます。
- 設定状況は、緑色のバーの長さで確認できます。
- 工場出荷時は「標準」です。

「鈍」…リヤカバーの変化に対してゆるやかに動作します。
「敏」…リヤカバーの変化に対して機敏に動作します。



8. オート感度の設定が完了したら、「次ページ」を選びます（色つき表示）。
   すき込み速度の画面が表示されます。

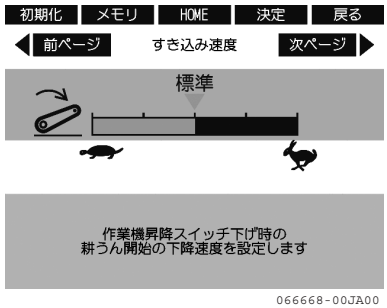
9. すき込み速度は、作業機昇降スイッチで作業機を下げたときの耕うん開始時までの下降速度を設定します。
10. プッシュ式ダイヤルもしくは、選択スイッチで設定を変更します。

[参考]

- すき込み速度は、11段階に調節できます。
- 設定状況は、緑色のバーの長さで確認できます。
- 工場出荷時は「標準」です。

「」…作業機がゆっくりと下降します。

「」…作業機がすばやく下降します。



11. すき込み速度の設定が完了したら、「次ページ」を選びます。UFO感度の画面が表示されます。

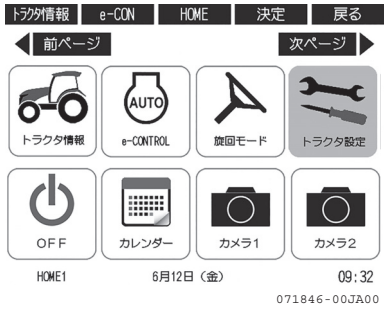
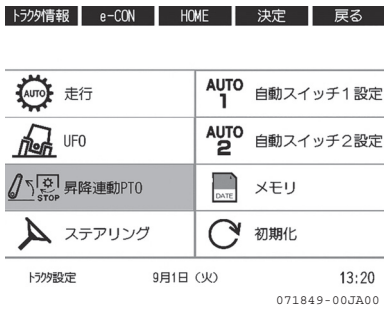
以上で、UFO設定変更は完了です。

[参考]

設定状態をトラクタに記憶させることができます。
画面上側左から2つ目、「メモリ」表示の上側のボタンを押すと、メモリ画面に遷移します。
メモリ登録のしかたは「メモリ」の項目（113 ページ）を参照してください。

〈昇降連動PTOの設定変更〉

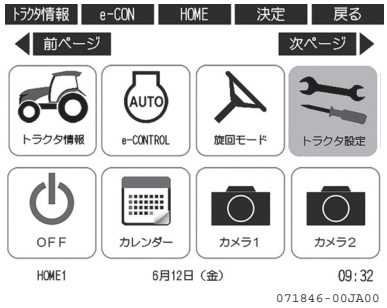
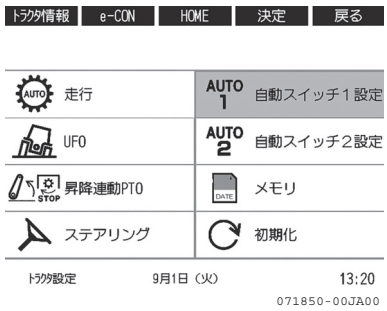
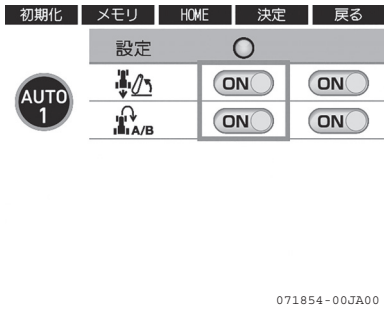
昇降連動機能を「入」にしたときのPTO回転「切」のタイミングを、上昇後の秒数、リフト高さのどちらかに設定できます。

1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「昇降連動PTO」を選びます（色つき表示）。 **[参考]** 昇降連動のタイミングは、秒数、リフト高さのどちらかで設定します。	
3. 時間・リフト高さのいずれかを選びます（色つき表示）。 ・ 両方OFFの場合： 作業機昇降スイッチを「上げ」方向に操作した場合、バック上昇でリフトが上昇し始めた時点、または作業機上下ダイヤルの操作などで作業機が一定高さまで上昇した時点でPTO駆動が停止します。 ・「時間」ONの場合： 基本的には両方OFFの場合の動作と同じですが、作業機昇降スイッチを「上げ」方向に操作した場合に、PTO はすぐに停止し、リフトは設定した時間だけ遅れて上昇します。 ※PTO連動切換スイッチが「昇降連動」位置でPTO駆動スイッチがONのときのみ作動します。	 

・「リフト高さ」ONの場合： リフトの操作手順にかかわらず、設定した高さまでリフトが上昇した時点でPTOを停止します。 そのあと、リフトの操作手順にかかわらず、設定した高さまでリフトが下降した時点でPTOを駆動します。 **[参考]** ● 工場出荷時は時間が0.0秒にリフト高さは0 %に設定されています。 ● 時間は、0～3.0秒、高さは0～100 %の範囲で設定できます。 ● PTO切タイミングは、「時間」と「リフト高さ」のどちらか一方が選ばれている場合は、もう一方の設定は反映されません。 以上で昇降連動PTOの設定変更は完了です。	
[参考] 設定状態をトラクタに記憶させることができます。 画面上側左から2つ目、「メモリ」表示の上側のボタンを押すと、メモリ画面に遷移します。 メモリ登録のしかたは「メモリ」の項目（113 ページ）を参照してください。	

〈AUTO1スイッチの設定変更〉

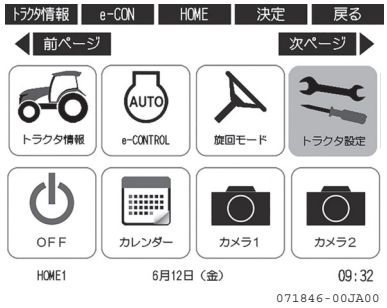
AUTO1スイッチは、走行関係の自動機能の「入」「切」をワンタッチで設定するときに使用します。

1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「AUTO1」（自動スイッチ1設定）を選びます（色つき表示）。 **[参考]** AUTO1スイッチでは、 ・バック上昇 ・A⇔Bモード自動切換 の各機能を「入」「切」および「変更なし」のいずれかに設定できます。	
3. 設定を変更したい機能を、プッシュ式ダイヤルを操作して選びます。 **[参考]** ● 工場出荷時は、右画面のように設定されています。 ● AUTO1の設定は、作業に合わせて2通りの設定ができます。 ● 設定欄の○印で現在の設定状況が確認できます。 4. 機能ごとに「入」「切」「変更なし」のいずれかに設定します。 **[参考]** 「ON」・「OFF」・「変更なし」選択時の動作はつぎの通りです。 「ON」　：AUTO1スイッチを押すと、各機能が「入」状態になります。 「OFF」　：AUTO1スイッチを押すと、各機能が「切」状態になります。 「変更なし」：AUTO1スイッチの操作後も、操作前の状態を維持します。 以上でAUTO1スイッチの設定変更は完了です。	
[参考] 設定状態をトラクタに記憶させることができます。 画面上側左から2つ目、「メモリ」表示の上側のボタンを押すと、メモリ画面に遷移します。 メモリ登録のしかたは「メモリ」の項目（113 ページ）を参照してください。	

〈AUTO2スイッチの設定変更〉

AUTO2スイッチは、作業関係の自動機能の「入」「切」をワンタッチで設定するときに使用します。

1. 「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。



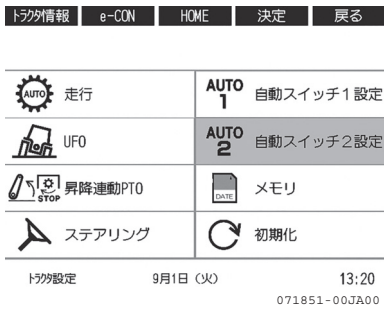
2. 「AUTO2」（自動スイッチ2設定）を選びます（色つき表示）。

[参考]

AUTO2スイッチでは、

- 深さモード：オート（AUTO）/負荷制御（LOAD）/ドラフト（DRAFT）/レーザー（LASER）
- 傾きモード：水平/傾斜地/保持
- パワーモード（UP）
- エコモード（DOWN）
- 車速減速制御（AUTO）

の各機能を「入」「切」および「変更なし」のいずれかに設定できます。



3. 設定を変更したい機能を、プッシュ式ダイヤルを操作して選びます。

[参考]

- 工場出荷時は、右画面のように設定されています。
- AUTO2の設定は、作業に合わせて2通りの設定ができます。
- 設定欄の○印で現在の設定状況が確認できます。

4. 機能ごとに「入」「切」「変更なし」のいずれかに設定します。

[参考]

「ON」・「OFF」・「変更なし」選択時の動作はつぎの通りです。

「ON」　　：AUTO2スイッチを押すと、各機能が「入」状態になります。

「OFF」　　：AUTO2スイッチを押すと、各機能が「切」状態になります。

「変更なし」：AUTO2スイッチの操作後も、操作前の状態を維持します。

以上でAUTO2スイッチの設定変更は完了です。



[参考]

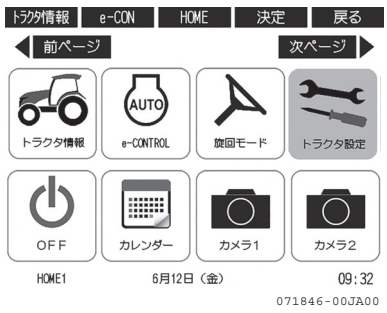
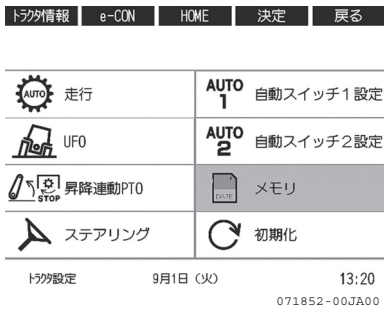
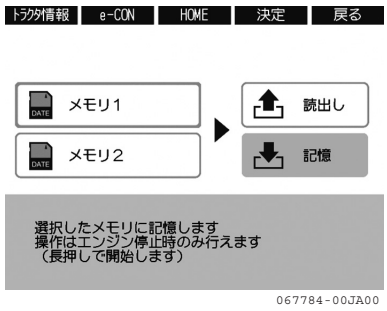
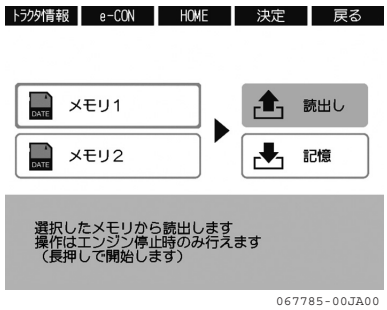
設定状態をトラクタに記憶させることができます。

画面上側左から2つ目、「メモリ」表示の上側のボタンを押すと、メモリ画面に遷移します。

メモリ登録のしかたは「メモリ」の項目（113 ページ）を参照してください。

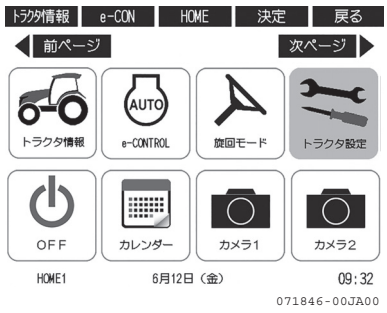
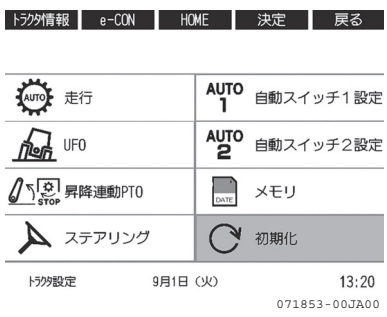
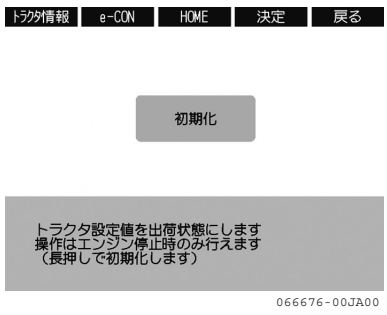
〈トラクタ設定のメモリ〉

「トラクタ設定」画面から設定変更できる項目を、設定状況を最大2通りまでメモリ（記憶）できます。

1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「メモリ」を選択します（色つき表示）。	
3. 記憶するメモリを選択します（色つき表示）。 **[参考]** 2種類の設定を保存できます。 4.「記憶」を選択します（色つき表示）。 画面に、数秒間「記憶中」と表示されたあと、「記憶に成功しました。」と表示されます。 以上で、メモリ（記憶）は完了です。 **[参考]** すでにメモリ（記憶）している設定にする場合は、「読出し」を選びます。	 

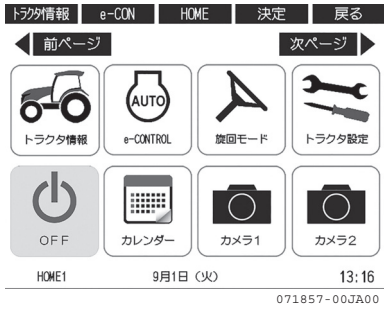
〈トラクタ設定の初期化〉

「トラクタ設定」画面から設定変更できる項目を、工場出荷時の設定にします。

1.「HOME1」画面で、「トラクタ設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「初期化」を選択します（色つき表示）。	
3. 画面の「初期化」の文字を選択し、プッシュ式ダイヤルを長押しします。 **[参考]** 起動ロック設定がONになっている場合は、「初期化」を長押ししたあとに、パスワード確認画面が表示されます。 正しいパスワードが入力されると初期化が実施されます。 以上で初期化は完了です。	

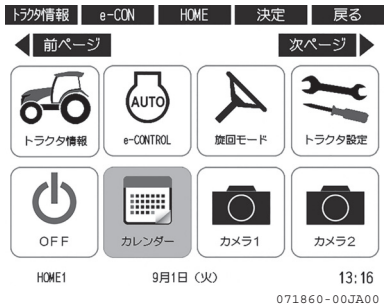
電源OFF設定

カラーモニターの表示を消す（画面消灯）ことができます。

1.「HOME1」画面で、「OFF」を選びます（色つき表示）。 2. カラーモニターが消灯します。 **[参考]** 再度カラーモニターを表示させたいときは、モニター上部の選択スイッチ、またはプッシュ式ダイヤルを操作してください。	

カレンダー機能

カラーモニターで今日の日付を確認できます。

1.「HOME1」で、「カレンダー」を選びます（色つき表示）。	
[参考] ● 今日の日付がオレンジで強調表示されます。 ● プッシュ式ダイヤルを回して、「前月」を選択すると前月のカレンダーが、「翌月」を選択すると翌月のカレンダーが表示されます。 ● 表示月の変更後に「今月」を選択すると、今月のカレンダー表示に戻ります。	

カメラ設定(オプション)

カメラ設定でバック連動を「ON」にすると、リバーサレバーを「R（後進)」位置にしたときに、カラーモニターにカメラ1の撮影映像が映ります。

[参考]

カメラはオプション設定です。詳しくは、トラクタをお買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

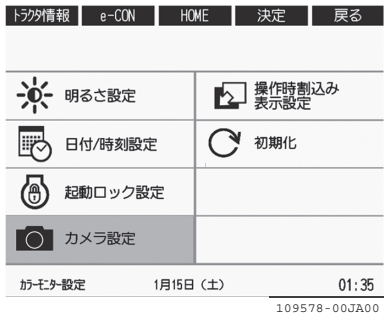
1. 「HOME2」画面で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示)。



2. 「カメラ設定」を選びます（色つき表示)。

[参考]

カメラ設定は、「カメラ1」有効時のみ表示されます。



3. 「バック連動」の「ON」「OFF」を切り換えます。

「ON」: リバーサレバーを「R（後進）」位置にしたとき、カラーモニターにカメラ1の撮影映像が映ります。

「OFF」: カラーモニターの表示は、リバーサレバーを「R（後進)」位置にしても変わりません。

以上でカメラの設定は完了です。



[参考]

- カメラ装着時に「HOME1」画面で「カメラ」を選択すると、右図のようにカメラ画像が表示されます。
- カメラをオプションで購入されていないときは、カラーモニターの「カメラ」は選択できません。



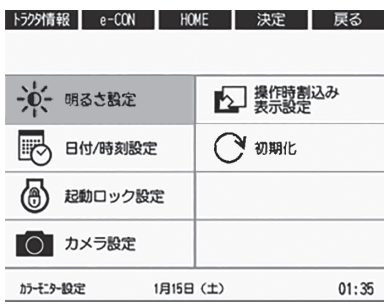
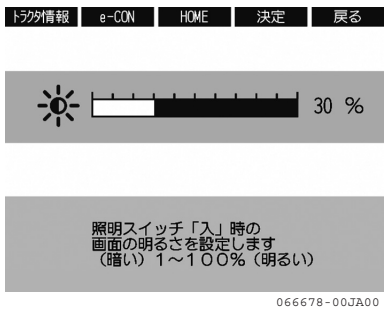
カラーモニター設定

カラーモニター設定は1画面で構成されます。
設定が変更できる項目は、

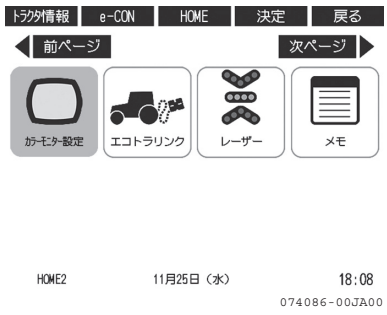
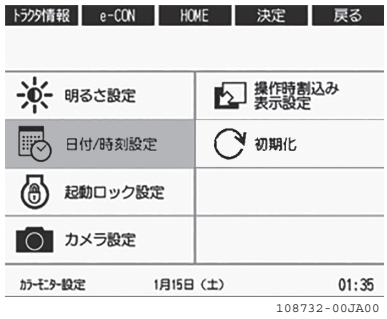
1. カラーモニターの明るさ	3. 起動ロック、パスワード
2. 日付/時刻	4. カメラ　などです。

[参考]
カメラ機能はオプションです。設定方法については、116 ページを参照してください。
操作時割り込み表示設定については、128 ページを参照してください。

〈カラーモニターの明るさ設定〉

1.「HOME2」画面で「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「明るさ設定」を選びます（色つき表示）。	
3. プッシュ式ダイヤルを回して、ワークランプ「入」時（夜間作業時）のカラーモニターの明るさを設定します。 4. 同じようにワークランプ「切」時のカラーモニターの明るさを設定します。 **[参考]** 工場出荷時は、「入」時30 %、「切」時100 %に設定されています。 以上で明るさ設定は完了です。	

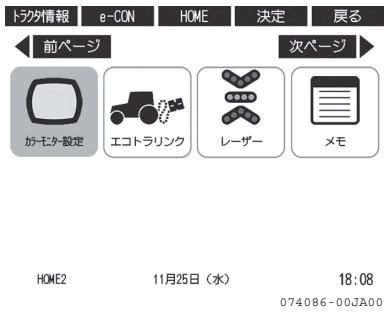
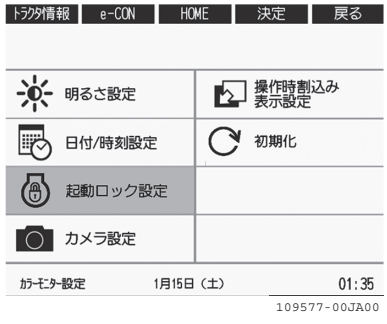
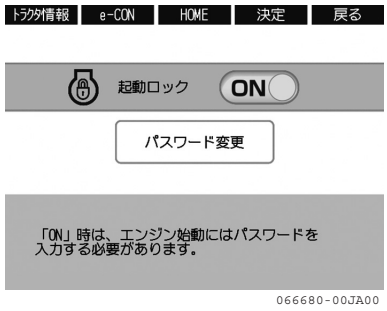
〈日付/時刻設定〉

1.「HOME2」画面で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「日付/時刻設定」を選びます（色つき表示）。	
3. 設定する年（西暦）・月・日・時・分を選び、プッシュ式ダイヤルを回して現在の日付・時刻に合わせます。 4. 設定が完了したら、「設定」ボタンを選択し、記憶させます。 以上で日付/時刻の設定は完了です。	

〈起動ロック設定〉

[参考]

- このトラクタには盗難抑止機能として、起動ロック機能が装備されています。
  起動ロック設定時は、正しいパスワードを入力しないとエンジンがかかりません。
  必ずパスワードを忘れないようにしてください。
- 10回以上パスワードを間違えると、盗難防止画面が表示され警報ブザーが鳴ります。
  10回以上パスワードを間違って入力する（認証失敗）と、エンジンはかかりません。
  このような場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAへご連絡ください。

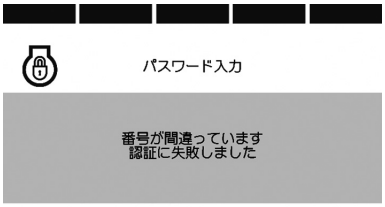
1.「HOME2」画面で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。	
2.「起動ロック設定」を選びます（色つき表示）。	
3. 起動ロックの「ON」「OFF」を選びます。 **[参考]** 工場出荷時は、起動ロックは「OFF」に設定されています。 起動ロックを「ON」にするには、パスワード設定が必要です。 詳しくは、120 ページを参照してください。 以上で起動ロックの設定は完了です。	

〈パスワード〉

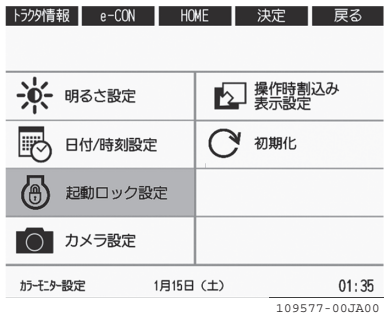
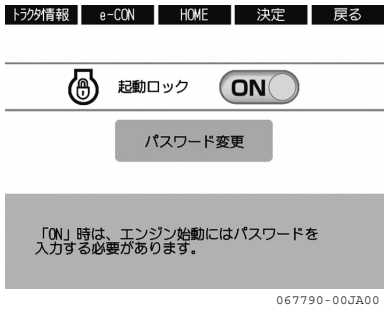
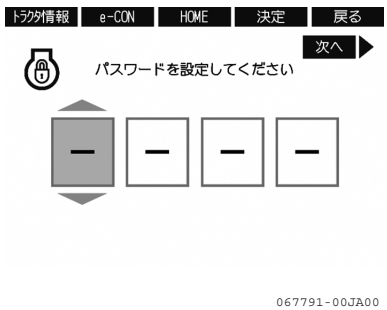
■ キースイッチ「ON(入)」時のパスワード入力

[参考]

このトラクタには盗難抑止機能として、起動ロック機能が装備されています。
起動ロック設定時は、正しいパスワードを入力しないと、エンジンがかかりません。
必ずパスワードを忘れないようにしてください。

1. キースイッチを「ON（入）」位置にします。 2. カラーモニターにHOME画面が表示されます。 このあと、「起動ロック」が設定されている場合は、「パスワード入力」画面が表示されます。	
3. プッシュ式ダイヤルまたは選択スイッチを操作して、4 桁のパスワードを入力します。 パスワードが合致すると、「HOME1」画面に移行します。 **[参考]** 10回以上パスワードを間違えると、盗難防止画面が表示され警報ブザーが鳴ります。 10 回以上パスワードを間違って入力する（認証失敗）と、エンジンはかかりません。このような場合は、お買い上げいただいた特販店または JA へご連絡ください。	 066656-00JA00  066681-00JA00

■ パスワードの設定方法

1. 「HOME2」画面で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。	
2. 「起動ロック設定」を選びます（色つき表示）。	
3. プッシュ式ダイヤルまたは選択スイッチを操作して、「パスワード変更」を選びます（色つき表示）。	
4. 現在のパスワードをプッシュ式ダイヤルまたは選択スイッチを操作して入力します。 1) 左の桁から順に入力します。 2) 反転している桁の設定が完了したら、プッシュ式ダイヤルを押し込みます。つぎの桁（右側）が色つき表示になります。 3) すべての桁が正しく入力されていることを確認して、「次へ」を選択します。 **[参考]** 一度、つぎの桁（右）に進むと、前の桁（左）には戻れません。入力を間違えた場合は、「戻る」ボタンで1つ前の画面に戻り、再度パスワードを入力してください。	 

5. 新しいパスワードを現在のパスワード入力（手順4.）と同じ要領で入力します。
6. もう一度同じパスワードを入力します。

以上で、パスワードの設定は完了です。

[参考]
パスワードを設定後は、いったんキースイッチを「OFF（切）」にして、1分以上お待ちください。



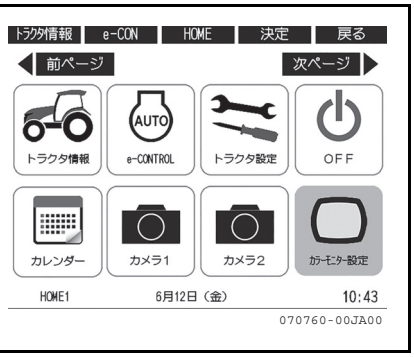
カラーモニター設定初期化

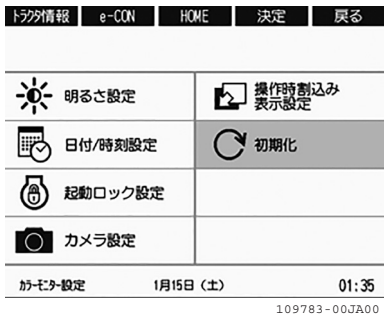
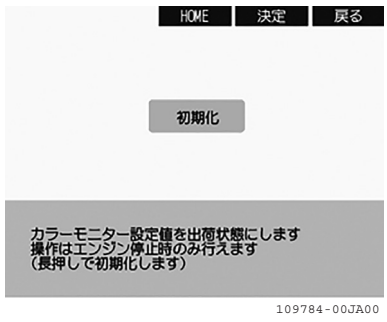
カラーモニターの設定を初期化できます。（トラクタ設定の初期化とは別機能です。）
初期化できる項目は、以下になります。

1. HOME画面順序
2. ショートカットメニュー
3. トラクタ情報の項目（トラクタ情報内の積算情報などの初期化は行いません）
4. 明るさ設定
5. 操作時割り込み表示設定
6. 起動ロック設定
7. カメラ設定
8. 作業機取付メモ

[参考]
- エンジン回転が500n/min以上の場合は初期化できません。エンジンを切ってから行ってください。
- 初期化中はショートカットなどの操作はできません。

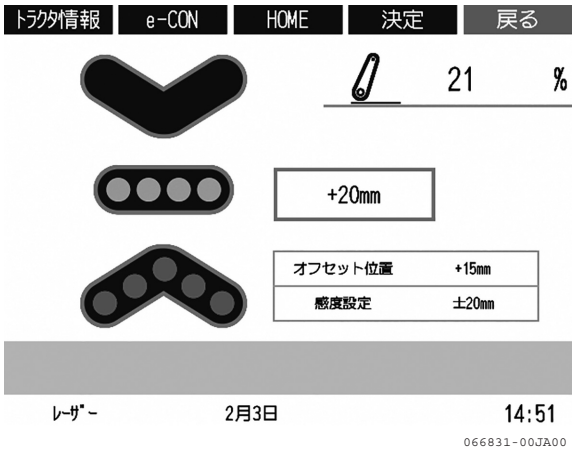
1.「HOME1」画面で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。



2.「初期化」を選択します（色つき表示）。	
3. 初期化画面が表示されたら、「初期化」を選んだ状態で「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを長押しします。 **[参考]** 起動ロック設定がONになっている場合は、「初期化」を長押ししたあとに、パスワード確認画面が表示されます。正しいパスワードを入力すると初期化が実行されます。	

レーザー均平装置（作業機装着時のみ）

作業機の制御内容をカラーモニターで確認できます。
また、制御内容の変更を行えます。詳しくは、作業機の取扱説明書でご確認ください。

レーザー均平装置装備時	
	

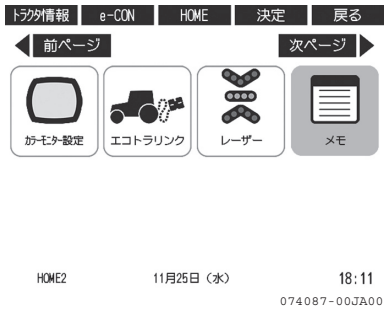
作業機メモ機能

「作業機メモ」には、作業機の取付位置やトップリンクの長さなどを登録できます。
複数の作業機をご利用の場合、作業機によって、トップリンクの寸法や穴位置などが異なる場合があります。
これらの情報を作業機メモに登録しておくと、作業機を付け替えるとき以前のマッチング状態が確認できるので大変便利です。

1. 「HOME1」画面で「次ページ」を選び、「HOME2」画面を表示します。



2. 「メモ」を選びます（色つき表示）。



「作業機取付メモ」ページが表示されます。

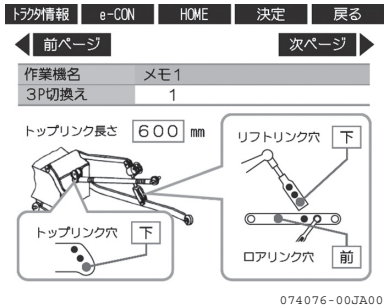
3. 登録するメモ番号を選んで（色つき表示）、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
   右画面では、「メモ1」が選ばれています。



[参考]

- メモは最大8項目まで登録できます。
- メモには、作業機名、3P切換えスイッチ位置、トップリンク長さ、およびトップリンク穴、リフトリンク穴、ロアリンク穴の位置が登録できます。

メモページが表示されます。

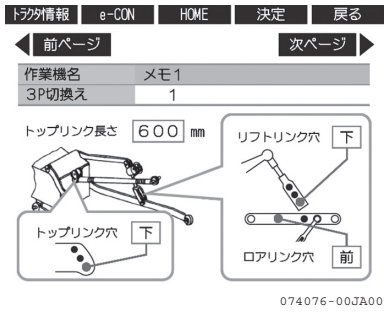


[参考]
右の画面で「前ページ」「次ページ」を選択した状態で「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押すと、1つ前（または後）のメモページが表示されます。

つぎに各項目の入力方法について説明します。

〈作業機名の登録〉

1. プッシュ式ダイヤルを回して、「作業機名」横の「メモ1」を選択します（色つき表示）。
   この状態で、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
   作業機名登録画面が表示されます。



074076-00JA00

2. 選択スイッチまたはプッシュ式ダイヤルを回して登録したい文字を選びます（色つき表示）。
   この状態で、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押すと、文字が登録され、カーソルがつぎの文字の入力箇所に移動します。2文字目以降も同様に入力します。

[参考]
文字の入力場所（カーソル）を移動させたい場合は、プッシュ式ダイヤルを回して、入力欄下側の「←」もしくは「→」を選び（色つき表示）、プッシュ式ダイヤルを押してください。

3. すべての文字の登録が完了したら、「完了」ボタンを選んだ状態（色つき表示）にして、プッシュ式ダイヤルを押します。
   メモページに戻ります。



070755-00JA00

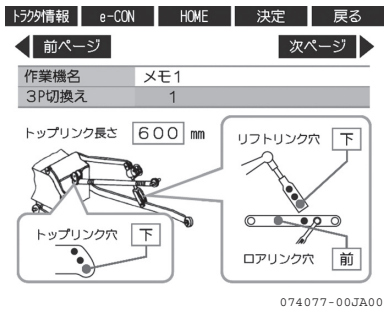
[参考]
- メモ欄には、カタカナ、ひらがな、英数の入力が可能です。
- 入力する文字の種類を切り換える（例：カタカナからひらがなに切り換える）場合は、画面左下の「切換」を選びます（色つき表示）。
  プッシュ式ダイヤルを押すたびに、「カタカナ」→「ひらがな」→「英数」→「カタカナ」…の順に入力モードが切り換わります。
- 小文字にするには、文字の右側にカーソルを合わせて「小文字」を選択します。「小文字」を選択するごとに小文字と大文字が切り換わります。
- 濁点（゛）や半濁点（゜）を付けるには、文字の右側にカーソルを合わせて「゛/゜」を選択します。「゛/゜」を選択するごとに濁点付き→半濁点付き→濁点・半濁点無しの順に切り換わります。
- メモ（作業記名）入力画面の「キャンセル」を選んで（色つき表示）プッシュ式ダイヤルを押すと、入力中の状態を保存せずに、メモページ（手順1の画面）に戻ります。
- 文字入力を修正（消去）する場合は、「リセット」または「消す」機能を利用します。「リセット」を選んだ状態（色つき表示）でプッシュ式ダイヤルを押すと、すべての文字が消去されます。「消す」を選んだ状態（色つき表示）でプッシュ式ダイヤルを押すと、点滅しているカーソルの左側1文字が消去されます。
- 入力できる文字数は最大10文字です。

〈3P切換えスイッチ位置の登録〉

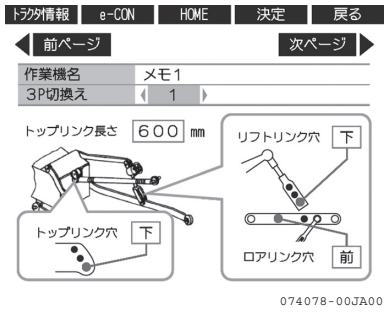
1. プッシュ式ダイヤルを回して、「3P切換え」横の数字（右画面では「1」を選択します（色つき表示）。
   この状態で「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
   3P切換え選択モードになります。
2. プッシュ式ダイヤルを回して、登録したい数字を選びます。

[参考]
数字は、「1」～「4」の4種類から選択できます。

3. 登録したい数値が表示されていることを確認して、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
   登録が完了し、3P切換え選択モードを終了します。



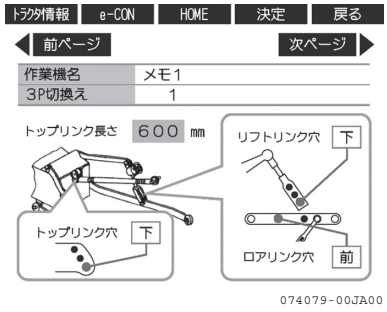
074077-00JA00



074078-00JA00

〈トップリンク長さの登録〉

1. プッシュ式ダイヤルを回して「トップリンク長さ」を選択します（色つき表示）。
   この状態で「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押します。
   トップリンク長さ登録画面が表示されます。



074079-00JA00

2. 選択スイッチの矢印またはプッシュ式ダイヤルを操作して、入力したい数値を選びます（色つき表示）。この状態で、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押すと、数値が登録され、カーソルがつぎの入力箇所（右側）に移動します。2けた目以降も同様に入力します。

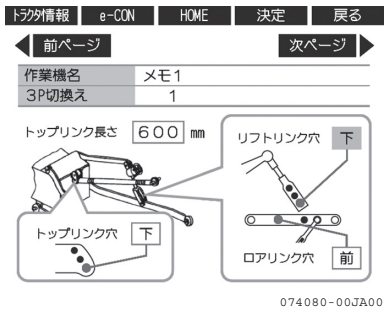
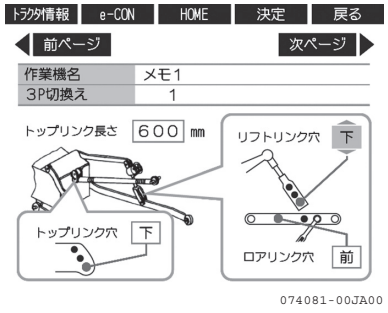
[参考]
- 入力できる数値は、0~999です。
- メモ（作業記名）入力画面の「キャンセル」を選んで（色つき表示）プッシュ式ダイヤルを押すと、入力中の状態を保存せずに、メモページ（手順1の画面）に戻ります。
- 数値入力を修正（消去）する場合は、「リセット」または「消す」機能を利用します。
  「リセット」を選んだ状態（色つき表示）でプッシュ式ダイヤルを押すと、すべての数値が消去されます。
  「消す」を選んだ状態（色つき表示）でプッシュ式ダイヤルを押すと、点滅しているカーソルの左側1けたが消去されます。



070743-00JA00

3. すべての桁の登録が完了したら、「完了」ボタンを選んだ状態（色つき表示）にして、プッシュ式ダイヤルを押します。メモページに戻ります。

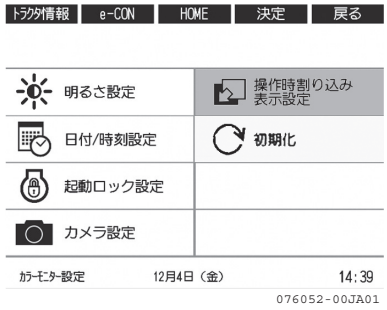
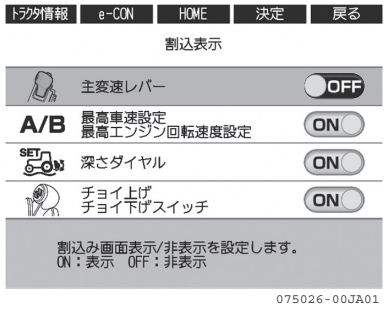
〈トップリンク穴位置、リフトリンク穴位置の登録〉

1. 1-プッシュ式ダイヤルを回して、登録したい項目を選択します（色つき表示）。 この状態でプッシュ式ダイヤルを押し、選択モードにします。 **[参考]** 右画面では、「リフトリンク穴」が選択されています。	
2. プッシュ式ダイヤルを回して、登録したい穴位置を選択します。 **[参考]** トップリンク穴は「上」、「中」「下」の3個所から、リフトリンク穴は「上」、「下」の2個所から選択できます。ロアリンク穴は1箇所です。	
3. 3-登録したい穴位置が表示されていることを確認したら、「決定」ボタンまたはプッシュ式ダイヤルを押して、選択モードを終了します。 以上でメモ登録は完了です。	

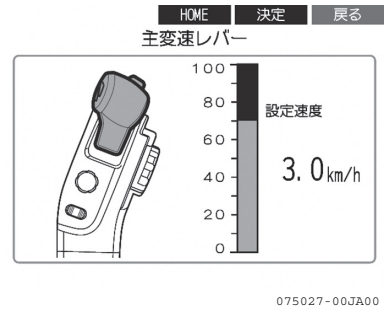
操作時割り込み表示機能

操作時割り込み表示機能は、カラーモニターに「HOME1,2」や「トラクタ情報1,2」などが表示されているときにはたらきます。
以下の操作部を操作したときにその操作内容をカラーモニターに表示します。
表示・非表示は設定画面から項目ごとに切り換えできます。
割り込み表示できるのはつぎの6つの操作です。

- 主変速レバー
- 最高車速・最高エンジン回転速度設定
- A⇔Bモード自動切換 増速確認
- 深さダイヤル
- チョイ上げ・チョイ下げスイッチ
- AUTO1スイッチ・AUTO2スイッチ

1.「HOME2」で、「カラーモニター設定」を選びます（色つき表示）。 2.「操作時割り込み表示設定」を選択します。	
3. 表示・非表示を切り換えたい項目を、プッシュ式ダイヤルを操作して選びます。 **[参考]** 工場出荷時は、主変速レバーが「OFF」（非表示）、主変速レバー以外はすべて「ON」（表示）に設定されています。	

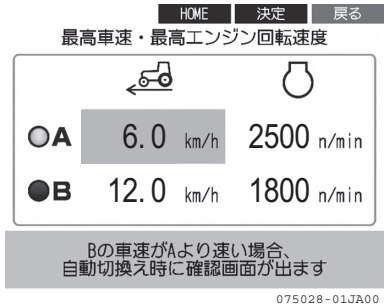
〈主変速レバー〉

主変速レバーを操作すると、そのレバー位置での設定速度と、主変速レバーのストローク位置が一定時間表示されます。	

〈最高車速･最高エンジン回転速度設定〉

A・Bモードの設定値を確認できます。
メーターパネルの表示が　ABモード画面に切り替わる状態（通常時）　でエンジン回転・車速設定ダイヤルまたはエンジン回転・車速切換スイッチを操作すると、カラーモニターに一定時間表示されます。
また、A⇔Bモード切換え操作を行うと表示され、現在の設定状況が確認でき、変更できる設定値が色つき表示されます。
※右図では、Aモードの車速設定がダイヤルで変更できます。

[参考]
エラーメッセージなどが表示されているときは、表示されません。



〈A⇔Bモード自動切換 増速確認〉

Bモードで設定した車速がAモードより速い設定の場合、自動切換時にカラーモニターに確認画面が表示されます。
最高車速・最高エンジン回転速度設定表示よりも優先して表示されます。

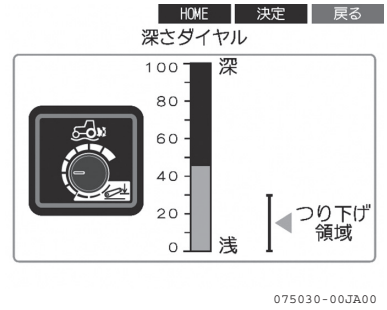
[参考]
この画面は、A⇔Bモード切換えスイッチを押すなどして増速確認を行う、またはAモードに切り換わるまで表示されます。



〈深さダイヤル〉

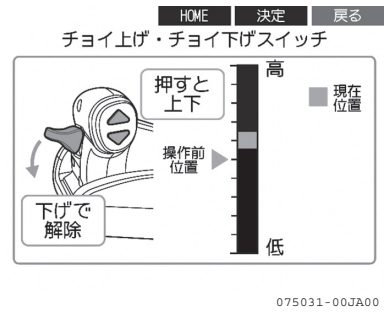
深さダイヤルを操作すると、そのダイヤル位置がパラメータとともに一定時間表示されます。

[参考]
- 深さ設定ダイヤルの浅い側3目盛り目（パラメータの目盛りの30）までが、「つり下げ制御」領域です。つり下げ制御については、157ページの「吊り下げ制御の使いかた」を参照ください。
- 右画面は、オートロータリー作業時の画像です。
  その他の作業では、「つり下げ領域」は表示されません。



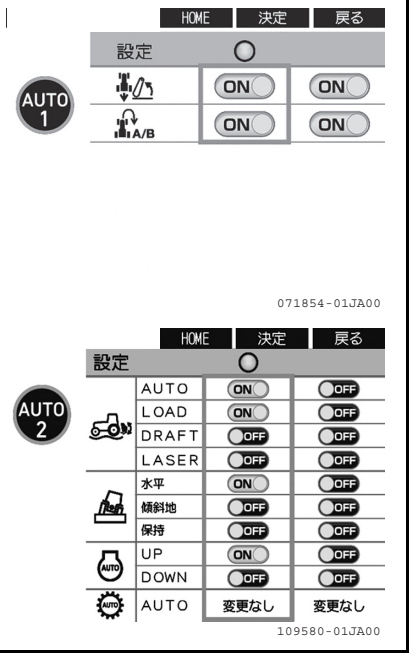
〈チョイ上げ･チョイ下げスイッチ〉

チョイ上げ・チョイ下げスイッチを操作すると、操作前の作業機の高さが棒グラフの左側に三角印で、操作後（現在の位置）がパラメータに一定時間表示されます。



〈AUTO1スイッチ・AUTO2スイッチ〉

AUTO1スイッチ/AUTO2スイッチを押すと、自動スイッチカスタマイズの画面が表示されます。



その他

テレスコバックミラー

バックミラーの位置を無段階に調節できます。

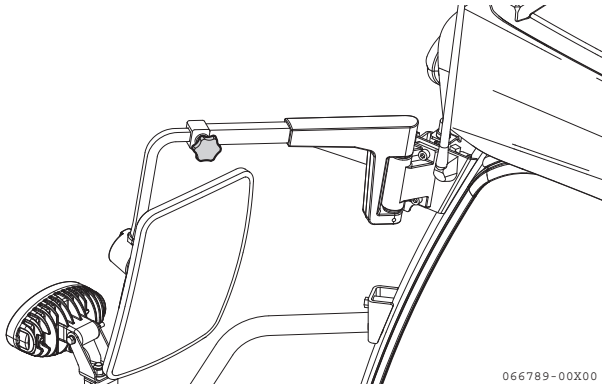


図 2-79 テレスコバックミラー

ノブボルトをゆるめてアームを伸縮させ、バックミラーを運転席から後方が見やすい位置に調節します。

[重要]

公道走行時は、必ず一番縮めた状態にしてください。

LED装飾灯、ワークランプ、サイドワークランプ

ワークランプスイッチで点灯、消灯します。

LED装飾灯、
サイドワークランプ…… ワークランプ SW3 で消灯・点灯します。
フロントワークランプ…… ワークランプ SW2 で消灯・点灯します。
リヤワークランプ…… ワークランプ SW5 で消灯・点灯します。
リヤワークランプ（オプション）…… ワークランプ SW7 で消灯・点灯します。
パトランプ（オプション）… ワークランプ SW4 で消灯・点灯します。

[参考]

SW1ですべてのワークランプを一括で点灯・消灯できます。

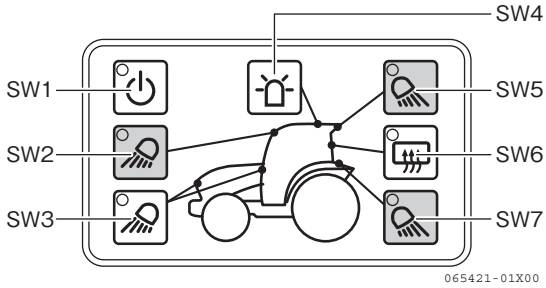
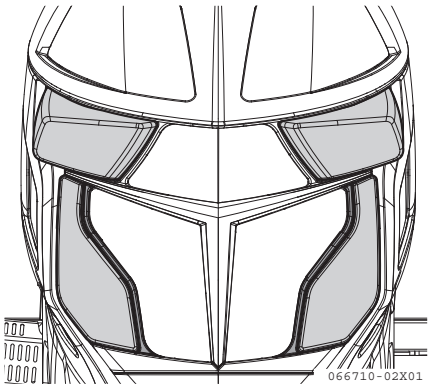


図 2-80 ワークランプスイッチ



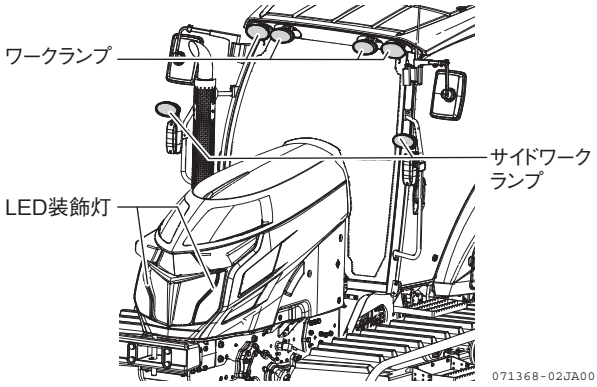


図 2-81 LED装飾灯、ワークランプ

外部操作スイッチ

⚠ 注　意

外部操作スイッチを操作するときは、必ず機体の外側から行ってください。
【守らないと】
作業機の昇降によりけがをするおそれがあります。

■ 油圧リフト外部操作スイッチ

油圧リフトを昇降させるときに使用します。

[参考]

PTO駆動スイッチ「切」位置のときのみ、操作できます。

1. 油圧リフト外部操作スイッチを操作している間、油圧リフトが作動します。
   操作スイッチの上側を押すと、リフトアームが上昇します。下側を押すと、リフトアームが下降します。

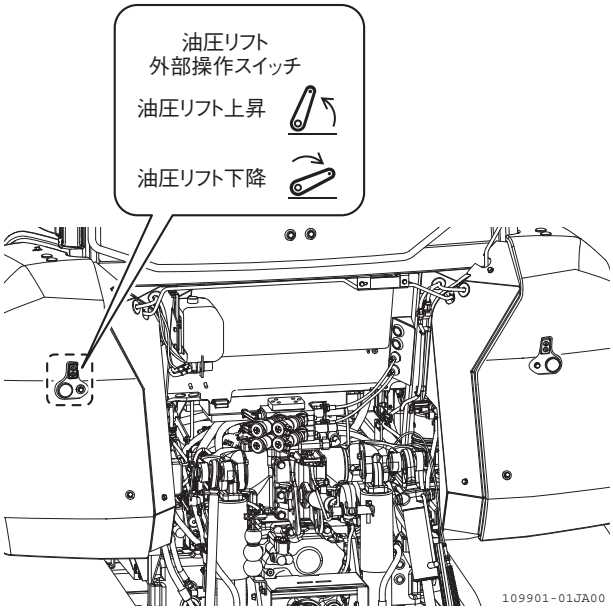


図 2-82 油圧リフト外部操作スイッチ

2. 作業機を装着するときは、左側のロアリンクピン位置を、油圧リフト外部操作スイッチで合わせます。右側は、傾斜シリンダ外部操作スイッチでピン位置を合わせます。

[重要]

外部操作スイッチを使って作業機を上昇するときは、リヤウインドに作業機のレバーが当たらないように、必ず作業機の位置を確認しながら少しずつ動かしてください。

■ 傾斜シリンダ外部操作スイッチ

傾斜シリンダを伸縮させるときに使用します。

1. 傾きモード切換スイッチを「切」位置にします。
2. 傾斜シリンダ外部操作スイッチを操作している間、傾斜シリンダが作動します。
   操作スイッチの上側を押すと、傾斜シリンダが短くなり、作業機が右上げ状態になります。
   下側を押すと、傾斜シリンダが伸び、作業機が右下げ状態になります。

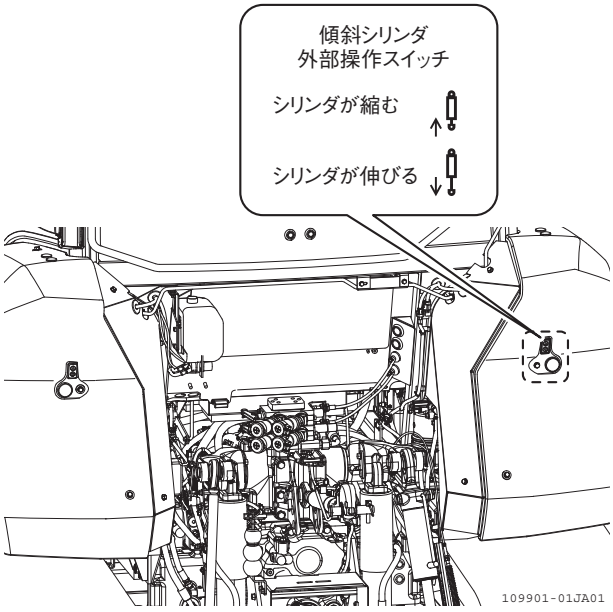


図 2-83 傾斜シリンダ外部操作スイッチ

ならし運転(最初の50時間)について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 最初の50時間目になったら、185 ページの「定期点検一覧表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

運転前の点検

⚠ 危　険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】
燃料に引火して、火災による死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動する場合は、閉めきった室内で行わないでください。

【守らないと】
排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 作業機の下に入るときは、油圧ストップ・スローリターンバルブをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。また、作業機の下にリジットラック（うま）をかけて落下防止をしてください。

【守らないと】
何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクターは常に掃除しておいてください。

【守らないと】
バッテリー、配線、マフラー、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着があると火災の原因になります。

- 点検整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

【守らないと】
やけどをするおそれがあります。

⚠ 注　意

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にトラクターを駐車させ、エンジンを停止してください。

【守らないと】
トラクターが突然動き出し、転落や追突事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクターの点検・整備などで外したカバー類は、元通りに取り付けてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検をするときは、作業に適した服装で行ってください。

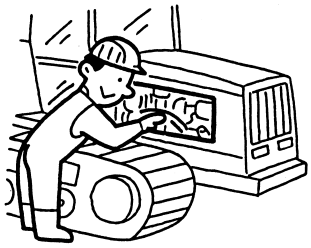
【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

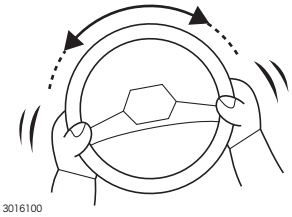
- 燃料パイプに破損がないことを確認してください。

【守らないと】
燃料漏れにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、つぎの順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所  2015408	前日の異常箇所 ● 前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	
トラクターの周りを回ってみて 	● 各部の変形・損傷・汚れはありませんか ● 車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか ● 燃料の量の確認、燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか	188・216
	● ミッションオイル、FDSオイルの量は正常ですか、 汚れ・油漏れはありませんか	194・199
	● バッテリー液の量は正常ですか	213
ボンネットを開けてみて  2010556	● エンジンオイルの量は正常ですか、汚れ・油漏れはありませんか	193
	● 冷却水の量は正常ですか、水漏れ・ホースの損傷はありませんか	200・216
	● エアクリーナは汚れていませんか	202
	● 冷却ファンベルトの張りは正常ですか、損傷はありませんか	223
	● コンプレッサ駆動ベルトの張りは正常ですか、損傷はありませんか	222
	● ラジエータやエンジンルーム内にほこりやごみはありませんか	202
	● 電気配線の被覆のはがれや接続部（カプラ）のゆるみはありませんか	217
	● ラジエータスクリーン、コンデンサスクリーンは汚れていませんか	202・203
作業機側へ回ってみて	● ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態は適正ですか ● 各部のRピンの差し込み状態は適正ですか 詳しくは作業機の取扱説明書をご覧ください	

点検順序	点検箇所	参照ページ
運転席に座ってみて  3016100	● ブレーキの作動具合は適正ですか	221
	● ハンドルの操作は正常にできますか	222
	● クラッチペダルの作動具合は適正ですか	222
エンジンを始動してみて  2015457	● エンジン始動後の異音はありませんか	
	● 排出ガスは、正常な色をしていますか	228
	● ランプ・メーター類の作動は正常ですか	68

運転前の準備

⚠ 注　意

取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しないでください。また、作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。
【守らないと】
誤作動などにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

運転席周りの調節

⚠ 注　意

運転席(ドライバーシート)およびバックミラーの調節は、必ずトラクターが停止した状態で行ってください。
【守らないと】
走行しながらの調節は事故を起こすおそれがあります。

チルト調節レバー

ハンドル角度を操作しやすい位置に調節できます。
調節方法は、51 ページの「チルト調節レバー」を参照してください。

[重要]
調節後は、ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

テレスコ調節レバー

ハンドル高さを操作しやすい位置に調節できます。
調節方法は、52 ページの「テレスコ調節レバー」を参照してください。

[重要]
調節後は、ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

運転席(ドライバーシート)

ハンドルやレバー類・ペダルなどが楽に操作できる、ゆとりのある位置にシートを調節できます。
調節方法は、53 ページの「ドライバーシート」を参照してください。

バックミラー

走行前に後方が十分に確認できるよう、バックミラーの位置を調整します。
狭い場所へトラクターを格納するときは、バックミラーを前側にたたみます。

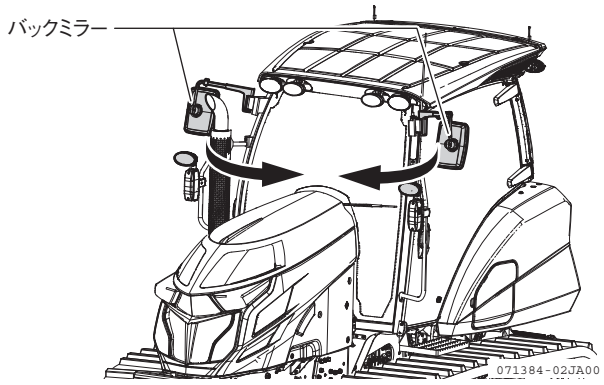


図 2-84 バックミラー

[重要]
右側のバックミラーを収納位置にするときは、ノブボルトをゆるめ、バックミラーをいっぱいまで伸ばし、マフラーに干渉しないように角度を少し傾けてから動かしてください。

バックミラーはノブボルトをゆるめ、アームを内外に伸縮できます。
調節後は、ノブボルトで固定します。

シートベルトの装着のしかた

⚠ 警　告

トラクターを運転するときは､必ずシートベルトを着用してください。
【守らないと】
転倒・転落事故のときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転者の身体を、ドライバーシートに固定するために使用します。

シートベルトの装着のしかた

ドライバーシートに上体を起こして座り、腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようにして、「カチリ」と固定音がするまで金具を差し込みます。

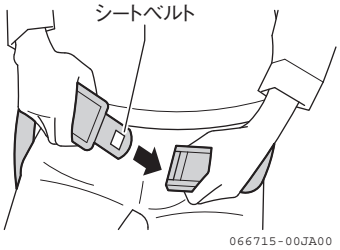


図 2-85 シートベルト

シートベルトの外しかた

シートベルトを外すときは、バックルの「PRESS」ボタンを押します。

[参考]
このトラクターは、巻き取り式シートベルトを採用しています。一度ロックすると、そこからさらに引き出すことはできません。
シートベルトの巻き取り部にレバーがあります。このレバーを押すと、シートベルトを引き出せます。また、レバーを押して手を離すと巻き取ります。

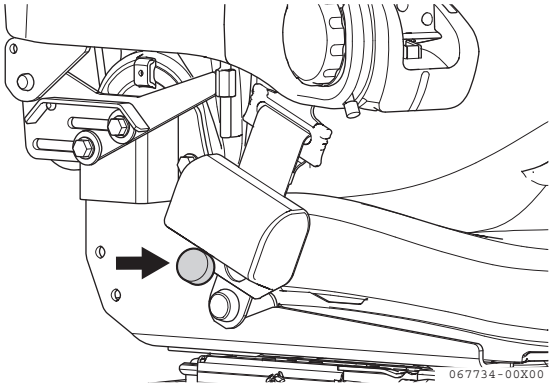


図 2-86

エンジンの始動と停止

エンジンの始動のしかた

⚠ 警　告

- 閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】
排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- スタータ回路やブースター端子、安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。

【守らないと】
トラクターが突然動きだし、転落や追突事故などを引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- エンジンを始動するときは、以下のことを必ず守ってください。
  - 平たんな場所で運転席に座り、シートベルトを着用してください。
  - 各変速レバー（リバーサ・PTO変速・副変速）が「N（中立）」位置にあること、PTO 駆動スイッチが「切」位置にあることを確認してください。
  - 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
  - 周囲の安全を確認し、エンジン始動前にホーンを鳴らして合図をしてください。

【守らないと】
トラクターが突然動きだし、転落や追突事故などを引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- つぎのようなことを行う場合、安全のため各変速レバー（リバーサ・PTO 変速・副変速）を「N（中立）」位置にして、駐車ブレーキをかけてください。
  - 暖機運転を行うとき
  - 作業機の脱着を行うとき
  - トラクターから離れるとき

【守らないと】
トラクターが突然動きだし、転落や追突事故などを引き起こすおそれがあります。

- トラクターの作業前後には、「運転前の点検」（133 ページ）に従って必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーやスイッチなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。

【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して、点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

[重要]

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
  （10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを切って 1 分以上休止してから、手順8. ～9. の操作を繰り返してください）
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START（始動）」位置にしないでください。
- PTO駆動スイッチを「切」、リバーサレバーを「N（中立）」位置にしないと、安全スイッチのはたらきによりエンジンが始動できません。

1. ウォータセパレータを燃料コックをON（開の状態）位置（図 2-87）にします。

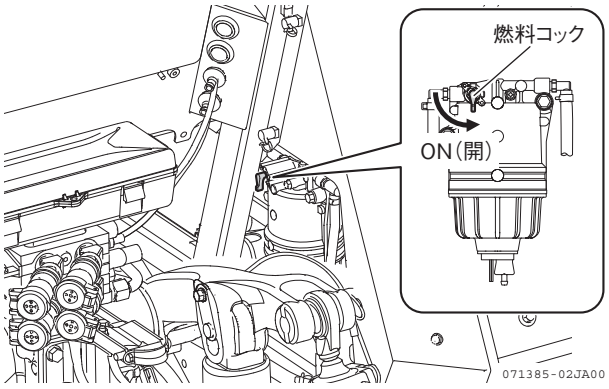


図 2-87

2. 駐車ブレーキレバー（図 2-88）をかけます。

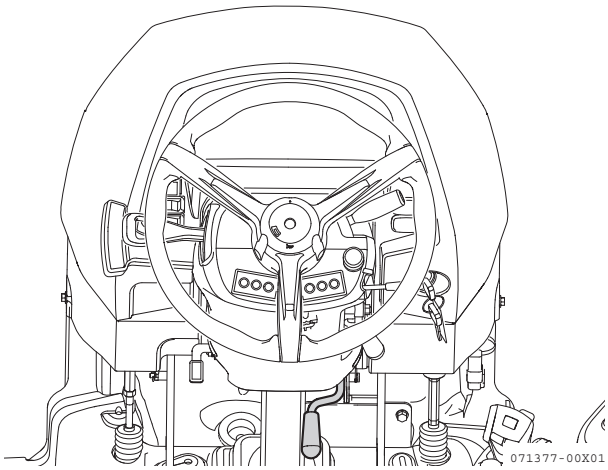


図 2-88

3. 副変速レバー（図 2-89）を「N（中立）」位置にします。

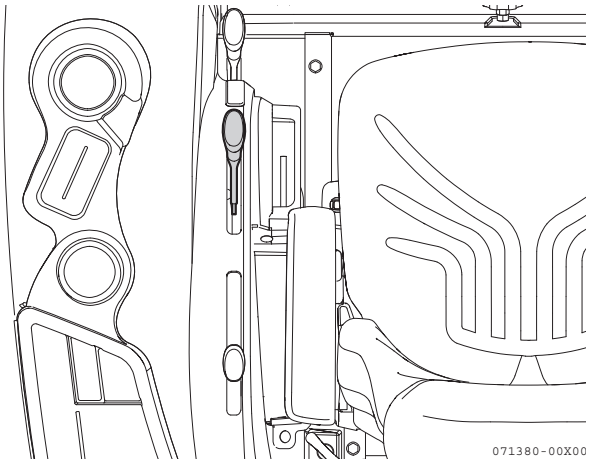


図 2-89

4. リバーサレバー（図 2-90）を「N（中立)」位置にします。

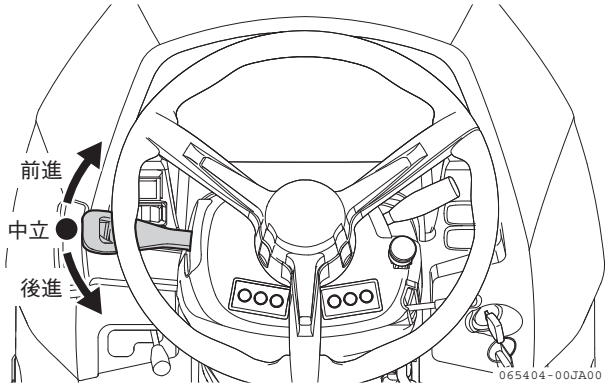


図 2-90

5. PTO 駆動スイッチ（図 2-91, 1）を「(切)」位置にします。
6. アクセルレバー（図 2-91, 2）を「遅い」側にします。

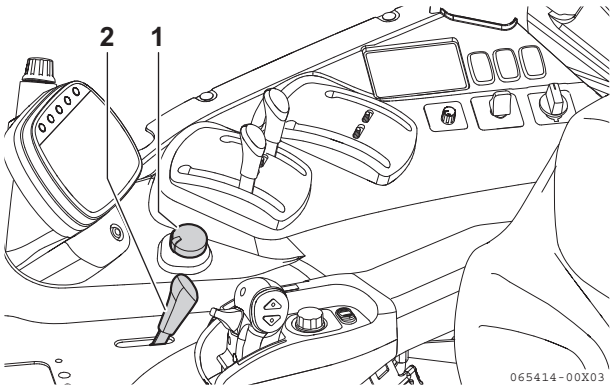


図 2-91

7. キーをキースイッチ(図 2-92)に差し込み、「ON(入)」位置にします。

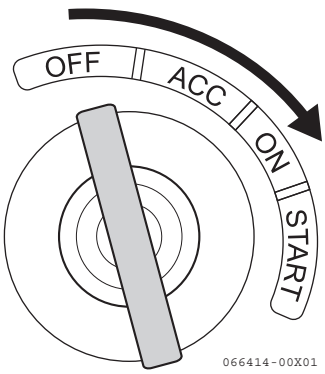


図 2-92

[参考]
キースイッチを「ON（入）」位置にしたとき、メーターパネルのすべてのランプが点灯し、2秒後に消灯します。

〈メーターパネルの表示〉

● PTO駆動スイッチ表示（図 2-93）



図 2-93

PTO駆動スイッチが「入」のときに表示されます。必ずPTO駆動スイッチを「切」にしてください。

● リバーサニュートラル表示（図 2-94）



図 2-94

リバーサレバーが「F（前進）」または「R（後進）」位置のときに表示されます。必ず「N（中立）」位置にしてください。

● グローヒーター作動表示（図 2-95）

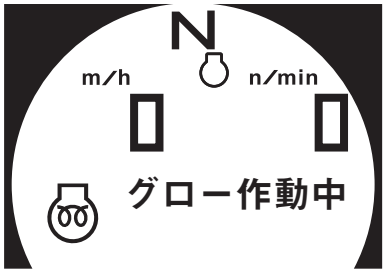


図 2-95

エンジンが暖まっているときは表示されません。

8. キースイッチを「START（始動）」位置にします。セルモータが回り、エンジンが始動します。
9. エンジンが始動したら、キースイッチから手を離します。キースイッチが自動的に「ON（入）」位置に戻ります。
10. アクセルレバーでエンジン回転計の針を1500 n/min程度に合わせて（図 2-96）、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行います。

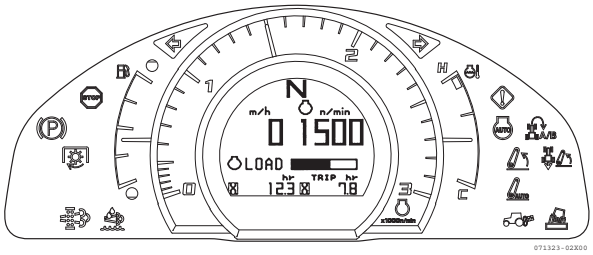


図 2-96

[参考]
エンジン回転速度は、メーターパネルでも確認できます。

[重要]
寒冷時は、暖機運転を行わないと満足する性能が得られないことがあります。つぎの表を目安に、暖機運転を長めに行ってください。

表 2-17 暖機運転の時間

気温	暖機運転時間
0 ℃～−10 ℃	10分以上
−10 ℃～−20 ℃	20分以上
−20 ℃以下	30分以上

エンジンの停止のしかた

⚠ 注　意

トラクターを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。
【守らないと】
児童などが操作し、けがをするおそれがあります。

[重要]
「ACC」位置にしたまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

1. アクセルレバー（図 2-97）をいっぱいまで「遅い」側にします。エンジン回転が下がります。

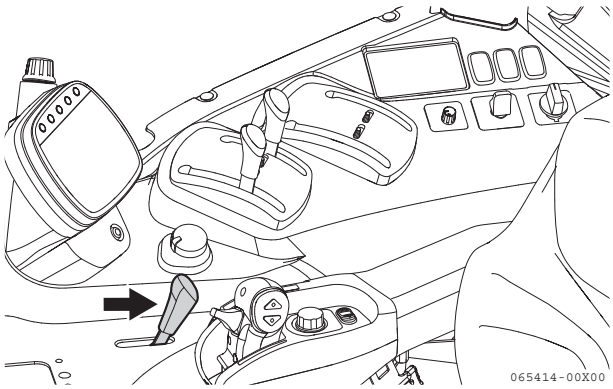


図 2-97

2. 各変速レバーを「N（中立）」位置にします。
3. PTO駆動スイッチを「切」位置にします。
4. キースイッチを「OFF（切）」位置にします。エンジンが停止します。
5. 駐車ブレーキレバーを操作し、駐車ブレーキをかけます。

[重要]
エンジン停止後、各変速レバーが「N（中立）」で、駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。

運転操作

発進・走行のしかた

⚠ 注　意

- 発進は、ゆっくり行ってください。
  急発進すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 発進するときは、周囲の安全を確認しホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

【守らないと】
作業者がトラクターの発進に気づかず、けがをするおそれがあります。

- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

1. エンジン回転計の針が 1500 n/min 程度を指すように、アクセルレバーでエンジン回転速度を調節します。

[参考]
エンジン回転速度は、メーターパネルでも確認できます。

2. 作業機上下ダイヤル（図 2-98）を「上」方向に操作して、作業機を「最上げ」位置にします。

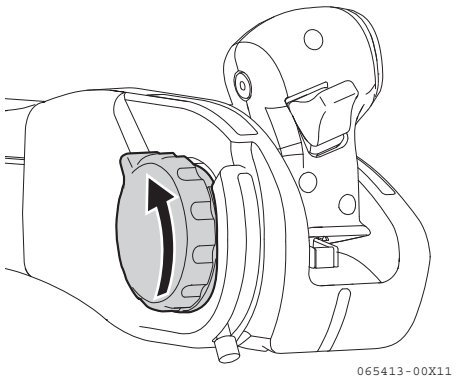


図 2-98

3. クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込み、副変速レバーを希望の速度段に入れます。

[参考]

走行速度については、263 ページの「車速・PTO回転・爪軸回転」を参照してください。

4. ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバー（図 2-99）を希望の位置にします。

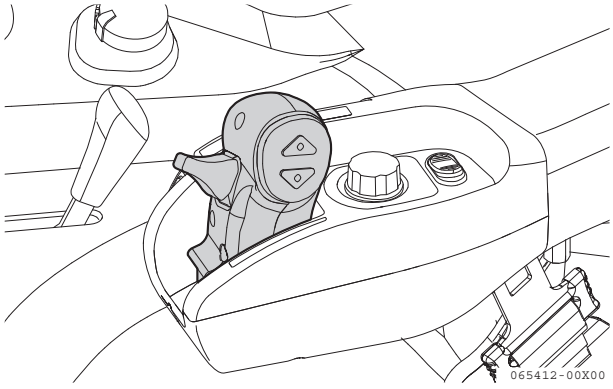


図 2-99

5. ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキを解除します。
6. リバーサレバーを「F（前進）」または「R（後進）」位置に入れます。
7. ブレーキペダルの踏み込みをゆっくりと戻します。トラクターが動き始めます。

[重要]

- **走行中や作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないでください。**
- **クラッチペダルを踏み込むと動力が切れて、坂道ではずり下がることがあります。必ずブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。**

[参考]

- 主変速レバー・リバーサレバーはクラッチペダルを踏まずに操作できます。
- 副変速レバーは必ず停止して、クラッチペダルを踏んでから変速操作をしてください。
- 通常作業時や道路走行時はクラッチペダルを併用せずブレーキペダルのみで停止・発進してください。

[参考]

- トレーラー作業時に上り坂などけん引力を必要とする場合は、副変速レバーを「1 速」位置にしてください。坂の途中で変速すると危険ですので、坂道にさしかかる前に変速してください。坂道でクラッチペダルを踏むと、動力が切れずり下がることがあります。
- 駐車ブレーキレバーをかけたままで発進すると、メーターパネルに以下の画面（図 2-100）が表示され、ブザーが鳴ります。



図 2-100

このような場合は、一度、走行を停止し、駐車ブレーキを解除してから再度走行してください。

変速のしかた

主変速レバー

ノークラッチで無段階に変速できます。(図 2-101)
レバーを前方に動かすと速度が速くなり、手前に引くと速度が遅くなります。

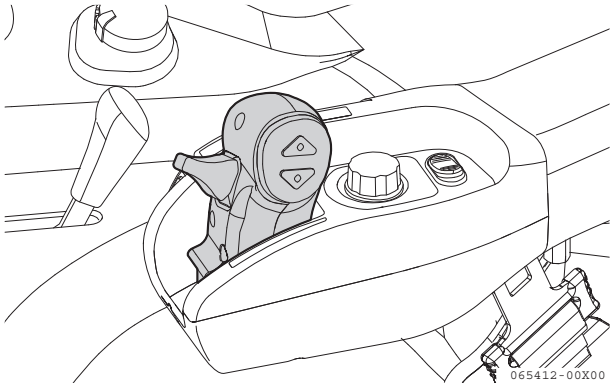


図 2-101 主変速レバー

[重要]
リバーサレバーが「F(前進)」または「R(後進)」位置にある場合は、主変速レバーを手前いっぱいに引いてもトラクターは停止しません。リバーサレバーで指示された方向へ微速で進みます。
停止させる場合は、必ずリバーサレバーを「N(中立)」位置にしてください。

● 最高速度設定について
エンジン回転・車速設定ダイヤル (図 2-102, 1) を使って、最高速度を任意に設定できます。

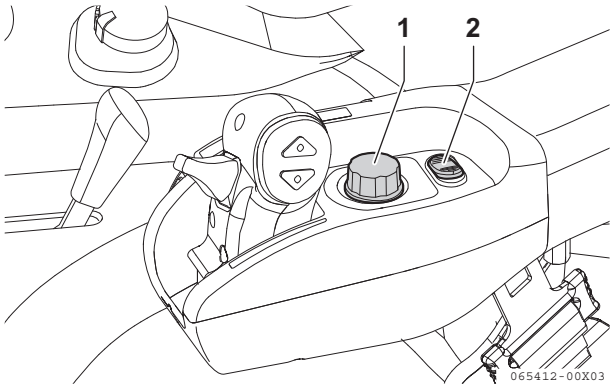


図 2-102

エンジン回転・車速切換スイッチ(図 2-102, 2)を「(車速)」側にした状態で設定ダイヤルを回し、調整します。

主変速レバーやリバーサレバーの位置にかかわらず、走行中でも変更できます。
(実車速も変更されます)

[参考]
メーターパネルまたはカラーモニターに設定値が表示されている場合は、設定値を変更できます。

副変速レバー

副変速レバー (図 2-103) は、リバーサレバーを「N(中立)」位置にし、エンジン回転を下げ、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、トラクターの走行が停止してから操作します。変速後は、クラッチペダルの踏み込みをゆっくりと戻します。

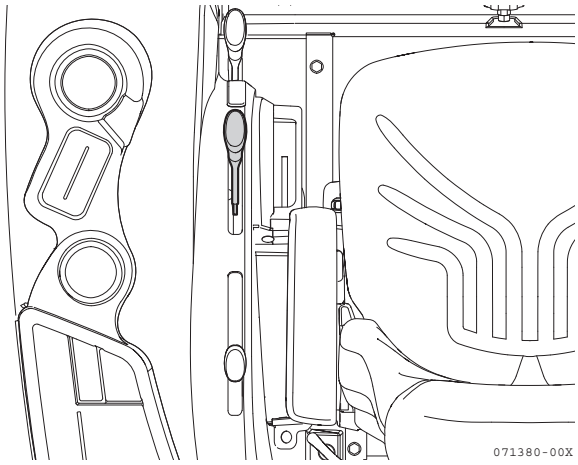


図 2-103 副変速レバー

リバーサレバー

リバーサレバーはクラッチペダルを踏み込まずに前後進の進行方向の切り換えができます。

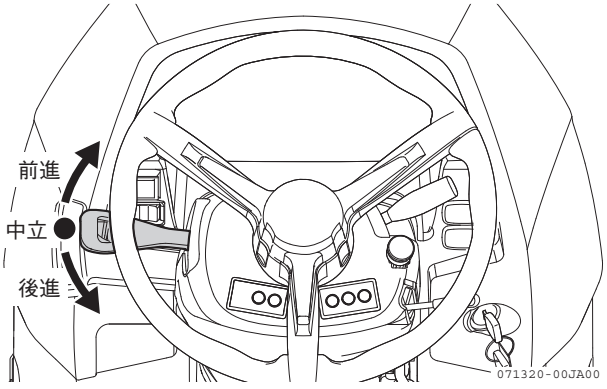


図 2-104 リバーサレバー

停車･駐車のしかた

⚠ 注　意

- 駐車するときは、トラクターを平たんで安定した場所に止め、作業機を地面に接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキレバーをかけてクローラに車止めをしてください。
  また、各変速レバー（リバーサ・副変速・PTO変速）が「N（中立）」位置になっていることを確認してください。トラクターから離れるときは、必ずキーを抜いてください。

【守らないと】
トラクターが動き出し､けがをするおそれがあります。

- トレーラーなどをけん引しているときは、ブレーキをかけたときの制動距離が長くなります。停車するときは、急ブレーキ操作はせずに、けん引物の重量に注意しながらブレーキ操作を行ってください。

【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1. アクセルレバー(図 2-105)をいっぱいまで「遅い」側にします。トラクターの速度が下がります。

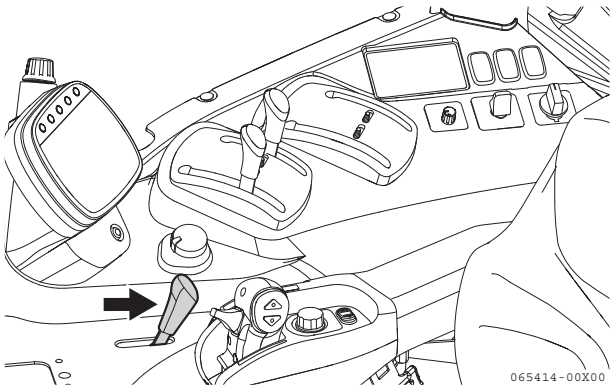


図 2-105

2. ブレーキペダル（図 2-106）を踏み込みます。トラクターが停止します。

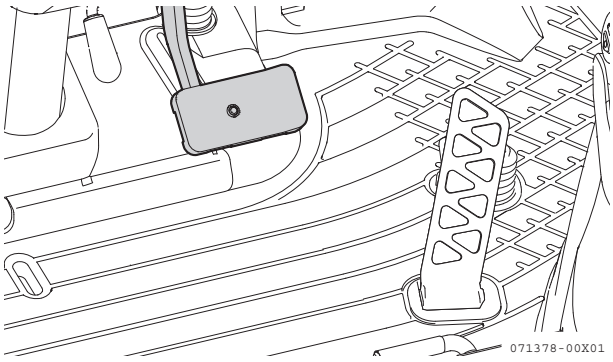


図 2-106

3. トラクターが完全に停止したことを確認し､各変速レバー（リバーサ、副変速、PTO変速）を「N（中立）」位置にします。また、PTO 駆動スイッチを「切」位置にします。
4. 駐車ブレーキをかけます。
5. 作業機を取り付けている場合は､作業機上下ダイヤル（図 2-107）を「下」方向に操作して、ゆっくりと作業機を地面に下ろします。

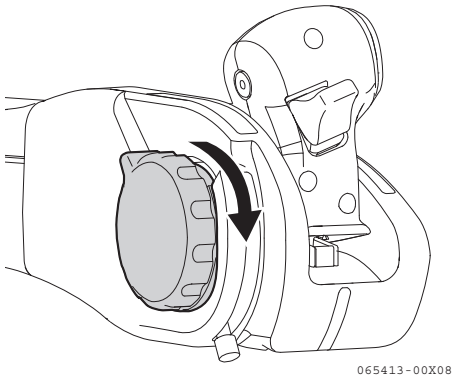


図 2-107

6. キースイッチを「OFF（切）」位置にします。
7. キーを抜きます。

[参考]
リバーサレバーが「F（前進）」または「R（後進）」位置にあるときに、ブレーキペダルを踏み込み5秒間そのままの状態でいると、メーターパネルに以下の画面（図 2-108）が表示されます。
駐車する場合は、必ず駐車ブレーキをかけてください。

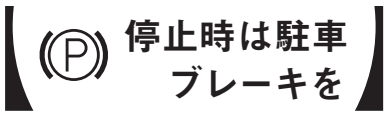


図 2-108

夜間運転のしかた

[重要]
夜間運転時、下記を併用した状態で長時間エンジンを低回転域で使用しないでください。
バッテリーの早期消耗に至り、エンジンの始動ができなくなることがあります。
・ヘッドランプ
・ワークランプ
・エアコン
・外部電源取り出し

道路走行のしかた

⚠ 警　告

- 道路走行時は、以下の自動機能を「切」位置にしてください。
  - ・ バック上昇
  - ・ UFO自動（深さ・傾き自動）
- 高速走行時は、前後進を切り換えるためにリバーサレバーを急操作しないでください。
- PTO駆動スイッチを「切」位置、PTO変速レバーを「N（中立）」位置にして、走行してください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。
  - ・ 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
  - ・ 旋回するときは、トラクターの速度を落としてください。
  - ・ 坂道や凹凸道、カーブの多い場所ではトラクターの速度を落としてください。

【守らないと】
転倒や追突事故のおそれがあります。

⚠ 注　意

- 公道を走行するときは、必ず作業機を外し、道路交通法規を守ってください。
  公道では作業機を装着したトラクターの走行は、道路運送車両法違反となります。
  また、作業機を装着して走行すると、車・人・電柱などに引っかけて思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- 走行速度はフートアクセルペダルで調節してください。
- 進路変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らさなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追い越しの妨害にならないようにしてください。
- 夜間走行時ライトを点灯し、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っているところは、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。

【守らないと】
事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- 夜間走行時、ワークランプ・サイドワークランプは必ず消灯して走行してください。
- 油圧ストップバルブは開いたままで、作業機上下ダイヤルを「上」位置（図 2-109, 1）にして、ストッパーを固定（図 2-109, 2）して走行してください。
  守らないと、油圧部品の破損を引き起こすおそれがあります。

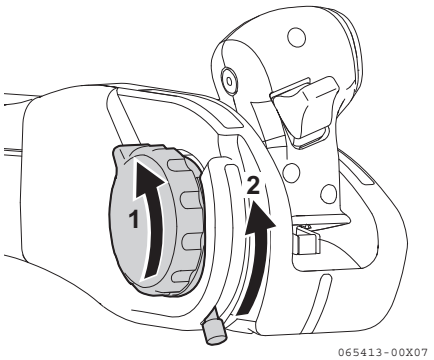


図 2-109

1. バック上昇切換スイッチ（図 2-110）を操作して、バック上昇機能を「切」にします。

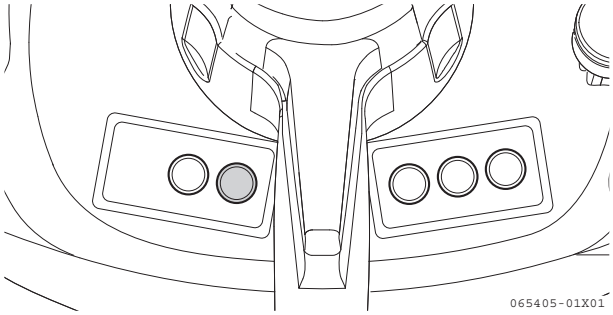


図 2-110

2. PTO駆動スイッチ（図 2-111）を「切」位置に、PTO変速レバー（図 2-112）を「N（中立）」位置にします。

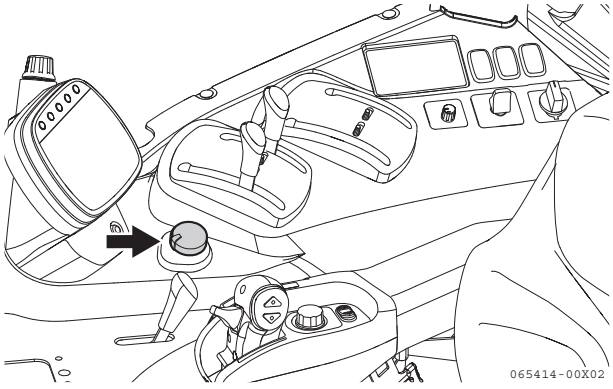


図 2-111

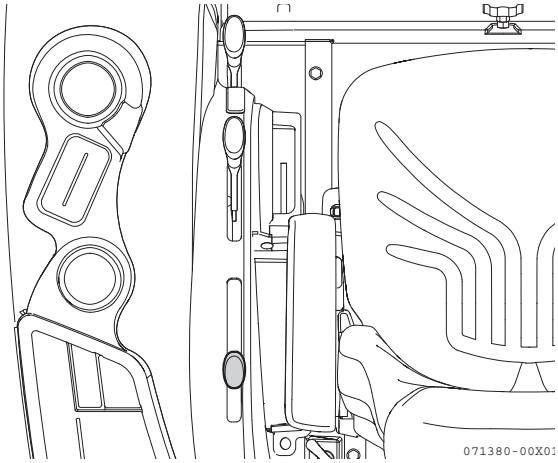


図 2-112

3. 油圧ストップ・スローリターンバルブ(図 2-113)をいっぱいまで左側に回して開きます。

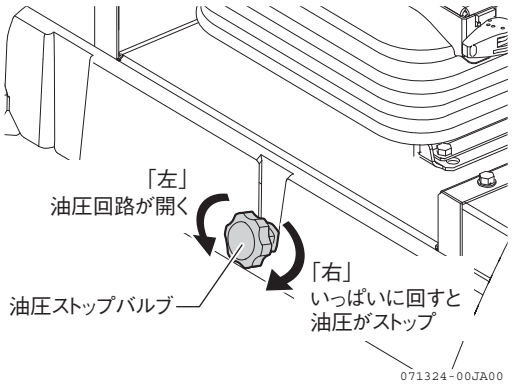


図 2-113

4. 作業機上下ダイヤル（図 2-114, 1）を「上」位置にして、ストッパー（図 2-114, 2）で固定します。

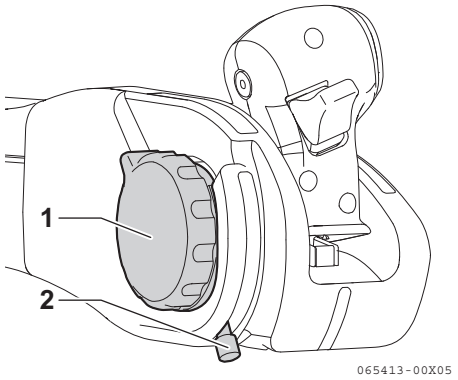


図 2-114

[重要]

道路走行時は、作業機上下ダイヤルを「上」位置にして、ストッパーで固定してください。
守らないと、作業機上下ダイヤルに手が当たったとき、ダイヤル位置が変わり、作業機が下降し、機械が破損するおそれがあります。

5. 走行中の操作は、以下のように行います。
   - 走行スピードはフートアクセルペダルで調節してください。
   - 進路を変更するときは、フラッシャスイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。
   - バックミラーで後続車に注意し、追い越しの妨害にならないようにしてください。
   - 夜間走行時ライトを点灯し、対向車とすれ違うときは、ライトスイッチを下方照射にし、対向車の妨害にならないようにしてください。
   - サイドワークランプ・ワークランプおよびLED装飾灯は消してください。

坂道での運転のしかた

⚠ 警　告

- あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の途中では、変速したり、クラッチペダルを踏み込まないでください。必ず低速で運転してください。

【守らないと】
トラクターが急に下がりだし、暴走により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 坂道の途中では、リバーサレバー・副変速レバーを「N（中立）」位置にしないでください。
- 上り坂で急発進すると、機体前方がはね上がり大変危険です。エンジン回転を落としてゆっくりと発進してください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する場合は、クローラに車止めをし、駐車ブレーキをかけてください。

1. 坂道に入る前にゆっくりした速度を選択して、副変速は「1速」位置にします。
2. 坂道に合わせてつぎのように走行します。

〈上り坂・下り坂の場合〉
発進する場合は、副変速を「1 速」に入れ、遅い変速位置にし、エンジン回転を落として、ゆっくりと発進してください。

〈急な下り坂の場合〉
クラッチペダルを踏まずに、エンジンブレーキを活用してください。

■ 道路走行時は低速車マークを装着する

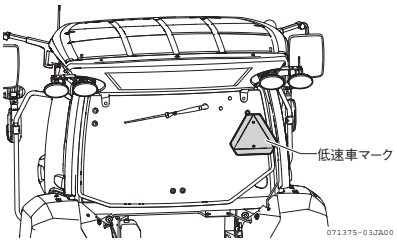


図 2-115 低速車マーク

- 道路を走行するときは低速車マークを装着してください。
- 低速車マークは後続車からの視認性を高め、追突事故の防止に役立ちます。

作業について

⚠ 危　険

ロータリーなどPTO作業機の着脱、調整、掃除をするときは、作業機の回転が完全に止まるまで待ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- トラクターの前部または後部に重い作業機を装着したときは、必ずバランスウエイトを使用し、トラクターのバランスを適正に保ってください。人や物をバランスウエイトの代わりに乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】
転落事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクターを移動して作業機の着脱をするときは、平たんで安全な場所で行ってください。夜間に行う場合は、適切な照明を確保してください。また、トラクターの周辺や作業機との間に、人が入らないようにしてください。
- トラクターに作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書をよく読んで理解してください。
- 爪に巻き付いた草などを取るときは，エンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。
- 人（特に子供）には十分注意し、トラクターに近づけないでください。
- わき見、手放し運転はしないでください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】
万一､作業機が下がったときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- ハウス内で作業するときは、排出ガスが充満しないように、十分換気をしてください。

【守らないと】
排出ガスによる中毒を起こし､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。

【守らないと】
大きすぎたり､小さすぎたり､バランスの悪い作業機を装着すると､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合には、作業機を最上げにすると作業機の調整レバーなどが干渉し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
  つぎの要領で装着および操作してください。
  - 作業機を装着し、トラクター本体やキャビンに干渉しないように、上げ位置ダイヤルで上げ高さを規制してください。
  - 上げ高さ設定時はエンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機を上げてください。

⚠ 注　意

- ほ場でのロータリー作業では、地面が硬かったり、石の多いところでは、回転する爪の勢いでトラクターが思わぬ方向に飛び出す（ダッシング）ことがあります。ロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。
- トラックへの積み・降ろしや、作業機着脱・調整時は、バック上昇などの自動装置は「切」にしてください。また、作業機昇降スイッチでの作業機の昇降はしないでください。

【守らないと】
事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]
ヘッドランプ、ワークランプ、エアコンや外部電源取り出しを併用した状態で、長時間エンジン低回転域で使用しないでください。
バッテリーの早期消耗に至り、エンジンの始動ができなくなることがあります。

ほ場への出入りのしかた

⚠ 警　告

- ほ場への出入り、あぜ越え、段差を乗り越えるときは、高低差が大きいと危険です。アユミ板を使用してください。
- 急な傾斜を登る場合は後進で、降りる場合は前進で行ってください。
- バック上昇機能を「切」にしてください。

【守らないと】
転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。

1. ほ場への出入りは、ほ場に対して直角に出入りします。
2. あぜを上がるときは、作業機を低くして、トラクターの重心を下げます。機体前方が浮き上がりにくくなります。
3. クローラが斜面を完全に上がりきってから作業機を上げます。

ほ場での旋回について

⚠ 警　告

- 高速走行で急旋回（スピンターン）をしないでください。
- 旋回時は作業機を上げてください。
- 旋回時は周囲に注意してください。特に、機体寸法の長い作業機を使用する場合は、周囲の人や物に接触しないように注意してください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 主変速レバーで走行スピードを下げます。
2. 旋回したい方向へハンドルを回します。機体が旋回します。（図 3-1）

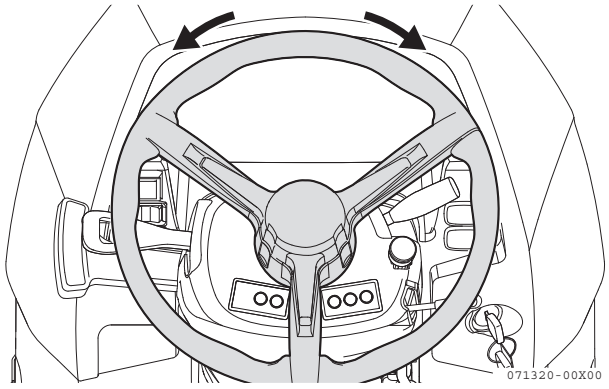


図 3-1

[参考]

- やわらかいほ場では、ハンドルをゆっくりと操作し、緩旋回を行ってください。スピンターンで旋回すると、ほ場を傷めます。
  固いほ場では、スピンターンでの旋回により、能率よく作業が行えます。
- ほ場条件に合わせて旋回モードをカラーモニターで切り替えることができます。詳しくは、103 ページの「旋回モード、旋回感度の切り替え」を参照してください。

ほ場での旋回のしかた

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速します。
『スピンターンモード』では、ハンドルを約180° 回したとき、内側のクローラの速度がゼロになり、ブレーキターン状態になります。さらにハンドルを回すと、左右のクローラが逆転しはじめ、ハンドルを約250° 回したとき、スピンターンの状態になります。
『ブレーキターンモード』では、ハンドルを約250° 回したとき、ブレーキターン状態になります。

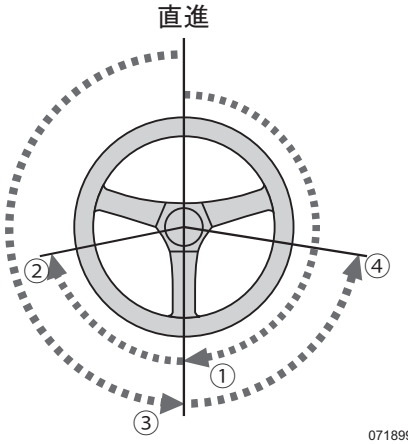


図 3-2

表 3-1 ハンドル操作量とトラクターの動き

ハンドル操作量		0°		180°		250°
ハンドル位置	右			①		②
	左			③		④
スピンターンモード			緩旋回	ブレーキターン	スピンターン	
ブレーキターンモード			緩旋回			ブレーキターン
緩旋回モード			緩旋回			

074008-00JA00

作業に適した速度の選びかた

作業内容とほ場条件により、車速を調整してください。下表を調整時の目安としてご活用ください。

表 3-2 各作業機に適した車速(目安)

作業名	速度(km/h)	副変速段
深耕ロータリー	～0.4	C速
トレンチャー	～0.6	
あぜ塗り機	～0.6	
ロータリー	0.5～4.0	1速
代かきハロー	1.5～5.0	
ブロードキャスター	4.0～8.0	
プラウ	3.0～8.0	

[参考]
詳しくは、作業機の取扱説明書をご覧ください。

作業機の上げ下げのしかた

作業中の作業機を上下させるには、作業機上下ダイヤル、または作業機昇降スイッチを使用します。
ほ場以外では作業機上下ダイヤルを使用してください。

作業機の上げかた

作業機昇降スイッチ（図 3-3）を「上げ」位置にします。上げ位置ダイヤルで設定した高さまで作業機が上がり、メーターパネルのリフトランプが点灯します。
※いずれのスイッチでも操作可能です。

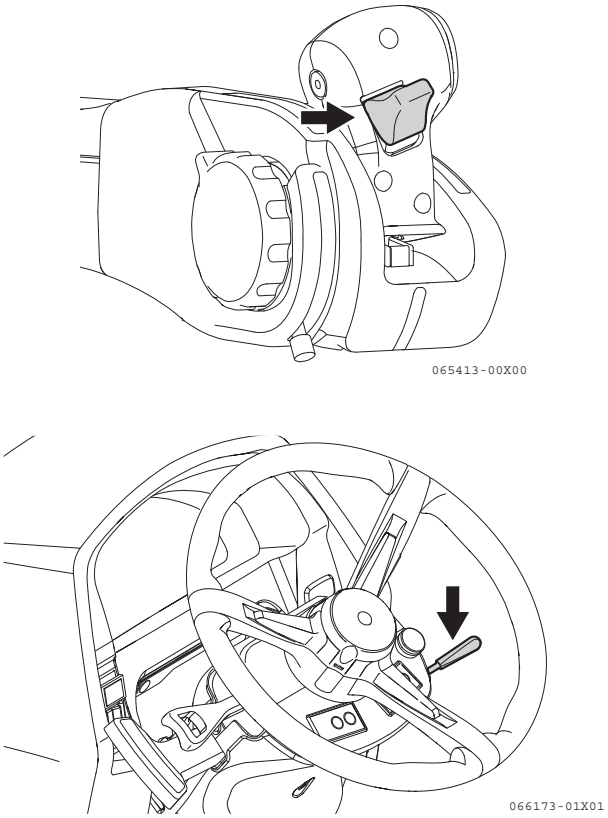


図 3-3

作業機の下げかた

- 作業機昇降スイッチ（図 3-3）を「下げ」方向に操作します。
  ※いずれのスイッチでも操作可能です。
  作業機は作業機上下ダイヤルで決められた位置まで下がり、リフトランプが消えます。
- **作業機が下がらない場合**
  作業機上下ダイヤルが「最上げ」位置にあるときは、作業機昇降スイッチを操作しても作業機は下がりません。作業機上下ダイヤル（図 3-4）を「下」方向に操作し、作業機を下げます。
- **「作業機昇降スイッチ」「バック上昇」で作業機を上昇させたあと、下げるには**
  作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作するか、作業機上下ダイヤルを一度、「最上げ」位置に操作したあと「下」方向に操作します。

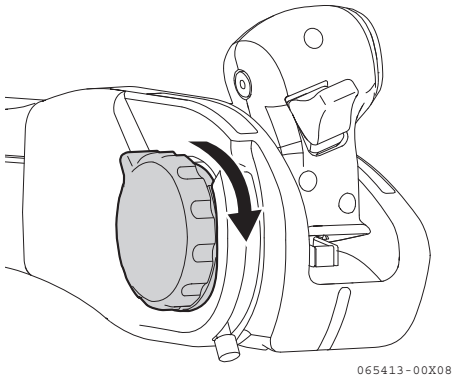


図 3-4

作業機の下降速度調節のしかた

⚠ 警　告

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。
【守らないと】
万一、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

操作ボックス内の下げ速度ダイヤル（図 3-5）を操作すると、作業機昇降スイッチまたは、作業機上下ダイヤルを下げ操作したときの、作業機の下げ速度を調整できます。またダイヤルの位置に応じて下げクッションおよびスローリターンの働く位置を調節できます。

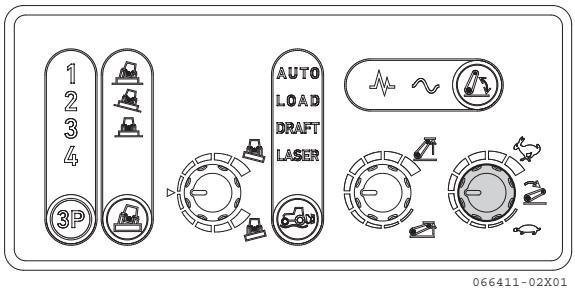


図 3-5

■ 下げ速度ダイヤルの使いかた

下げ速度は「🐇」側に回すと速くなり、
「🐢」側に回すと遅くなります。

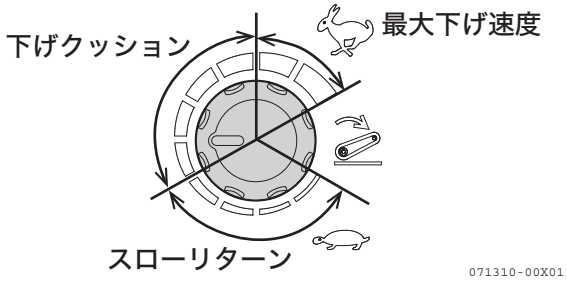


図 3-6

スローリターン：　作業機の稼働全領域で、下げ速度は一定です。
下げクッション：　設定した高さから作業機の下げ速度を減速します。

作業機を速く下ろすには

油圧ストップ・スローリターンバルブ（図 3-7）を「左」方向に回します。作業機は速く下がります。

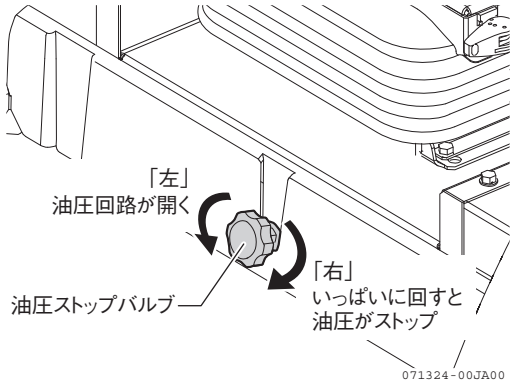


図 3-7

作業機をゆっくり下ろすには

油圧ストップ・スローリターンバルブ（図 3-7）を「右」方向に回します。作業機の下降速度は遅くなります。「右」方向にいっぱいまで回すと油圧の流れがストップし、作業機は下がりません。

[重要]

- **道路走行するときは、油圧ストップ・スローリターンバルブは開いたままで、作業機上下ダイヤル（図 3-8, 1）を「上」位置にして、ストッパー（図 3-8, 2）で固定して走行してください。**
- **油圧ストップ・スローリターンバルブを右側いっぱいに締め込んで油圧をストップした状態で、作業機上下ダイヤルを操作しないでください。**
  守らないと、油圧部品が破損するおそれがあります。

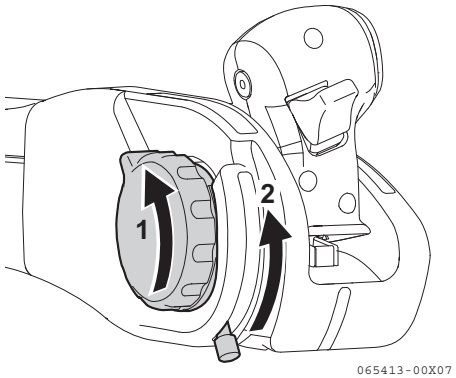


図 3-8

バック上昇機能の使いかた

⚠ 警　告

バック上昇機能は、枕地や回り耕などで、リバーサレバーを「R（後進）」位置に入れたとき、作業機を自動で上昇させる機能です。つぎのようなときは、バック上昇機能は使用しないでください。

- **トラックへの積み・降ろし**
- **あぜ越え、ほ場への出入り**
- **果樹園、ハウス内など支柱や木に当たるとき**
- **ブロードキャスター・トレーラーなど作業機を上下させない作業**
- **後進で行う作業**
- **道路走行時**
- **格納時**
- **作業機の脱着、調整時**

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

後進時、作業機を自動で上昇させることができます。バック上昇機能を使用すると、枕地や回り耕などで後進するとき能率よく作業ができます。

■ セットのしかた

バック上昇切換スイッチ（図 3-9）を押してバック上昇機能を「入」にします。バック上昇機能が「入」になると、メーターパネルのバック上昇ランプが点灯します。

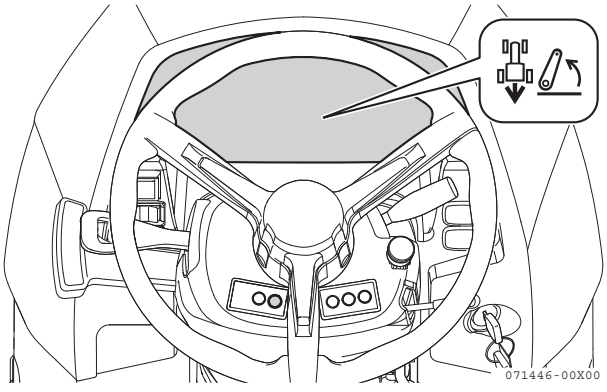
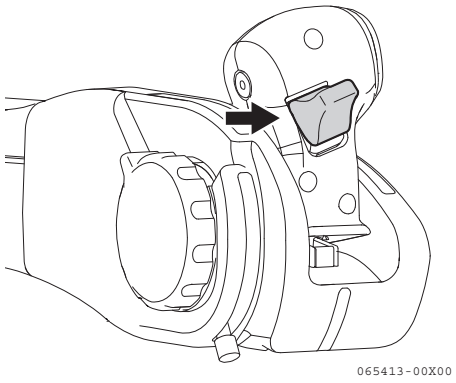


図 3-9

■ 使いかた

リバーサレバーを「R（後進）」位置に入れます。作業機が自動的に上がり、ブザーが鳴ります。
作業機を下ろすときは、作業機昇降スイッチ（図 3-10）を「下げ」方向に操作します。



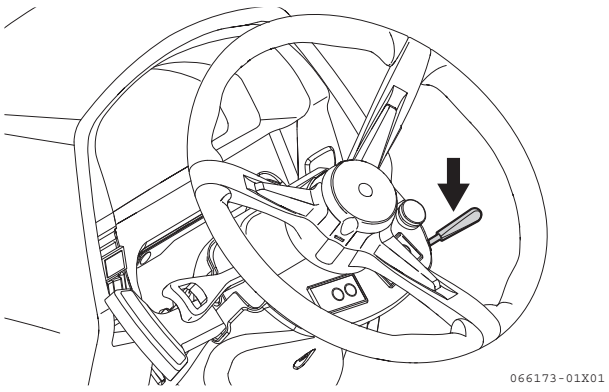


図 3-10

ゆっくり下ろしたいときは、作業機上下ダイヤルを一度「最上げ」位置に操作（図 3-11, 1）したあと、「下」方向に操作（図 3-11, 2）します。

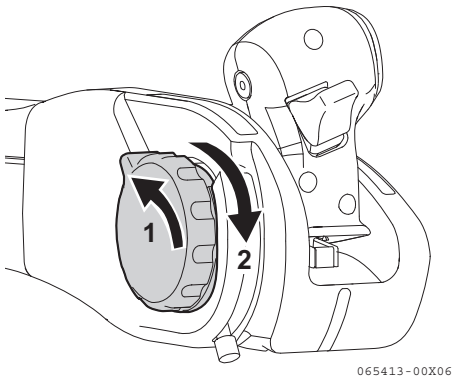


図 3-11

■ バック上昇機能を使用しないとき

バック上昇切換スイッチまたは AUTO1 スイッチを押して、メーターパネルのバック上昇ランプを消灯させます。

[参考]

AUTO1スイッチではバック上昇機能のほかに、A⇔Bモード自動切換の「入」「切」も行えます。

一般作業機を使う場合の作業位置設定のしかた

作業機の高さを任意の位置に保持する機能です。
ロータリー以外の一般作業機での作業に使用します。
作業位置の決定は、つぎの要領で行ってください。

作業位置設定のしかた

1. 操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」(図 3-12) を押してAUTO機能を「切」にします。メーターパネルの「深さ」ランプと操作ボックス内の「AUTO」ランプが消灯します。

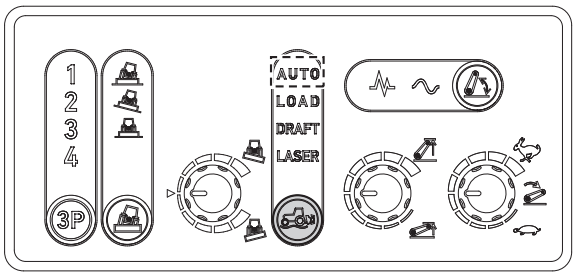


図 3-12

2. 作業機昇降スイッチ（図 3-13）を「下げ」方向に操作して作業機を下ろします。

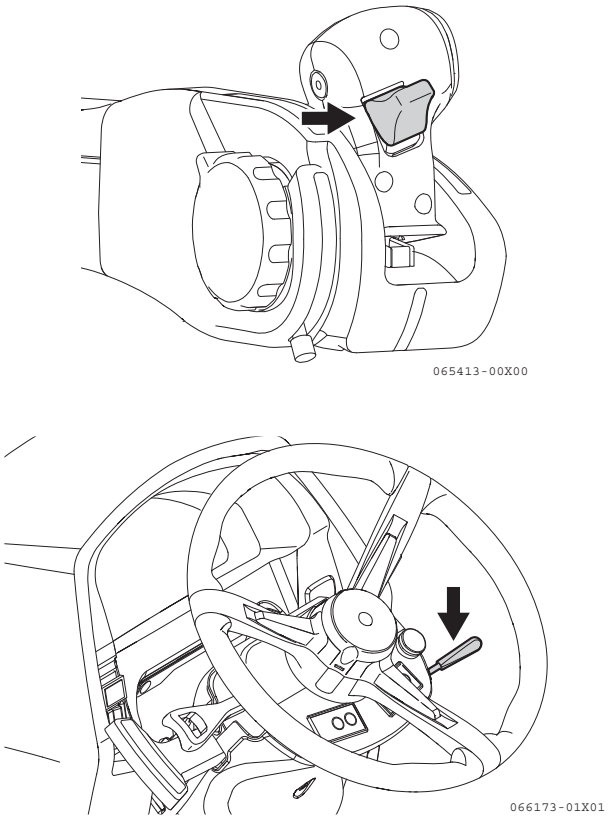


図 3-13

3. 作業機上下ダイヤル（図 3-14, 1）で、作業機を希望する作業位置に設定します。
4. 作業機上下ダイヤルの下限位置を設定したいときは、希望する位置で作業機が止まるようにストッパー（図 3-14, 2）で固定します。

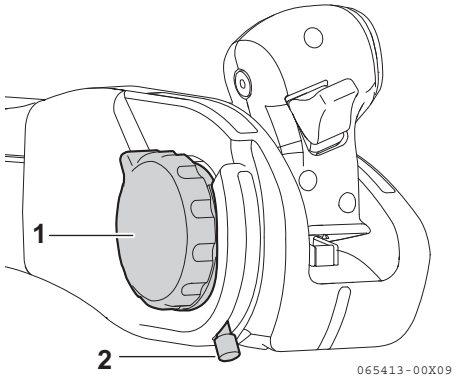


図 3-14

[参考]
作業機昇降スイッチを「上げ」方向に操作して作業機が最上げ位置にあるときは、作業機上下ダイヤルを操作しても作業機は上下しません。作業時上下ダイヤルを一度「上」位置まで操作すると、作業機上下ダイヤルで作業機を下げることができます。

5. 作業機の上下は、作業機昇降スイッチ（図 3-15）で行います。

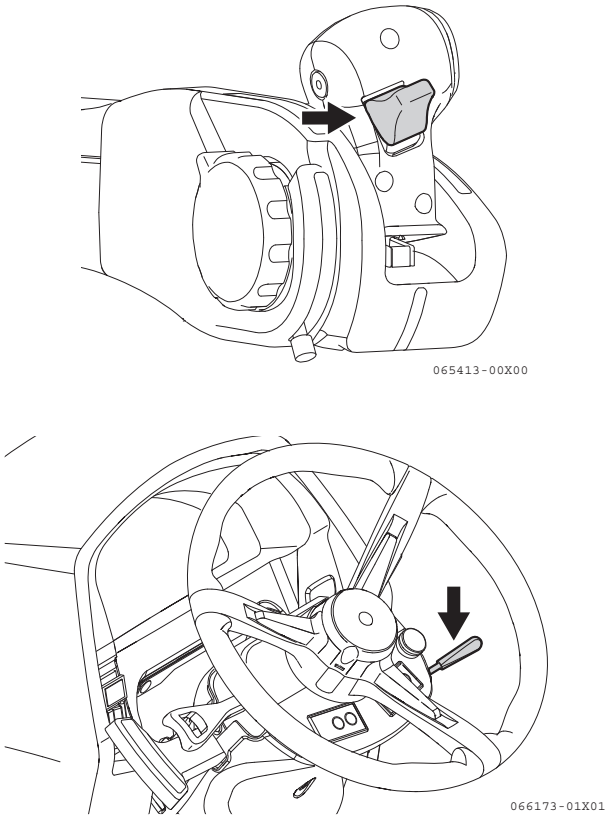


図 3-15

ロータリー耕での耕深設定のしかた

オートロータリーは、耕深自動制御機能を装備したロータリーや代かきハローで使用できます。
凹凸の多いほ場でも耕深が一定になる機能で、一般耕うん、代かきなどに効果を発揮します。つぎの要領で耕深を設定してください。

オートロータリーの使いかた

1. 操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」（図 3-16）または AUTO2 スイッチを押して「AUTO」機能を「入」にします。メーターパネルの「深さ」ランプと操作ボックス内の「AUTO」ランプが点灯します。

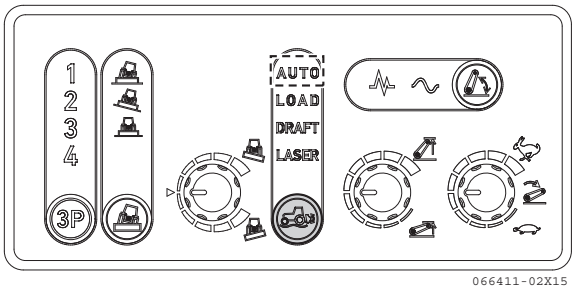


図 3-16

2. 作業機上下ダイヤル（図 3-17）を「最下げ」位置にします。

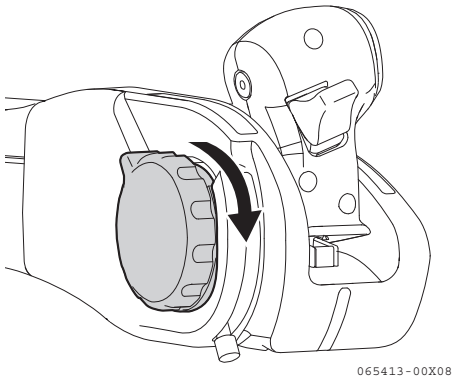


図 3-17

3. 深さダイヤル（図 3-18）で、耕深を設定します。

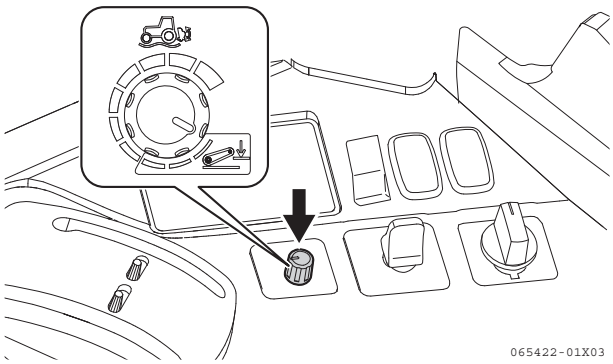


図 3-18

[参考]

同じ目盛りでも、ほ場条件やロータリーにより耕うん深さが変わります。実際の耕深を見ながら調節してください。

4. 作業機昇降スイッチ（図 3-19）で作業機を下ろし、耕うんをはじめます。

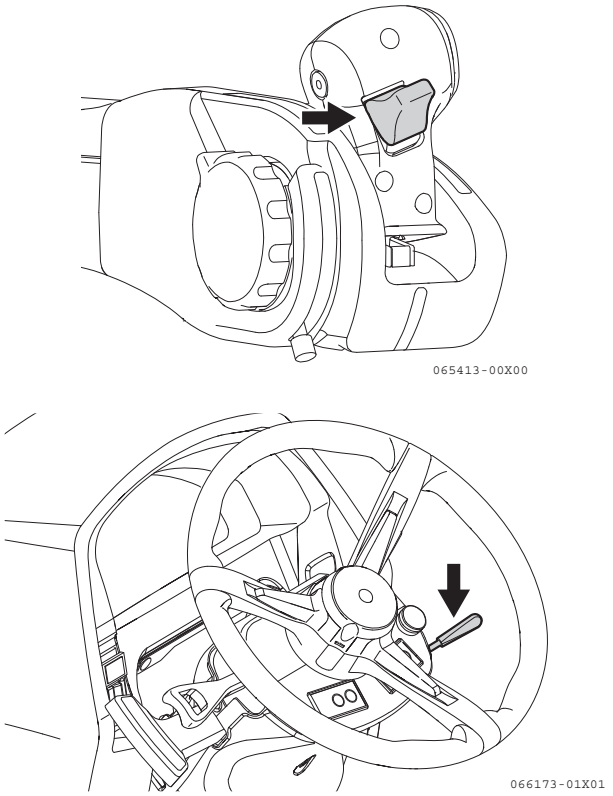


図 3-19

5. 耕うんを始めて実際の耕深を確認します。希望の耕深にないときは、深さダイヤル（図 3-18）で耕深を調節します。

[重要]

オートロータリーは基本的には、オート感度「標準」でお使いください。ほ場条件や仕上がりの状態に応じてオートロータリー感度切換スイッチ（図 3-20）を押し、オート感度「敏感」でお使いください。深さダイヤルが「最浅」から約 2 目盛りの範囲では吊り下げ機能がはたらき、下げ高さが規制されます。装着する作業機によっては接地位置まで下がらなくなります。

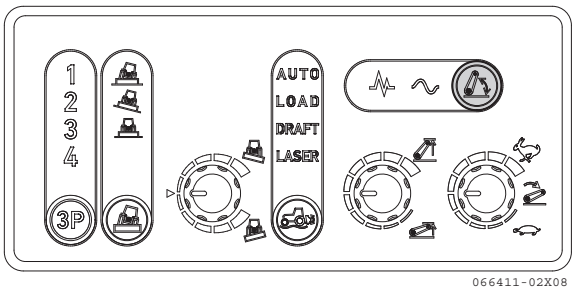


図 3-20 オートロータリー感度切換スイッチ

吊り下げ制御の使いかた

吊り下げ制御とは、作業機の下げ側のみ規制する機能です。湿田耕うん、凹凸の多い代かき作業などに効果的です。作業位置の設定はつぎの要領で行ってください。

1. 操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」（図 3-21）を押して「深さオート」機能を「入」にします。メーターパネルの「深さ」ランプと操作ボックス内の「AUTO」ランプが点灯します。

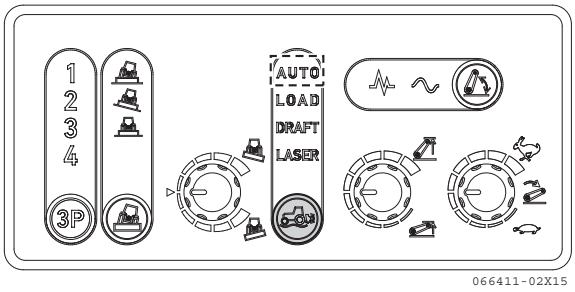


図 3-21

2. 深さダイヤル(図 3-22)を「最浅」位置にします。

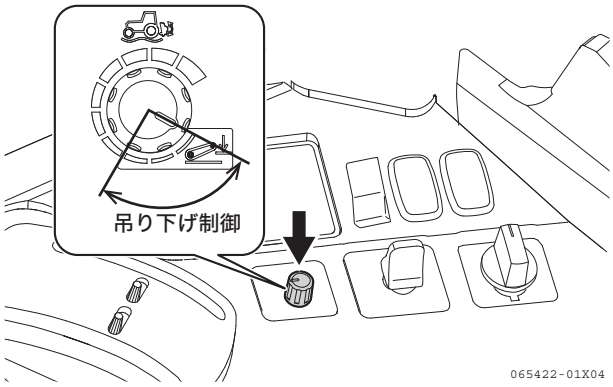


図 3-22

3. 作業機上下ダイヤルを最下げにします。
4. 作業機昇降スイッチで作業機を下ろし、作業を開始します。
5. 深さダイヤルを徐々に「深」の方向に動かし、希望する作業深さに設定します。

[参考]

同じ目盛りでも、ほ場条件やロータリーにより、耕うん深さが変わります。実際の耕深を見ながら調節してください。

6. ロータリーの昇降は作業機昇降スイッチで行います。

表 3-3 耕深設定表(表中の○印は設定できる作業を表します)

作業機	耕深設定方法		
	耕うん深さ機能	吊り下げ	作業機上下機能
	深さダイヤル(3〜10目盛り)	深さダイヤル(0〜3目盛り)＋作業機上下ダイヤル	作業機上下ダイヤル
ロータリー	○	○	○
その他	×	×	○
用　途	一般的なほ場	凹凸軟弱のある特殊ほ場、一般的なほ場、草・ワラの多いほ場	手動操作により任意の耕深を得たいほ場

負荷制御の使いかた

負荷制御は、作業中のエンジン負荷を計測してエンストを防止するための機能です。
つぎの要領で耕深を設定します。

1. 操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」(図 3-23)を押して「LOAD」機能を「入」にします。メーターパネルの「深さ」ランプと操作ボックスの「LOAD」ランプが点灯します。

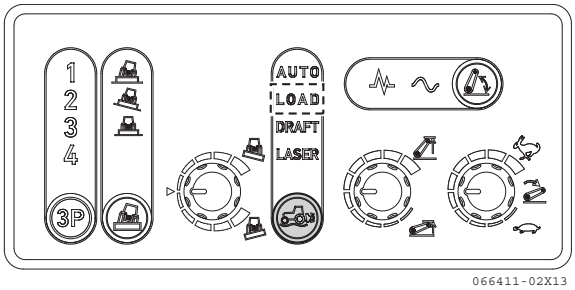


図 3-23

2. 作業機上下ダイヤル(図 3-24)を「最下げ」にします。

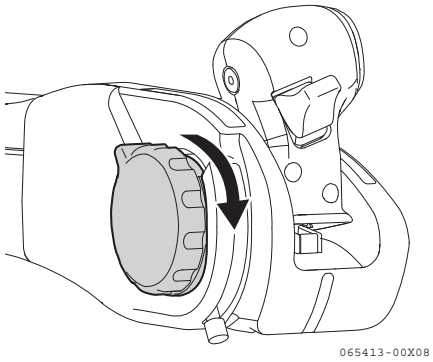


図 3-24

3. 深さダイヤルで希望の耕深を設定します。

[参考]

- 同じ目盛り位置でも、ほ場条件やロータリーにより深さが変わります。実際の耕深を見ながら調節してください。
- エンジン負荷が大きくなると、作業機を少しずつ上昇させて負荷を回避します。
- 負荷を回避すると設定した耕深に自動復帰します。
- 粘土質のほ場で、ロータリー爪軸に土をだき込むようなときは、負荷制御による作業は行わないでください。

ドラフトの使いかた

プラウなどでドラフト作業をする場合に使用します。

1. 操作ボックス内の「深さモード切換スイッチ」(図 3-25) を押して「DRAFT」機能を「入」にします。メーターパネルの「深さ」ランプと操作ボックス内の「DRAFT」ランプが点灯します。

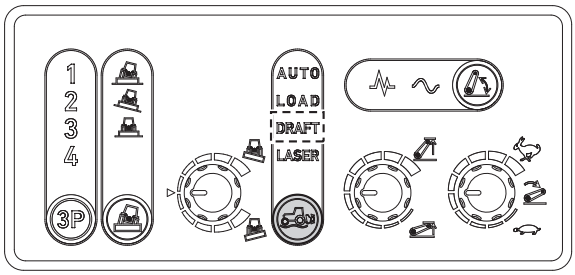


図 3-25

2. 深さダイヤル (図 3-26) でドラフト感度 (耕深) を調整します。

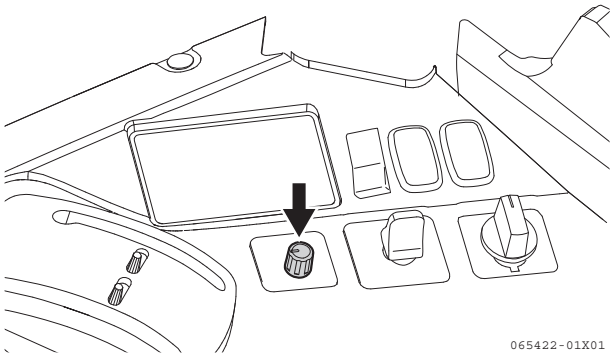


図 3-26

「浅」側…ドラフト感度が敏感になり、耕深が浅くなります。
「深」側…ドラフト感度が鈍感になり、耕深が深くなります。

3. ほ場の起伏差が大きい場合は、作業機上下ダイヤルで下げ位置を規制します。
4. ドラフト作業を行わない場合は、「深さモード切換スイッチ」を押して、ドラフトランプを消灯させます。

レーザー制御の使いかた

レーザーレベラーでの作業時に使用します。
レーザー機器とカラーモニターを通信することで、レーザー制御の内容をカラーモニターに表示させることができます。
詳しくは、レーザー機器の取扱説明書をご覧ください。

車速･エンジン回転速度制御の使いかた

このトラクターでは、車速とエンジン回転速度の設定において、以下の4つの機能を搭載しています。必要に応じて、正しく設定の上ご使用ください。

- エンジン回転速度上限設定
- 最高速度設定
- エンジン回転・最高速設定メモリ切換
- エンジン回転・最高速設定メモリ自動切換

エンジン回転速度上限設定

副変速ごとにエンジンの最高回転速度を設定できます。設定しておくと、アクセルレバーやフートアクセルペダルをMAX位置まで操作しても、設定回転速度以上には上昇しません。誤操作による作業機のトラブルなどを防止できます。

〈設定のしかた〉

1. クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込み、副変速レバーを設定したい速度段に入れます。
2. エンジン回転・車速切換スイッチ（図 3-27, 1）を「(エンジン回転)」側にします。

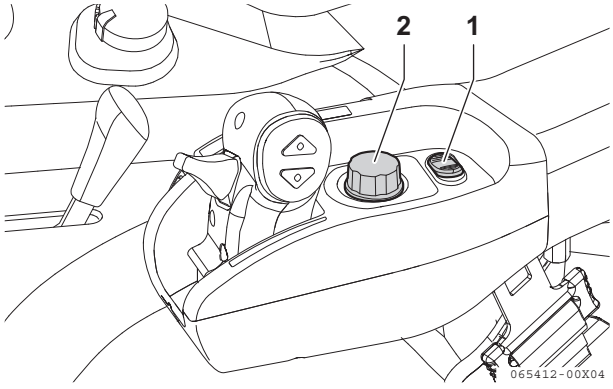


図 3-27

3. メーターパネルに表示されるエンジン回転速度（図 3-28）を確認しながら、エンジン回転・車速設定ダイヤル（図 3-27, 2）を回し、エンジン最高回転速度を設定します。



図 3-28

[参考]

- エンジン最高回転速度の設定は、エンジン運転中・停止中のどちらでも行えます。
- エンジン運転中に上限設定を変化させた場合、実際のエンジン回転速度も変動する場合があります。
- エンジン最高回転速度は、メーターパネルに表示されているときのみ変更できます。
- PTO駆動スイッチが「入」位置のときに、エンジン最高回転速度を変更すると、各PTO変速段での最高PTO回転速度が表示（図 3-29）されます。

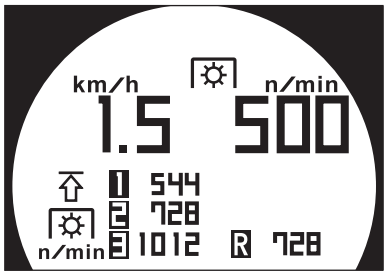


図 3-29

最高速度設定

設定した上限のエンジン回転速度で、主変速レバーをいっぱいに前方に動かしたときの最高速度を副変速ごとに設定できます。

〈設定のしかた〉

1. クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込み、副変速レバーを設定したい速度段に入れます。
2. エンジン回転・車速切換スイッチ（図 3-30, 1）を「(車速)」側にします。

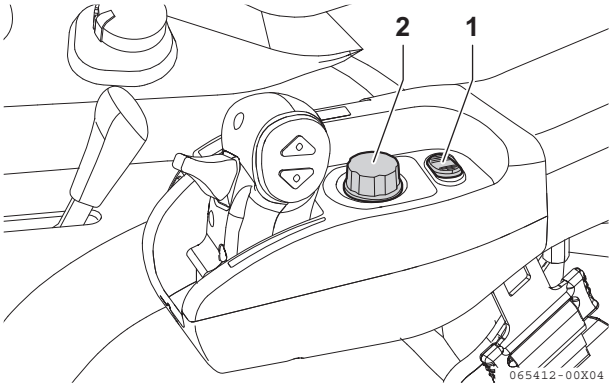


図 3-30

3. メーターパネルに表示される車速（図 3-31）を確認しながら、エンジン回転・車速設定ダイヤル（図 3-30, 2）を回し最高速度を設定します。



図 3-31

[参考]

- 車速の設定は、走行中・停止中のどちらでも行えます。
- 走行中に上限設定を変化させた場合、実際の車速も変動する場合があります。
- 最高速度は、メーターパネルに表示されているときのみ変更できます。

エンジン回転･最高速設定メモリ切換

エンジン最高回転速度と最高速度の組み合わせを A モード・Bモードの2通り設定し、ワンタッチで切り換えることができます。（副変速1速以下のとき）

1. アームレスト部のA⇔B切換スイッチ（図 3-32）で、設定したいモードを選択します。

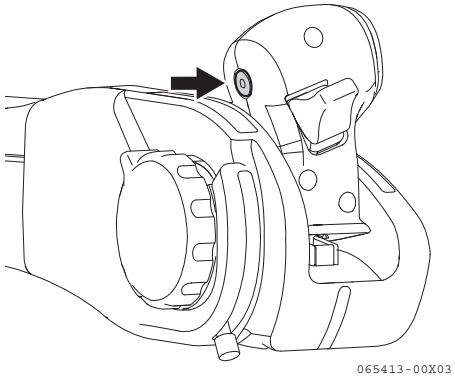


図 3-32

2. エンジン回転・車速切換スイッチと、エンジン回転・車速設定ダイヤルを用いて、エンジン最高回転速度と最高速度を設定します。

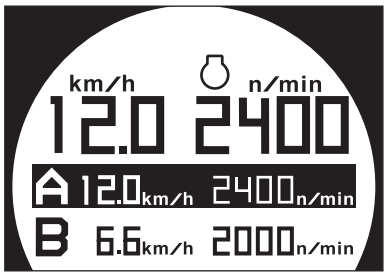


図 3-33

3. アームレスト部のA⇔B切換スイッチで、AモードとBモードの切り換えが行えます。

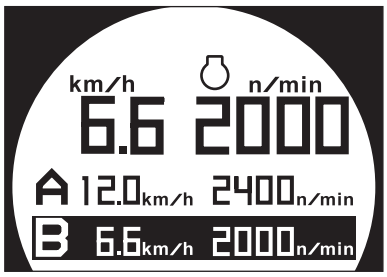


図 3-34

[参考]

図 3-33ではAモードが、図 3-34ではBモードが選択されています。

エンジン回転・最高速設定メモリ自動切換

エンジンの上限回転速度と最高速度の組み合わせを2通りまで設定し、作業状態に合わせて自動的に切り換えることができます。（副変速1速以下のとき）

1. A ⇔ B 自動切換スイッチ（図 3-35，1）またはAUTO1スイッチ（図 3-35, 2）を操作し、メーターパネルのA⇔B自動ランプを点灯させます。

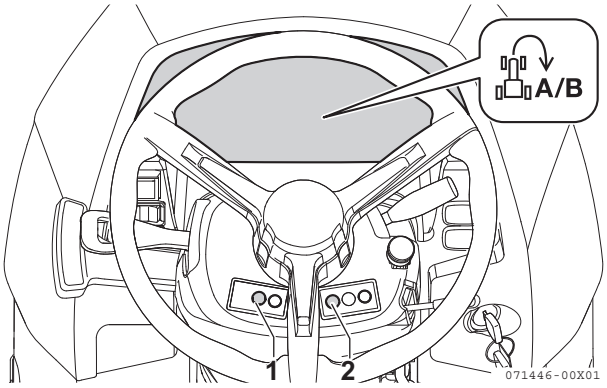


図 3-35

2. 作業機昇降スイッチを「上げ」方向に操作するか、リバーサレバーを「R（後進）」位置にすると、AモードからBモードに自動的に切り換わります。

[重要]

「A モード」から「B モード」の切り換えが増速になる場合は、安全のため、いったん「A モード」時の速度を維持します。設定速度まで増速する場合は、アームレスト部にあるA⇔B切換スイッチを押してください。A⇔B切換スイッチを押すまでの間、メーターパネル上でBモードの表示が点滅し、「↓」が表示されます。このとき、主変速レバーを手前（遅い）側にいっぱいまで戻すと、「↓」が消えてメーターパネルの「B」が点灯し、「Bモード」に切り換わります。

[参考]

- 副変速「2 速」位置のときは、エンジン回転・最高速設定自動切換は、はたらきません。
- 「Bモード」から「Aモード」への切り換えは、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作するか、A⇔B切換スイッチを押すことで行えます。

e-CONTROL（エンジン負荷制御）について

このトラクターは、エンジンの負荷に応じて、車速とエンジン回転速度を調整する「e-CONTROL」機能を搭載しています。e-CONTROLは、カラーモニターで設定します。詳しくは99 ページを参照してください。

ナイスティエコトラUFO Plusの使いかた

ナイスティエコトラUFO Plusは、電子制御で作業機の水平制御、耕深制御を行います。
ほ場の傾きや、トラクターの傾きにすばやく反応して、きれいな仕上がりになります。

ナイスティエコトラUFO Plusの使用例

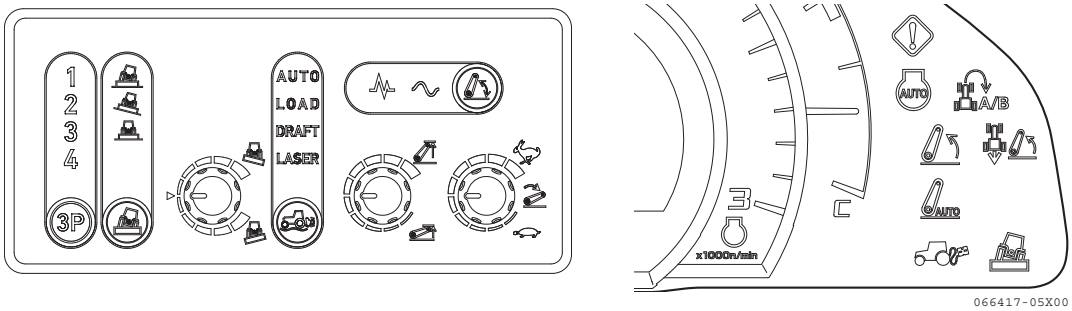
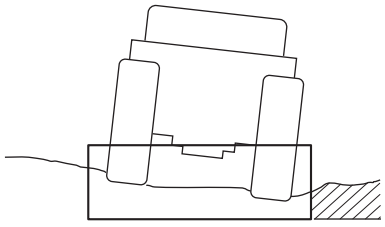
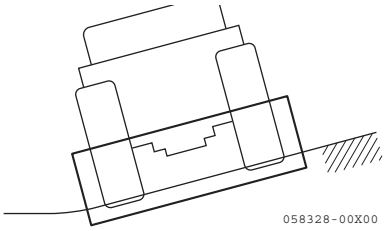
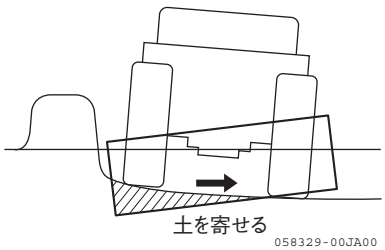


図 3-36

表 3-4 ナイスティエコトラUFO Plus

ほ場・用途	作業例		UFO Plus設定		
			傾き ランプ	傾き調整 ダイヤル	傾き手動 レバー
水田 うね崩し 代かき	凸凹や軟弱なほ場で、片輪が既耕地に落ちたり、本機が傾いても、作業機はほ場に対して常に水平に制御されるため均平に耕うんでき、耕盤が安定します。		水平	中央	操作 しない
傾斜地 ハウス 浅おこし	作業機は基本的には本機に水平に制御されるが、片輪が既耕地に落ちたり本機がほ場に対し急激に傾くと、作業機はほ場に対して平行に制御されます。そのため、傾斜地での隣接耕でもつなぎ目をきれいに仕上げることができます。		傾斜地	中央	操作 しない
プラウ けん引作業	プラウなどのけん引作業で、作業機から強い力がかかった場合も、傾きダイヤルで設定した位置(シリンダ長さ)を保持します。	ー	保持	中央	操作 しない
水田 畑地 ハウス	あぜ際やハウス端の土の盛り上がりを均平にするため、手動で作業機を傾けて土寄せができます。		ランプ 消灯	中央	右下げ または 右上げ

道路走行時の設定

道路走行をするときは、ロアリンクが自然に下降したり、傾いたりしないように、つぎのように設定します。

1. メーターパネルの「傾き」自動ランプが点灯している場合は、「傾きモード切換スイッチ」（図 3-37）で「切」（消灯）状態にします。

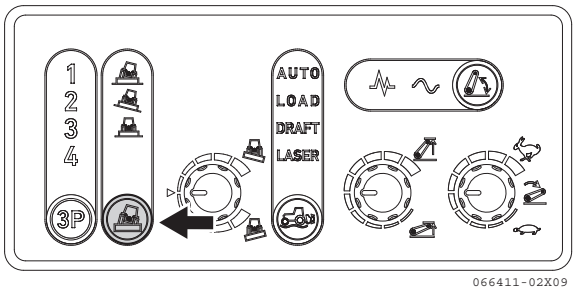


図 3-37

2. 作業機上下ダイヤル（図 3-38, 1）を「最上げ」位置にしてストッパー（図 3-38, 2）で固定します。

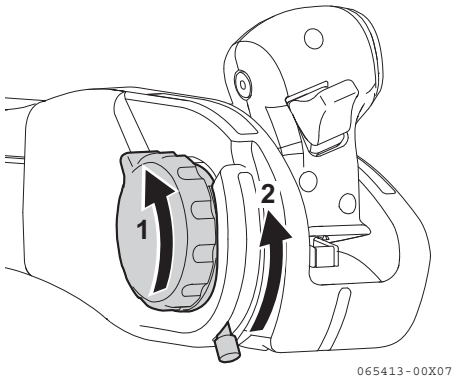


図 3-38

[重要]

油圧ストップ・スローリターンバルブを開き、作業機上下ダイヤルを「最上げ」位置にして、ストッパーで固定して走行してください。

傾き水平の使いかた

「傾き水平」は水田での作業に効果的です。

■ 均平に耕うんするには

トラクターの傾きにかかわらずロータリーを水平に保つことができます。

1. 傾き調整ダイヤル（図 3-39, 2）の目盛りを「水平」位置にします。

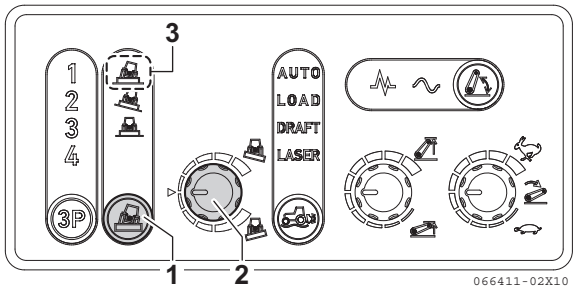


図 3-39

2. 傾きモード切換スイッチ（図 3-39, 1）または AUTO2スイッチを押して「傾き水平」を選択します。メーターパネルの「傾き」ランプ（図 3-40）と操作ボックス内の「水平」ランプ（図 3-39, 3）が点灯します。

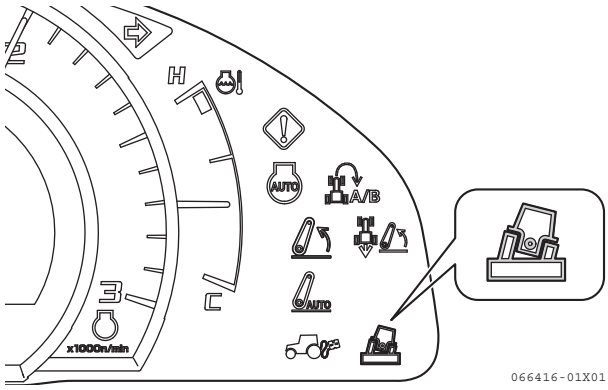


図 3-40

3. 「深さモード切換スイッチ」を押して、「深さ自動」を「ON」にします。

※工場出荷時は AUTO2 スイッチを「入」にすると、「深さ自動」と「傾き自動」が「ON」になります。

4. 深さダイヤル（図 3-41）で、希望の耕うん深さを設定します。

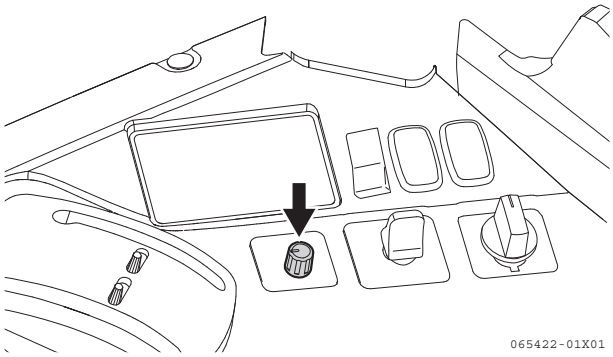


図 3-41

5. 作業機上下ダイヤル（図 3-42）を「最下げ」位置にします。

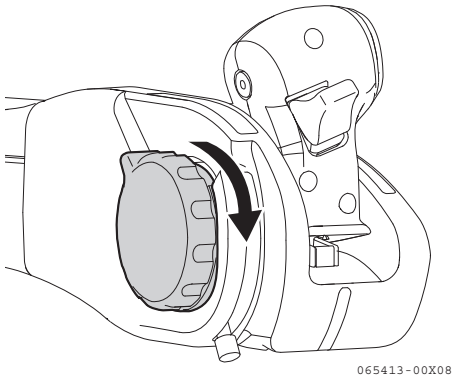
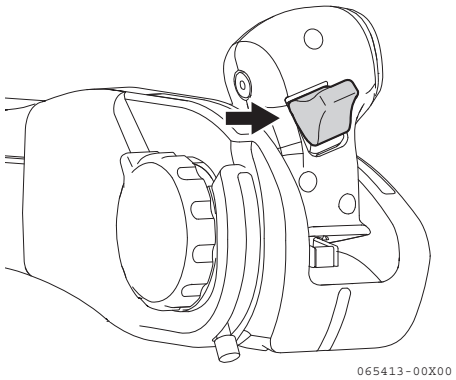


図 3-42

6. 作業機昇降スイッチ（図 3-43）を「下げ」方向に操作して、ロータリーを下ろします。



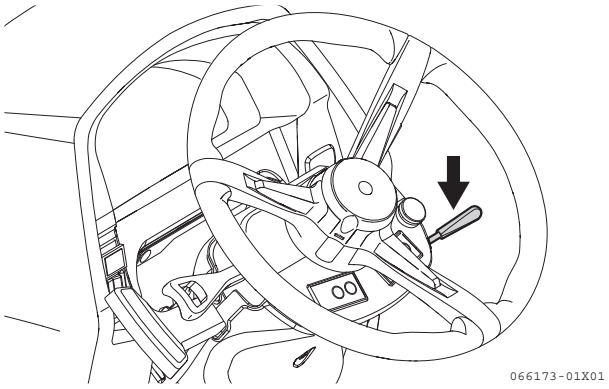


図 3-43

7. 実際のほ場での作業を見ながら、必要であれば深さダイヤルで再度耕深を調節します。

傾き傾斜地の使いかた

「傾き傾斜地」は傾斜地での作業に効果的です。

■ 均平に耕うんするには

トラクターの傾きにかかわらずロータリーを地面と一定の角度に保つことができます。

1. 傾き調整ダイヤル（図 3-44, 2）を保持したい目盛り位置に設定します。

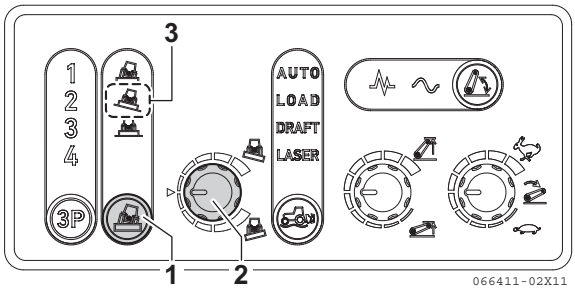


図 3-44

2. 傾きモード切換スイッチ（図 3-44, 1）を押して「傾き傾斜地」を選択します。メーターパネルの「傾き」ランプ（図 3-45）と操作ボックス内の「傾斜地」ランプ（図 3-44, 3）が点灯します。

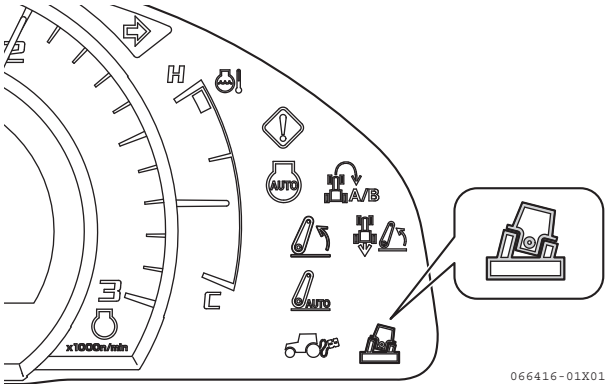


図 3-45

3. 深さモード切換スイッチを押して、「深さ自動」を「ON」にします。

4. 深さダイヤル（図 3-46）で、希望の耕うん深さを設定します。

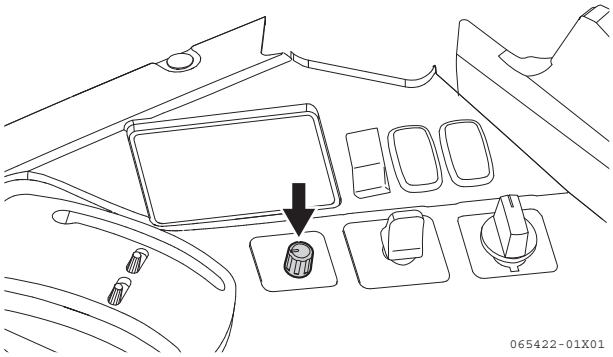


図 3-46

5. 作業機上下ダイヤル（図 3-47）を「最下げ」位置にします。

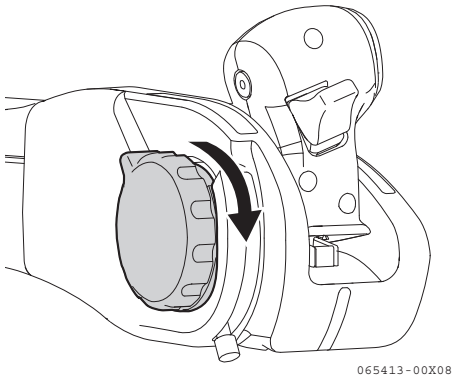


図 3-47

6. 作業機昇降スイッチ（図 3-48）を「下げ」の方向に操作して、ロータリーを下ろします。

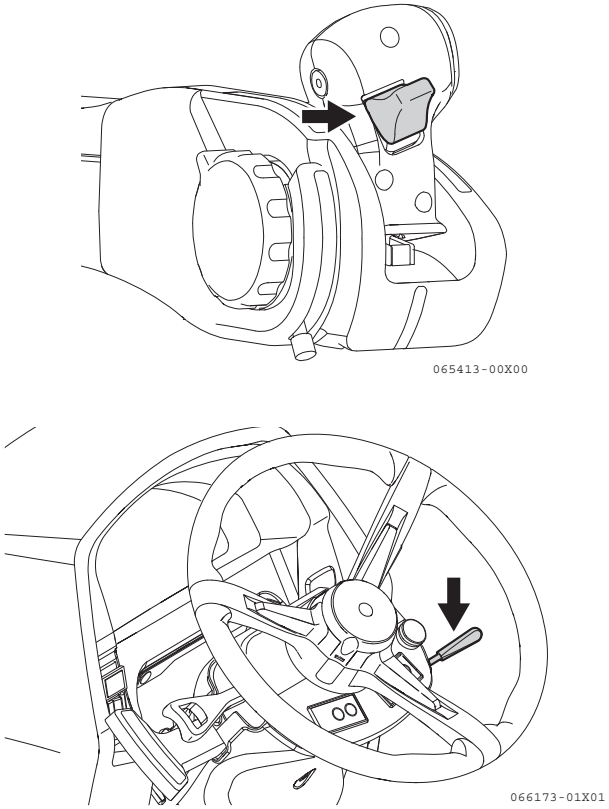


図 3-48

7. 実際のほ場での作業を見ながら、必要であれば、深さダイヤルで再度耕深を調節します。

作業機を傾けて作業したいとき

ナイスティエコトラUFO Plusの「傾き自動」を使用した作業方法について説明します。
操作方法は、「傾き水平」「傾き傾斜地」と同じです。
傾きモード切換スイッチ（図 3-49, 1）を押してメーターパネルの「傾き」ランプと操作ボックス内の「水平」ランプ（図 3-49, 2）が点灯していることを確認します。

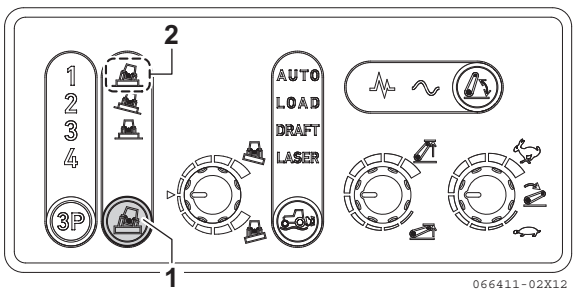


図 3-49

■ 一時的に作業機を傾けたい場合

傾き手動レバー（図 3-50）を右下または右上に操作します。傾き手動レバーを操作している間、作業機が傾きます。手を離すと、作業機は元の位置に戻ります。

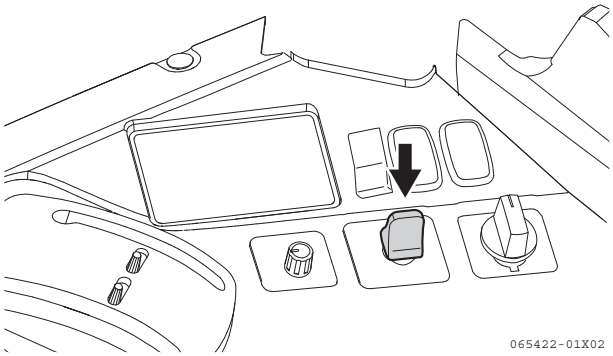


図 3-50

■ 作業機を一定の角度で傾けたい場合

傾き設定ダイヤル（図 3-51）を操作して、作業機と地面の角度を設定します。

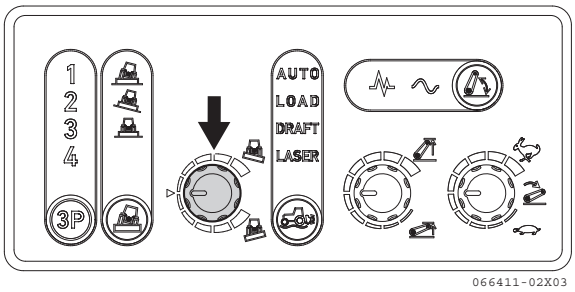


図 3-51

右へ回す…作業機が右下がりになります。
左へ回す…作業機が右上がりになります。

傾き保持の使いかた

「傾き（角度）保持」はプラウなどのけん引作業に有効です。

■ 作業のしかた

ほ場からの反力にかかわらず作業機の角度を一定の角度に保つことができます。

1. 傾き調整ダイヤル（図 3-52, 2）を保持したい目盛り位置に設定します。

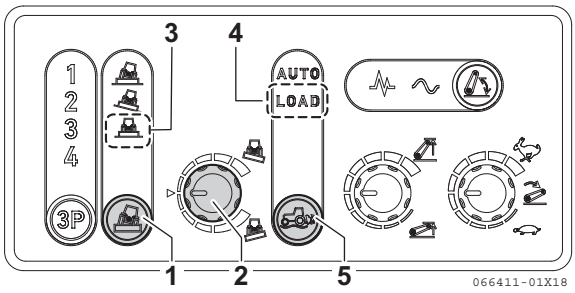


図 3-52

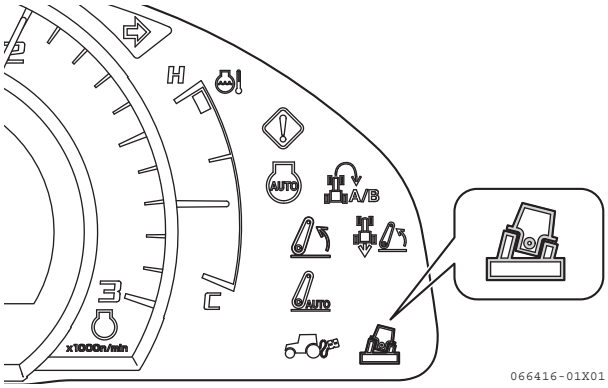


図 3-53

2. 傾きモード切換スイッチ（図 3-52, 1）を押して「傾き保持」を選択します。メーターパネルの「傾き」ランプ（図 3-53）と操作ボックス内の「保持」ランプ（図 3-52, 3）が点灯します。
3. 深さモード切換スイッチ（図 3-52, 5）を押して、「LOAD（負荷自動）」（図 3-52, 4）を「ON」にします。
4. 深さダイヤル（図 3-54）で、希望の作業深さを設定します。

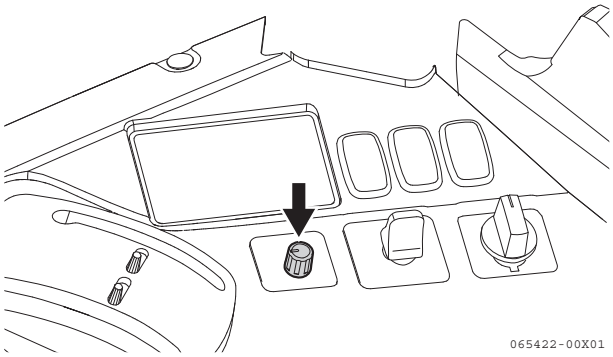


図 3-54

5. 作業機上下ダイヤル（図 3-55）を「最下げ」位置にします。

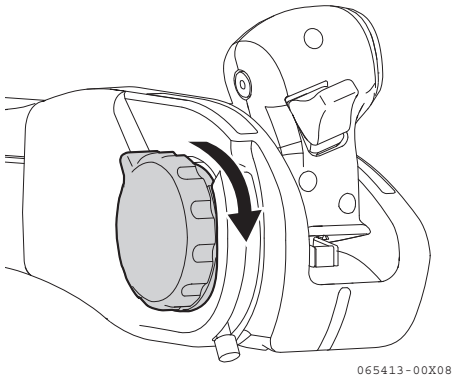
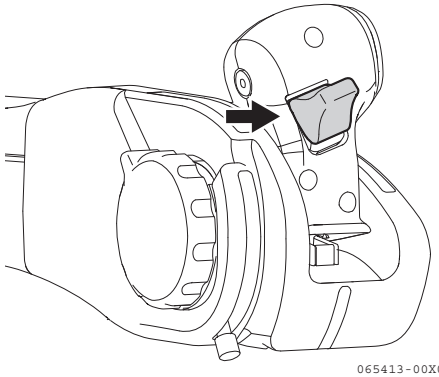


図 3-55

6. 作業機昇降スイッチ（図 3-56）を「下げ」の方向に操作して、作業機を下ろします。



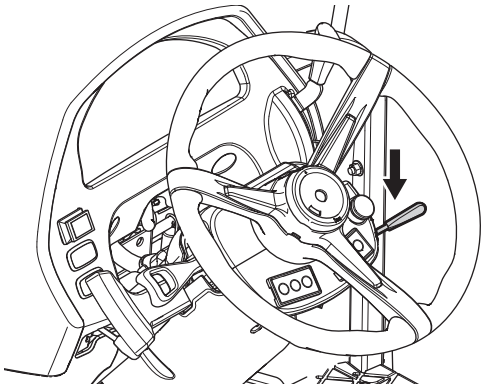


図 3-56

7. 実際のほ場での作業を見ながら、必要であれば、深さダイヤルで再度耕深を調節します。

「傾き手動」の使いかた

ナイスティエコトラUFO Plusの「傾き手動」を使用した作業方法について説明します。

1. メーターパネルの傾きランプが消灯していることを確認します。点灯しているときは、傾きモード切換スイッチを押して自動を「切」（消灯）にします。

2. 傾き手動レバー（図 3-57）を右下または右上に操作して、作業機と地面の角度を設定します。

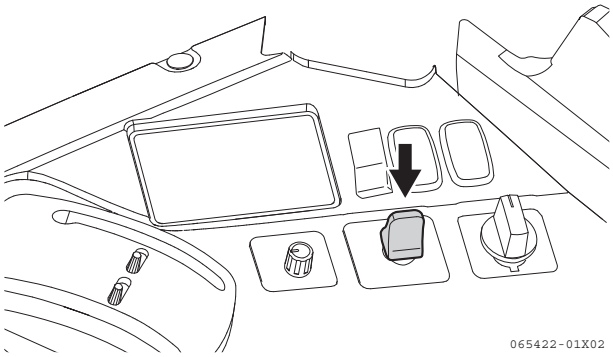


図 3-57

上げ位置ダイヤルの使いかた

作業機昇降スイッチ・バック上昇、作業機上下ダイヤルで、作業機を上げたときの作業機の最上げ位置を設定します。

- ダイヤル（図 3-58）を「高」方向に回すと、最上げ位置が高くなります。
- ダイヤルを「低」方向に回すと、最上げ位置が低くなります。

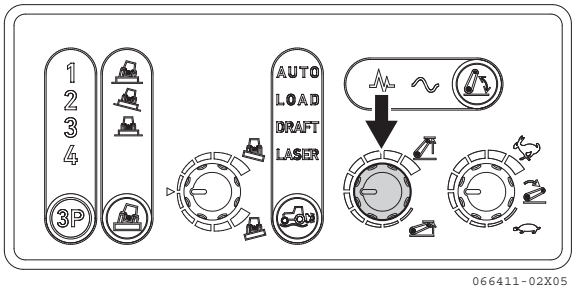


図 3-58

[重要]

作業機昇降スイッチ・バック上昇、作業機上下ダイヤルで作業機の上げ操作を行う場合は、上げ位置ダイヤルで作業機の高さを設定してください。
守らないと、キャビンリヤウインドなどが破損するおそれがあります。

ロータリー耕うんのしかた

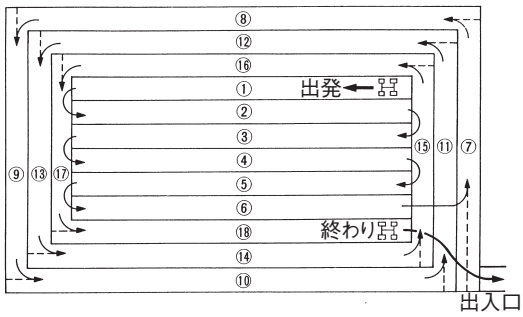
1. 作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんをはじめます。
2. 耕うん方法は、「隣接耕うん」・「回り耕うん」・「一うね置き耕うん」があります。ほ場の条件に合わせて、適切な耕法を選びます。
   一般にはロータリー耕うんは隣接耕うんが標準です。
3. 隣接耕うんと一うね置き耕うんをする場合は、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業をはじめます。（目安として耕作地の周囲を3行程弱残します）
4. 耕うん時は、クローラがすでに耕うんしたところに落ちないように、運転します。

[参考]

サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜ際に寄るようにして耕うんすると、残耕が少なくなります。

隣接耕うんの順序

- 一般的なロータリー耕うん方法です。



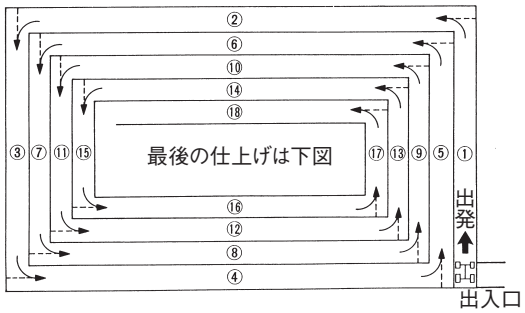
058331-00JA00

図 3-59 隣接耕うんの順序

- 図のような順序で作業するのは、一度耕うんしたところをクローラで踏まないためです。
- 出発点は、トラクターが最後に外に出る場所によって決まります。

回り耕うんの順序

- 弱湿田または湿田地で、小回りが難しい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- 仕上げ後はあぜに近いところから出てください。



058332-00JA00

図 3-60 回り耕うんの順序

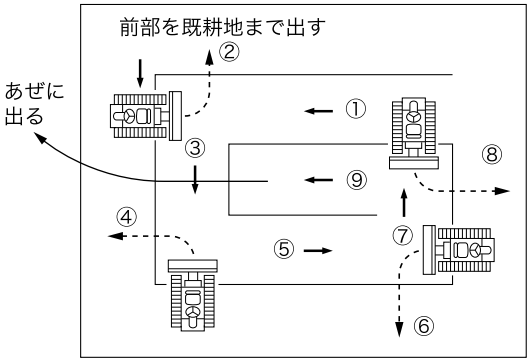
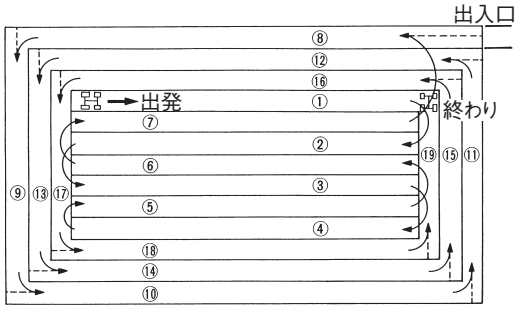


図 3-61 最後の仕上げ

一うね置き耕うんの手順

一うね置き耕うんは、小回りが難しい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



058432-00JA00

図 3-62 一うね置き耕うんの手順

3点リンクについて

このトラクターの3点リンクはJIS 2形です。

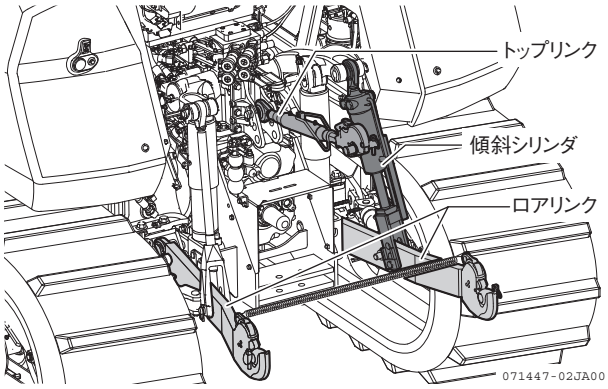


図 3-63

リフトリンクおよびロアリンクの取付穴の選択

リフトリンクおよびロアリンクの穴は、作業機により表 3-5 の位置で使用してください。

表 3-5 リフトリンクおよびロアリンクの穴位置

リフトリンク	作業機
上穴	上げ高さを必要とする作業機
下穴	一般作業機

リフトリンク左は、基準長さ655±3 mm です。長さを変えないでください。（図 3-64）ただし、装着する作業機の取扱説明書に指定の長さがある場合は、その表示された長さに合わせてください。

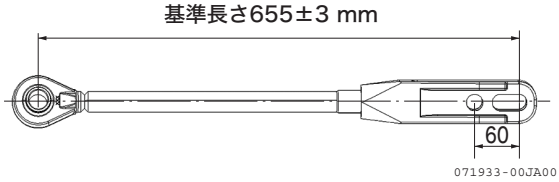


図 3-64

リフトリンクと傾斜シリンダの穴は、同じ位置を使用し、傾斜シリンダで作業機を水平に調整してください。

フローティング機構

ロータリー耕うんのように広い幅の作業をする場合は、フローティングに切り換えると、凹凸あるいはうねりの多いところでも均平な作業ができます。
図 3-65 のように、リフトリンクピンを抜いて90°向きを変えると、フローティングになります。ただし、リフトリンクの穴が下穴使用時のみ可能です。

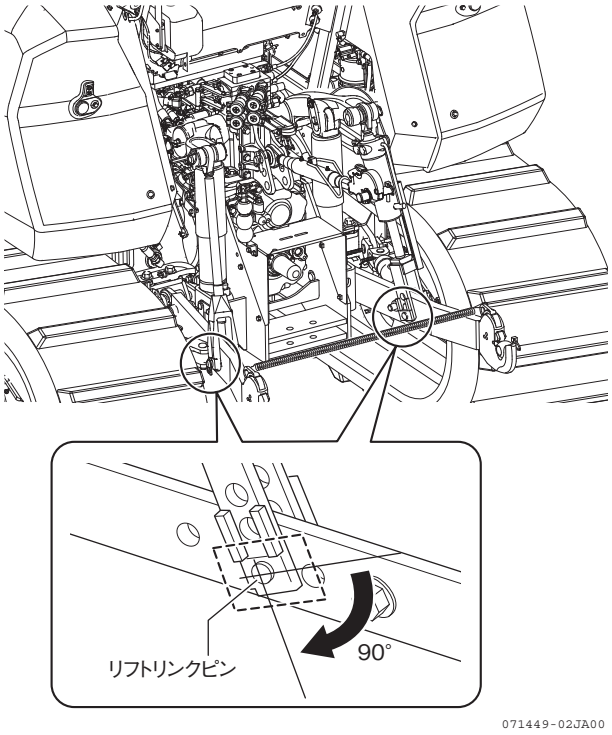


図 3-65

トップリンクオートフックと ロアリンクオートフックの使いかた

作業機側のトップリンクピンとロアリンクにリンクボールを取り付けると、ワンタッチで作業機を装着できます。レバーを引くとフックが解除になり（図 3-66, 図 3-67）、簡単に作業機を外せます。

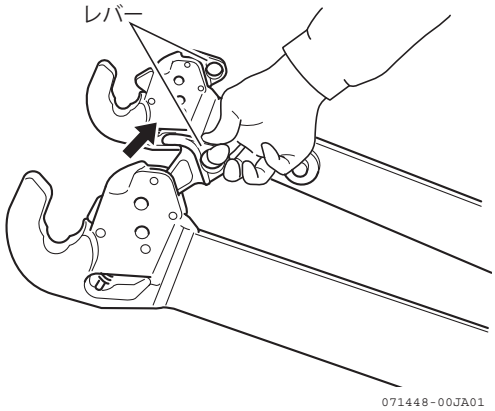


図 3-66

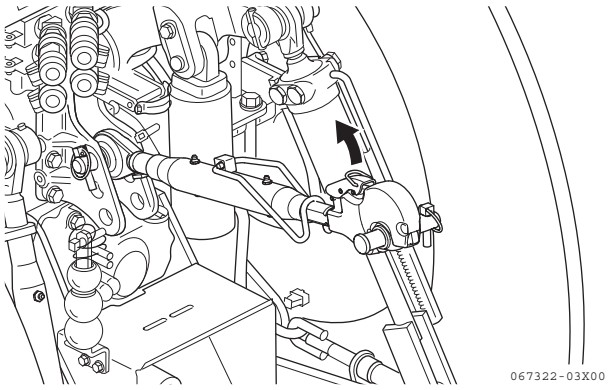


図 3-67

トップリンクの調節のしかた

- トップリンクヒンジの取付穴は、使用する作業機に合わせて選択します。
- 標準は下穴を使用してトップリンクを取り付けます。
- トップリンクの長さの調節は、図 3-68のように、ターンバックルのハンドルを回して行います。
- トップリンクハンドルを元の位置に戻し、固定します。

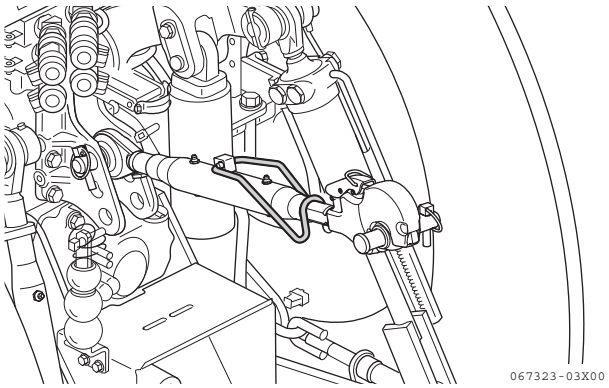


図 3-68

作業機を取り付けないとき

1. ロアリンクがクローラに接触しないように、振れ止め（図 3-69, 1）を取り付けます。
2. トップリンクは、ハンドルを起こして、フックに引っかけます。（図 3-69, 2）

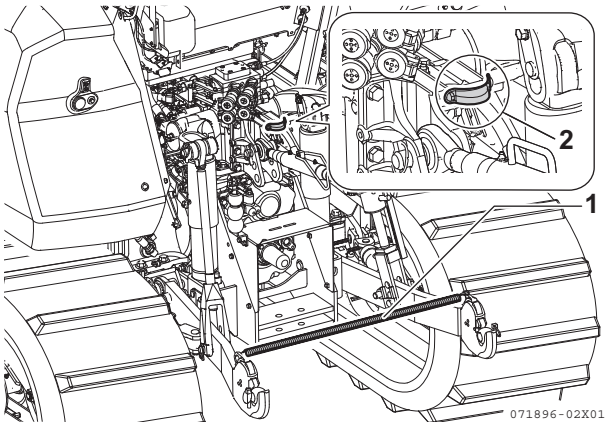


図 3-69

スタビライザの調整

スタビライザでロアリンクをつぎのように調整します。

1. 作業機の中心とトラクターの中心を合わせます。
2. ロックピン（図 3-70,1）を外します。
3. 回り止めピン（図 3-70,2）を外します。
4. スタビライザ（図 3-70,3）を回して長さを調整します。

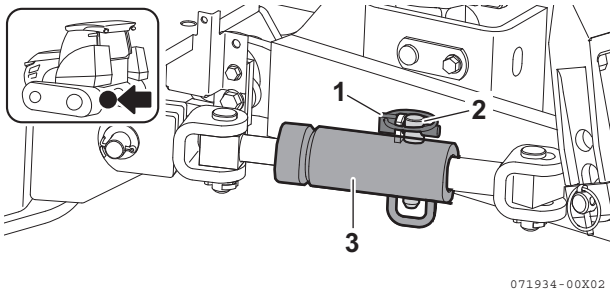


図 3-70

[参考]
装着する作業機によって、ロアリンク後部フックの左右振れ幅が異なります。

表 3-6 作業機を付け換えたときの寸法

作業機名	左右振れ幅
ロータリー・モア	20～30mm
プラウ・サブソイラ	40～50mm

※プラウ・サブソイラを装着したときは、作業機が横ぶれしてクローラに当たらないことを確認してください。

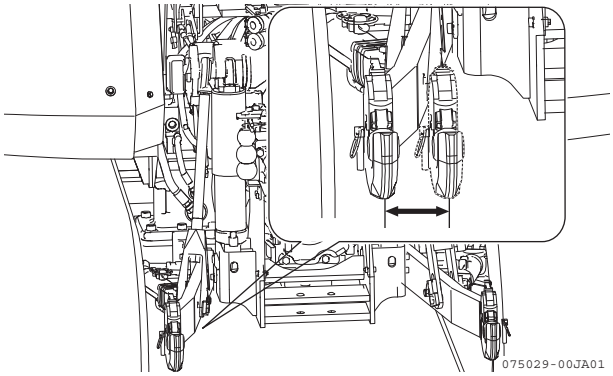


図 3-71

外部操作スイッチの使いかた

⚠ 注 意

外部操作スイッチを操作するときは、必ず機体の外側から行ってください。
【守らないと】
作業機の昇降によりけがをするおそれがあります。

油圧リフト外部操作スイッチ

エンジン運転中に油圧リフト外部操作スイッチを押すと、押している間リフトアームが昇降します。
上側を押すとリフトアームが上昇します。下側を押すとリフトアームが下降します。（図 3-72）

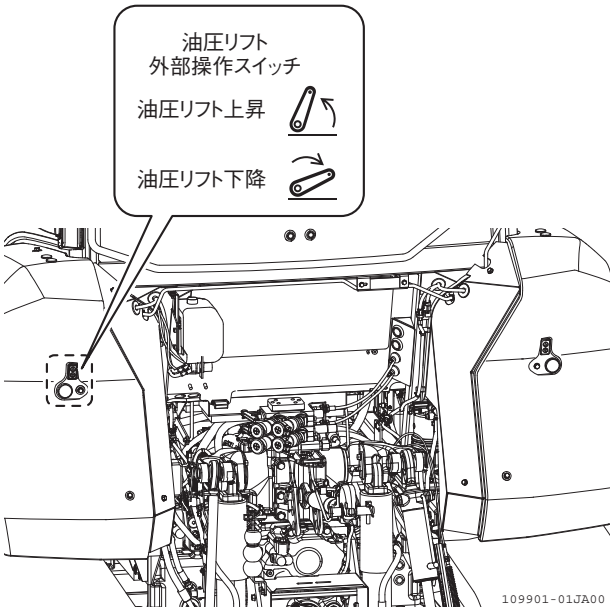


図 3-72

作業機を装着するときは、左側のロアリンクピン位置を油圧リフト外部操作スイッチで合わせます。右側のロアリンクピン位置は、傾斜シリンダ外部操作スイッチで合わせます。

[重要]
外部操作スイッチを使って作業機を上昇させるときは、リヤウインドウに作業機のレバーが当たらないように、必ず作業機の位置を確認しながら少しずつ動かしてください。

[参考]
油圧リフト外部操作スイッチは、PTO駆動スイッチが「切」位置のときのみ作動します。

傾斜シリンダ外部操作スイッチ

⚠ 注 意

傾斜シリンダ外部操作スイッチを操作するときは、必ず傾き自動制御が「切」状態であることを確認してください。
【守らないと】
作業機の昇降によりけがをするおそれがあります。

エンジン運転中に傾斜シリンダ外部操作スイッチを押すと、スイッチを押している間傾斜シリンダが伸縮します。
上側を押すと傾斜シリンダが縮みます。下側を押すと傾斜シリンダが伸びます。(図 3-73)

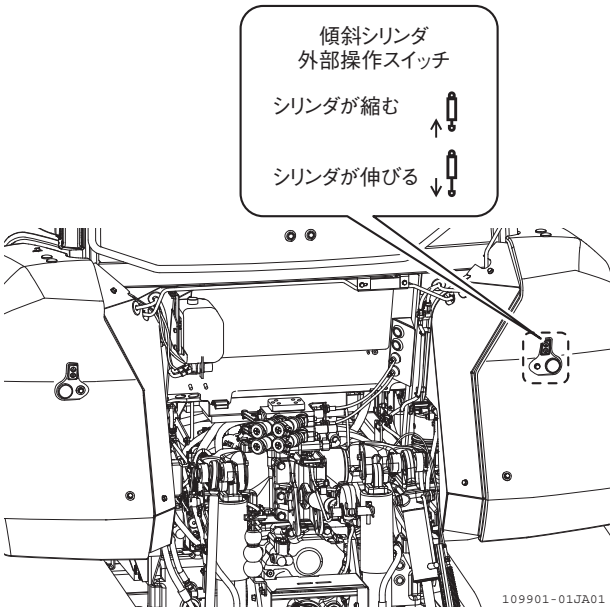


図 3-73

3P切換スイッチの使いかた

作業機を付け換えたときは、ロアリンクの幅が変わります。表 3-7を参考にして3P切換スイッチ（図 3-74）で切り換えてください。
※作業機の取り付けかたは、「3 点リンクについて」（171 ページ）および作業機の取扱説明書を参照してください。

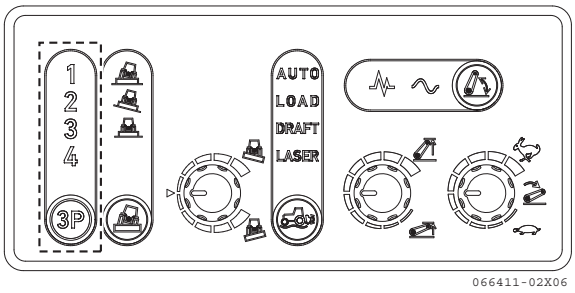


図 3-74

表 3-7 作業機を付け換えたときの設定

3P切換スイッチ	ロアリンク内幅	シリンダ穴位置とリフトリンク長さ	作業機例
1	825mm	655mm 下	カテゴリー2 一般作業機
2	825mm	595mm 上	カテゴリー2 揚力アップ穴

※3P切換スイッチの3, 4は使用できません。

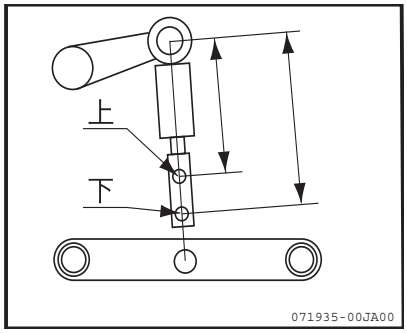


図 3-75

一般作業機の取り付けかた

⚠ 警　告

- 作業機を取り付けるときは、
  - ・ 装着前に必ず作業機の取扱説明書をよく読む
  - ・ 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行う
  - ・ トラクターを動かして作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにする

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクターに装着する作業機は、推奨されているものを使用してください。大きすぎたり、小さすぎたり、バランスの悪い作業機を装着すると、傷害事故の原因になります。

⚠ 注　意

作業機上下ダイヤルや傾き手動レバーを操作するときは、必ず運転席に座り操作してください。
【守らないと】
作業機の昇降によりけがをするおそれがあります。

1. トラクターを平たんな場所に、作業機の中心とトラクターの中心を合わせて止めます。
2. メーターパネルの「傾き」ランプが消灯していることを確認します。点灯している場合は、傾きモード切換スイッチを押して、消灯させます。
3. 油圧リフト外部操作スイッチ（図 3-76）を操作し、先に左側ロアリンクを作業機のピンに合わせて取り付けます。
4. 傾斜シリンダ外部操作スイッチ（図 3-76）を操作し、右側のロアリンクピン穴位置を作業機のピンに合わせて取り付けます。

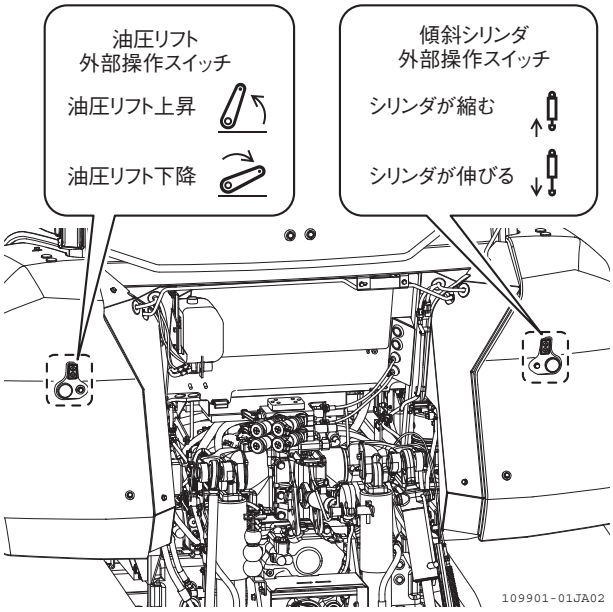


図 3-76

5. トップリンクを取り付け、作業機の傾きを調節します。
6. 作業機を地面まで下ろして、トップリンクのターンバックルで作業機の姿勢を調節します。
7. 動力を必要とする作業機を取り付けるときは、ドライブシャフトを取り付けます。
8. 作業機を「最上げ」位置にし、作業機が円滑に回ることを確認します。
   回転が円滑でない場合は、トップリンクを伸縮して調整します。

※詳細は作業機の取扱説明書をご覧ください。

サブコントロールバルブ(2連)の使いかた

2連のサブコントロールバルブが装備されています。オプションにより4連まで増設できます。

⚠ 警　告

油圧取出口のプラグを外したり、配管脱着を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
【守らないと】
高圧オイルにより傷害事故を引き起こすおそれがあります。

単動・複動・フロート（サブコンレバー 1 のみ）として使用できます。

- セット圧：19.6 MPa（200 kgf/cm^2）
- 油流量　36 L/分

油圧取出口は、トラクター後部にあります。後部取出口のクイックカプラサイズは1/2です。

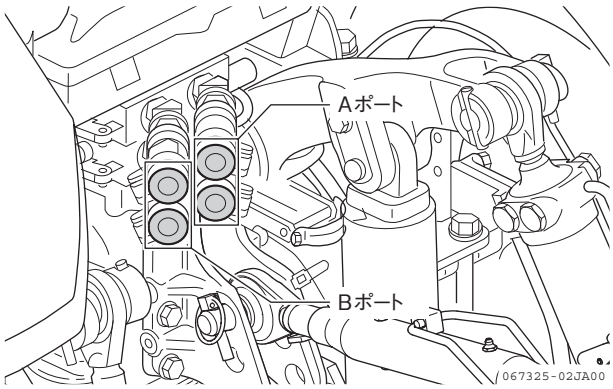


図 3-77

[参考]
単動シリンダを使用する場合は、A ポートに配管してください。

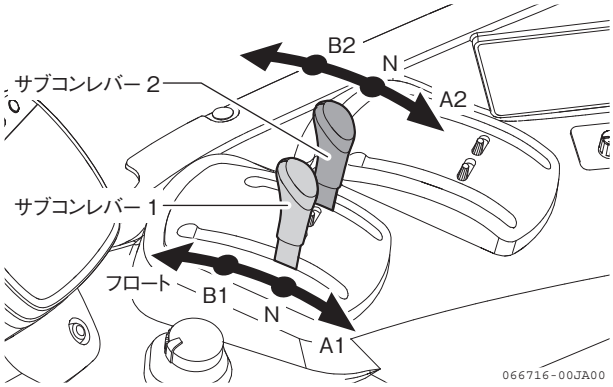


図 3-78

複動の場合

サブコンレバーを操作します。
A方向へ引く…… Aポートから油が出ます。
（通常シリンダ伸び側）
B方向へ押す…… Bポートから油が出ます。
（通常シリンダ縮み側）

〈サブコンレバー1のみ〉
フロート位置へ押す… Aポートから油が出ます。
（通常シリンダ伸び側）

単動の場合

サブコンレバーを操作します。
A方向へ引く…… Aポートから油が出ます。
（通常シリンダ伸び側）

〈サブコンレバー1のみ〉
フロート位置へ押す… フロートの状態になります。
（通常は、作業機などの自重でシリンダが縮みます。）

作業機の装着

[重要]

油圧配管は、必ず A1, B1 系統と、A2, B2 系統（2 連装備時）に分けて接続してください。

※ 油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書をご覧ください。

[参考]

表 3-8 サブコントロールバルブ増設キット（オプション）

品名	コードNo.
後付け用1連（3連目）	95330000060
後付け用1連（4連目）	95330000070
後付け用2連（3・4連目）	95330000080

作業機上下ダイヤルでゆっくり作業機を上げ、装着したクイックカプラと作業機やトップリンクなどとの干渉がないことを確認してください。

外部電源取り出しについて

作業機への外部電源取り出しに使用します。

[重要]

- 外部電源を使用する場合は、他の灯火類と併用して長時間使用すると、バッテリー残量が減少することがあります。
- 外部電源の使用は合計で 12 V 40 A 以下にしてください。過負荷電流で使用すると、電気部品が損傷することがあります。
- 端子のプラス、マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用すると（最大：12 V 40 A）ヒューズが切れます。
  ヒューズが切れたときはヒューズボックス内のヒューズを交換してください。（225 ページ参照）

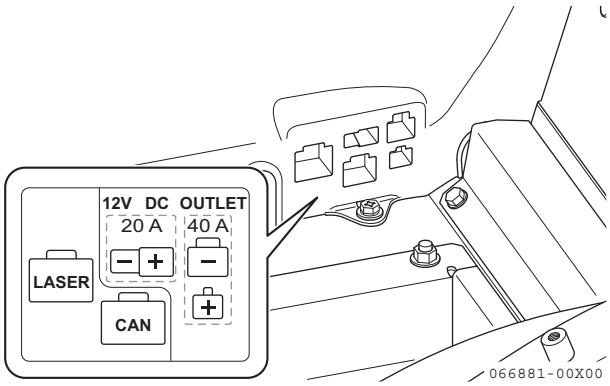


図 3-79

トレーラーカプラ

トレーラーなどの灯火装置が装備された作業機への電源取り出しに使用します。

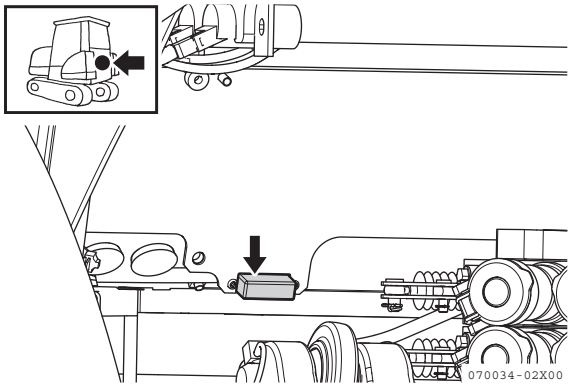


図 3-80

アクセサリーソケット

12 V 120 W（10 A）の電源を取り出すことができます。キースイッチ「ON（入）」、「ACC」位置で使用できます。

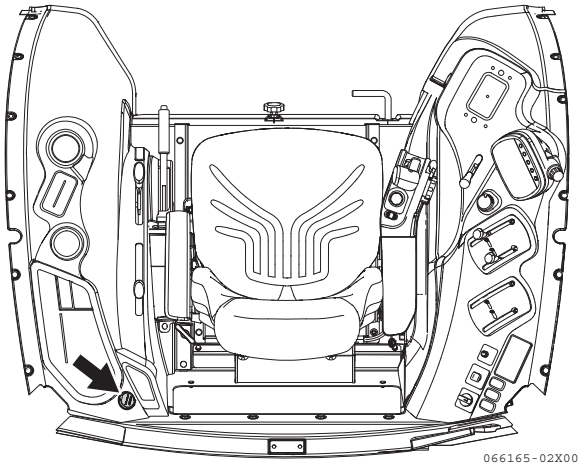


図 3-81

レーザーカプラ、CAN取り出しカプラ

レーザー装置装着時や、CAN通信可能な作業機を装着したときの送受信用に利用します。
装着方法については、作業機の取扱説明書をご覧ください。

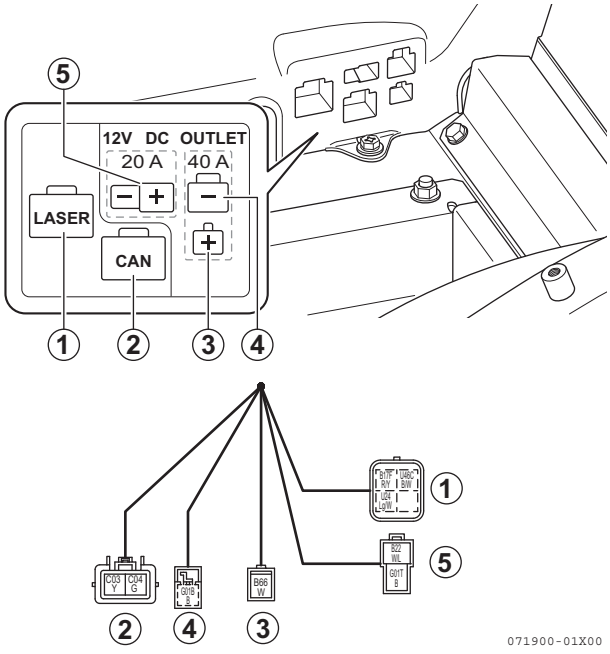


図 3-82

外部電源を通す穴のゴムグロメットの扱いかた

⚠ 注 意

ゴムグロメットをつけたまま、電源コードを通してください。
外して通すと、電源コードにキズがつき、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業機側のハーネスをキャビン内に引き込む場合、キャビン後方のゴムグロメット（図 3-83）にカッターナイフで切り込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットを介して通してください。

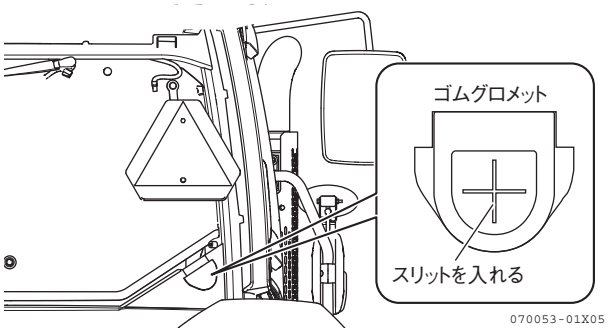


図 3-83

作業機の取り扱いについての注意事項

⚠ 警　告

- 背の高い作業機（調整レバーを含む）を装着した場合や、ロータリー用アタッチメントを取り付けた場合は、以下の要領にて装着および操作してください。

【守らないと】
作業機を最上げにしたとき、作業機の調整レバーなどが干渉し、傷害事故や機械の破損の原因となります。

・ 作業機を装着し、トラクター本体やキャビンに干渉しないように、上げ位置ダイヤルで上げ高さを規制してください。
・ 上げ高さ設定時はエンジン回転を低速にし、ゆっくりと作業機を上げてください。

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 作業機の着脱は、平たんで安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、トラクターの前方（フロント）にウエイトを付けて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、PTO駆動スイッチが「切」、PTO 変速レバーが「N（中立）」位置にあることを確認してから行ってください。
- けん引作業をするときは、必ずドローバを使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになります。旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイトの代わりに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- PTO 軸を使用しないときは、PTO 軸の安全カバーを必ず取り付けてください。

【守らないと】
巻き込まれたりして、けがをするおそれがあります。

- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

【守らないと】
誤作動などにより、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

フロントウエイトについて

⚠ 警　告

- トラクターの後部に重い作業機を装着した場合には、機体前方が浮き上がりがちになり、ハンドル操作がきかなくなったり、転倒するおそれがあります。作業機に合った適切なフロントウエイトを取り付けてください。
- フロントウエイトを取り付けても適切なバランスが保てないような重い作業機は使用しないでください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

このトラクターには、ベースウエイト44 kgが標準で装備されています。
1枚50 kgのフロントウエイト（別売）を10枚まで装着できます。装着する作業機に応じて、フロントウエイトを取り付けてください。

フロントウエイトの取り付けかた

フロントウエイトをフロントベースウエイトに引っかけます。

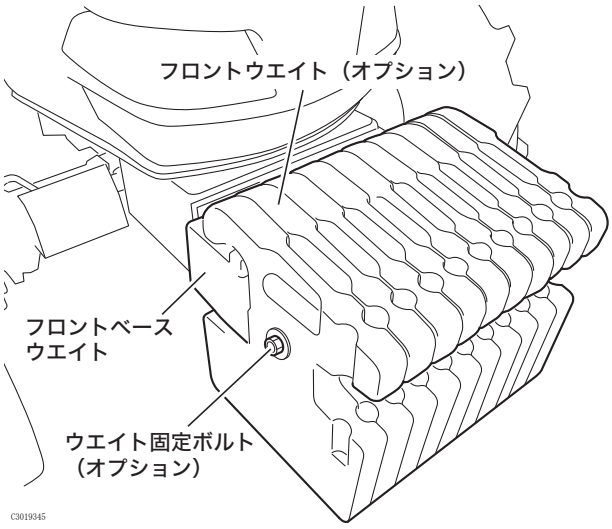


図 3-84

表 3-9 品名、コードNo.

品　名	コードNo.	備考
ウエイト（フロント 45	95330000100	1個

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 警　告

シートカバーをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。
【守らないと】
火災など傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 点検・整備や修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】
機械に巻き込まれて事故を引き起こすおそれがあります。

- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】
やけどなどのけがをするおそれがあります。

- 点検・整備や修理をするときは、作業に適した服装をしてください。
  - ・ だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
  - ・ 滑り止めのついた靴（安全靴など）を着用してください。
  - ・ ヘルメットを着用してください。
  - ・ はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
  - ・ 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒して、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。特に、ボンネット前部のフロントスクリーン内部への直接放水はしないでください。故障の原因となります。
- キャビンを洗車する場合、高圧洗浄機を使用してキャビンへの直接放水をすると、キャビン内へ水が漏れる場合がありますのでさけてください。

使用後はトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部（グリスニップル）には、グリスアップを行ってください。



図 4-1

ボンネットの開閉のしかた

⚠ 注　意

- ボンネットはフロントマスクと同時に開きます。ボンネットを開けて点検する場合は、頭などぶつけないよう十分注意してください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

- ガスダンパーの力が弱くなると、ボンネットが自動で上がらなくなったり、自然落下するおそれがあります。
  このような現象が発生したら、トラクターをお買い上げいただいた特販店または JA に連絡し点検・整備を受けてください。

【守らないと】
ボンネットの落下により、けがをするおそれがあります。

ボンネットの開けかた

1. ボンネットオープンレバーを引き下げます。
   ボンネットのロックが解除されます。(図 4-2)

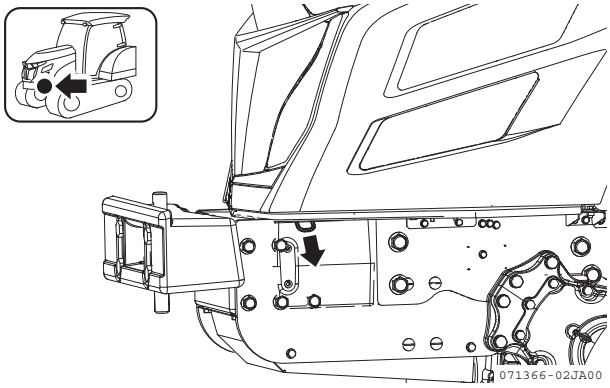


図 4-2

2. 両手でボンネットを持ち上げると、ガスダンパーにより自動的に上がります。(図 4-3)

[参考]
ボンネットを閉めるときに引くロープをフックから外すと、より大きくボンネットを開くことができます。

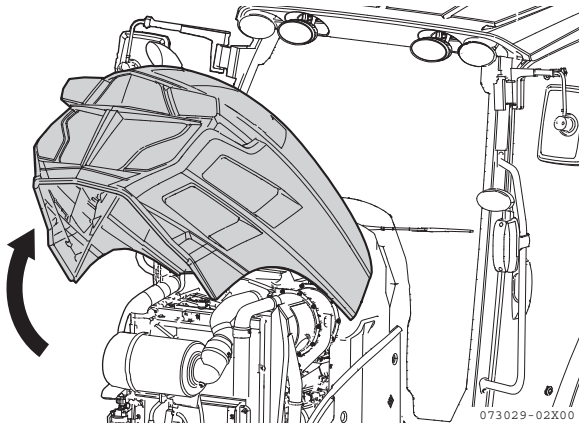


図 4-3

ボンネットの閉めかた

⚠ 注　意

ボンネットを閉める場合は、ボンネットで指を挟まないよう十分注意してください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

1. ボンネット内側のロープを引いて、ボンネットを下ろします。(図 4-4)

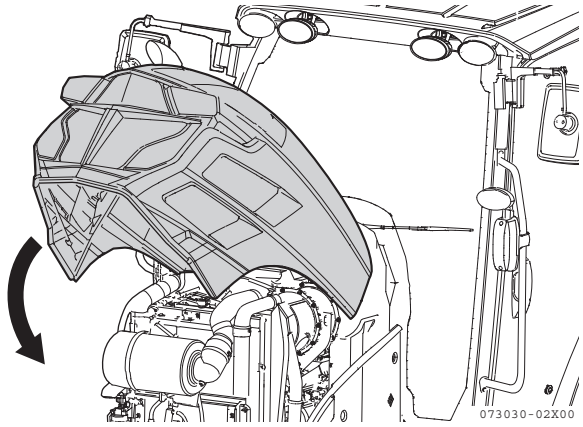


図 4-4

2. ボンネット前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押します。
3. ボンネットを閉めたあと、上に持ち上げて、ボンネットが確実にロックされていることを確認します。

点検･整備のしかた

⚠ 警　告

- 作業機を上げた状態で点検・整備を行うときは、油圧ストップ・スローリターンバルブを油圧ストップ位置（作業機の下降速度が遅くなる方向へいっぱいまで回す）にして、作業機の下にリジットラック（うま）をかけて落下防止をしてください。

【守らないと】
作業機が落下し､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- コモンレールエンジンの不調はトラクターをお買い上げいただいた特販店または JA にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店・JAまでご連絡ください。

【守らないと】
整備不良による機械の故障､また高圧燃料による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 点検･整備の際にジャッキアップするときは､地面が固く､平たんな場所で必ず2トン以上の容量のあるジャッキを使用してください。
  ジャッキアップする際には、前側または後側のいずれかをジャッキアップしてください。

【守らないと】
トラクターが転倒し､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 点検、整備時は、可動部で手足を挟んだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。
- 点検・整備は、作業に適した服装で行ってください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

⚠ 注　意

- 点検・給油・オイル補給・注油・整備をするトラクターは、
  - 交通の危険がなく、平たんで安定した場所に止める
  - 作業機を下ろす
  - 各変速レバー（リバーサ・副変速・PTO変速）を「N（中立）」にする
  - PTO駆動スイッチ「切」位置にする
  - 駐車ブレーキをかける
  - エンジンを止めて、キーを抜く
  - クローラに車止めをする
  - 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（－）側のケーブルを外す
    以上の状態にし、周囲の安全を確認してから作業してください。

【守らないと】
機械に巻き込まれて､事故を引き起こすおそれがあります。

- 点検・整備などで外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれて､事故を引き起こすおそれがあります。

- マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検・整備をしてください。

【守らないと】
やけどなどのけがをするおそれがあります。

定期点検

定期点検・整備は、農閑期に行うことをお勧めします。農閑期に行いますと、農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。
機械の整備不良による事故を未然に防止するために、1年ごとに特販店、またはJAの整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。
特に、燃料パイプや、パワーステアリングホース、ラジエータホースなどのゴムホース類は２年ごとに交換し、電気配線は50時間ごと、または1年ごと（どちらか早いほう）に点検して、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

ジャッキアップポイント

〈前側〉

フロントウエイトブラケット下部

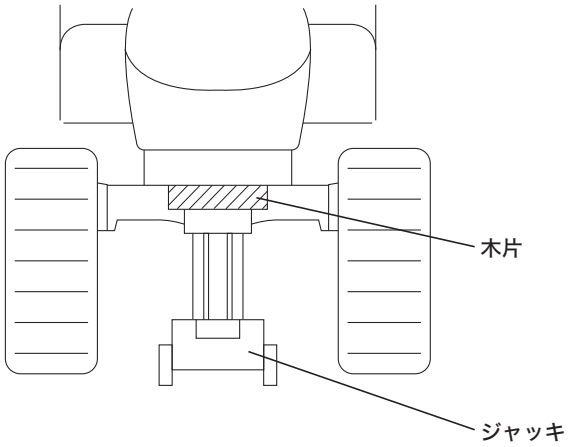


図 4-5

〈後側〉

リヤフレーム下部

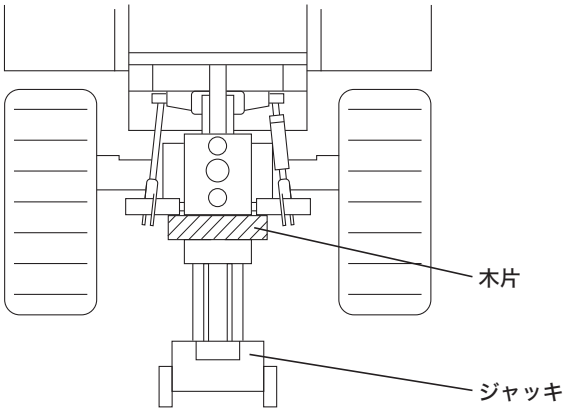


図 4-6

[重要]

ジャッキアップするときは、必ず木片（図 4-5, 図 4-6）などを置いてジャッキアップしてください。

定期点検一覧表

- つぎの定期点検箇所に従って、定期点検を行ってください。○印は点検です。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

表 4-1 定期点検一覧表(1/2)

項目/コードNo.	日常点検	区分	アワーメーター表示時間												参照ページ
			50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以後	
エンジンオイル	量および汚れ	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	193
エンジンオイルエレメント/94690075301		交換	◎							○					400時間ごと	194
ミッションオイル	量	交換	◎											○	600時間ごと	194
サクションフィルター/99460000060 ラインフィルター/99430000020		交換	◎											○	600時間ごと	198
FDSオイル	量	交換	◎											○	600時間ごと	199
FDSオイルフィルター		交換	◎											○	600時間ごと	199
燃料コシ器エレメント		交換						○						○	300時間ごと	190
ウォータセパレータ コシ器※1	水・沈殿物	洗浄	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	190
冷却水	(サブタンク)量	交換	2年ごとに交換													200
ラジエータ内部		洗浄	冷却水交換時													200
エアクリーナエレメント		掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	202
インナーエレメント※2/90350032600 アウターエレメント/90350032590		交換						○						○	300時間ごと	202
燃料クーラー	掃除	掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	205
オイルクーラー※4	掃除	掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	205
ラジエータ、ラジエータスクリーン※4	掃除	掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	202
インタークーラースクリーン※4	掃除	掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	204
バッテリー液量	量	点検														213
バッテリー補充電		補充電	必要に応じて													215
燃料ホース	燃料漏れ	交換	2年ごとに交換													216
ラジエータホース	水漏れ	交換	2年ごとに交換													216
油圧ゴムホース		交換	2年ごとに交換													216
電気配線※3		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	217
各部グリスアップ※3		注入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	217
重要ボルトナット(増し締め)		点検	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	−
主要固定ピン	摩耗	点検		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	−
冷却ファンベルト オルタネータ駆動ベルト	適正張り強さ	調整	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	223
マフラー		点検	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	−
エンジンのブリーザパイプ		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	−
エンジンクランクケース		洗浄						○						○	300時間ごと	−

項目/コードNo.	日常点検	区分	アワーメーター表示時間												参照ページ
			50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以後	
吸排気弁すき間		点検												○	600時間ごと	−
燃料噴射弁		点検												○	600時間ごと	−
オルタネータ		点検	○	○				○				○			200時間ごと	−
油圧装置		点検	○	○				○				○			200時間ごと	−
ブレーキペダル	作動確認	点検														221
クラッチペダル	作動確認	点検														222
ハンドル	作動確認															222
クローラの張り		点検														219
トラックローラ		交換								○					400時間ごと	−
アイドラ		交換								○					400時間ごと	−
ヒューズ・スローブローヒューズ		交換	必要に応じて交換													225

◎50時間または、1年目のどちらか早いほうで交換してください。
※1: 点検時間以前であってもウォータセパレータ内のフロート（赤リング）がエレメント上端に達している場合、およびコシ器の汚れがひどい場合は水抜き・洗浄を行ってください。
※2: インナーエレメントは、アウターエレメントの3回目の交換に合わせて、交換してください。
※3: 50時間ごとを基準としますが、使用時間が満たない場合は1年ごとに行ってください。
※4: ほこりの多い場所での作業時は、50時間ごとに行ってください。

表 4-2 定期点検一覧表（2/2）

点検・調整箇所/コードNo.	日常点検	区分	アワーメーター表示時間												参照ページ
			50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	それ以後	
内気吸入口フィルターの掃除・交換※1 フィルタ（ナイキ/95330000030 カバー（フィルタ ナイキ/ 95330000040		交換												○	600時間ごと	206
		掃除				○				○				○	200時間ごと	
外気導入口フィルターの掃除・交換※2/ 95330000050		交換						○						○	300時間ごと	206
		掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	
ウォッシャータンクの ウォッシャー液	量															225
コンデンサ・コンデンサスクリーン※3	掃除	掃除		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	203
温水配管		交換	1年ごと													−
コンプレッサ駆動ベルト	適正張り強さ	調整	○	○		○		○		○		○		○	100時間ごと	222

※1、※2: 内気吸入口フィルターおよび外気導入口フィルターは使用時間にかかわらず2年ごとに交換してください。
※3: ほこりの多い場所での作業時は、50時間ごとに行ってください。

推奨オイル・グリス・不凍液一覧表

表 4-3 推奨オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正品		一般販売店の相当品	
			JX日鉱日石エネルギー（ENEOS）	コスモ石油
燃　料	ー		ディーゼル軽油（JIS2号）	
尿素水	ー		AdBlue®	
エンジンオイル（JASO分類、DH-2級）（API分類、CJ-4級）	寒冷地用	エコロイヤル5 5W-30（DH2）	SAE 5W-30相当品（DH-2級、API分類、CJ-4級）	
	寒冷地以外	クリーンロイヤルオイル 10W-30（DH2）	SAE 10W-30相当品（DH-2級、API分類、CJ-4級）	
グリース（マルチパーパスタイプ）	ー		エピノックグリースAP2 または リゾコックグリースEP2	コスモグリース ダイナマックスEP
不凍液（JIS K2234 2種 パーマネントタイプ）	ロイヤルフリーズ不凍液		アンチフリーズPT	アンチフリーズPT（ゴールド、シルバー）
ミッションオイル	TFプレミアム		ー	
FDSオイル	TFプレミアム		ー	
トラックローラ	TFプレミアム		ー	
アイドラ	TFプレミアム		ー	

（注）気温ー5 ℃以下のとき、燃料は3号軽油または特3号軽油を使用してください。

給油・給水一覧表

表 4-4 給油・給水一覧表

燃　料		(L)	160
冷却水	ラジエータ	(L)	12
	サブタンク	(L)	2.0
尿素水	AdBlue®	(L)	17.5
エンジンオイル		(L)	10
ミッションオイル		(L)	70
FDSオイル		(L)	23
トラックローラ		(L)	各0.1
アイドラ		(L)	各0.2

燃料の点検･補給のしかた

⚠ 危　険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- エンジンが回転しているときや、エンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。

【守らないと】
火災などにより､死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

燃料タンクの上には絶対乗らないでください。
【守らないと】
滑って転倒し､けがをするおそれがあります。
また､燃料タンクの変形にもつながります。

点検のしかた

キースイッチを「ON（入）」位置にして、メーターパネルの燃料表示を確認します。

燃料計の針が「◯」に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

また、メーターパネル中央に図 4-7 の画面が表示された場合は、すぐに燃料を補給してください。



図 4-7

補給のしかた

燃料キャップ（図 4-8）を外して、給油口から燃料を補給します。

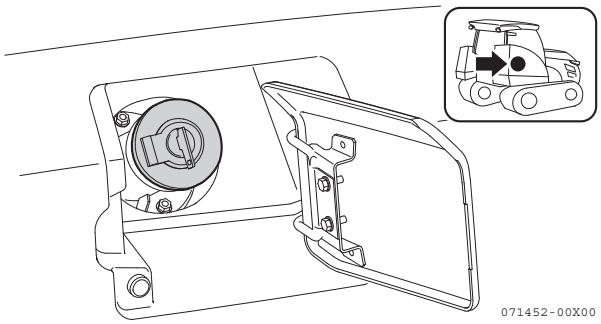


図 4-8

[参考]
キースイッチが「ON」位置のとき、燃料が満タン近くになると、警報ブザーが鳴り給油量が満タンに近いことをお知らせします。

[重要]

- 燃料は市販のディーゼル軽油（JIS2 号）をそのまま使用し、添加物などを加えないでください。守らないと､添加物などで燃料噴射ノズルが目詰まりを起こし、エンジン出力が低下するおそれがあります。
- トラクターが傾いた状態では、実際の燃料残量とメーターパネルに表示される燃料の残量が一致しない場合があります。燃料の残量点検は平たんな場所で行ってください。
- 燃料を補給するときは、必ず給油口についているこし網をつけたままで行ってください。
- このトラクターのエンジンは排ガス規制対応のため燃料噴射部品に精密部品を使用しています。
  使用燃料を保管する場合は亜鉛メッキ鋼板の容器の使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛または鉛物質が溶け出すとエンジン不調の原因になる場合があります。
- 燃料補給時は、水分が混入しないように注意してください。特に外部タンクで燃料を保管している場合、タンク下部に水分がたまっている場合があります。
- 燃料キャップを閉めるときは、閉めすぎないようにしてください。守らないと、キャップを破損する可能性があります。

尿素水の点検・補給のしかた

⚠ 危　険

尿素水が目に入らないようにしてください。万一目に入った場合には、ただちに大量の水で目を洗い、これを少なくとも15分間続けてください。尿素水を飲み込まないでください。万一尿素水を飲み込んだ場合にはただちに医師に相談してください。

[重要]

- 尿素水をディーゼル燃料タンクに入れる、あるいはディーゼル燃料を尿素水タンクに入れることは絶対にしないでください。
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- キースイッチを「切」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
  システム破損の原因になるため、キースイッチ「切」後10分間は、バッテリーからハーネスを絶対に抜かないでください。

[参考]

- 飛び散った尿素水をそのまま乾かしたり、単に布でふき取っただけにすると、白い残留物質が残ります。見た目が悪くなるだけでなく、適切に洗浄されていない場合には、尿素SCRシステム診断の漏れ検査の妨げとなる可能性があります。
- 金属は尿素水が付着すると腐食する可能性があるため、水で洗い流してください。

点検のしかた

尿素水の残量は、キースイッチを「入」にして、センターディスプレイの尿素水残量表示（図 4-9, 1）で確認します。
尿素水の残量が少なくなったときは、「」マーク（図 4-9, 2）が点灯し、ブザーが断続的に鳴ります。ブザーは５分後に鳴り止みますが、「」マークは点灯したままです。
尿素水を補給しないでいると、さらにブザーが鳴り、エンジン出力が制限されます。
「」マークが点灯・点滅した場合は、必ず尿素水を補給してください。

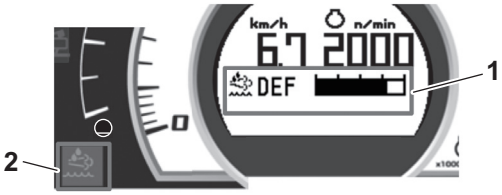


図 4-9

補給のしかた

1. 尿素水を給水する前に、補給容器を蒸留水で十分にすすいで汚れを取り除きます。
2. 尿素水による汚染を軽減するため、尿素水タンクのキャップおよびキャップと給水口の周辺をふきます。
3. 尿素水タンクのキャップを取ります。
4. 給水口から注意深く尿素水をタンクに補給します。

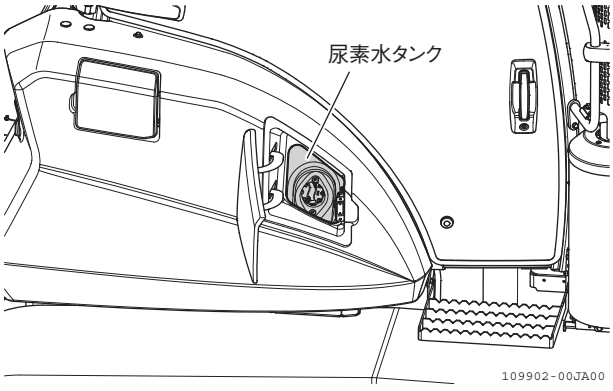


図 4-10

[参考]
キースイッチが「ON」位置のとき、尿素水が満タン近くになると、警報ブザーが鳴り補給量が満タンに近いことをお知らせします。

5. 尿素水タンクのキャップを確実に締め付けます。
6. 尿素水の飛散があれば、蒸留水を使用して洗い流します。

[重要]
- ディーゼル燃料やエンジン冷却水など認証外の液体が尿素水タンクに入った場合には、タンクを空にして蒸留水ですすぎ、十分に液体を取り除いたあと、再度タンクに補給してください。万一、認証外の液体が尿素水タンクに入った状態で、エンジンを始動した場合は、システムの交換が必要になる可能性があるため、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
- 勢いよく尿素水を補給しないでください。尿素水タンク内に気泡が発生し、これをセンサが誤感知してエラーが発生するおそれがあります。給水の目安は10ℓ/min以下です。
- 尿素水は必要以上に補給しないでください。
  守らないと尿素水が凍結したときにセンサ類が破損するおそれがあります。
- 尿素水をタンクから抜き取る場合には、ドレンプラグから抜き取ってください。
  締付トルク：27～31 N・m

ウォータセパレータの水抜き・清掃、燃料コシ器エレメントの交換のしかた

表 4-5 点検、交換時期

ウォータセパレータ	点検	日常点検
	洗浄	1回目　　:50時間目 2回目以降 :100時間ごと
燃料コシ器エレメント（カートリッジ）	交換	300時間ごと

表 4-6 品名、コードNo.

品名	コードNo.
ウォータセパレータエレメント	97360000240
燃料コシ器エレメント	97360000250

[重要]
- ウォータセパレータを作業前に毎日点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。
  守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォータセパレータに多くの水がたまっている場合は、エンジンを始動せず、トラクターをお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
  サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。
- 点検時間前であっても、ウォータセパレータ内のフロート（赤リング）がエレメント上端に達している場合、およびエレメントの汚れがひどい場合は、水抜き・洗浄を行ってください。

ウォータセパレータの水抜きのしかた

1. ウォータセパレータの燃料コック（図 4-11, 1）をOFF（閉の状態）位置にします。

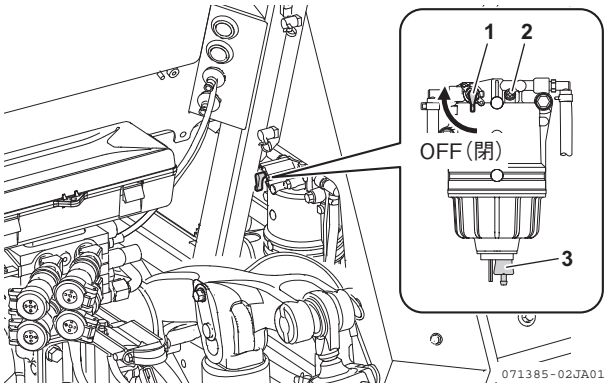


図 4-11

2. ウォータセパレータの下に水を受ける容器を置きます。
3. エア抜きプラグ（図 4-11, 2）を緩めます。
4. ウォータセパレータ最下部の水抜きコック（図 4-11, 3）を回し、水を抜きます。
5. 水を抜き終わったら水抜きコックを閉め、燃料コックをON（開の状態）位置にします。

[参考]

ウォータセパレータを掃除するために、ボウル部を外すときは専用工具が必要です。詳しくは、お買い上げいただいた特販店またはJAへご相談ください。

燃料コシ器エレメント交換のしかた

燃料コシ器（図 4-12）はカートリッジタイプです。300時間ごとに交換してください。
交換するときは、新しい燃料コシ器エレメントのゴムリングにオイルを薄く塗り、確実に取り付けてください。

1. ウォータセパレータの燃料コックを OFF（閉の状態）位置にします。
2. ボンネットを開きます。（182ページ参照）
3. 燃料コシ器エレメントを外します。
4. 新しい燃料コシ器エレメントのゴムリングにオイルを薄く塗り、確実に取り付けます。
   （図 4-12）

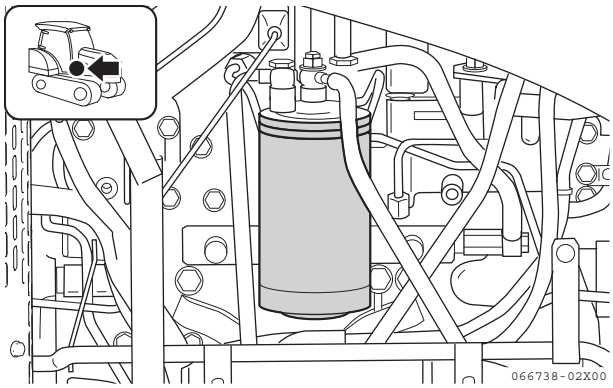


図 4-12

5. ボンネットを閉めます。

[重要]

エレメントは純正部品を使用してください。他社製品を使用すると故障の原因になります。

メンテナンスモードについて

メンテナンスモードに入ると、オイルやエレメントなどの消耗部品の次回交換までの時間をリセットできます。
オイル交換をお知らせする情報が表示されたときにすぐに交換できなかった場合や、表示中に交換時間をリセットできなかったときは、メンテナンスモードに入り、メンテナンス時間をリセットしてください。

1. キースイッチを「ON（入）」位置にします。
   （エンジンは始動しないでください。）
2. ハンドル下の「DISP スイッチ」を数回押して、メーターパネルに「メンテナンス設定」が表示された状態（図 4-13）にします。

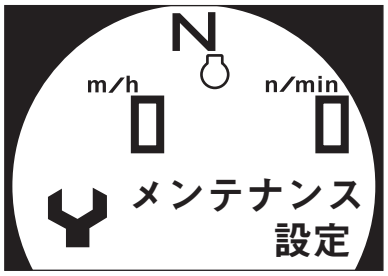


図 4-13

3. 「DISPスイッチ」を3秒以上長押しします。
   「メンテナンス設定モード」と表示されます。
   （図 4-14）



図 4-14

4. 図 4-14が表示されたら、「DISPスイッチ」から手を離します。

5. 「DISPスイッチ」を押し、交換時間をリセットしたい項目の表示を反転させます。(図 4-15)

[参考]

図 4-15のミッションオイルの時間のように、時間表示が反転している場合は、交換時間を過ぎていることを表します。



図 4-15

6. リセットしたい項目を反転させた状態で、「DISPスイッチ」を3秒以上長押しします。



図 4-16

7. 「時間リセット？」と表示されます (図 4-17) ので、「DISPスイッチ」を押して、「はい」または「いいえ」を選択します。



図 4-17

8. 「はい」の表示を反転させた状態で「DISPスイッチ」を3秒以上長押しすると、交換までの時間をリセットできます。

9. リセットが完了すると、「時間リセット完了」と表示され、(図 4-18)「メンテナンス設定」のトップ画面に戻ります。



図 4-18

[参考]

手順 9. のリセット処理が完了できなかった場合は、メーターパネルに「時間リセット失敗」と表示されます。このようなときは、「DISP スイッチ」を押して、メンテナンス設定モードのトップ画面に戻り、再度リセット処理を行ってください。

エンジンオイルの点検・交換のしかた

表 4-7 エンジンオイルの点検、交換時期、油種、油量

点検	日常点検	
交換	1回目　：50時間目 　　または1年目(どちらか早いほう) 2回目　：200時間目 3回目以降　：200時間ごと	
油種	寒冷地用	エコロイヤル5 5W-30(DH2)
	寒冷地以外	クリーンロイヤルオイル 10W-30(DH2)
油量	10L	

点検のしかた

1. エンジン右側横の検油ゲージ（図 4-19）を抜いて、先端のオイルをきれいにふき取ります。
2. 検油ゲージを差し込んで再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認します。
3. エンジンオイルが不足しているときは、ボンネットを上げ、給油口（図 4-21）より規定量まで補給します。

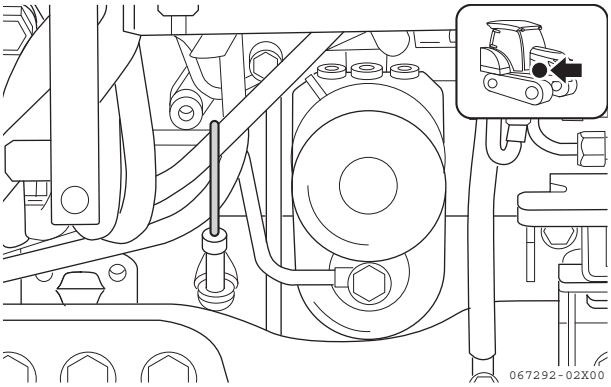


図 4-19

[重要]

- エンジンオイル量を点検するときは、トラクターを平たんな場所に駐車してください。傾いていると、正確な量が確認できません。
- エンジンオイルの点検は、エンジン始動前かエンジンが冷えているときに作業してください。

交換のしかた

1. エンジンオイルケース下部のドレンプラグ（図 4-20）の下にオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグをゆるめて外します。
   エンジンオイルが流れ出ます。

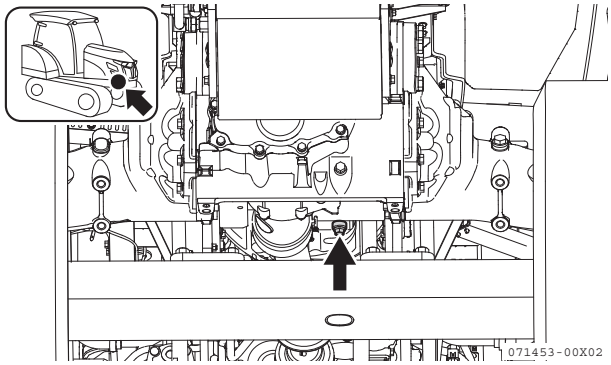


図 4-20

3. エンジンオイルがすべて抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. エンジンオイル給油口（図 4-21）から給油します。

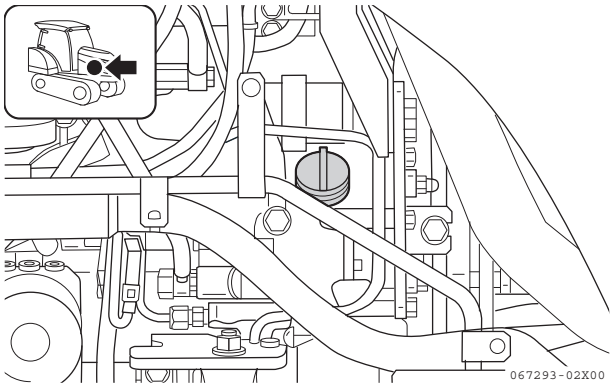


図 4-21

[重要]

エンジンオイルの交換は、エンジン始動前か冷えているときに作業してください。

[参考]

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせて使いわけることが大切です。

エンジンオイルエレメントの交換のしかた

表 4-8 エンジンオイルエレメントの交換時期

点検	日常点検
交換	1回目　：50時間目 または1年目(どちらか早いほう) 2回目　：400時間目 3回目以降：400時間ごとまたはエンジンオイルを2回交換ごと

表 4-9 品名、コードNo

品名	コードNo.
エンジンオイルエレメント	94690075301

使用時間400時間ごと、またはエンジンオイルを2回交換ごとに、同時にエンジンオイルエレメント（図 4-22）を交換してください。

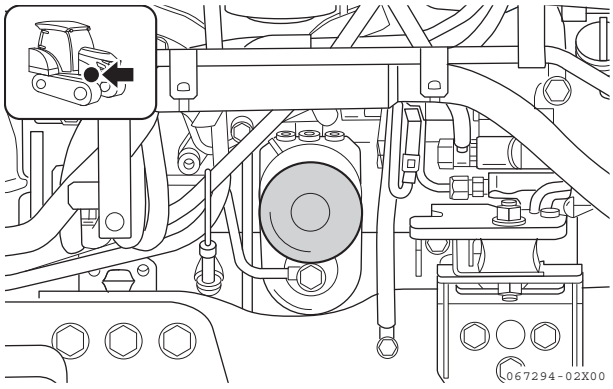


図 4-22

交換のしかた

1. エンジンオイルを抜き取ります。
(193ページ参照)
2. エンジンオイルエレメント（図 4-22）のカートリッジをフィルターレンチで左側に回して外します。(反時計方向)
3. 新しいエレメントの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、取り付け面に接触するまで右回しで締めます。さらにフィルターレンチを使用して1/2〜3/4回転締め付けます。
4. エンジンオイルを給油します。
5. エンジンを始動します。
6. メーターパネルの油圧パイロットランプが消えるまでエンジンを低速回転で運転します(約5分間)。
7. エンジンを停止します。
8. 検油ゲージでエンジンオイル量を点検します。不足していれば、エンジンオイルを給油口から補給します。

[重要]

- エレメントは純正部品を使用してください。他社製品を使用すると故障の原因になります。
- エレメント取付面などからのオイル漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

ミッションオイルの点検・交換のしかた

表 4-10 ミッションオイルの点検、交換時期、油種、油量

点検	日常点検
交換	1回目　：50時間目 または1年目(どちらか早いほう) 2回目　：600時間目 3回目以降：600時間ごと
油種	TFプレミアム
油量	70L

点検のしかた

点検は、平たんな場所で実施していただき、油圧リフトは下げた状態で確認してください。

1. PTO軸横の検油窓（図 4-23, 1）を見て、油面を確認します。
2. オイルが不足しているときは、検油窓の中心より上で、検油窓の上面を超えないように、給油口（図 4-23, 2）よりミッションオイルを入れてください。

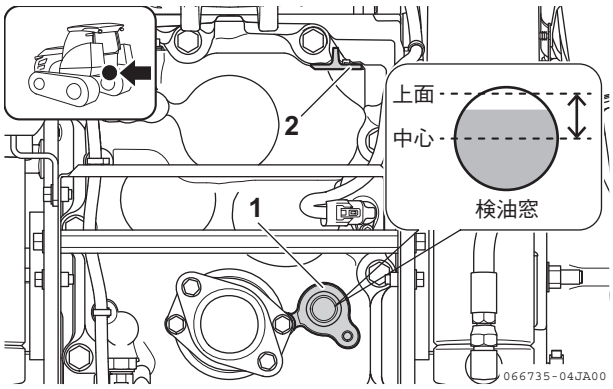


図 4-23

交換のしかた

1. ミッションケース下部のドレンプラグ(図 4-24)の下にオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグをゆるめて外します。
   ミッションオイルが流れ出ます。

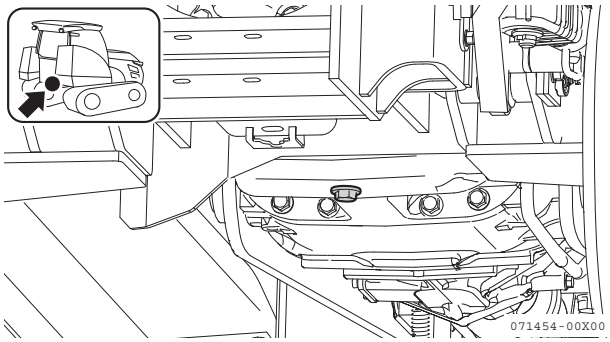


図 4-24

3. ミッションオイルがすべて抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. ミッションオイル給油口から給油します。

[重要]

ミッションオイルの交換は、エンジン始動前か冷えているときに作業してください。

[参考]

- ミッションオイルは、油圧オイルと併用しています。
- ミッションオイルは、必ず純正TFプレミアムトランスミッションフルードを使用してください。

尿素水のサプライモジュールメインフィルターの交換のしかた

メインフィルターを洗浄して再使用はしないでください。イコライジングエレメントも必ず一緒に交換してください。

表 4-11 尿素水のサプライモジュールメインフィルター

交換時期	2000時間ごと

交換のしかた

1. メインフィルターカバーはサプライモジュールの下側の面にあります。

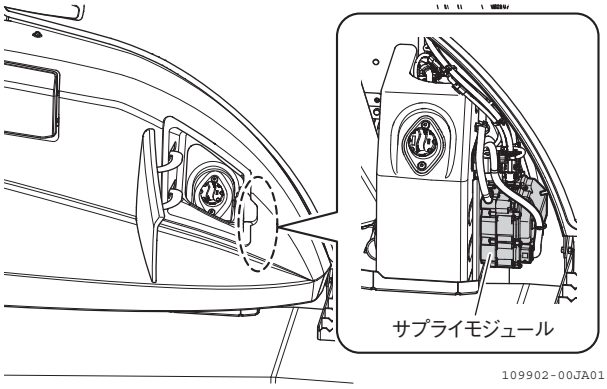


図 4-25

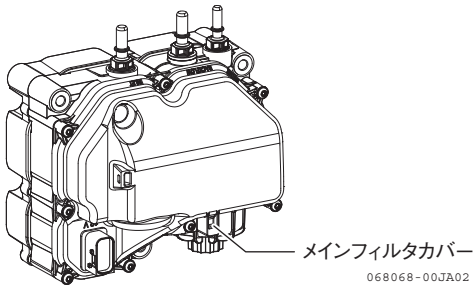


図 4-26

2. サプライモジュール（1）のフィルターカバー（2）を、指定の工具（27 mm　12 角レンチ：DIN3124/ISO2725-1）を使用して外します。カバーを外すときは、尿素水が流出するおそれがありますので、尿素水が床面にこぼれないよう十分注意してください。

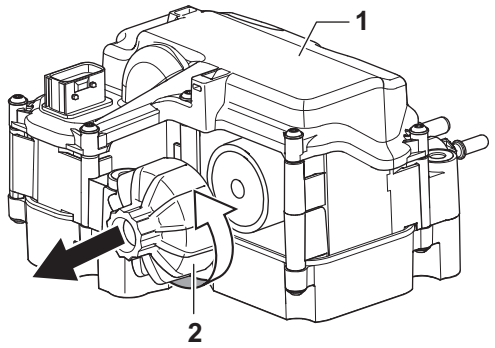


図 4-27

[重要]

- 交換作業は十分に冷却されたことを確認してから行ってください。高温・高圧時には作業しないでください。
- 交換作業はキースイッチを「切」位置にしてから10分以上経過し、システム内の尿素水残量が少なくなった状態で行い、フィルターカバーを外す際は、尿素水の流出に十分注意してください。
- 交換作業は尿素水が凍結した状態で行わないでください。
- 交換作業時はシステム内に圧力が残っている可能性があるため、適切な保護具を着用してください。
- 交換の際に、軍手などの使用により繊維状のコンタミを発生させないようにしてください。
- 交換作業の際に、部品に無理な力を加えたり、足がけなどにより破損させないようにしてください。

3. フィルターエレメント（1）の内側に挿入されているイコライジングエレメント（2）を抜き出します。

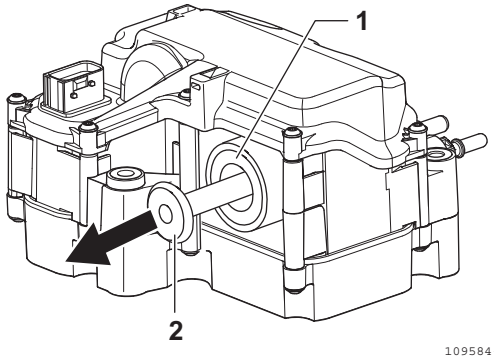


図 4-28

4. フィルターエレメントの装着部（1）の色が灰色か黒色かを目視で確認します。確認した色に従って、メインフィルターキットに付属しているセレクトエッジ（図 4-29）を、エッジに記載されている灰色（G）または黒色（B）の矢印方向に、カチッと手応えまたは音がするまでしっかりと挿入します。エッジを奥まで挿入したら、手で抜き出します。もし固いようであれば、エッジ中央の長穴に工具を引っかけて抜き出すか、エッジの端を工具で掴んで抜き出します。うまく抜けない場合は、直接フィルターの端を工具で掴んで抜き出してください。新品のフィルターエレメントに交換する前に、フィルターカバー締付部の表面（1）を清水で洗ってください。

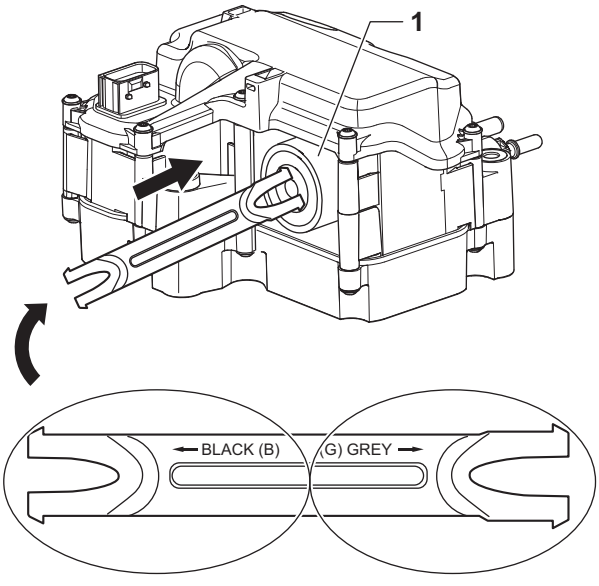


図 4-29

[重要]

交換作業中にフィルターエレメントの O リングやフィルターカバーのねじ部、シール部分にキズを付けないようにしてください。また尿素水が結晶化した状態で装着しようとすると、O リングにキズを付ける可能性があるので、結晶は水で洗い流して装着してください。O リングは再使用しないでください。

5. 新しいフィルターエレメント（図 4-30, 1）は下記の指定されたものを使用してください。O リング（図 4-30, 2）に軸受け油などを塗布（Mobil Velocite #6 を推奨）し装着します。

[重要]

フィルターエレメントは奥までしっかり挿入してください。交換時に O リングにキズを付けないよう注意してください。

表 4-12 品名、コードNo

メインフィルターキット	部品番号	F00B H40 428 （ボッシュキット番号）
		97390000120
	キット内容	フィルターエレメント、 イコライジングエレメント

表 4-13 フィルターカバー締付トルク

フィルターカバー締付トルク	20 + 5 N·m

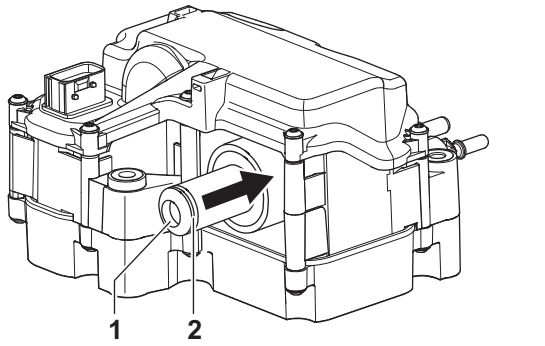


図 4-30

6. 新品のイコライジングエレメント（1）を挿入し、フィルターカバーを指定の工具（27 mm レンチ：DIN 3124/ISO 2725-1）を使って取り付けます。

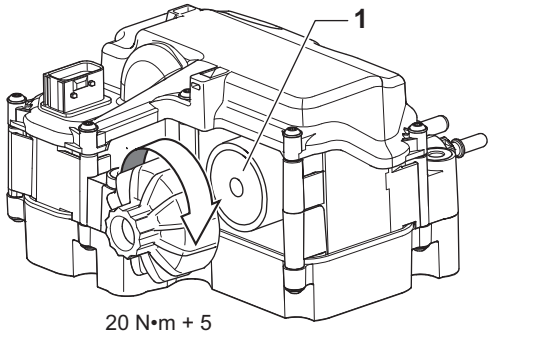


図 4-31

[重要]

- フィルターエレメントのろ紙部分を濡らした状態で組み付けないでください。フィルターの変形により挿入が困難となります。
- 一度装着したフィルターエレメントは再使用しないでください。フィルターの変形により挿入が困難となります。
- メインフィルターエレメントを交換する場合、イコライジングエレメントも必ず付属の新品に交換してください。
- フィルターカバーの締め付けは、指定の工具を使用してください。
- 組み付けの際に異物や周囲の砂塵などの混入がないように注意してください。また軍手などの使用による繊維状の異物を発生させないようにしてください。

7. 交換終了後、エンジンを始動して尿素水の漏れがないことを確認します。

サクションフィルター・ラインフィルターの交換のしかた

表 4-14 サクションフィルター・ラインフィルターの交換時期

交換	1回目	:50時間目 または1年目(どちらか早いほう)
	2回目	:600時間目
	3回目以降	:600時間ごと

表 4-15 品名、コードNo

品名	コードNo.
サクションフィルター	99460000060
ラインフィルター	99430000020

ミッションケース下部右側にあるサクションフィルター（2 個）とミッションケース前側にあるラインフィルターは、カートリッジタイプです。

交換のしかた

1. ミッションオイルを抜き取ります。（195ページ参照）
2. サクションフィルター（図 4-32）とラインフィルター（図 4-33）を左に回して外します。

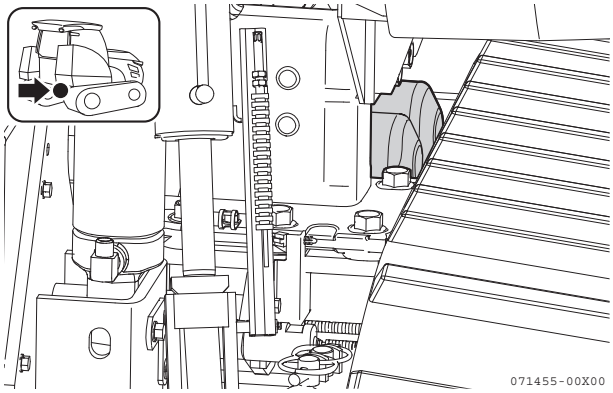


図 4-32

※トラクターを後方から見ています。

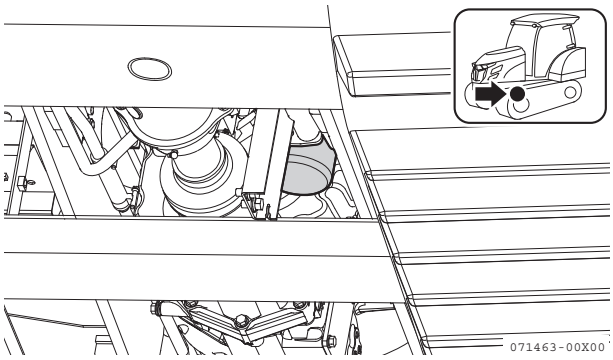


図 4-33

※トラクターを前方下側から見ています。

3. 新しいフィルターの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、手で確実に取り付けます。
4. ミッションオイルを給油します。
5. エンジンを始動し、アイドリング回転でしばらくエンジンを運転し、オイルを循環させます。
6. エンジンを停止します。
7. 検油窓でミッションオイル量を点検します。不足している場合は、ミッションオイルを補給します。

[重要]

- フィルターは純正部品を使用してください。他社製品を使用すると故障の原因になります。
- フィルター取付面などからのオイル漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

FDSオイルの点検・交換のしかた

表 4-16 FDSオイルの点検、交換時期、油種、油量

点検	日常点検
交換	1回目　：50時間目 　　または1年目(どちらか早いほう) 2回目　：600時間目 3回目以降　：600時間ごと
油種	TFプレミアム
油量	23 L

点検のしかた

1. フロントアクスル左上部の給油栓を外します。給油栓の先には、検油ゲージが付いています。
2. 検油ゲージの先端のオイルをふき取り、ねじ込まない状態で差し込みます。再び検油ゲージを抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認します。

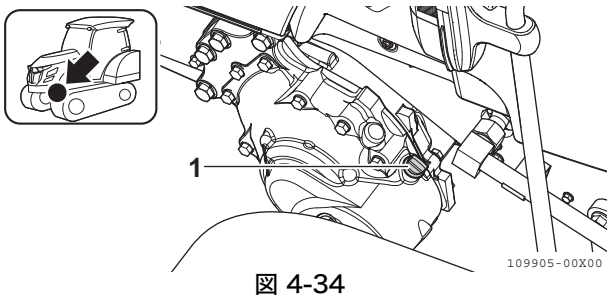


図 4-34

3. オイルが不足しているときは、給油口（図 4-35）から規定量になるまで補給します。

交換のしかた

FDSオイルのドレンプラグは、中央、左右の計3カ所あります。（図 4-35, 1,2）

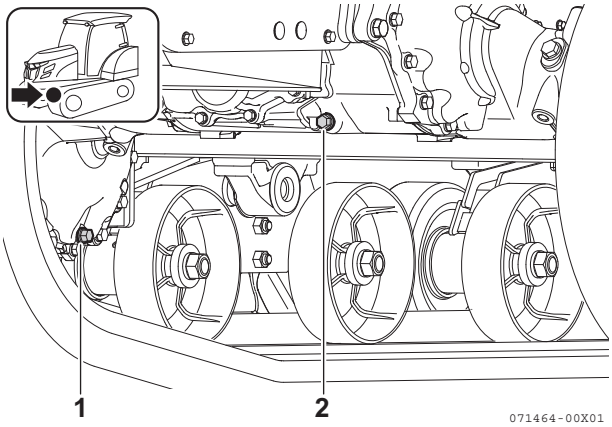


図 4-35

1. ドレンプラグの下に容器を置き、オイルを抜き取ります。
2. FDSオイルがすべて抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
3. 給油は、左上部の給油口（図 4-34, 1）から行います。

FDSオイルフィルターの交換のしかた

表 4-17 FDSオイルフィルターの交換時期

点検	日常点検
交換	1回目　：50時間目 　　または1年目(どちらか早いほう) 2回目　：600時間目 3回目以降　：600時間ごと

表 4-18 品名、コードNo

品名	コードNo.
サクションフィルター	95330000090
ラインフィルター	99460000050

交換時は、本機前方のフロントカバーを外します。サクションフィルター（図 4-36, 1）とラインフィルター（図 4-36, 2）は、カートリッジタイプです。

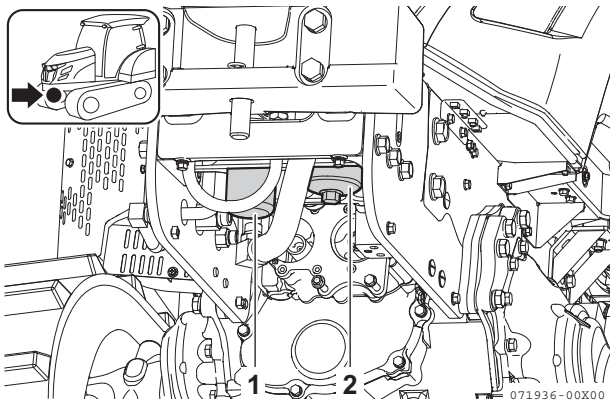


図 4-36

※図は、カバー CMP（HST を外しています。

交換のしかた

1. FDSオイルを抜き取ります。(199ページ参照)
2. サクションフィルターとラインフィルターを左側に回して外します。(反時計方向)
3. 新しいフィルターの底面にあるゴムリングにオイルを薄く塗り、取り付け面に接触するまで右回しで締めます。さらにフィルターレンチを使用して1/2〜3/4回転締め付けます。
4. FDSオイルを給油します。
5. エンジンを始動し、アイドリング回転でしばらくエンジンを運転し、オイルを循環させます。
6. エンジンを停止します。
7. 検油ゲージでオイル量を点検します。不足していれば、FDSオイルを給油口から補給します。

[重要]

- フィルターは純正部品を使用してください。他社製品を使用すると故障の原因になります。
- フィルター取付面などからのオイル漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠ 危 険

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジン停止後、エンジンが十分に冷えていることを確認してからラジエータキャップを開けてください。
【守らないと】
熱湯が噴き出し、やけどにより死亡事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-19 冷却水の点検、交換時期、水量

点検	日常点検	
交換	2年ごと交換	
水量	ラジエータ	12L
	サブタンク	2L

点検のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. サブタンク(図 4-37)内の水が「上限」と「下限」の範囲にあることを調べます。

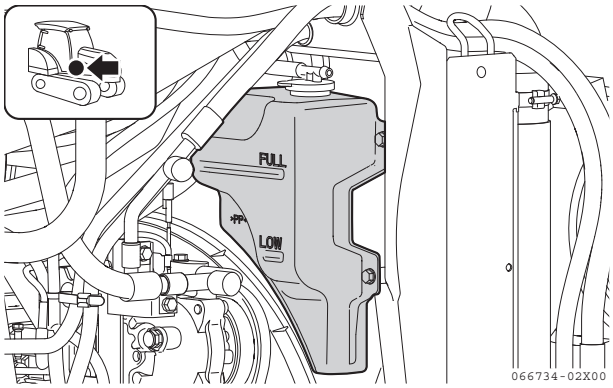


図 4-37

3. 冷却水が不足しているときは、サブタンクの給水口(図 4-37)から清水(軟水)を補給します。

交換のしかた

1. 冷却水ドレンコック（図 4-38）の下に容器を置きます。
2. ラジエータキャップ（図 4-39）と冷却水ドレンコックを外し、ラジエータ内の冷却水をすべて抜きます。

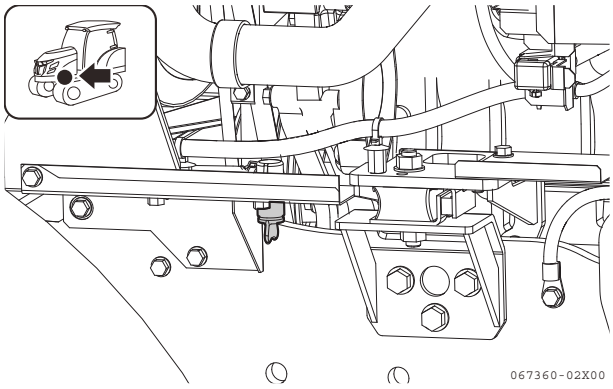


図 4-38

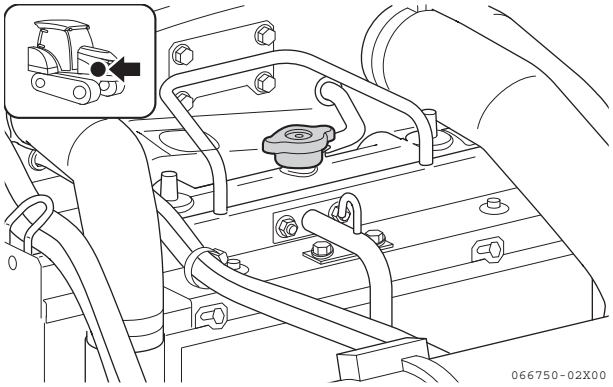


図 4-39

3. 水道水で、ごみやさびが出なくなるまでラジエータ内部を洗います。

[参考]

ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空運転させてから水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

4. 冷却水のドレンコックを閉め、不凍液を必要量入れてから清水（軟水）をあふれない程度まで入れます。
5. ラジエータキャップを取り付けます。
6. エンジンを始動して、不凍液と清水（軟水）をよく混合します。

[参考]

新しい冷却水に交換するときは、防錆液を入れることをお勧めします。防錆液を入れて5分間エンジンを空運転し、防錆液の混合を早めてください。

7. ブロア風量設定ダイヤルを「AUTO」位置にして、温度調整ダイヤルを高温側いっぱいにして、エンジンを10～15分くらい空運転してから停止します。
8. エンジンが冷えてからラジエータキャップを開け冷却水が口元まで水がないときは、給水口からあふれない程度まで清水（軟水）を補給します。またサブタンクにも規定量まで補給します。

■ 不凍液の取り扱いについて

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。出荷時には、ロイヤルフリーズ（オールシーズン）を使用しています。なお不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは下表を参照し、安全な濃度で使用してください。
なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度－15 ℃としています。

表 4-20 不凍液混合比率

外気温度(℃)		−15	−20	−24	−29
比率	水(%)	70	65	60	55
	不凍液(%)	30	35	40	45

(注)エチレングリコール(91 %)不凍液での割合

[重要]

- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水（軟水）のみを補給してください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)
- 不凍液の有効期限は2年です。2年ごとに新しい不凍液と交換してください。

ラジエータとラジエータスクリーンの点検･掃除のしかた

⚠ 警　告

必ずエンジンを停止して、点検・掃除を行ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-21 ラジエータ･ラジエータスクリーンの点検時期

点検	日常点検

ラジエータやラジエータスクリーンに泥・ごみ・切り草が付着していると、冷却効果が低下し、オーバーヒートの原因になります。作業前、作業後に点検し、必要に応じてつぎの要領で掃除してください。

掃除のしかた

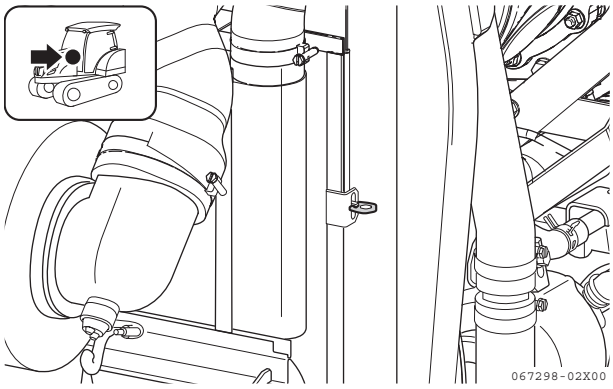


図 4-40

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. ラジエータ左側面のツマミ（1 カ所）を起こして回し、ラジエータスクリーンを左側へ引き出します。(図 4-40)
3. やわらかいブラシを使用して、泥・ごみ・切り草などの付着物を水で洗い落とします。
4. ラジエータのフィン(ラジエータスクリーンの奥側）にごみなどが付着している場合は、圧縮空気で取り除きます。

[重要]
ラジエータを圧縮空気で掃除するときは、フィンがつぶれないように注意してください。
(フィンがつぶれた場合は、元に戻してください。)
フィンがつぶれると、冷却効果が低下します。

エアクリーナエレメントの掃除･交換のしかた

⚠ 注　意

エアクリーナエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。
【守らないと】
マフラーやエレメントフックが高温になって、やけどなどけがをするおそれがあります。

表 4-22 エアクリーナの点検、交換時期

点検	50時間ごと
交換	300時間ごと 規定時間になっていなくても1年間で交換

エアクリーナは吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナー、ピストンリングの摩耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にするための装置です。

掃除のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. エアクリーナのふた（図 4-41）を外し、中のエレメント（図 4-42）を抜き取ります。

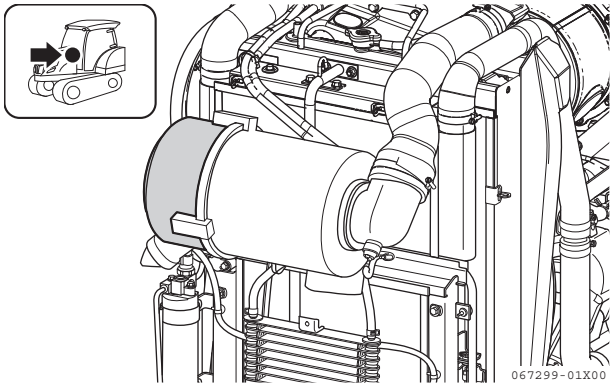


図 4-41

3. エレメント（図 4-42, 1）の内側から圧縮空気（図 4-42, 2）を吹き付けるか、振動を与えて砂塵を落とします。このときフィンにキズをつけないように気をつけます。

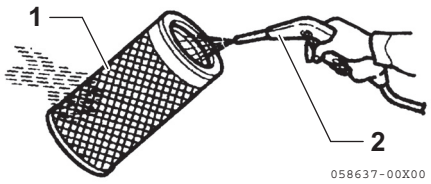


図 4-42

[重要]

- インナーエレメントは掃除して、再使用しないでください。必ず新品と交換してください。
- フィンにキズをつけないように気をつけてください。
- インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。

[参考]

インナーエレメントは、アウターエレメントの3回目の交換に合わせて、交換してください。

4. エアクリーナのふたと本体の「➡」マークを合わせて、取り付けます。（図 4-43）

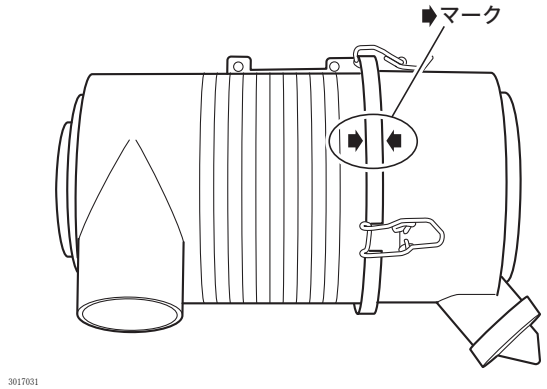


図 4-43

表 4-23 品名、コードNo

品名	コードNo.
インナーエレメント	90350032600
アウターエレメント	90350032590

コンデンサ・コンデンサスクリーンの点検・掃除のしかた

⚠ 警　告

必ずエンジンを停止して、点検・掃除を行ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-24 コンデンサ・コンデンサスクリーンの点検時期

コンデンサ スクリーンの点検	日常点検（掃除）
コンデンサの点検	100時間ごと（ほこりの多い場所での使用時：50時間ごと）

コンデンサに泥・ごみ・切り草が付着していると、エアコン能力が発揮できません。つぎの要領で点検・掃除をしてください。

1. ボンネットを開けます。（182ページ参照）
2. コンデンサにつながっているホースをホースクリップ（図 4-44, 1）から外します。
3. 上面にあるコンデンサを固定しているパチン錠（図 4-44, 2）を外します。

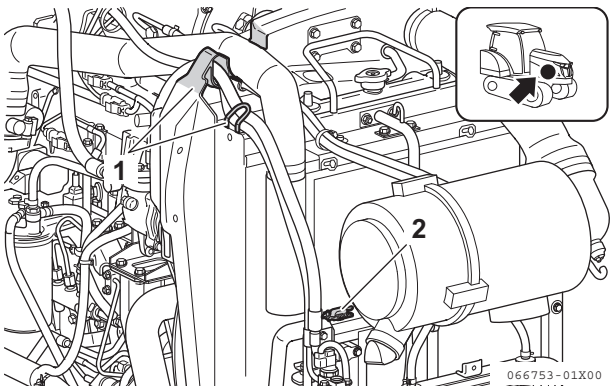


図 4-44

4. レバーを握りコンデンサを右側へスライドさせます。（図 4-45）
5. コンデンサスクリーン上側にあるツマミ（図 4-45, 1）を起こして回し、コンデンサスクリーンを上側に引き抜きます。
6. やわらかいブラシを使用して、泥・ごみ・切り草などの付着物を水で洗い流します。

7. 点検、掃除後は、逆の手順で元通りにコンデンサ、コンデンサスクリーン、ホースを取り付けます。

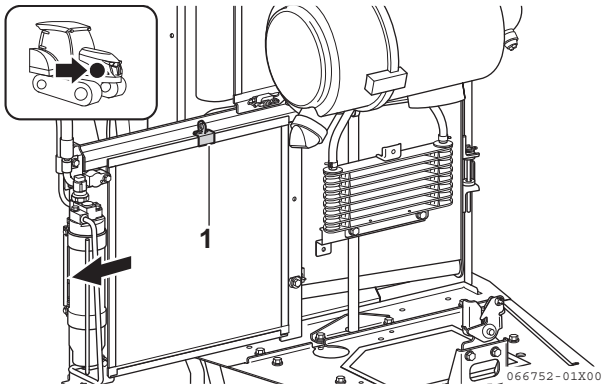


図 4-45

[重要]

コンデンサを圧縮空気で掃除するときは、フィンがつぶれないように注意してください。
(フィンがつぶれた場合は、元に戻してください。)
フィンがつぶれると、冷房性能が低下します。

インタークーラースクリーンの点検･掃除のしかた

⚠ 警 告

必ずエンジンを停止して、点検・掃除を行ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. インタークーラースクリーン上側にあるツマミを起こして回します。(図 4-46)
3. スクリーンを少し上に持ち上げてツマミから外します。
4. スクリーンを左側に引き抜きます。
5. やわらかいブラシを使用して、泥・ごみ・切り草などの付着物を水で洗い流します。
6. 点検、掃除後は、逆の手順で元通りにスクリーンを取り付けます。

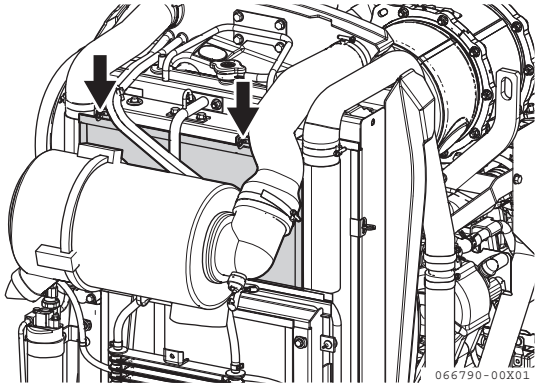


図 4-46

オイルクーラーの点検･掃除のしかた

⚠ 警　告

必ずエンジンを停止して、点検・掃除を行ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-25 オイルクーラーの点検時期

オイルクーラーの点検	日常点検(掃除)

オイルクーラーに泥・ごみ・切り草が付着していると、冷却効果が低下し、トラクターの不具合の原因になります。作業前、作業後に点検し、必要に応じてつぎの要領で掃除してください。

掃除のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. コンデンサを引き出します。(203ページ参照)
3. オイルクーラー左側面にあるバーを前方に引きます。(図 4-47)
4. オイルクーラーの右側を支点にして、前方に回動します。
5. オイルクーラーに付着している泥・ごみ・切り草を取り除きます。
6. 点検、掃除後は、逆の手順でオイルクーラー、コンデンサ、ホースを取り付けます。

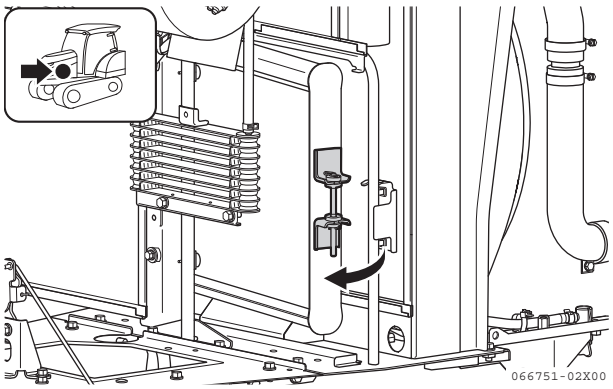


図 4-47

燃料クーラーの点検･掃除のしかた

⚠ 警　告

必ずエンジンを停止して、点検・掃除を行ってください。
【守らないと】
回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料クーラーに泥・ごみ・切り草が付着していると冷却効果が低下し、エンジンの出力低下する原因になります。作業前、作業後に点検し、必要に応じてつぎの要領で掃除してください。

掃除のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. 燃料クーラー（図 4-48）に泥・ごみ・切り草が付着している場合は、やわらかい布や圧縮空気で取り除きます。

【重要】
燃料クーラーを圧縮空気で掃除するときは、フィンがつぶれないように注意してください。
(フィンがつぶれた場合は元に戻してください。)
フィンがつぶれると冷却効果が低下します。

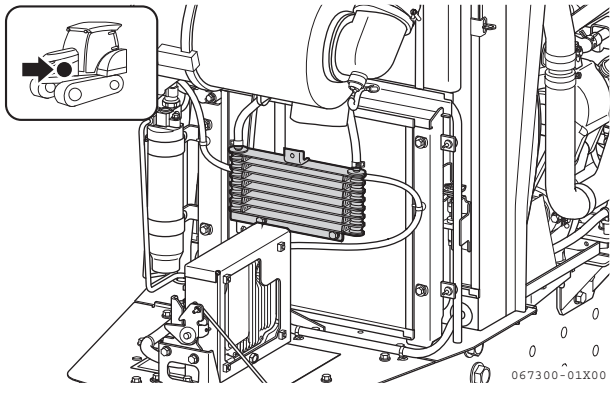


図 4-48

内気吸入口フィルターの清掃･交換のしかた

表 4-26 内気吸入口フィルターの清掃､交換時期

清掃	200時間ごと
交換	600時間ごと

掃除のしかた

1. 取付ネジ（図 4-49, 1）をゆるめてカバー（図 4-49, 2）を外します。

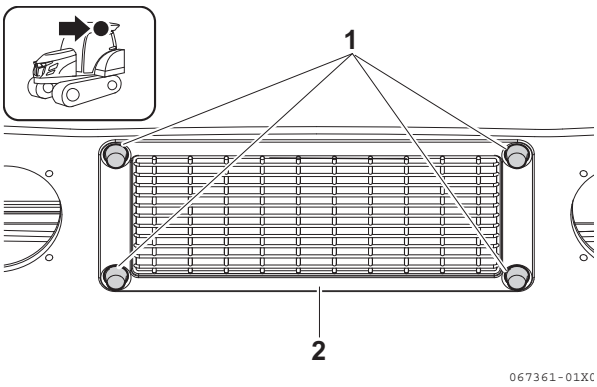


図 4-49

2. 外したフィルターを家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだあと、完全に自然乾燥させます。

[重要]

洗浄に有機溶剤(ガソリン､トリクレン､シンナーなど)を使用しないでください。

3. 汚れがひどい場合は､新しいフィルターと交換します。
4. フィルター (図 4-50) を元通りに取り付けます。

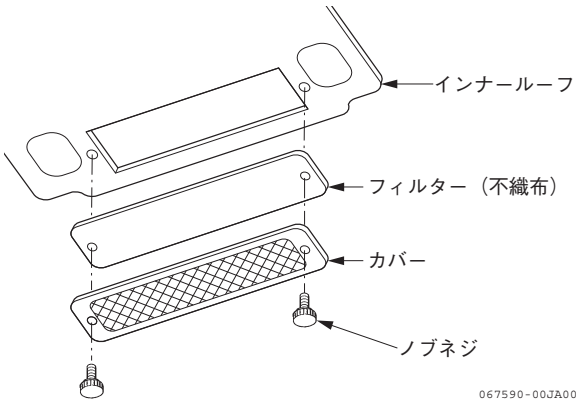


図 4-50

表 4-27 品名､コードNo

品名	コードNo.
フィルタ(ナイキ	95330000030
カバー(フィルタ ナイキ	95330000040

外気導入口フィルターの掃除･交換のしかた

表 4-28 外気導入口フィルターの清掃､交換時期

清掃	100時間ごと
交換	300時間ごと

外気導入用のフィルターが汚れて目詰まりすると、外気導入時の吹き出し風量が少なくなります。

掃除のしかた

1. ボルト（図 4-51）3個を外します。パネルとフィルターが外せます。

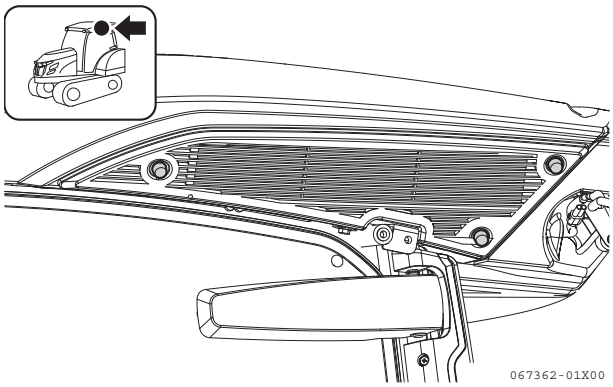


図 4-51

2. フィルター部（図 4-52, 1）に圧縮空気（図 4-52, 2）を吹き付けて汚れを落とします。

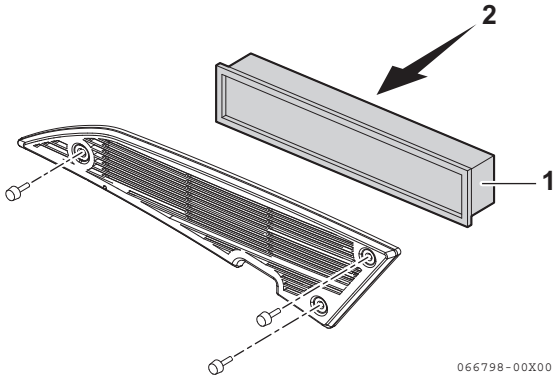


図 4-52

3. 汚れがひどい場合は、新しいフィルターと交換します。

※パネルに泥が付着している場合は、パネルを水洗いして乾かしたあと取り付けます。

[重要]

- フィルターは水洗いしないでください。
- フィルター部を圧縮空気で汚れを落とすときは、図の矢印方向（空気の流れる方向に対して逆方向）から圧縮空気を吹き付けてください。

表 4-29 品名、コードNo

品名	コードNo.
フィルター	95330000050

排気フィルタの再生のしかた

⚠ 危　険

再生中は、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないようにし、トラクターから離れないでください。
【守らないと】
火災や死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 再生中および再生直後は、排気フィルタ周辺や排出ガスの出口が高温になります。絶対に触らず近づかないようにし、可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後はシートカバーをかけないようにしてください。

【守らないと】
過熱した状態でシートカバーをかけると、シートカバーに引火して火災事故を引き起こすおそれがあります。

- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内では排気フィルタの再生をしないでください。再生するときは、風通しのよい屋外で行ってください。

【守らないと】
排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

エンジンオイルは、必ず指定のオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルタが目詰まりして故障の原因となります。

[参考]

- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルタ再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。
- 再生中、エンジン音が変化したり、白煙が出ることがありますが故障ではありません。
- アイドリング中は、PMが堆積しやすくなります。
- 不要なアイドリング（低回転）はしないでください。

排気フィルタについて

排気フィルタ（図 4-53）は、エンジンと排出ガス出口の間に装着され、PM（ススなどの粒子状物質）を捕集することで、大気中に放出しないようにするためのフィルタ装置です。排気フィルタにたまったPMを燃焼除去することにより、排気フィルタの機能を再生できます。

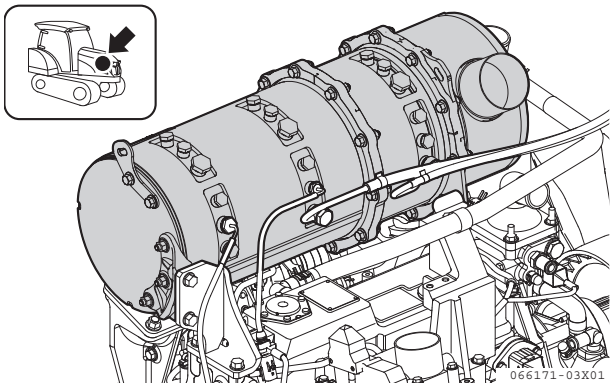


図 4-53

[参考]

捕集した PM を放置すると目詰まりを起こしエンジン性能が低下します。このため定期的に排気温度を上昇させて、PMを燃焼除去する必要があります。これを排気フィルタの再生といいます。

排気フィルタのメンテナンスについて

⚠ 警　告

アッシュには、エンジンオイルの添加剤の燃え残りで人体に有害な成分が含まれています。メンテナンスは、必ず特販店、またはJAに依頼してください。

排気フィルタは、PM（ススなどの粒子状物質）以外に潤滑油の添加剤に含まれる金属成分のアッシュ（灰分）がたまります。
アッシュは、PMのように排気フィルタ内で燃焼除去ができませんのでメンテナンスが必要です。

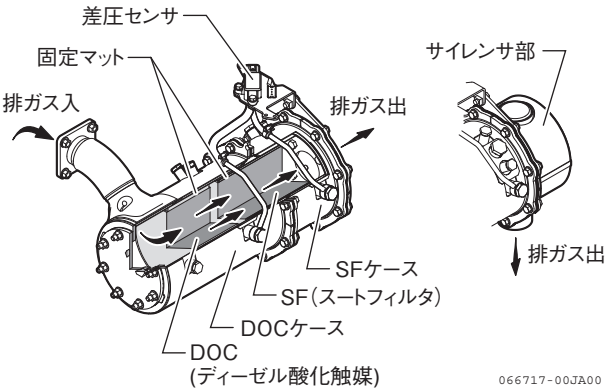


図 4-54 排気フィルタ構成図

表 4-30

部品名	メンテナンス時期	交換時間
SF （スートフィルタ）	6000時間ごと	9000時間
DOC （ディーゼル酸化触媒）	不要	9000時間

[重要]

- 燃料は、必ずディーゼル軽油（JIS2号）を使用してください。
- エンジンオイルは、排気フィルタ搭載用ディーゼルエンジンオイル（純正DH － 2オイル）を使用してください。
- メンテナンス・交換時期（表 4-30）は、指定の燃料、エンジンオイルをご使用した場合の目安です。指定以外のものをご使用された場合、故障の原因となります。
- 排気フィルタは、定期的なメンテナンスが必要です。堆積されたアッシュのメンテナンスを行わないと、エンジン出力の低下や燃費悪化の原因となります。

排気フィルタの再生モードについて

排気フィルタの再生には、PM の堆積量、稼働時間に応じた5つの再生モードがあります。この内、自己再生、アシスト再生は自動で再生が行われますが、リセット再生、駐車再生、リカバリ再生は、手動で再生を行う必要があります。排気フィルタ再生要求画面が表示されたら、必ず手動で再生操作を行ってください。

[重要]

再生せずに放置すると、排気フィルタの目詰まりによるエンジン性能の低下や燃費悪化の原因となります。また、手動再生を行わずに一定時間以上運転を継続すると、修理が必要となる場合があります。

[参考]

駐車再生、リカバリ再生中は作業を中断する必要があります。メーターパネルに操作方法が表示されますので、その表示に従い、各レバーを操作してください。詳細は、次ページ以降を参照してください。

手動により再生操作を開始する場合は、ハンドル下にある排気フィルタ再生スイッチを 3 秒以上長押しします。

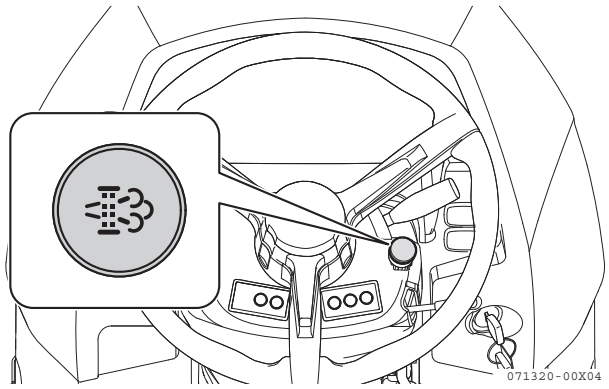


図 4-55

表 4-31 再生モードについて

PM 蓄積レベル	再生モード	説明	吸気量制御	燃料制御	モニター表示	ランプスイッチ	お知らせブザー	作業可能	備　考	
0	自己再生	自己再生再生補助装置を使用しない。自動再生（通常運転）	×	×	−	−	−	○		
1	アシスト再生	再生補助装置を使用する自動再生。	○	○	−	−	−	○		
2	リセット再生	アシスト再生にポスト噴射を併用する再生。 初回アワーメーター約50時間以内、以降約100時間ごとまたはPMの堆積量がリセット再生レベルに達したときに表示。	○	○		点灯	○ 再生中はOFF	○	約30分	通常はここまで作業可能
3	駐車再生	リセット再生にハイアイドルを併用する再生。	○	○		点灯	○ 再生中はOFF	×	約30分	
4	リカバリ再生	駐車再生失敗時、サービスツールで実施する再生。	○	○		点灯	−	×	SA-D* による強制再生	

*「SA-D」はスマートアシストダイレクトの略です。

[参考]

エンジン負荷の軽い作業をした場合は、リセット再生の初回再生要求画面が、通常（約 50 時間以内）より早く表示されます。

表 4-32 排気フィルタ再生とお知らせ機能について

排気フィルタ再生スイッチ（お知らせランプ）	ブザー	状態
点滅	鳴る	排気フィルタ再生待ち
点灯	停止	排気フィルタ再生中（約30分）
消灯	停止	排気フィルタ再生終了

リセット再生のしかた

1. 排気フィルタ再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが0.5Hz（2秒に1回の間隔）で鳴ります。(図 4-56)

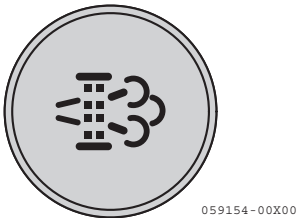


図 4-56

2. メーターパネルに排気フィルタ再生要求の警報が表示されます。(図 4-57)



図 4-57

3. トラクターを停車します。
4. 排気フィルタ再生スイッチを 3 秒以上長押します。(図 4-58)

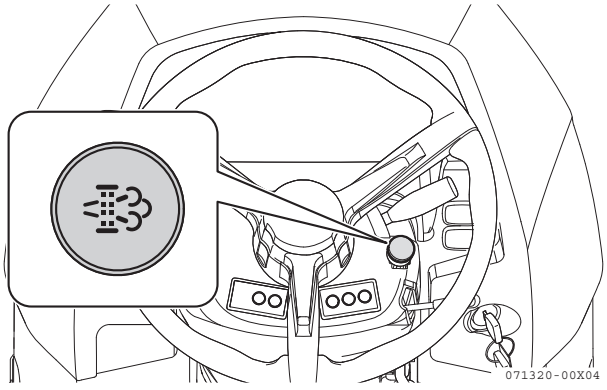


図 4-58

5. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。
6. 作業を再開します。

[重要]

リセット再生は必ず作業中に行ってください。
作業中以外にリセット再生を行うと、再生条件が満たされず、再生要求ランプが点灯したまま再生が終わらない場合があります。
万一、リセット再生が終了しない場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

[参考]

- リセット再生は、つぎの条件では再生が開始されません。冷態時は、暖機運転をしてください。
  条件がそろうと自動的に再生が開始されます。
  - エンジン冷却水温が低いとき
  - 排気フィルタの温度が低いとき
- 再生は約30分で終了しますが、再生終了までの時間は外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず再生を中断する場合は、キースイッチを「OFF（切）」位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルタ再生要求の警告が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- リセット再生を行うときは、アイドリングで停止していると条件が満たされないときがあります。できるだけ作業中または走行中に再生してください。(停止中でもエンジンを定格回転まで上げると、再生しやすくなります)
- メーターパネルに「排気フィルタ再生中」などメッセージが表示されていると、最高速度やエンジン最高回転速度などの設定変更ができません。「DISP スイッチ」を３秒間長押しして、メッセージの表示を消去して、通常画面表示に戻ることで設定変更が可能になります。排気フィルタ再生中はお知らせランプが点灯しています。再生が終了すると消灯します。

[参考]

- エンジンエラーと再生要求のタイミングが同時に発生した場合は、「排気フィルタ再生不可状態」と「28 09FF0.14」（エラーコード）が交互に表示されます。
  再生を行わずに放置してススが堆積しすぎると「販売店に連絡」（図 4-59）と「排気フィルタ異常」のメッセージが交互に表示される場合があります。



図 4-59

- リセット再生中は、メーターパネルに「排気フィルタ再生中」（図 4-60）と表示されます。



図 4-60

- リセット再生を行わずエンジンを運転していると、駐車再生の要求が表示される場合があります。その場合は、「駐車再生のしかた」に従って、駐車再生を行ってください。
- 再生中はエンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルタ再生中は吸気スロットルが作動するため、作動音が発生することがありますが故障ではありません。

駐車再生のしかた

⚠ 警 告

排気フィルタ再生（駐車再生）の要求を無視して運転を継続すると、PM が過剰に堆積するため、場合によっては PM が異常に燃焼して排気フィルタが破損し火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 排気フィルタ再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1Hz（1秒に1回の間隔）で鳴ります。（図 4-61）

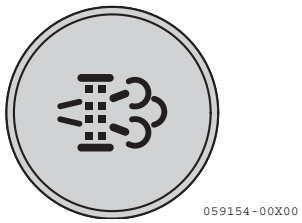


図 4-61

2. トラクターが駐車再生状態にない場合は、（駐車状態にない）メーターパネルに「作業を停止する」（図 4-62）と「安全な場所に駐車」（図 4-63）の表示が交互に表示されます。
   メーターパネルの指示に従い作業を中断し、トラクターを駐車します。



図 4-62



図 4-63

[参考]

図 4-62、図 4-63がメーターパネルに表示されているときに排気フィルタ再生スイッチを 3 秒以上長押しすると、トラクターの状態に応じて駐車に必要な要件が表示されます。(図 4-64〜図 4-67) ただちにメーターパネルの指示に従ってください。



図 4-64



図 4-65



図 4-66



図 4-67

3. 安全な場所にトラクターを停車し、PTO 駆動スイッチを「切」、リバーサレバーを「N（中立）」位置にし、駐車ブレーキをかけてアイドリング（低回転）にします。
4. 排気フィルタ再生スイッチを 3 秒以上長押します。(図 4-68)

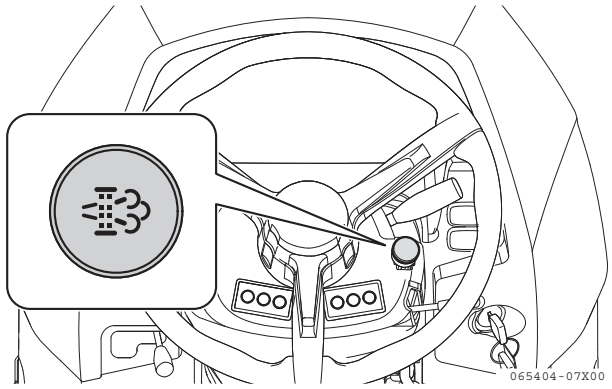


図 4-68

5. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。
6. 終了するとランプは消灯します。(図 4-68)

[参考]

- 駐車再生中は、メーターパネルに「再生終了まで待機」(図 4-69) と表示されます。



図 4-69

- 再生中は、エンジン回転が自動的に上がります。
- つぎの操作を行うと再生が中断されます。
  - アクセルレバーを「 」回転側にしたとき
  - PTO駆動スイッチを「入」位置にしたとき
  - リバーサレバーを「N（中立）」以外の位置にしたとき
  - 駐車ブレーキを解除したとき

[参考]

- 再生は約30分で終了しますが、再生終了までの時間は外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず再生を中断する場合は、キースイッチを「OFF（切）」位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルタ再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- エンジンエラーと再生要求のタイミングが同時に発生した場合は、「排気フィルタ再生不可状態」と「28 09FF0.14」（エラーコード）が交互に表示されます。
  再生を行わずに放置してススが堆積しすぎると「販売店に連絡」（図 4-70）と「排気フィルタ異常」のメッセージが交互に表示される場合があります。



図 4-70

- 再生中はエンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルタ再生中は吸気スロットルが作動するため、作動音が発生することがありますが故障ではありません。

バッテリーの点検･整備のしかた

⚠ 危　険

- バッテリーを点検するときおよびトラクターから外すときは、必ずエンジンを停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。

【守らないと】
バッテリーから発生する水素ガスに引火して､爆発により死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- バッテリー液を体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】
服が破れたり､やけどにより死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

バッテリー液は､「 下限(LOWER)」以下にしないでください。
【守らないと】
容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て､容器内のガスに引火して破裂による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

バッテリーケーブルを取り付けるときは､「＋」側を先に取り付け､外すときは「－」側から外してください。
【守らないと】
ショートしてやけどをするおそれがあります。

バッテリーの点検のしかた

バッテリーは、左フェンダー内側にあります。

1. 左フェンダーのドアを開けます。
2. バッテリー（図 4-72）の上限と下限のラインの間に液があることを確認します。不足している槽があれば蒸溜水を上限ラインまで補給します。

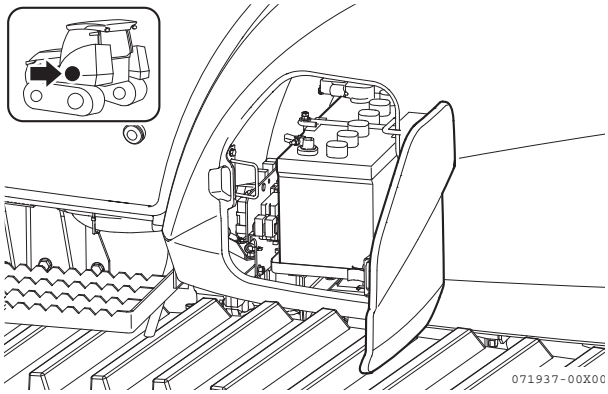


図 4-71

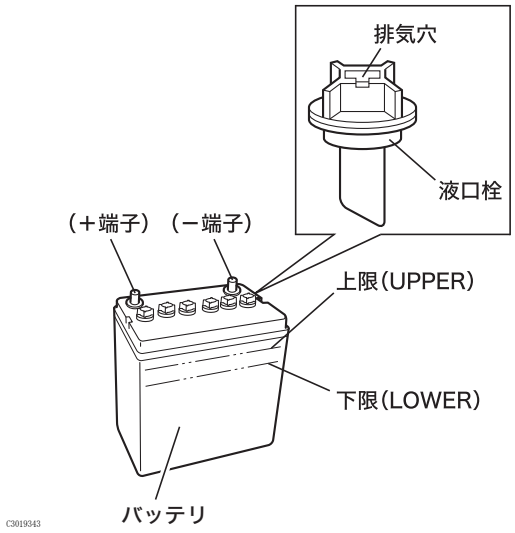


図 4-72

[重要]

- バッテリー各槽に液を入れすぎないでください。充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクターの金属部を腐食させます。
- バッテリー液量が不足して容器内の極板接続部が空気中に露出すると、バッテリーの劣化が促進します。バッテリー液量が不足している槽に、蒸留水を「上限（UPPER)」まで補給してください。

[重要]

- 液口栓の排気穴をふさがないでください。排気穴をふさぐとバッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ずつぎの表4-33のメーカー指定のバッテリーを使用してください。メーカー指定バッテリー以外を使用した場合、寒冷地など気温の低い地域では、始動性が悪くなるおそれがあります。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

表 4-33 品名

品名
バッテリ(130E41R

脱着のしかた

[重要]

キースイッチ「切」位置後、DCU の電源が OFF するまで 10 分の時間を必要とします。このため、キースイッチ「切」位置後、10 分間はバッテリーを外さないでください。

■ 外しかた

1. バッテリーを固定している取付金具（図 4-73, 1）を外します。
2. バッテリーの（－）側（図 4-73, 2）のケーブルを外したあと、（＋）側（図 4-73, 3）のケーブルを外します。

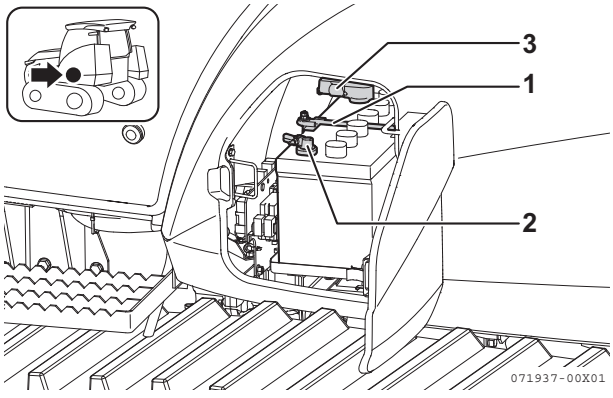


図 4-73

■ 取り付けかた

1. バッテリーの（+）側のケーブルを取り付けたあと、（−）側のケーブルを取り付けます。
2. バッテリーを固定する取付金具を取り付けます。

[重要]

- バッテリーケーブルを取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などをふき取ってください。
  また、ケーブルを取り付けたあとは、ターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーの（+）ターミナル部のゴムブーツを、必ず取り付けてください。

補充電のしかた

⚠ 危 険

- 充電器やブースターケーブルを使用するときは、それぞれの取扱説明書に従ってください。

【守らないと】
引火爆発により死亡事故を引き起こすおそれがあります。

- 急速充電はしないでください。

【守らないと】
バッテリーの内圧が上り、破裂による死亡事故を引き起こすおそれがあります。

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、つぎの要領で補充電をしてください。

[重要]

補充電中は液口栓をすべて外します。絶対に裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. バッテリーをトラクターから外します。
   (214ページ参照)
2. 液口栓をすべて外し、バッテリーの（+）を充電器の（+）に、バッテリーの（−）を充電器の（−）に接続します。
3. 3アンペア程度で8〜10時間程度行います。
4. 補充電が終わったら、液口栓をすべて取り付けます。
5. バッテリーをトラクターに取り付けます。

バッテリー上がりの処置方法について

⚠ 危 険

他の車などのバッテリーとブースターケーブルを使用してつなぎ、エンジンを始動するときは、必ずトラクター側のアースケーブルをシャーシに接続してください。

【守らないと】
バッテリーのアースにつなぐと、バッテリーから発生するガスにより、引火し傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラクターのバッテリーが上がった場合は、ブースターケーブルをつなぐことで、他の車などのバッテリーを電源としてエンジンを始動させることができます。

1. トラクターのキースイッチが「OFF（切）」位置にあることを確認します。
2. 以下の順でブースターケーブルを取り付けます。
   1）バッテリーの上がったトラクターの+端子
   2）救援車の+端子
   3）救援車の−端子
   4）バッテリーの上がったトラクターのボディーアース

[参考]

トラクターのボディーアースはコンプレッサブラケット部にケーブルをつないで取ります。(図 4-74)

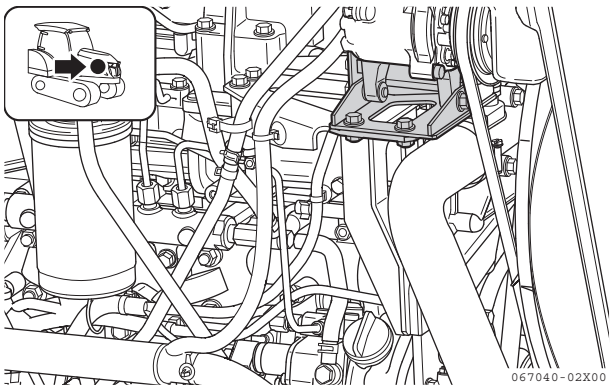


図 4-74

3. 救援車を始動し、エンジン回転を少し高めに保ちます。
4. バッテリーの上がったトラクターのエンジンを始動します。
5. ブースターケーブルを接続の逆の手順で外します。

【重要】

- 必ず12 Vバッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブルを接続する場合は、（+）と（−）の端子が接触しないように注意してください。
- ケーブルの（+）端子をボディーの金属部や（−）端子に接触させたり逆に接続しないでください。
- 接続するときは、ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、十分注意してください。
- このトラクターを救援車として使用するときは、必ず作業機を下ろしてください。

パイプ類の点検のしかた

⚠ 危　険

燃料パイプが破損していると、燃料が漏れるおそれがあります。異常があれば、お買い上げいただいた特販店・JAに依頼し、整備を受けてください。
【守らないと】
火災による死亡事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-34 パイプ類の点検、交換時期

点検	日常点検
交換	2年ごと

燃料パイプ（図 4-75, 1）やラジエータホース（図 4-75, 2）などがいたんでいないことを点検します。燃料漏れ、水漏れがないこと、また締付ボルトがゆるんでいないことを点検します。いたんでいなくても2年ごとに交換してください。

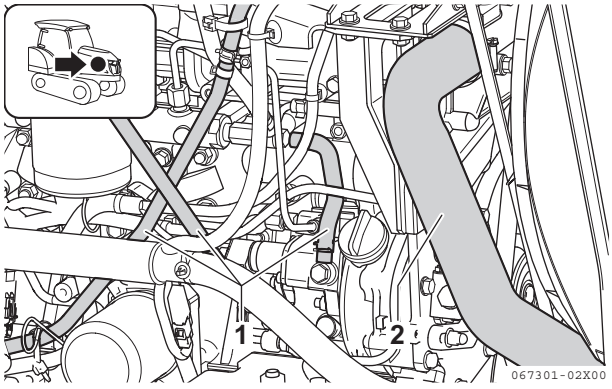


図 4-75

電気配線の点検のしかた

⚠ 注　意

- ワイヤーハーネスおよびバッテリーケーブルに損傷がないことを確認してください。
- バッテリーや電気配線に付着しているワラクズやごみは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。

【守らないと】
ショートを起こし､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-35 電気配線の点検時期

点検	日常点検

ボンネットを開け、電気配線（図 4-76）が他の部品に接触して被覆のはがれやキズがないこと、またカプラ部にゆるみがないことを点検します。いたんでいる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAで整備を受けてください。
いたんでなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに定期点検を受けてください。

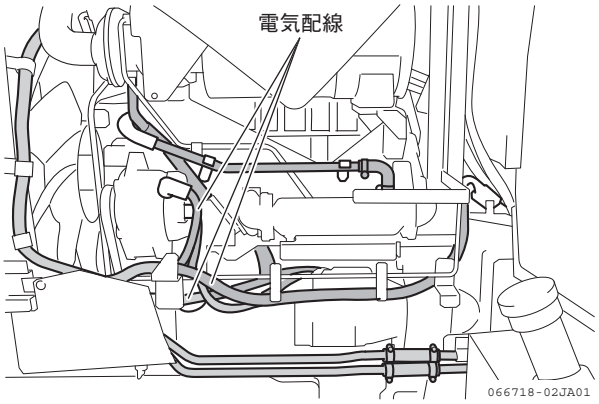


図 4-76

グリスアップ(注入)のしかた

表 4-36 グリスアップ時期

グリスアップ	50時間ごと

作業前に、各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップします。
また、代かき作業などで泥水に入ったあとは、作業終了後必ずグリスアップしてください。

■ クローラ部

グリスアップ･オイル給油個所(各左右にあります。)

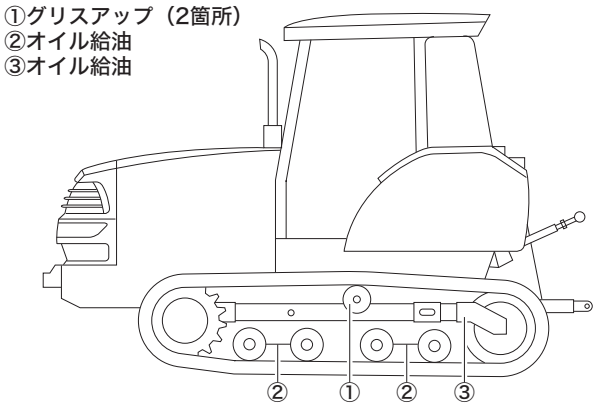
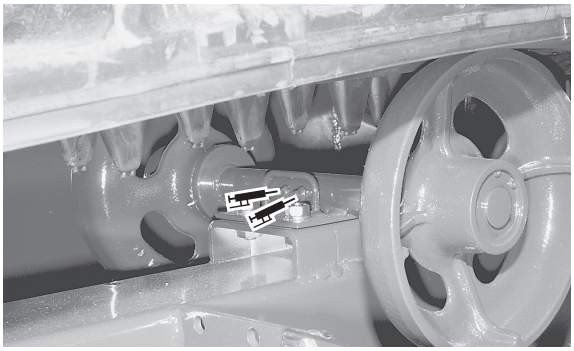


図 4-77 クローラグリスアップ・注油個所

1．キャリアローラ（グリスアップ）



2. トラックローラ（オイル給油）

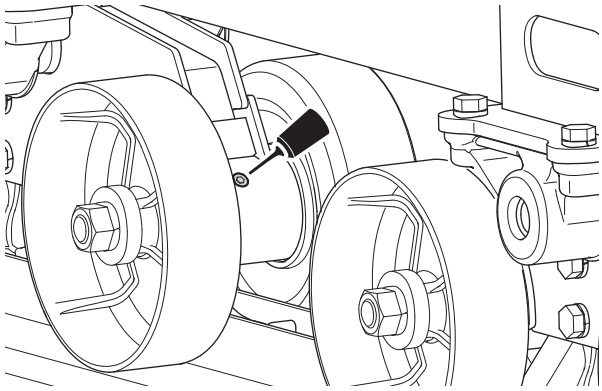


図 4-78

3. アイドラ（オイル給油）

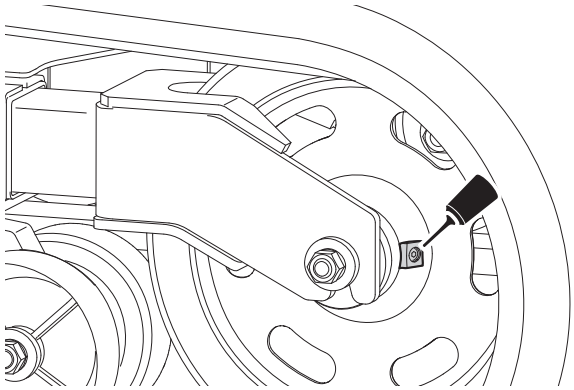


図 4-79

■ドライブシャフト部(3カ所)

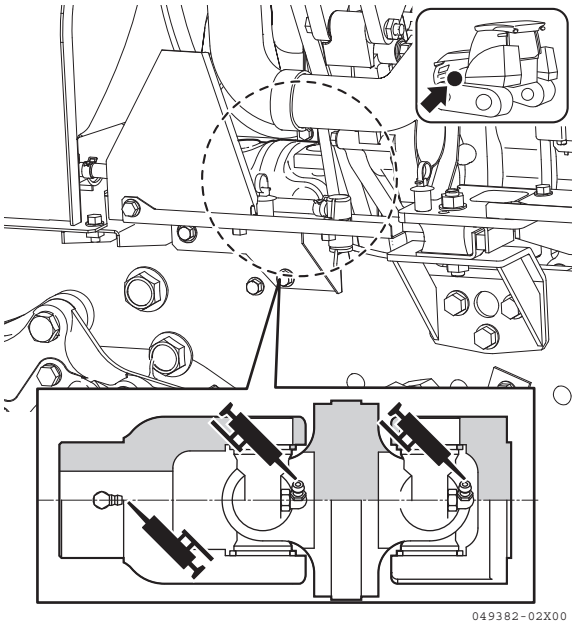


図 4-80 ドライブシャフト

■ プロペラシャフト(3カ所)

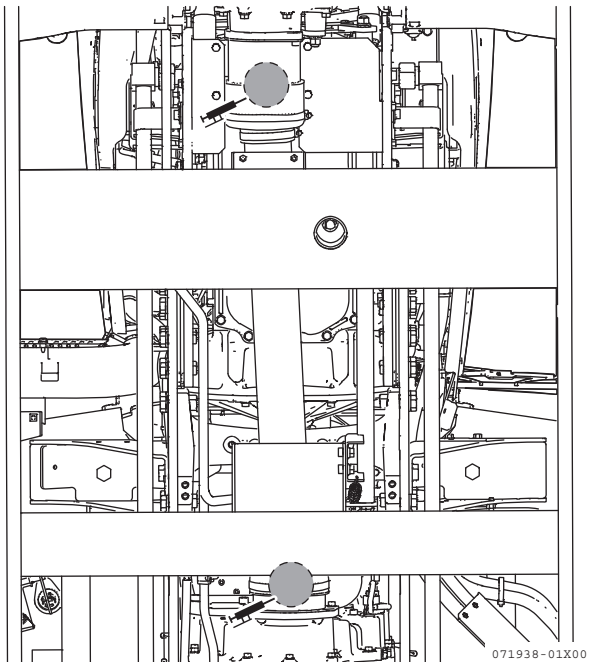


図 4-81 プロペラシャフト

※図の上側が進行方向（エンジン側）です。

[参考]

- プロペラシャフト部へグリスアップするときは、カバーの留め具を外し、カバーをスライドさせてグリスアップしてください。
- グリスアップ個所は、前側に1個所、後側に1個所あります。

■ リフトシリンダ部

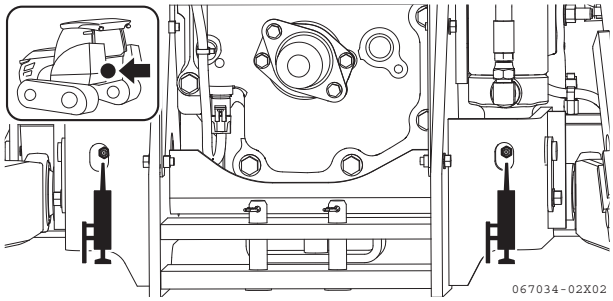


図 4-82 リフトシリンダ部

■ トップリンク部

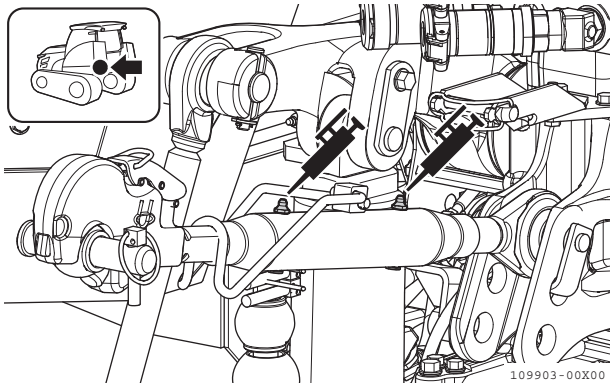
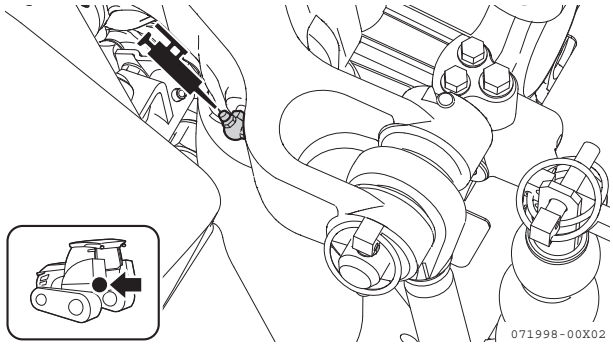


図 4-83 トップリンク部

■ リフトアーム部



※リフトアーム部は左右各1カ所あります。

図 4-84 リフトアーム部

■ ボンネットロック

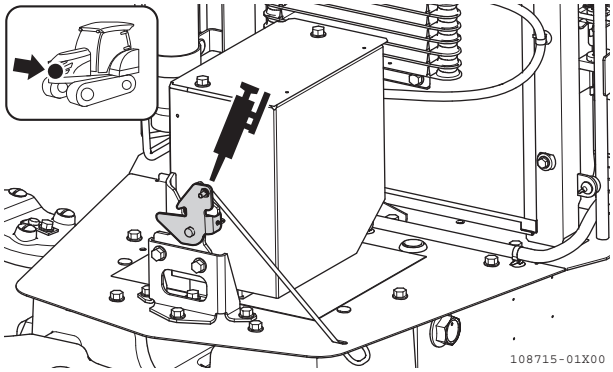


図 4-85 ボンネットロック

■ ブレーキリンク部(左右各1カ所)

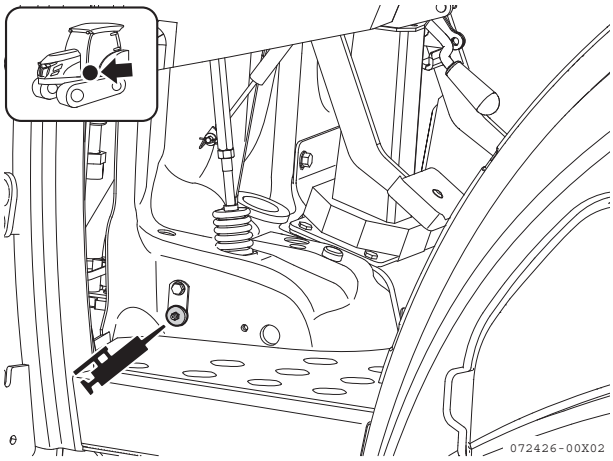


図 4-86 ブレーキリンク部

クローラの点検・調節のしかた

⚠ 警　告

- ニップルバルブはゆっくりとゆるめてください。
- ニップルバルブは、3〜3.5回転以上ゆるめないでください。
- グリスの排出を確認するために、バルブをのぞきこまないでください。

【守らないと】
内部の圧力により、グリスが飛散し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- クローラの取付時、フレームを十分強度のある架台やブロックなどで支えて、トラクターの落下を防止してください。
- クローラはかなりの重量があります。取り扱いには、十分注意してください。

【守らないと】
クローラが落下し、けがをするおそれがあります。

表 4-37 クローラの点検時期

点検	日常点検

クローラの張りの点検

クローラ下図位置（図 4-87）のたわみ量が基準値にあることを確認します。

1. 本機を平たんな場所で後進させ、クローラのたわみを上部に集めた状態にします。
2. スプロケットとキャリアローラの中央部に 50 kg のおもりを載せたときのたわみ量を確認します。

表 4-38 クローラの点検箇所

タワミ量	13～15 mm

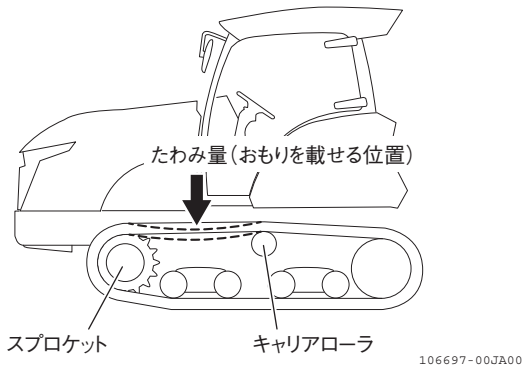
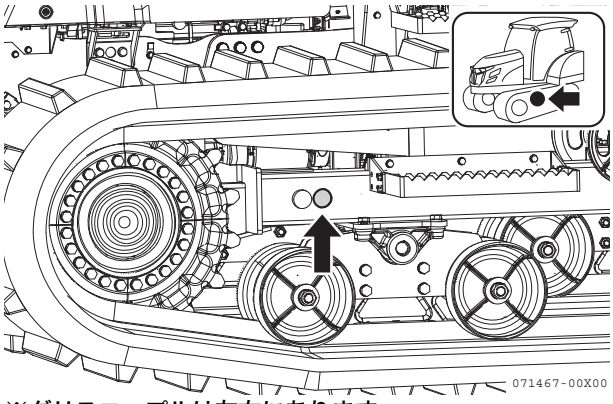


図 4-87

張りを強める場合

1. ゴムキャップを外します。
2. クローラの張りが規定値になるように、ニップルバルブからグリスガンでグリスを注入します。



※グリスニップルは左右にあります。

図 4-88

3. 適正な張り状態になっていることを確認するため、トラクターを後進させ、上部のクローラをたるませます。
4. 再度、クローラの張りを点検し、適正な張りになっていなければ、再調整します。
5. 適正な張りにあることを確認し、ゴムキャップを元通りに取り付けます。

[参考]

規定量に張れない場合は、グリスアジャスタの内部不良などが考えられます。
お買い上げいただいた特販店またはJAへご連絡ください。

張りをゆるめる場合

1. ゴムキャップを外します。
2. ニップルバルブを少しずつゆるめて、グリスを排出します。
   ニップルバルブはゆっくりとゆるめ、3回転以上はゆるめないでください。
3. グリスの排出が悪いときは、車両を少し前後に動かします。
4. ニップルバルブを締め付けます。
   締付トルク･･･ 49N・m （5kgf・m）
5. 再度、クローラの張りを点検し、適正な張りになっていなければ、再調整します。
6. 排出されたグリスをウエスなどできれいにふき取ります。
7. 適正な張りにあることを確認し、ゴムキャップを元通りに取り付けます。

[重要]

クローラに付いたグリス･油は、きれいにふき取ってください。付着したままのグリス･油は、クローラの寿命を縮めます。

クローラの取り付けかた

使用当初は、トラクター本機とのなじみのため、クローラが少し伸びます。必ず使用前にはクローラの点検・調整を実施してください。
万一クローラが外れた場合は、つぎの要領で取り付け、調整を行ってください。

1. 外れたクローラ側のトラックフレームを持ち上げ、トラクターを地面から離します。
   このとき、フレームを架台やブロックなどで支えて、車体の落下を防止します。
2. ニップルバルブをゆるめ、アイドラを押し込みます。
3. クローラをスプロケット側から先にかみ合わせ、他端をアイドラにかけておきます。
4. バールなどを利用して、クローラをアイドラに装着します。
   クローラはかなりの重量があります。取り扱いには十分注意してください。
5. クローラとスプロケットやローラとのかみ合いを確認し、ニップルバルブを締め付けて仮張りし、車体を降ろします。
6. 平たん地まで移動し、タワミを上部に集めた状態で、タワミ量が規定値になるようにグリスを注入します。

ブレーキの点検・調整のしかた

⚠ 警　告

ブレーキのききを点検してください。
【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

表 4-39 ブレーキの点検時期

点検	日常点検

点検のしかた

ブレーキペダル（図 4-89）を踏み込んで、図 4-90 の「A」位置までのペダル先端のストロークが 60±1 mmであることを確認します。

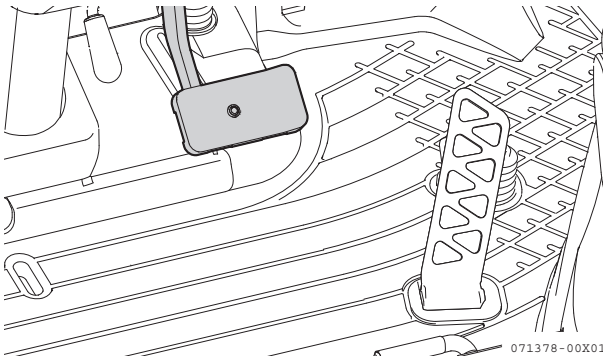


図 4-89

ブレーキは、ペダルの踏み込み量で2段階の制動になります。

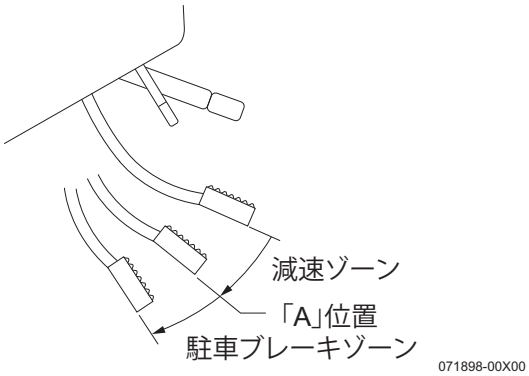


図 4-90 ブレーキペダルの制動イメージ図

[参考]
A点までの踏力が120 N以下、A点からの踏力が140 N以上あることを確認してください。

調整のしかた

本機左側のブレーキペダルシャフトの前方上側にあるターンバックル部で調整します。調整後は、ナットを確実に締め付けます。また、駐車ブレーキが確実に作動することを確認します。

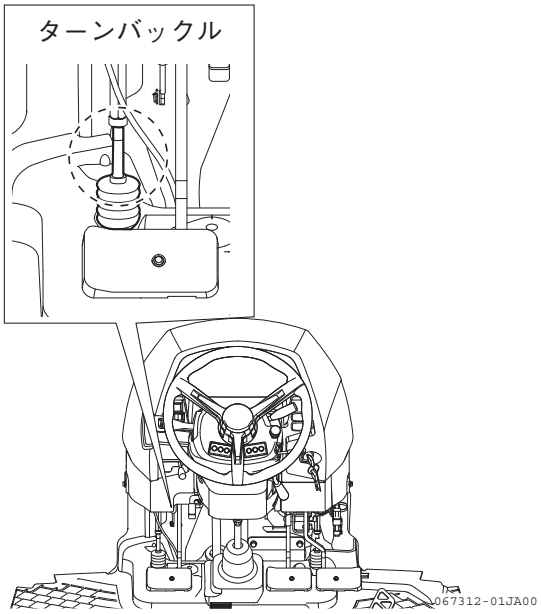


図 4-91

クラッチの点検・調整のしかた

表 4-40 クラッチの点検時期

点検	日常点検

クラッチペダルを踏み込んで、正常に作動することを確認します。
正常に動作しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。

ハンドルの点検のしかた

⚠ 警　告

エンジン始動後、ハンドルを操作し、トラクターが左右に旋回することを確認してください。
異常がある場合は、お買い上げいただいた特販店、JAで整備してください。

表 4-41 ハンドルの点検時期

点検	日常点検

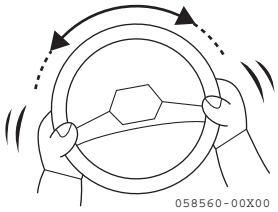


図 4-92

各部ベルトの点検・調整のしかた

⚠ 注　意

エンジンが十分冷えた状態で点検してください。
【守らないと】
やけどなどけがを負うおそれがあります。

コンプレッサ駆動ベルト

表 4-42 コンプレッサ駆動ベルトの点検時期

点検	使用前

点検のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. コンプレッサ駆動ベルトの中間を指で押さえ(押力5kg)、ベルトのたわみ量が10～15 mmであることを点検します。(図 4-93)
   ベルトのたわみ量が適正でないときは、「調整のしかた」に従ってベルトの張りを調整します。
3. ベルトに損傷がないことを点検します。
   [重要]
   ベルトが損傷しているときは、特販店または JA で新しいベルトと交換してください。

調整のしかた

1. テンションボルト固定ナット（図 4-93, 1）をゆるめます。
2. テンションボルト（図 4-93, 2）を回して、ベルトの張りを調整します。
3. 調整後はテンションボルト固定ナットと固定ボルトを締め付けます。

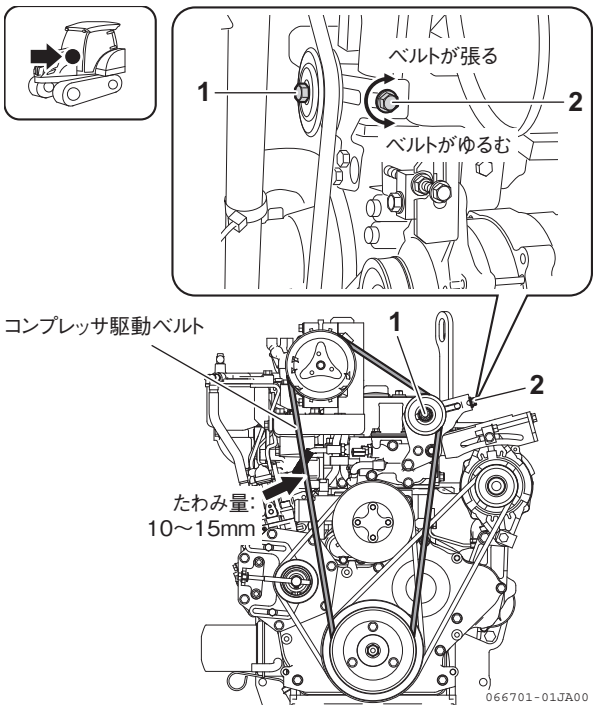


図 4-93

4. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。
5. ボンネットを閉めます。

[重要]

- コンプレッサ駆動ベルトを調整してもベルトがスリップするときは、新しいベルトと交換してください。
- 新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。

表 4-43 品名、コードNo.、サイズ

品　名	コードNo.	サイズ
コンプレッサ駆動ベルト	95330000020	65

冷却ファンベルト

表 4-44 冷却ファンベルトの点検時期

点検	使用前

点検のしかた

1. ボンネットを開けます。（182ページ参照）
2. 冷却ファンベルトの中間を指で押さえ（押力 10 kg）、ベルトのたわみ量が10～15 mmであることを点検します。（図 4-94）
   ベルトのたわみ量が適正でないときは、「調整のしかた」に従ってベルトの張りを調整します。
3. ベルトに損傷がないことを点検します。

   [重要]

   ベルトが損傷しているときは、特販店または JA で新しいベルトと交換してください。

調整のしかた

1. 固定ナット（図 4-94, 1）とテンションボルト（図 4-94, 2）を回して、ベルトの張りを調整します。
2. 調整後はテンションボルト固定ナットと固定ボルトを締め付けます。

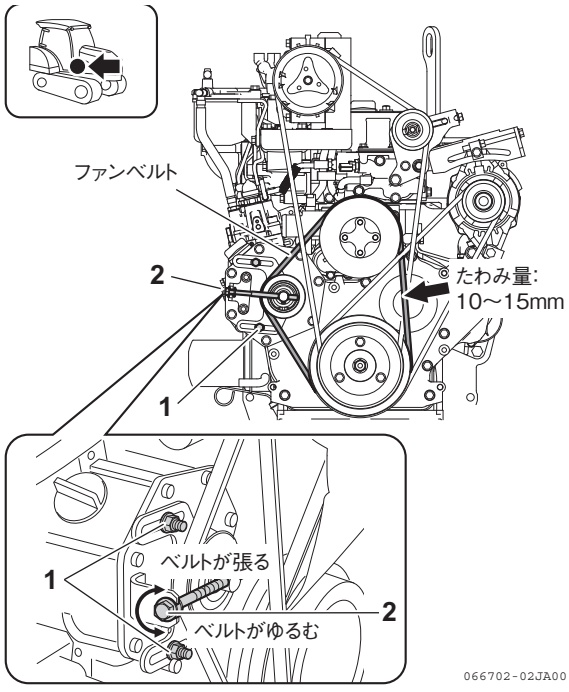


図 4-94

3. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。
4. ボンネットを閉めます。

[重要]

- 冷却ファンベルトを調整してもベルトがスリップするときは、新しいベルトと交換してください。
- 新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。

表 4-45 品名、コードNo.、サイズ

品　名	コードNo.	サイズ
冷却ファンベルト	95330000110	47.0

オルタネータ駆動ベルト

表 4-46 オルタネータ駆動ベルトの点検時期

点検	使用前

点検のしかた

1. ボンネットを開けます。(182ページ参照)
2. オルタネータ駆動ベルトの中間を指で押さえ(押力10 kg)、ベルトのたわみ量が10～15 mmであることを点検します。(図 4-95)
   ベルトのたわみ量が適正でないときは、「調整のしかた」に従ってベルトの張りを調整します。
3. ベルトに損傷がないことを点検します。

[重要]

ベルトが損傷しているときは、特販店または JA で新しいベルトと交換してください。

調整のしかた

1. テンションボルト固定ボルト（図 4-95, 3)、オルタネータ固定ナット（図 4-95, 2)、固定ボルト（図 4-95, 1）をゆるめます。
2. テンションボルト（図 4-95, 4）を回してベルトの張りを調整します。
3. 調整後は①固定ボルト⇒②オルタネータ固定ナット⇒③テンションボルト固定ナットの順に締め付けます。

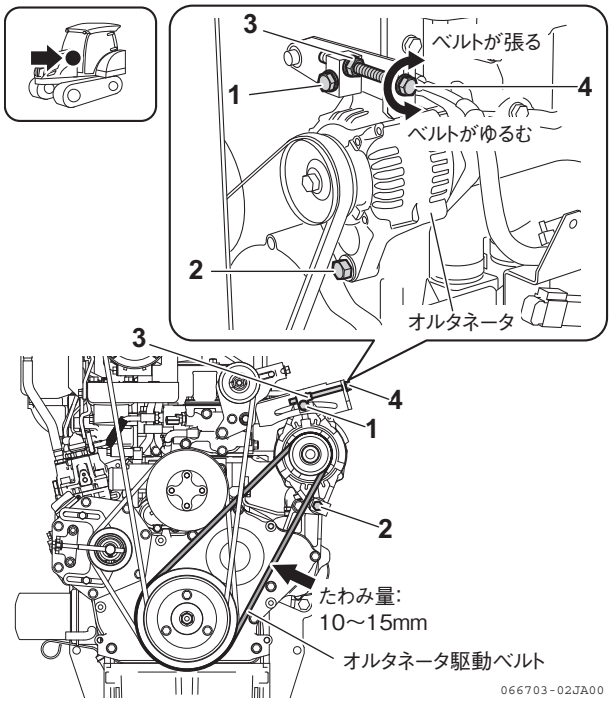


図 4-95

4. 調整直後のベルトの張りは均一でないため、エンジンを一度かけてから再度確認します。
5. ボンネットを閉めます。

[重要]

- オルタネータ駆動ベルトを調整してもベルトがスリップするときは、新しいベルトと交換してください。
- 新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。

表 4-47 品名、コードNo.、サイズ

品　名	コードNo.	サイズ
オルタネータ駆動ベルト	97320000040	B46.0

ウォッシャータンクの点検･補給のしかた

表 4-48 ウォッシャータンクの点検時期

点検	日常点検

ウォッシャータンク（図 4-96）はフェンダー後方（左側）に取り付けられています。ウォッシャー液が少なくなり、出にくくなった場合は、補給口を外してウォッシャー液を補給してください。
タンク容量は約2.0 Lです。水とウォッシャー液の割合はおおよそ1：1ですが、外気温度により混合比率が異なりますので、ウォッシャー液の取扱説明書の指示に従ってください。

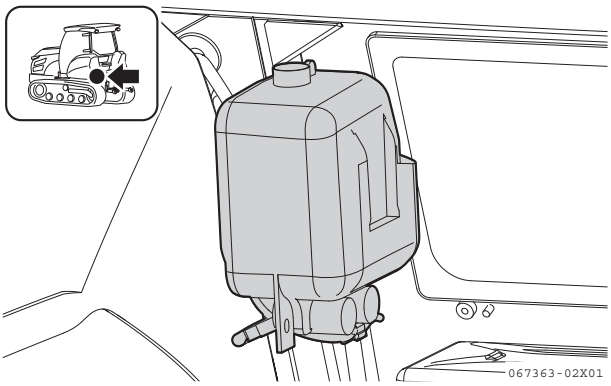


図 4-96

ヒューズ･スローブローヒューズの点検･交換のしかた

⚠ 警　告

ヒューズおよびスローブローヒューズは必ず規定アンペアのものを使用してください。
【守らないと】
火災による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ヒューズ・スローブローヒューズは、ダッシュボード右内側、バッテリーの近く、オルタネータ横にあります。
ダッシュボード内側のヒューズを点検・交換するときは、以下の要領でダッシュボードを脱着してください。

ダッシュボードカバーの脱着のしかた

〈ダッシュボードカバーを外す前の準備〉

1. キースイッチを外します。
2. チルト調節レバーを操作して、ハンドルを運転席側に倒します。操作方法は、51 ページの「チルト調節レバー」を参照してください。

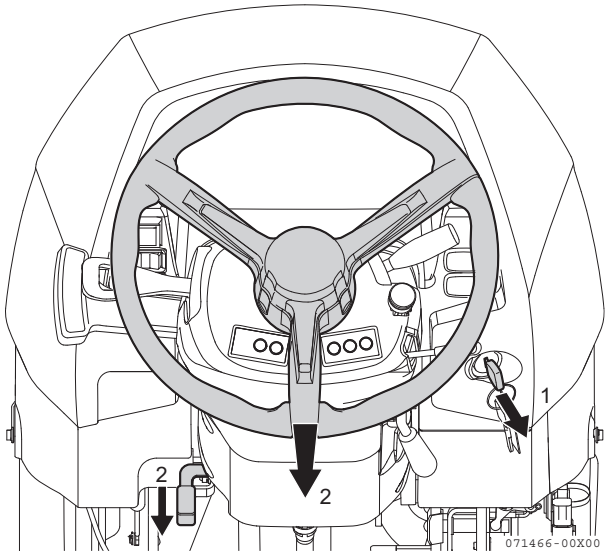


図 4-97

[参考]
「チルト調整レバー」に気をつけて脱着してください。

〈ダッシュボードカバーの外しかた〉

以下のイラストを参考に、キースイッチ側から反時計回りにダッシュボードカバーを固定している爪のロックを外します。

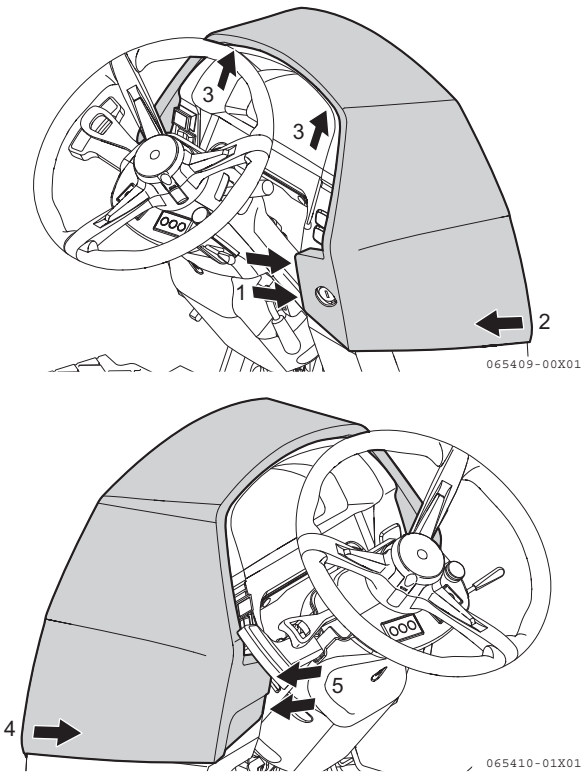


図 4-98

〈ダッシュボードカバーの付けかた〉

以下のイラストを参考に、外すときと逆の順番で、ダッシュボードカバーを爪に押し入れて固定します。

1. ダッシュボードカバーを、左側、中央上側、右側の順に固定金具に差し込みます。

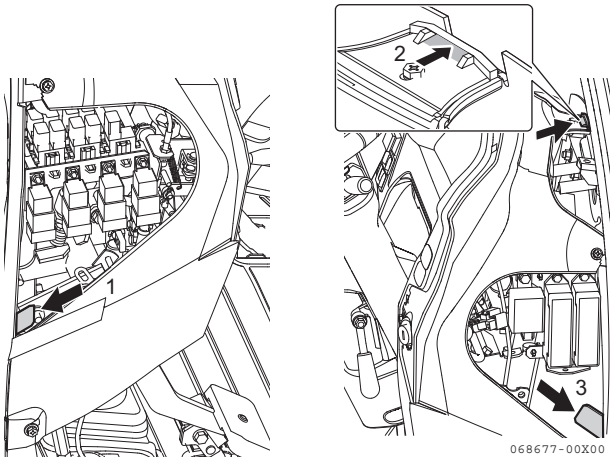


図 4-99

2. メーターパネル上側の固定具にカバーを取り付けます。
3. キースイッチ内側・リバーサレバー内側の爪をダッシュボードにはめ込み固定します。
   両側とも爪は2カ所あります。

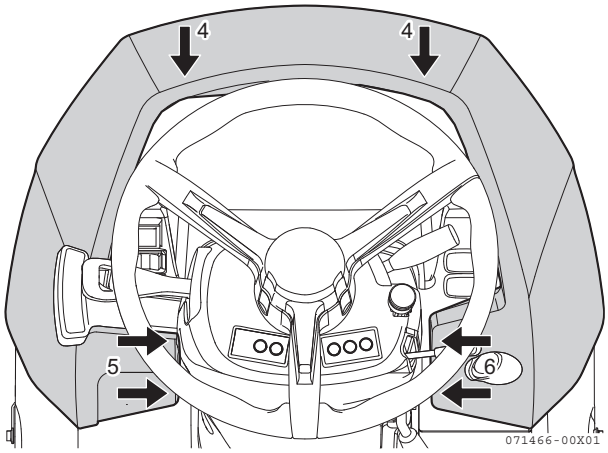


図 4-100

ダッシュボードカバーが確実に取り付けられていることを確認してください。

点検のしかた

1. ヒューズボックス（図 4-101）のふたを外して、ヒューズを点検します。切れていれば、規定容量のものと交換します。（図 4-102）

[重要]

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA で点検を受けてください。

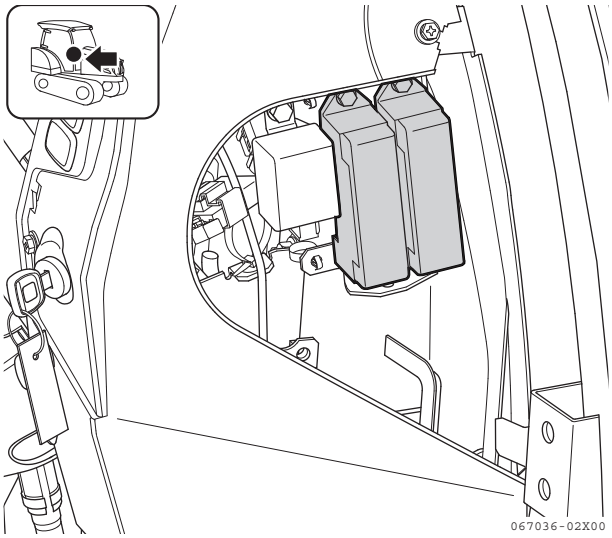


図 4-101

ヒューズボックス

※付きにはヒューズはありません。

予備			
10A	15A	20A	30A
キー 15A		トレーラ※ 15A	
フィードポンプ 10A		外部電源 20A	
コンビメータ 10A		TRD※ 10A	
ヘッドランプ 30A		FDS 10A	
ブレーキランプ 15A		NOxセンサ 15A	
フラッシャランプ 20A		イルミ 10A	
UFO 10A			
HMT 10A			
ドラフト 10A			
R-ECU 10A		外部電源 30A	
ヒューズ抜き			

予備			
10A	15A	20A	25A
アクセサリ 10A		キャビン 10A	
F-ワイパ 15A		シート 15A	
R-ワイパ 15A		R-ワークランプ下 15A	
F-ワークランプ上 25A		ビーコン 10A	
F-ワークランプ下 15A			
R-ワークランプ上 15A			
ブロアモータ 25A			
コンプレッサ 10A			
オーディオ 10A			
デフォッガ 20A			
ヒューズ抜き			

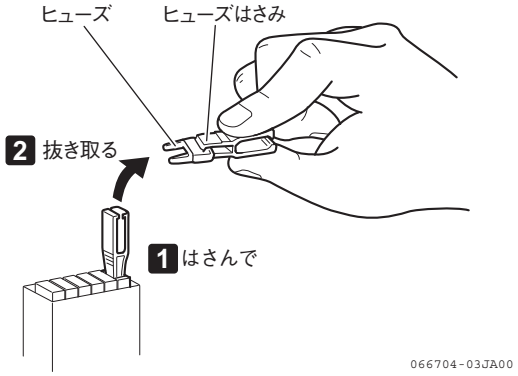


図 4-102

2. スローブローヒューズ（図 4-103、図 4-104）（メインヒューズ）を点検します。

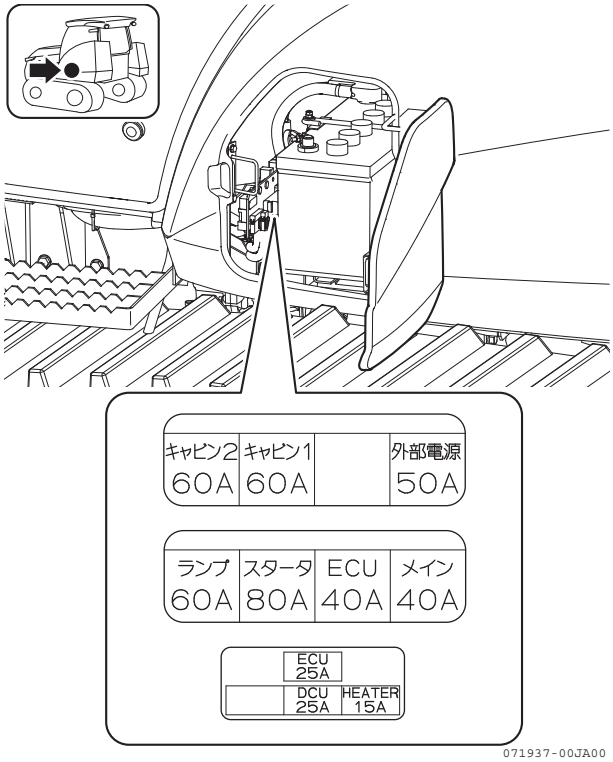


図 4-103

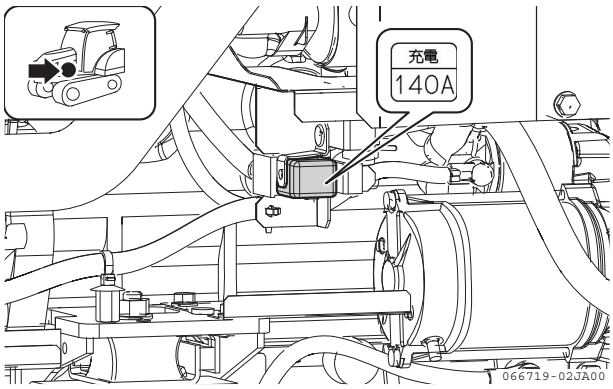


図 4-104

[重要]

規定容量以外のヒューズは使用しないでください。

交換のしかた

下記のスローブローヒューズを交換するとき
「キャビン1 60A」
「キャビン2 60A」
「ランプ 60A」
「スタータ 80A」
「充電 140A」

1. バッテリーの（−）端子から（−）ケーブルを外します。
2. スローブローヒューズを固定しているボルトを2本外します。
3. ケースの側面のふたを開き、中にあるスローブローヒューズの端子を固定しているボルトを外します。
4. 切れているスローブローヒューズを取り出し、新しいスローブローヒューズと交換し、元通りに取り付けます。

下記のヒューズ、スローブローヒューズは引き抜いて交換できます。
「ECU 25A」
「DCU 25A」
「HEATER 25A」
「ECU 40A」
「メイン 40A」
「外部電源 50A」

[参考]

スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

排出ガスの色について

エンジンの始動時は、気温の低い場合は、正常でも水蒸気で白く見えることがあります。
黒色、白色の排出ガスが負荷をかけなくても出るときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAで整備を受けてください。

不調診断のしかた

メーターパネルの異常表示と処置のしかた

⚠ 警　告

移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。
【守らないと】
回転物に挟まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

警報が発生した場合はメーターパネルに警報内容の詳細が表示されます。
警告表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。

表 4-49 メーターパネルの警告表示一覧（その1）

表示画面	詳細、原因	処置	参照ページ
〈燃料給油表示〉 	燃料残量が少なくなると表示されます。 表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。	すぐに燃料を給油してください。	188
〈尿素水補給表示〉 	尿素水残量が15%以下になると表示されます。 表示中に「DISPスイッチ」を押すと、直前の表示画面へ戻ります。	すぐに尿素水を補給してください。	189

下記のメッセージが表示された場合にはメーターパネルの警告ランプ (STOP) が同時に点滅します。
警告表示中に「DISPスイッチ」を押すと、警告ランプは点滅したままで直前の表示画面へ戻ります。
警告表示後、処置をしても表示が消えない場合は、トラクターをご購入された特販店またはJAへご連絡ください。

表 4-50 メーターパネルの警告表示一覧（その2）

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈充電系異常表示〉 	バッテリーへの充電が不足しています。	点滅	エンジン回転を上げ、充電量を増やすか、ワークランプ、エアコンなどを消して消費電力を抑えてください。	ー
	オルタネータ駆動ベルトがゆるんだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	223
	オルタネータが故障していませんか。		オルタネータが故障している場合は、特販店、またはJA に修理を依頼してください。	ー

表 4-51 メーターパネルの警告表示一覧(その3)

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈エンジン油圧異常〉 	エンジン回転中エンジンオイル圧力が低下しています。(エンジン始動直後、しばらくの間表示されるのは異常ではありません。)	点滅		
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを規定量まで補給してください。	193
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	193
	油圧スイッチ(プレッシャスイッチ)が故障している可能性があります。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
	油圧ポンプが故障している可能性があります。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
〈オーバーヒート表示〉 	エンジン冷却水の温度が非常に高くなっています。	点滅	作業を中止して、冷却水温を下げるため、エンジンをアイドリング状態にして、表示が消えるまでしばらくエンジンを回してください。そのあと、エンジンを停止して十分に冷えてから以下の点検をしてください。	−
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	200
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、特販店、またはJAに修理を依頼してください。	−
	冷却ファンベルトがゆるんだり、折損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	223
	吸気口・ラジエータ冷却ファンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	202
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを補給してください。	193
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。	−

表 4-52 メーターパネルの警告表示一覧(その4)

表示画面	詳細、原因	警告ランプ	処置	参照ページ
〈通信異常表示〉 	コントローラ、メーター間の通信が異常なときに表示されます。	点滅		
	カプラは抜けていませんか。 配線が折損していませんか。		特販店、またはJAに修理を依頼してください。	ー
	ヒューズが切れていませんか。		ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	225
〈エアクリーナ目詰まり表示〉 	エアクリーナエレメントに目詰まりが発生しています。	点滅	エアクリーナエレメントの掃除をしてください。	202
〈ウォータセパレータ異常〉 	ウォータセパレータ内に水がたまっています。	点滅	水を抜いてください。	190

メーターパネルの注意画面について

⚠ 警　告

トラクターの調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。
【守らないと】
回転物に挟まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。処置を行っても不調が直らない場合は、トラクターをお買い上げいただいた特販店またはJAへご連絡ください。

- メーターパネルに下記のメッセージが表示された場合にはすぐに作業を中止し、処置内容に従ってください。
- 下記以外のエラーメッセージが表示された場合は、すぐに作業を中止し、表示内容を記録の上、トラクターをお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して、点検・整備を受けてください。

[参考]

- メーターパネルの下側に表示される数字は「エラーコード」です。
- エラーの詳細については、カラーモニターに表示されます。
- 発生箇所に応じて、メーターパネル左下のアイコンが異なります。
- 複数のエラーが同時に発生したときは、「DISPスイッチ」を押すと、順に表示されます。
- 画面表示以外に、メーターパネルの警告ランプ（ STOP ）もしくは注意ランプ（ ⚠ ）が点滅します。

表 4-53 メーターパネルの警告表示一覧

表示画面	エラー箇所	表示画面	エラー箇所	表示画面	エラー箇所
	エンジン系エラー		ミッション系エラー		作業機系エラー
	メーターパネル系エラー		カラーモニター系エラー		スプレイヤ系エラー
	マニヤ系エラー		FDS系エラー		SCRシステム系エラー

エラーコード一覧表

表 4-54 エラーコード一覧

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
03 00032.●●	主変速レバー位置センサ異常	走行は可能ですが、最高車速が2 km/hに制限されます。Aモード、Bモードの切換ができません。e-CONTROL制御ははたらきません。
03 00034.●●	副変速位置確認センサ異常	走行は可能ですが、エンジン回転速度が最大1200 n/minに制限されます。最高車速が2 km/hに制限されます。A/B切換、e-CONTROL制御はできません。
03 00038.●●	クラッチペダルセンサ異常	走行は可能ですが、最高車速が2 km/hに制限されます。A/B切換、e-CONTROL制御はできません。
03 00039.●●	ブレーキペダルセンサ異常	走行は可能ですが、ブレーキペダルのフィーリングが悪くなります。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00046.05	回転センサ1異常	走行は可能ですが、倍速はききません。
03 00047.05	回転センサ2異常	
03 00062.02	リバーサスイッチ異常	ニュートラルに固定され、走行できなくなります。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00064.04	ブレーキ系異常	作業は可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00065.03	クラッチペダルスイッチ異常	走行は可能ですが、クラッチペダルのフィーリングが悪くなります。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00067.●●	T/M：F.ROM異常1	エンジン回転速度はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00068.12	T/M：EEPROM異常	
03 00069.02	T/M：識別異常	作業は可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00075.●●	T/M：比例弁1異常	エンジン回転速度はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
03 00077.●●	F1クラッチバルブ異常	
03 00078.●●	Rクラッチバルブ異常	
03 00079.●●	走行系異常	
03 00082.02	機種設定異常	エンジン回転速度はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。

※●●は数値が表示されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
03 00093.09	T/M:メーターCAN受信異常	走行は可能ですが、エンジン回転速度、車速が制限されます。A/B切換、e-CONTROL制御はできません。
03 00094.09	T/M:UFO CAN受信異常	
03 00098.09	T/M:ドラフトユニット CAN受信異常	
03 00099.09	T/M:エンジン CAN受信異常	
03 0009A.09	T/M:カラーモニター CAN受信異常	
03 0009C.09	T/M:ステアリング CAN受信異常	エンジン回転数はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
13 00032.●●	ステアリングセンサ１（電圧）異常	走行は可能ですが、車速が制限されます。A/B切換、e-ＣＯＮＴＲＯＬ制御はできません。
13 00033.●●	ステアリングセンサ２（電圧）異常	
13 00034.07	ステアリングセンサ整合性異常	エンジン回転数はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
13 00035.07	ステアリングセンサ同時故障	
13 00046.05	旋回回転センサ１異常	走行は可能ですが、車速が制限されます。A/B切換、e-ＣＯＮＴＲＯＬ制御はできません。
13 00047.05	旋回回転センサ２異常	
13 00067.●●	ステアリング:F.ROM異常	エンジン回転数はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。ただちに購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
13 00068.12	EEPROM異常	
13 00069.02	ステアリング:識別異常	作業は可能です。 購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
13 00075.●●	旋回比例弁(右)異常 (電流値エラー)	エンジンを停止します。走行はできません。 ただちに購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
13 00076.●●	旋回比例弁(左)異常 (電流値エラー)	
13 00078.00	ステアリング系異常（中立不良）	
13 00078.07	ステアリング系異常 （緩旋回、または旋回回転センサ多重故障）	
13 00079.00	ステアリング系異常 （急旋回　左、または旋回回転センサ多重故障）	
13 00079.01	ステアリング系異常（逆旋回）	
13 00079.07	ステアリング系異常 （急旋回 右、または旋回回転センサ多重故障）	
13 00082.02	機種設定異常	エンジン回転数はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。 ただちに購入先に連絡して点検・整備を受けてください。

※●●は数値が表示されます。

エラーコード （表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
13 00092.09	ステアリング:HMT CAN受信異常	エンジン回転数はアイドル回転まで下がります。 走行はできません。 ただちに購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
13 00093.09	ステアリング:メータ CAN受信異常	走行は可能ですが、エンジン回転数、車速が制限されます。A/B切換、e-ＣＯＮＴＲＯＬ制御はできません。
13 00098.09	ステアリング:UFO CAN受信異常	
13 00099.09	ステアリング:エンジン CAN受信異常	
13 0009A.09	ステアリング:カラーモニター CAN受信異常	
28 00032.12	入力回路異常 （ステアリングセンサ）	走行は可能ですが、倍速・オートブレーキ・旋回2駆は機能しません。
28 00062.05	燃料センサ異常	通常作業は可能です。 燃料残量表示および燃料満量ブザーが機能しません。
28 00063.12	入力回路異常（倍速許可信号）	走行は可能ですが、倍速、オートブレーキは機能しません。
28 00064.12	入力回路異常 （ブレーキペダルスイッチ）	走行は可能ですが、4駆に固定されます。
28 00065.12	入力回路異常 （クラッチペダルスイッチ）	走行は可能ですが、PTOのクラッチ連動が機能しません。
28 00066.12	入力回路異常（PTO入切スイッチ）	走行は可能ですが、PTOは作動しません。
28 00067.●●	メーターF.ROM異常	作業は可能ですが、倍速・オートブレーキ・旋回2駆機能は使用できません。 メーターの液晶が正しく表示されません。
28 00068.12	メーターEEPROM異常	
28 0006A.12	入力回路異常 （ブレーキ連結スイッチ）	走行は可能ですが、ブレーキ連結ランプが正しく表示されません。
28 0006B.02	DPF再生スイッチ異常	走行は可能ですが、DPF再生スイッチは機能しません。
28 00072.●●	PTOバルブ異常	走行は可能ですが、PTOは作動しません。

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
28 00082.09	CAN送信エラー	走行は可能ですが、エンジン回転速度、車速が制限されることがあります。傾き自動制御および昇降自動制御が使用できないことがありますが、傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。また、一部の表示灯が点灯しないことがあります。
28 00083.09	バスオフエラー	
28 00092.09	HMT CAN受信エラー	
28 00094.09	UFO CAN受信エラー	
28 00095.09	CAN受信エラー	
28 00099.09	E/G CAN受信エラー	
28 0009A.09	カラーモニター CAN受信エラー	走行は可能ですが、カラーモニターに正しい情報が表示されない可能性があります。
28 0009B.09	パワートレッド CAN受信エラー	走行は可能ですが、トレッド調整が行えない可能性があります。
28 0009C.09	ステアリング系 CAN受信エラー	走行は可能ですが、旋回時動作が制限される可能性があります。
54 00066.12	RTC異常	作業は可能ですが、時刻が正しく表示されません。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
54 00067.●●	フラッシュROM異常	作業は可能ですが、カラーモニターが正しく表示されません。
54 00068.12	EEPROM異常	
54 00069.02	識別異常	作業は可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
54 00082.02	カラーモニター機種設定異常	作業は可能ですが、カラーモニターが正しく表示されません。
54 00092.09	CAN通信異常（HMT）	
54 00093.09	CAN通信異常（CANメーター）	
54 00094.09	CAN通信異常（UFO）	
54 00098.09	CAN通信異常（TECU）	
54 00099.09	CAN通信異常（エンジン）	
54 0009C.09	CAN通信異常（ステアリング）	
54 0009E.09	CAN受信異常（SA-R）	
83 7F610.●●	角度センサ異常	お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
83 7F611.07	モータ異常	シャッタ部を清掃して肥料の詰まりを除去してください。 改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。

※●●は数値が表示されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
9F 7F60F.●●	スプレイヤー圧力センサ	スプレイヤーの作業は行えません。
9F 7F60●.09	CAN通信（スプレイヤー）スプレイヤー内断線	
E4 7F600.●●	上昇ソレノイドエラー	外部操作レバーで操作可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
E4 7F601.●●	下降ソレノイドエラー	
E4 7F602.●●	スクイソレノイドエラー	
E4 7F603.●●	ダンプソレノイドエラー	
E4 7F604.●●	ハイレックソレノイドエラー	ハイレック機能は停止します。 配線確認後、お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
E4 7F606.●●	操作レバーセンサエラー	外部操作レバーで操作可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
E4 7F608.●●		
E4 7F609.03	リフトセンサエラー	オートスタンバイなどのリフトセンサを使用する機能は使用できません。 配線確認後、お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
E4 7F60A.03	ダンプセンサエラー	
EF 00022.●●	深さ設定ダイヤル異常	昇降自動制御はできません。 作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00023.●●	傾き設定ダイヤル異常	傾き自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮は可能です。
EF 00024.●●	上げ位置ダイヤル異常	昇降自動制御はできません。 作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00025.●●	下げ速度ダイヤル異常	昇降自動制御はできません。 作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00032.●●	本機センサ異常	傾き自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮は可能です。
EF 00033.●●	3Pセンサ異常	

※●●は数値が表示されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
EF 00034.●●	リフト角センサ異常	傾き自動制御および昇降自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00035.●●	リヤカバーセンサ異常	昇降自動制御はできません。 作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00036.●●	作業機上下ダイヤル異常	傾き自動制御および昇降自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00037.●●	角速度センサ異常	作業は可能ですが、傾き自動制御の精度は低下します。
EF 00039.●●	ドラフトセンサL異常	作業は可能ですが、ドラフト制御はできません。
EF 0003A.●●	ドラフトセンサR異常	
EF 00064.02	傾き手動レバー異常	傾斜シリンダの伸縮ができません。
EF 00067.●●	UFO：F.ROM異常	リフト昇降および傾斜シリンダの伸縮はできません。ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
EF 00068.12	UFO：EEPROM異常	傾き自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00069.02	UFO：識別異常	作業は可能です。 お買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
EF 00072.●●	リフト昇降バルブ上げ異常	リフト昇降はできません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
EF 00073.●●	リフト昇降バルブ下げ異常	
EF 00074.●●	UFO比例電磁弁右上げ異常	傾斜シリンダの伸縮ができません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
EF 00075.●●	UFO比例電磁弁右下げ異常	
EF 00082.02	UFO：機種設定異常	傾き自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00083.09	TECU：インプルメントCAN異常	作業は可能ですが、作業機の車速連動とエコトラリンクは利用できません。
EF 00086.09	UFO：CANバスオフ異常	傾き自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00088.09	傾斜・角速度センサCAN通信異常	傾き自動制御はできません。 傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮は可能です。
EF 00092.09	UFO：HMT CAN受信異常	一部の機能が制限されますが、リフト昇降、傾斜シリンダの伸縮は可能です。
EF 00093.09	UFO：メーター CAN受信異常	リフト昇降、傾斜シリンダの伸縮は可能です。

※●●は数値が表示されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
EF 00096.09	TECU:インプルメントCAN異常	作業は可能ですが、作業機の車速連動とエコトラリンクは利用できません。
EF 00097.09	UFO:操作BOX CAN受信異常	傾き自動制御および昇降自動制御は使用できませんが、傾き手動レバーにより傾斜シリンダの伸縮、および作業機昇降スイッチにてリフト昇降は可能です。
EF 00098.09	UFO:ドラフトユニット CAN受信異常	作業は可能ですが、ドラフト制御・レーザー制御（CAN）はできません。
EF 00099.09	UFO:エンジン CAN受信異常	エンジン回転速度の操作ができません。
EF 0009A.09	UFO:カラーモニター CAN受信異常	作業は可能です。 カラーモニターを操作したときの操作音や警告音が鳴りません。
EF 0009C.09	UFO:ステアリング CAN受信異常	リフト昇降、傾斜シリンダの伸縮は可能です。
00 7F8A0.●●	クランク信号異常（信号なし）	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7F8A1.●●	カム信号異常（信号なし）	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 7F8A1.07	角度オフセット異常	
00 7FBF1.05	クランク・カム速度センサ信号なし	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 0005B.●●	アクセルセンサ1	一定の回転速度でエンジンは運転します。
00 00033.●●	吸気スロットル開度センサ	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 00066.●●	EGR 低圧側センサ	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 004B9.●●	EGR 高圧側センサ	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。
00 0006E.●●	冷却水温センサ	
00 000AC.●●	新気温度センサ	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 0009D.●●	レール圧センサ	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 00CB3.●●	DPF 差圧センサ	
00 00E19.●●	DPF 高圧側センサ	
00 00CAA.●●	DPF 入口温度センサ	
00 00CB2.●●	DPF 中間温度センサ	
00 0006C.●●	大気圧センサ	作業は可能ですがエンジン出力が制限され、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 0019C.●●	EGR ガス温度センサ	

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
00 00069.●●	吸マニ温度センサ	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 000AD.●●	排マニ温度センサ	作業は可能ですがエンジン出力が制限され、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 005CD.07	メインリレー接点固着	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 005CD.02	メインリレー早期開き	
00 7F803.05	始動補助リレー断線/VB短絡	
00 7F803.06	始動補助リレーGND 短絡	
00 0028●.05	インジェクタ断線（インジェクタ固有箇所）	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 ※エンジンの型式によって故障箇所は異なります。
00 0028●.06	インジェクタコイルショート	
00 0028●.03	インジェクタ短絡	
00 010A1.12	インジェクタ駆動IC エラー	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 00AE●.06	インジェクタ駆動回路短絡	
00 00AE●.05	インジェクタ駆動回路断線	
00 00AE●.03	インジェクタ駆動回路+B短絡	
00 7FAF4.04	インジェクタ駆動回路ローチャージ異常	
00 7FAF5.03	インジェクタ駆動回路オーバーチャージ異常	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7F94B.03	SCV（MPROP）L サイドVB 短絡	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。
00 7F94B.06	SCV（MPROP）L サイドGND 短絡	
00 00279.03	SCV（MPROP）VB 短絡	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。 ※エンジンの型式によって故障箇所は異なります。
00 00279.06	SCV（MPROP）GND 短絡	
00 00279.05	SCV（MPROP）断線	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。
00 7F94C.11	SCV（MPROP）ポンプ過負荷異常	
00 7F94C.06	SCV（MPROP）過電流異常	
00 00279.07	SCV（MPROP）駆動回路異常（SCV固着）	
00 00543.00	高圧ポンプ保護フェール	
00 00543.15	高圧ポンプ交換フェール	
00 7FA33.13	高圧ポンプ学習未実施警報	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
00 0009D.00	実レール圧過大エラー	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。
00 0009D.18	実レール圧過小時のレール圧偏差	
00 0009D.15	実レール圧過大時のレール圧偏差	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 0009D.16	PLV 開弁	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。
00 7FCE1.00	PLV（非作動）	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7FCCD.00	PLV（開弁回数超過）	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。
00 7FCCE.00	PLV（開弁時間超過）	
00 7FCE3.00	レール圧制御（PLV 開弁時の燃料温度高）	
00 7FCCC.09	PLV（作動不良）	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7FCC4.07	レール圧制御（レール圧センサ異常時のポンプ・燃温センサ異常）	
00 000BE.00	回転速度超過	
00 7FCC●.13	気筒インジェクタ（補正値異常）	
00 7FBD5.12	QRデータ未書き込み	エンジンの運転は停止します。 ただちに購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
00 7FBD5.13	QRデータ異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7FAF3.12	QRデータ補正入力異常	
00 00B86.05	吸気スロットル駆動回路断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 00B86.06	吸気スロットル駆動回路過負荷	
00 00B86.03	吸気スロットル駆動回路短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。 ※エンジンの型式によって故障箇所は異なります。
00 00B87.03	吸気スロットル駆動回路出力2のVB電源短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 00B8●.04	吸気スロットル駆動回路出力のGND短絡	

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
00 7F96●.09	TSC1 の受信タイムアウト	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 7F967.09	Y_ECR1 の受信タイムアウト	
00 7F968.09	Y_EC の受信タイムアウト	
00 7F969.09	Y_RSS の受信タイムアウト	
00 7F97B.09	Y_DPFIF の受信タイムアウト	
00 7F971.09	Y_ETCP1 の受信タイムアウト	
00 7F97A.09	EBC1 の受信タイムアウト	
00 7F972.09	CAN1（EGR 用）：受信タイムアウト	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7F9EA.12	イモビライザ異常（CAN通信）	エンジンは始動動作に入りません。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 004B2.02	イモビライザ異常（システム）	
00 00AE7.12	EGR モータコイル間断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7F953.12	EGR モータコイル間ショート	
00 7F954.12	EGR ポジションセンサ異常	
00 00AE7.07	EGR フィードバック異常	
00 7F955.07	EGR 開弁固着異常	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。
00 7F956.07	EGR イニシャライズ異常	
00 00AE7.09	EGR ECM データ異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7F979.12	EGR 目標値レンジ外れ	
00 00AE7.00	EGR 過電圧異常	
00 00AE7.01	EGR 低電圧異常	
00 7F957.01	EGR 高温サーミスタ異常	
00 7F958.01	EGR 低温サーミスタ異常	
00 7F9FA.12	排気スロットル電圧異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 7F9FB.12	排気スロットルモータ異常	
00 7F9FC.12	排気スロットルセンサ異常	
00 7F9FD.12	排気スロットルMPU 異常	
00 7F9FE.12	排気スロットルPCB 異常	
00 7F9FF.19	排気スロットルCAN 異常	
00 7F973.09	CAN1（排気スロットル用）：受信タイムアウト	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。

※●●は数値が表示されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
00 00276.12	EEPROM メモリ消去エラー	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7F950.12	EEPROM メモリ読み出しエラー	
00 7F952.12	EEPROM メモリ書き込みエラー	
00 00276.02	EEPROM 異常	
00 7F959.12	CY146 SPI 通信エラー	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7F95C.12	サプライ1 電圧過大エラー	
00 7F95D.12	サプライ1 電圧過小エラー	
00 7F95E.12	センササプライ電圧エラー1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 7F95F.12	センササプライ電圧エラー2	
00 7F960.12	センササプライ電圧エラー3	
00 7F9F8.04	アクチュエータ駆動回路1 GND ショート	
00 7FAF2.04	アクチュエータ駆動回路2 GND ショート	
00 7FCCF.06	アクチュエータ駆動回路3 GND ショート	
00 7FCD1.12	AD コンバータ異常1	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7FCD2.12	AD コンバータ異常2	
00 7FCD3.12	外部監視ECU とCPU 異常1	
00 7FCD4.12	外部監視ECU とCPU 異常2	
00 7FCD5.12	ROM 異常	
00 7FCD6.12	シャットオフバス異常1	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 7FCD7.12	シャットオフバス異常2	
00 7FCD8.12	シャットオフバス異常3	
00 7FCD9.12	シャットオフバス異常4	
00 7FCDA.12	シャットオフバス異常5	
00 7FCDB.12	シャットオフバス異常6	
00 7FCDC.12	シャットオフバス異常7	
00 7FCDD.12	シャットオフバス異常8	
00 7FCDE.12	シャットオフバス異常9	
00 7FCDF.12	シャットオフバス異常10	
00 7FCE0.00	エンジン回転速度認識異常	
00 7FB42.●●	センサ5V回路1異常	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 7FB43.●●	センサ5V回路2異常	
00 7FAF1.12	CPU監視用IC異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 7FAF2.12	CPU異常	

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
00 7FAF6.12	Flash ROM化け異常	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 000A7.05	チャージスイッチ断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 000A7.01	チャージ警報	
00 00064.04	油圧スイッチ断線	
00 00CB2.01	DPF 中間温度センサ温度異常低温	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 7F94D.00	過堆積（C 法）	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 7F94E.00	過堆積（P 法）	
00 7F951.11	再生不良（ステーショナリ再生未実施）	
00 7F94F.07	再生不良（ステーショナリ再生失敗）	
00 00E88.●●	Ash クリーニング要求	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
00 00E87.16	ステーショナリ再生スタンバイ	
00 00E87.09	リカバリ再生失敗	エンジンの運転は停止します。 ただちにお買い上げいただいた特販店またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。
00 00E87.07	リカバリ再生禁止	
00 00CAA.00	DPF 入口温度センサ温度異常上昇	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
00 00CB3.00	DPF 差圧センサ（差圧異常上昇）	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 DPFの再生が停止します。
00 00CB2.00	中間温度センサ温度異常上昇（ポスト噴射不良）	
00 00E87.00	バックアップモード	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。

※●●は数値が表示されます。
※DPFは排気フィルタを表します。

表 4-55 SCR系統DCUエラーコード一覧

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD2A.09	SCR上流NOxセンサからのCAN受信タイムアウト	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD4B.00	SCR上流NOx値上昇異常	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。 エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD4D.07	SCR上流NOxセンサ 加熱未完了異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD4B.03	SCR上流NOxセンサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD4B.05	SCR上流NOxセンサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 00C90.15	SCR上流NOxセンサ 妥当性異常 (上限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 00C90.17	SCR上流NOxセンサ 妥当性異常 (下限側異常)	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
3D 7FD2B.09	SCR下流NOxセンサからのCAN受信タイムアウト	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD4C.00	SCR下流NOx値上昇異常	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。 エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD4E.07	SCR下流NOxセンサ 加熱未完了異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD4C.03	SCR下流NOxセンサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD4C.05	SCR下流NOxセンサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 7FD56.10	SCR下流NOxセンサ 妥当性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 01108.03	SCR触媒上流温度センサ異常(電圧高)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 01108.04	SCR触媒上流温度センサ異常(電圧低)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 01108.00	SCR触媒上流温度センサ 温度上昇異常	作業は可能ですが、ハイアイドルの回転速度が制限されます。 エンジンの出力が制限されます。 DPF再生が停止します。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01108.15	SCR触媒上流温度センサ 妥当性異常 (上限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 01108.17	SCR触媒上流温度センサ 妥当性異常 (下限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 01108.10	SCR触媒上流温度センサ 妥当性異常 (冷態始動チェック時)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 010EE.03	SMポンプ圧センサ異常(電圧高)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 010EE.04	SMポンプ圧センサ異常(電圧低)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 010EE.15	SMポンプ圧センサ 妥当性異常 (上限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射が停止します。
3D 010EE.17	SMポンプ圧センサ 妥当性異常 (下限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射が停止します。
3D 7FD42.03	DM HサイドVB短絡・断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD42.05	DM HサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD41.03	DM LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD42.04	DM LサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD40.00	DM パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射が停止します。
3D 7FD44.07	DM バルブ固着	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 01117.03	SMポンプモータ PWM信号線VB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01117.04	SMポンプモータ PWM信号線GND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01117.05	SMポンプモータ PWM信号線断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01117.00	SMポンプモータ パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01117.10	SMポンプモータ ポンプモータ駆動異常1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 01117.07	SMポンプモータ ポンプモータ駆動異常2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD62.07	SMポンプモータ 温度測定の開始不可	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD5E.08	SM 温度情報PWM周期異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5F.08	SM 温度情報PWM信号異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD60.02	SM温度センサ 温度情報Duty値故障値受信	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD61.02	SM温度センサ 温度情報Duty値無効値受信	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5B.01	SM温度センサ 妥当性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5B.10	SM温度センサ 妥当性異常(冷態始動チェック時)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD50.03	SMリバーティングバルブ LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD50.04	SMリバーティングバルブ LサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD50.05	SMリバーティングバルブ 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の吸い戻しが停止します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD4F.00	SMリバーティングバルブ パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。尿素水の吸い戻しが停止します。
3D 7FD24.03	SMヒータ HサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD24.04	SMヒータ HサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD49.03	SMヒータ LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD24.05	SMヒータ 断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD5A.00	SMヒータ パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD24.10	SMヒータ 妥当性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD5C.02	SMヒータ温度センサ 温度情報Duty値故障値受信	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5D.02	SMヒータ温度センサ 温度情報Duty値無効値受信	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5A.01	SMヒータ温度センサ 妥当性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD5A.10	SMヒータ温度センサ 妥当性異常 (冷態始動チェック時)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD22.03	SMリバーティングバルブ HサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD22.04	SMリバーティングバルブ HサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD23.03	ホースヒータリレー/タンクヒーティングバルブ HサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD23.04	ホースヒータリレー/タンクヒーティングバルブ HサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD48.03	ホースヒータリレー LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD48.04	ホースヒータリレー LサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。尿素水の解凍・保温制御が停止します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD48.05	ホースヒータリレー 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD48.00	ホースヒータリレー パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD25.03	尿素水ホースヒータ H/LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 010F7.03	尿素水ホースヒータ(バックフロー) LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F7.05	尿素水ホースヒータ(バックフロー) 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F7.00	尿素水ホースヒータ(バックフロー) パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F5.03	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F5.05	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F5.00	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F9.03	尿素水ホースヒータ(サクション) LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F9.05	尿素水ホースヒータ(サクション) 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 010F9.00	尿素水ホースヒータ(サクション) パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD4A.03	タンクヒーティングバルブ LサイドVB短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 01411.04	タンクヒーティングバルブ LサイドGND短絡	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 01411.05	タンクヒーティングバルブ 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 01411.00	タンクヒーティングバルブ パワーステージ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。 尿素水の解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD78.05	キースイッチ 断線	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
3D 7FD26.03	DCU供給電圧異常 電圧高1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD27.03	DCU供給電圧異常 電圧高2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。

エラーコード （表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD27.04	DCU供給電圧異常 電圧低1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD26.04	DCU供給電圧異常 電圧低2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD45.12	EEPROM メモリ消去エラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD46.12	EEPROM メモリ読み出しエラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD47.12	EEPROM メモリ書き込みエラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD39.12	DCU内部異常 SPI通信異常1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD3A.12	DCU内部異常 SPI通信異常2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD36.03	DCU内部異常 サプライ1電圧過大エラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD36.04	DCU内部異常 サプライ1電圧過小エラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD38.12	SMポンプ圧センサ　サプライ電圧エラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD3B.12	DCU内部異常 ADコンバータ異常1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD3C.12	DCU内部異常 ADコンバータ異常2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD3E.03	DCU内部温度センサ異常(電圧高)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD3E.04	DCU内部温度センサ異常(電圧低)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD3D.00	DCU内部温度センサ 温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD28.07	メインリレー メインリレー固着	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD28.02	メインリレー メインリレー早期開き	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD63.00	SMポンプモータ 圧力上昇異常1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD6A.00	SMポンプモータ 圧力上昇異常2	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD65.00	尿素水ホース(バックフロー側) 圧力上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD66.07	尿素水ホース(プレッシャ側) 圧力上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD64.07	SMポンプモータ 減圧不良	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の吸い戻しが停止します。
3D 7FD68.07	SMリバーティングバルブ 作動不良	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD67.02	SMポンプモータ 圧力安定性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD6B.01	SM 圧力低下異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD6C.10	SM 尿素水昇圧失敗	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD69.00	SM 尿素水吸い戻し不良	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD51.01	SCRシステム NOx浄化効率異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD25.07	SCRシステム SCRシステムの強制シャットオフ	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 7FD32.09	ECUからのCAN受信タイムアウト	作業は可能ですが、ローアイドルに制限されます。 エンジンの出力が制限されます。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD72.09	尿素水品質センサ・タンク温度センサ A1DEFIの受信タイムアウトエラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBB.02	尿素水品質センサ・タンク温度センサ コントローラ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBC.03	尿素水品質センサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBC.04	尿素水品質センサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBC.13	尿素水品質センサ コントローラ内部異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBC.01	尿素水品質センサ 濃度異常(偏差小)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 00DBC.00	尿素水品質センサ 濃度異常(偏差大)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DC1.13	尿素水品質センサ 尿素水タンク内異物混入異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBB.03	尿素水タンク温度センサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBB.04	尿素水タンク温度センサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00DBB.13	尿素水タンク温度センサ コントローラ内部異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD73.09	尿素水タンク温度センサ・レベルセンサ AT1T1Iの受信タイムアウトエラー	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.02	尿素水タンク温度センサ・レベルセンサ コントローラ温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 006E1.03	尿素水タンクレベルセンサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。

エラーコード（表示内容）	メッセージ内容/エラー詳細	異常時の動作/処置
3D 006E1.04	尿素水タンクレベルセンサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 006E1.13	尿素水タンクレベルセンサ コントローラ内部異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 00BD7.03	尿素水タンク温度センサ 内部回路断線	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.04	尿素水タンク温度センサ 内部回路短絡	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.13	尿素水タンク温度センサ コントローラ内部異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 006E1.15	尿素水タンクレベルセンサ 妥当性異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水噴射が制限されます。
3D 00BD7.00	尿素水タンク温度上昇異常	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.15	尿素水タンク温度センサ 妥当性異常(上限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.17	尿素水タンク温度センサ 妥当性異常(下限側異常)	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。 尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 7FD6E.02	尿素水タンク温度センサ 温度昇温不良	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。
3D 00BD7.17	ECUシステム異常 新気温度の無効値受信	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD6E.02	ECUシステム異常 ECUからのFSアクション指示1	作業は可能ですが、エンジン性能が低下する可能性があります。
3D 7FD74.16	SCRシステム異常(Inducement1)	作業は可能ですが、エンジンの出力が制限されます。
3D 7FD74.00	SCRシステム異常(Inducement2)	作業は可能ですが、ローアイドルに制限されます。エンジンの出力が制限されます。
3D 006E1.18	尿素水タンクレベル低下(Inducement1)	エンジンの出力が制限されます。尿素水を補給してください。
3D 006E1.01	尿素水タンクレベル低下(Inducement2)	ローアイドルに制限されます。エンジンの出力が制限されます。尿素水の噴射、解凍・保温制御が停止します。尿素水を補給してください。

メーターパネルに表示されない不調について

エンジン関係

現　象	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	リバーサレバーが「N(中立)」位置にありますか。	リバーサレバーを「N(中立)」位置にしてからキースイッチを「START(始動)」位置に回してください。	138
	PTO 駆動スイッチは「切」位置にありますか。	PTO 駆動スイッチを「切」位置にしてから、キースイッチを「START(始動)」位置にしてください	138
	バッテリー液は規定量入っていますか。または放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。	213
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。 ※バッテリー端子を外す場合はまずキースイッチを必ず「OFF(切)」にしてマイナス端子を外し、そのあとにプラス端子を外してください。締め付ける場合は先にプラス端子を締め付け、マイナス端子を締め付けてください。	213
	ヒューズボックス内のヒューズまたは、メインヒューズが溶断していませんか。	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、お買い上げいただいた特販店・JA に修理を依頼してください。	225
	キースイッチが故障していませんか。	お買い上げいただいた特販店・JA にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
	セルモータが故障していませんか。	お買い上げいただいた特販店・JA にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンまでに給油してください。	188
	ウォータセパレータの燃料コックが OFF(閉の状態)位置になっていませんか。	ウォータセパレータの燃料コックを ON(開の状態)位置にしてください。	139
エンジンが不規則に回転する。	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。	190
	燃料コシ器エレメントが目詰まりしていませんか。	新しいエレメントと交換してください。	191
エンジンの力が出ない。	エアクリーナが目詰まりしていませんか。	エアクリーナを点検してください。	202
	尿素水タンクに尿素水が十分入っていますか？	尿素水を規定量まで補給してください。	189
	燃料噴射ポンプが焼き付いていませんか。	お買い上げいただいた特販店・JA にご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
	圧縮力が不足していませんか。		–
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。		–
	噴射時期が悪くありませんか。		–

クラッチ・ブレーキ関係

現　象	点検箇所	処置	参照ページ
クラッチが滑る、または切れない。	–	お買い上げいただいた特販店・JAにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
ブレーキのききが悪い。	–		–
ブレーキペダルの戻りが悪い。	–		–

油圧関係

現　象	点検箇所	処置	参照ページ
作業機が上がらない。	油圧ストップ・スローリターンバルブが「閉」位置になっていませんか。	油圧ストップ・スローリターンバルブを「開」位置にしてください。	58
	ミッションオイルが不足していませんか。	ミッションオイルを規定量まで補給してください。	194
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルターケースや取付部などを増し締めしてください。 パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損している場合は交換してください。	–
	ラインフィルターが目詰まりしていませんか。	新しいフィルターと交換してください。	198
	油圧ポンプが故障していませんか。	お買い上げいただいた特販店・JAにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
	電磁バルブが故障していませんか。		–
	シリンダが破損していませんか。		–
リバーサレバーを「R（後進）」位置にしても作業機が上がらない。	バック上昇機能は「入」になっていますか。	バック上昇機能を「入」にしてください。	48
	UFO 回路のヒューズが切れていませんか。	新しいヒューズと交換してください。	225
作業機が下がらない。	油圧ストップ・スローリターンバルブが「閉」になっていませんか。	油圧ストップ・スローリターンバルブを「開」にしてください。	58
	電磁バルブが故障していませんか。	お買い上げいただいた特販店・JAにご連絡のうえ、修理を依頼してください。	–
	シリンダが破損していませんか。		–
	作業機上下ダイヤルが「上」位置になっていませんか。	作業機上下ダイヤルを「下」方向に回してください。	60

電装関係

現　象	点検箇所	処置	参照ページ
ヘッドランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	–
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	225
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検してセットしてください。	–
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	–
フラッシャランプが点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	–
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	225
	フラッシャユニットが故障していませんか。	フラッシャユニットを交換してください。	–
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください。	–
ランプ類が点灯しない。	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。	–
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	225
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し、確実に接続してください。	–
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。	–
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実にトラクターシャーシに締め付けてください。	–
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。	215
ホーンが鳴らない。	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	225
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。	–

短期保管するときは(2カ月以内)

保管のしかた

トラクターを保管する場合は、つぎの要領で整備し保管してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器

1. トラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」(133ページ) に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。
3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル、グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」(217 ページ) に従って、グリスアップをします。
5. 乾燥した風通しのよいところへ保管します。
6. バッテリーの (−) 側ケーブルを外します。

[重要]

- **バッテリーは、使わなくても自然放電します。1カ月に一度は充電器で完全充電してください。(215ページ参照)**
- **キースイッチを「切」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。システム破損の原因になるため、キースイッチ「切」後10分間は、バッテリーからハーネスを絶対に抜かないでください。**
- **サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻し中は音がしますが、故障ではありません。**

7. 必ずキーを抜き取って保管します。

[重要]

保管中、作業機が自然降下する場合もありますが、故障ではありません。作業機をつけたまま保管するときは、必ず作業機を下ろした状態にしてください。

尿素水について

尿素水は保管温度により下表のように寿命が異なります。保管の際は、できるだけ低温状態で保管してください。未使用で保管される可能性のある作業機については、保管する際に尿素水を抜かずに保管し、使用時に尿素水の交換を推奨します。詳しくは、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

[参考]

JIS K2247-2/ISO22241-1 に基づく保存有効期間

保管温度	予想される尿素水の寿命
≦ 10 ℃	36カ月
10 ℃< T ≦ 25 ℃	18カ月
25 ℃< T ≦ 30 ℃	12カ月
30 ℃< T ≦ 35 ℃	6カ月
35 ℃< T ≦ 40 ℃	4カ月
40 ℃< T ≦ 50 ℃	1カ月
50 ℃< T ≦ 60 ℃	1週間

＞ 35 ℃は都度品質確認が必要です。
(JIS K2247-2 に従い、アルカリ度を試験してください)
保管場所から取り出された尿素水は、すべて ISO22241-1 もしくはJIS22247-1 を満たすことを確認することを推奨します。

長期保管するときは(2カ月以上)

⚠ 注　意

格納する場合はバッテリーを外し、キーを抜き取ってから保管してください。
【守らないと】
電気配線被覆の劣化による漏電で火災事故を引き起こすおそれがあります。

保管のしかた

トラクターを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器
- ポリエチレンなどの袋

1. トラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]
さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」(133ページ) に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。

[重要]
「定期点検一覧表」(185 ページ)でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをしてください。

3. バック上昇機能を「切」にします。
4. ウエイトなどは外し、ロータリーも外すか、下ろした状態にして、下には板を敷きます。
5. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル、グリスを塗ります。
6. 「グリスアップのしかた」(217 ページ) に従って、グリスアップをします。
7. さびを防ぐため、燃料タンクの燃料を満タンにします。
8. ウォータセパレータ (190ページ) の燃料コックをOFF (閉の状態) 位置にします。
9. 乾燥した風通しのよいところへ保管します。
10. バッテリーの (−) 側ケーブルを外します。

[重要]
- 平たんで屋根のある場所に保管してください。
  やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。
- バッテリーを外すときはキースイッチを切にしてから10分以上待ってから行ってください。
  尿素水は、タンクに残したままにしてください。

11. バッテリーを完全充電し、トラクターから外し、風通しのよい冷暗所に保管します。

⚠ 注　意

バッテリーを外すときは (−) 側のケーブルから外し、取り付けるときは (+) 側のケーブルを (+) 側の端子に取り付けてください。
【守らないと】
ショートによるやけどや火災によりけがをするおそれがあります。

[重要]
- バッテリーは、使わなくても自然放電します。
  1カ月に一度は充電器で完全充電してください。
  (215ページ参照)
- キースイッチを「切」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
  システム破損の原因になるため、キースイッチ「切」後10分間は、バッテリーからハーネスを絶対に抜かないでください。

12. エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。
13. クローラに車止めをします。
14. 必ずキーを抜き取って保管します。

[重要]

保管中、作業機が自然降下する場合もありますが、故障ではありません。作業機をつけたまま保管するときは、必ず作業機を下ろした状態にしてください。

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。

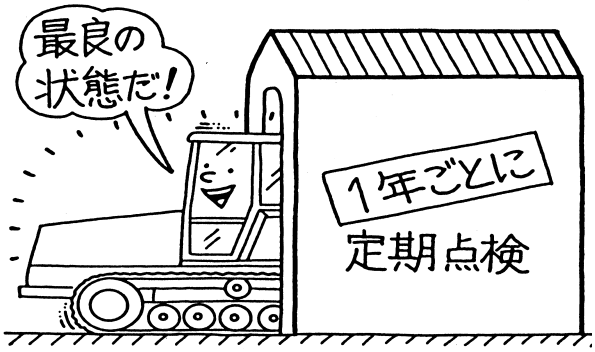


図 5-1

尿素水について

尿素水は保管温度により下表のように寿命が異なります。保管の際は、できるだけ低温状態で保管してください。未使用で保管される可能性のある作業機については、保管する際に尿素水を抜かずに保管し、使用時に尿素水の交換を推奨します。詳しくは、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

[参考]

JIS K2247-2/ISO22241-1 に基づく保存有効期間

保管温度	予想される尿素水の寿命
≦ 10 ℃	36カ月
10 ℃< T ≦ 25 ℃	18カ月
25 ℃< T ≦ 30 ℃	12カ月
30 ℃< T ≦ 35 ℃	6カ月
35 ℃< T ≦ 40 ℃	4カ月
40 ℃< T ≦ 50 ℃	1カ月
50 ℃< T ≦ 60 ℃	1週間

＞ 35 ℃は都度品質確認が必要です。
(JIS K2247-2 に従い、アルカリ度を試験してください)

保管場所から取り出された尿素水は、すべてISO22241-1 もしくはJIS22247-1 を満たすことを確認することを推奨します。

[重要]

キースイッチ「切」位置後、DCU の電源が OFF するまで 10 分の時間を必要とします。このため、キースイッチ「切」位置 後10 分間はバッテリーを外さないでください。

再使用時の処置

長期間保管後、再使用するときはつぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないことを確認します。
3. 燃料タンク、燃料フィルターに異常がないことを確認し、新しい燃料を給油します。
4. 尿素水をドレンプラグより排出し、新しい尿素水を補給します。(図 5-2)
   締付トルク：27～31 N・m

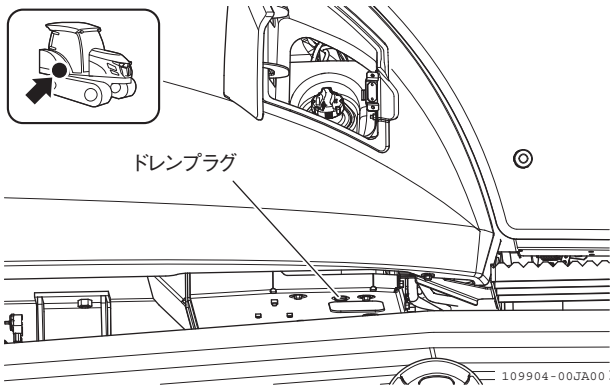


図 5-2

5. 「定期点検一覧表」(185ページ) でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをします。
6. バッテリーをトラクターに取り付けます。
7. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

トラックへの積み･降ろしのしかた

⚠ 警　告

- アユミ板の上では、進路変更や停止をしないでください。また、絶対にクラッチペダルの操作をしないでください。
  【守らないと】
  転落などにより傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用するアユミ板は、段差の4倍以上の長さで、幅・強度が十分あり、スリップしないものを選び、アユミ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積むときは後進で、降ろすときは前進で行ってください。
- トラクターをトラックに載せて移動するときは、強度が十分あるロープでトラックに固定してください。
- トラックへの積み・降ろしは、必ず低速で行ってください。
  【守らないと】
  転倒・転落など思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

トラックの準備

⚠ 警　告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。
【守らないと】
積み･降ろしの際にトラックが動き出し、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]
荷台からトラクターがはみ出さないトラックを準備してください。やむをえず、トラクターが荷台からはみ出す場合は、道路交通法規を守って積んでください。

1. トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1 速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
2. トラックのタイヤに車止めをします。
3. トラックの荷台にアユミ板（図 6-1, 1）のフックを、段差（図 6-1, 2）がでないように確実にかけます。

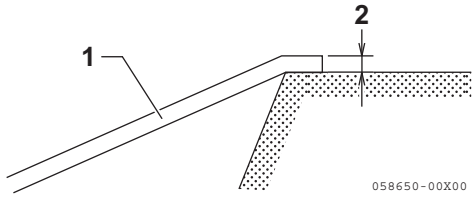


図 6-1

トラクターの積みかた

1. バック上昇機能を「切」にします。
2. 副変速レバーを「1速」にします。
3. リバーサレバーを「R（後進）」位置、エンジン回転を低速にしてトラックに積みます。
4. アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で積みます。

[重要]

万一、積み込み途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み込み、そのあと、徐々にブレーキをゆるめて、地面までゆっくり降りてください。あらためてエンジンを始動して、積んでください。

5. トラクターに積んだら、トラクターの駐車ブレーキをかけます。
6. 作業機を取り付けている場合は、作業機昇降スイッチを「下げ」方向に操作し、作業機上下ダイヤルを「下」方向に操作して、作業機を荷台に接地させます。
7. トラクターのエンジンを停止し、キーを抜きます。
8. トラクターにロープをかけて、確実に固定します。(図 6-2)



図 6-2

トラクターの降ろしかた

⚠ 警　告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。
【守らないと】
トラクターを降ろす際にトラックが動き出し、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. トラクターを固定しているロープを外します。
2. トラクターに破損がないこと、欠落している部品がないことを確認します。
3. エンジンを始動します。
4. クラッチペダルをいっぱいまで踏み込み、変速を低速位置にします。
5. 作業機を取り付けている場合は、作業機上下ダイヤルをゆっくり「上」方向に操作して作業機を上昇させます。
6. リバーサレバーを「F（前進）」位置で、エンジン回転を低速にします。
7. クラッチペダルから、踏み込みをゆっくり戻して、トラクターを移動します。トラクターは、アユミ板の上で、進路変更をしなくてすむように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。

名称				乗用型トラクター		
販売型式名				GCR1130		
区分				−	H	
駆動方式				クローラ		
機体寸法	全長:単体 (mm)			4200		
	全幅 (mm)			2050		
	全高 (mm)			2675	2700	
	最低地上高 (mm)			385	410	
機体質量(重量) (kg)				4550	4650	
エンジン	型式名			4TNV94FHT		
	種類			水冷4サイクル4気筒直噴エコディーゼル		
	総排気量 (L {cc})			3.053 {3053}		
	出力/回転速度 (kW{PS}/(n/min))			83.1 {113}/2500		
	使用燃料			ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (L)			160		
	尿素水タンク容量 (L)			17.5		
走行部	クローラ	幅 × 接地長 (mm)		550 × 2275		
		中心距離 (mm)		1500		
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm^2})		17.7 {0.18}	19.2 {0.19}	
	クラッチ形式			湿式多板油圧式		
	ブレーキ形式			湿式ディスク		
	かじ取り方式			丸ハンドル		
	変速方式			HMT (FDS)		
	変速段数 (段)			無段 (副変速:3)		
	走行速度(最高速度はエンジン最高回転時)	前進	C (km/h)	0.16 ～ 5.2		
			1 (km/h)	0.16 ～ 9.4		
			2 (km/h)	2.5 ～ 18.0		
		後進	C (km/h)	0.16 ～ 4.2		
			1 (km/h)	0.16 ～ 7.4		
			2 (km/h)	2.5 ～ 14.0		
PTO	クラッチ形式			湿式多板油圧式		
	回転速度	1速 (n/min)		546		
		2速 (n/min)		754		
		3速 (n/min)		1046		
		R速 (n/min)		765		
	軸径 (mm)			JIS35 (6スプライン)		
けん引装置				スイングドローバヒッチ(オプション)		
昇降装置	制御方式			ポジション・ドラフト・ミックスコントロール		
	装着方式			3点リンク JIS2形		
	油圧揚力 (N{kgf})			40500{4100}		
運転免許				大型特殊 (農耕用)		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

車速・PTO回転・爪軸回転

車速

表 7-1 車速表　　エンジン回転定格時(km/h)

型　式		副変速		
		C	1	2
GCR1130	前　進	0.16 ～ 5.2	0.16 ～ 9.4	2.5 ～ 18.0
	後　進	0.16 ～ 4.2	0.16 ～ 7.4	2.5 ～ 14.0

PTO回転速度

表 7-2 PTO回転速度　　(n/min)

型　式	GCR1130
仕　様	フルクローラ
1速	546
2速	754
3速	1046
逆転PTO	765

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

8章　廃棄物の処理について

廃棄するときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このトラクターに使用されている、燃料・尿素水・オイル・冷却水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。

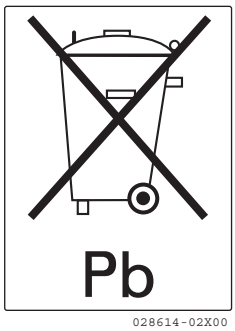


図 8-1

廃油･不凍液の処理

オイル交換で出た廃油や交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

冷媒ガスの処理

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。
- 冷媒ガスは、回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。

表 8-1 冷媒ガス

使用冷媒（クーラガス）	フロン　R-134a
充填量	1000 g

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせずに、購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

9章　サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となります。お読みになったあとは大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときは、229 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号（車両銘板）
- エンジンの場合は、エンジンの番号（エンジン銘板）
- ご使用状況について
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

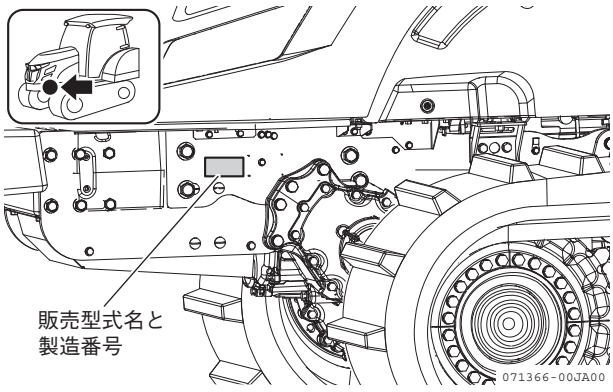


図 9-1 車両銘板

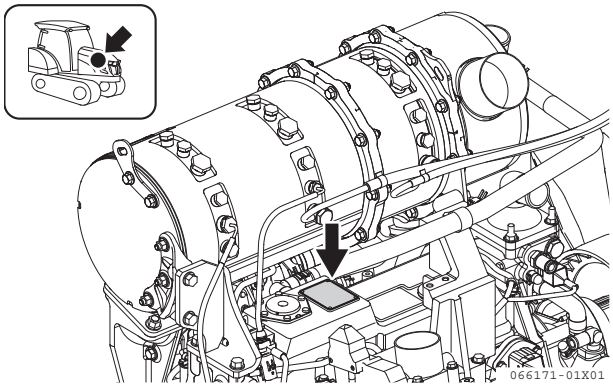


図 9-2 エンジン銘板

※ 図はボンネットを開けて機体左側から見ています。

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要望があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

英数字

3P 切換スイッチ 174
A ⇔ B 切換スイッチ 60
A ⇔ B モード自動切換スイッチ 48
AUTO1 スイッチ 48
AUTO2 スイッチ 48
DISP スイッチ 48
e-CONTROL 99
FDS オイル 199
FM・AM ラジオ付 CD プレーヤー 86
PTO 駆動スイッチ 63
PTO 変速レバー 57
PTO 連動切換スイッチ 64

あ

アクセサリーソケット 67
アクセルペダル 55
アクセルレバー 62
上げ位置ダイヤル 169
安全銘板 40

う

ウォータセパレータ 190
ウォッシャータンク 225
運転前の点検 134

え

エアクリーナ 202
エアコン 87
エラーコード 233
エンジンオイル 193
エンジンオイルエレメント 194, 199
エンジン回転・車速切換スイッチ 61
エンジン回転・車速設定ダイヤル 61

お

オートロータリー 156

か

外気導入口フィルター 206
外部電源 177
傾き保持 168
カラーモニター 12, 89

き

キースイッチ 46

く

グランド PTO 入切レバー 58
グリスアップ 217

け

警告表示 75, 229
傾斜シリンダ外部操作スイッチ 132, 174

さ

サイドワークランプ 8
作業機上下ダイヤル 60
作業機昇降スイッチ 49, 59
作業機の下降速度 153
作業に適した速度 151
サクションフィルター 198
サブコントロールレバー 63, 176
サンバイザ 86

し

シートベルト 137
車速・エンジン回転速度制御 160
ジャッキアップポイント 184
主変速レバー 59, 143

す

ステアリングコラムスイッチ 48
ストッパー 60

せ

旋回モード 103

そ

操作ボックス 62

た

単動・複動切り替えスイッチ 64

ち

駐車再生 211
チョイ上げ・チョイ下げスイッチ 61
チルト調節 51, 136

つ

吊り下げ制御 157

て

定期点検 185
手元作業灯 86
テレスコ調節 52, 136

と

トップリンク 172
ドライバーシート 53
ドラフト 159

な

内気吸入口フィルター 206
ナイスティエコトラ UFO Plus 83

に

尿素 SCR システム.....11
尿素水.....11

ね

燃料規格.....10
燃料コシ器エレメント.....190

は

排気フィルタ再生.....207
排気フィルタ再生スイッチ.....51
ハザードスイッチ.....50
バック上昇.....154
バックミラー.....131, 136
バッテリー上がり.....215

ひ

ヒューズ.....225

ふ

負荷制御.....158
副変速レバー.....56, 143

へ

ベルト.....222

ほ

ボンネット.....182

み

ミッションオイル.....194

め

メーターパネル.....68
銘板.....1, 265
メンテナンスモード.....80, 191

ゆ

油圧ストップ・スローリターンバルブ.....58
油圧リフト外部操作スイッチ.....132, 173

ら

ラインフィルター.....198

り

リセット再生.....210
リフトリンク.....171
リヤウインドロックレバー.....85
リヤデフォッガスイッチ.....67

る

ルームミラー.....87
ルームランプ.....86

れ

冷却水.....200

ろ

ロアリンク.....171

わ

ワークランプ.....8, 131
ワークランプスイッチ.....66

memo

フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法とは
「フロン類の使用の合理化および管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）として施行されました。

対象機種	エアコン装備（キャビン仕様）のトラクター・コンバインや玄米低温貯蔵庫、ガスヒートポンプなど、第一種特定製品が該当します。 ※ 13 馬力以上のガスヒートポンプは、ガスエンジンの定格出力が7.5kW 以上となり、別途「定期点検」が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。

機械の管理者（お客様）は、以下のことを行う必要があります。	
1. 簡易点検の実施 3ヶ月に1回以上の目視による簡易点検（外観点検※）を行う必要があります。 点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかに販売店にご連絡ください。 ※ 目視で確認可能な配管部分などの異音・異常振動、製品外観の損傷・腐食・錆、油のにじみなどの点検です。簡易点検はお客様自身でもできる点検のため、資格などは必要はありません。	**2. 記録の保管** 簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械を廃棄・譲渡するまで保管が必要となっています。 ※ 機械を他者に売却・譲渡する場合は、点検記録表またはその写しを相手に引き渡す必要があります。点検記録表はつぎのページを参照してください。
点検サービスについて	販売店では、簡易点検に関するアドバイスを行っております。 点検に関するご相談や代行の依頼など、お気軽にご相談ください。

お客様点検用

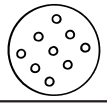
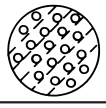
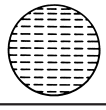
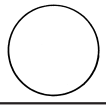
フロン排出抑制法に基づく
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

簡易点検記録表

機　種		管理責任者	
型　式			
機　番			

点　検				項目	機器の損傷・腐食	機器の冷媒の漏れ	冷媒量 サイトグラスの状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日	基準	損傷・著しい腐食	油漏れ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化があること	
				3ヶ月に1回以上点検すること	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	

■冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転をあげると透明になる 	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える 	ファンを最大で回し、窓を全開にしてアイドリングで回しても気泡が見えない 

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。
　冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。
※［記録の保管］エアコン機器を廃棄するまで点検記録表を保管してください。
※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

071250-00JA00